本書の見方

このたびは、マツダ車をお買いあげいただき、ありがとうございます。

本書は、安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、お車の正しい取り扱いや簡単なお手入れ方法について説明しています。ご使用前に必ずお読みください。

発行元　マツダ株式会社
〒 730–8670　広島県安芸郡府中町新地 3–1

・お車をゆずられるときは、次のオーナーのために、本書をお車につけておいてください。
・お車の仕様変更などにより、本書の内容の一部がお車と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

・グレードの仕様により異なる装備については「グレード/仕様別装備」をつけています。
・参照ページは、参照している項目の先頭ページを示すため、該当する説明が参照ページ以降に記載されている場合があります。
・マツダ販売店で取り付けられた装備品は、付属の取扱説明書をご覧ください。
・お車の保証および点検、整備要領については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
・本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管してください。

© 2025 マツダ株式会社
発行 2025 年 12 月 (2 版)

本書の見方

安全にお車を使用していただくために守っていただきたいことを、次の表示で区分して記載しています。これらは重要ですので、必ず読んでお守りください。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性のあるもの

⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったりお車の損傷につながったりする可能性のあるもの

知識

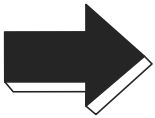
知っておくと便利なこと

イラストで表現している内容の禁止を意味しています。



イラスト内の矢印は､次の意味を示しています。

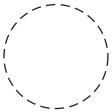
・1 番目の操作を示しています。



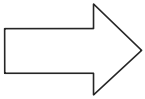
・2 番目の操作を示しています。



・部品の位置を示しています。



・状態の移り変わりを示しています。



お車に表示されている次のマークは「詳しい説明を本書に記載しています。」を示しています。必ず本書の説明を読んでご使用ください。



目次

各部の名称 1

はじめにお読みください 2

乗員/歩行者を保護する装備 3

開閉する 4

運転する 5

車内を快適にする装備 6

その他装備 7

いざというときの対処法 8

点検整備する/お手入れする 9

仕様 10

さくいん 11

1 各部の名称

ハンドル周辺概略図..... 1-2

運転席周辺概略図..... 1-3

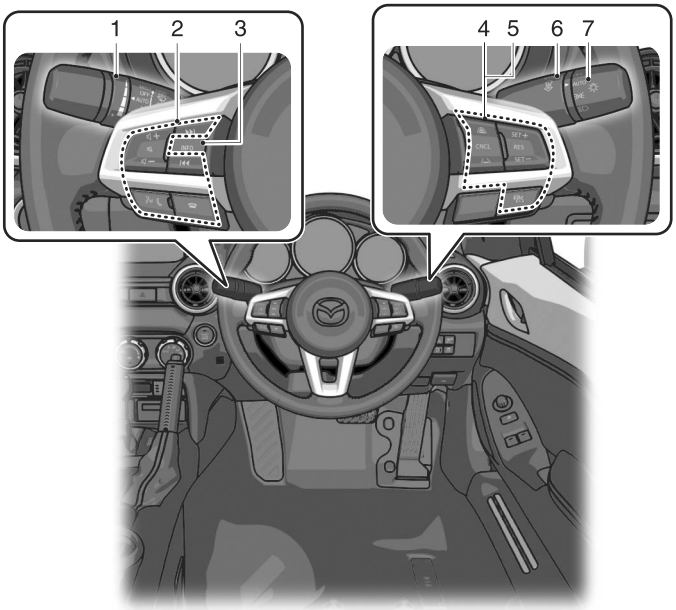
インストルメントパネル周辺概略図 1-4

車室内概略図.....1-5

車両外観フロント概略図..... 1-7

車両外観リア概略図..... 1-9

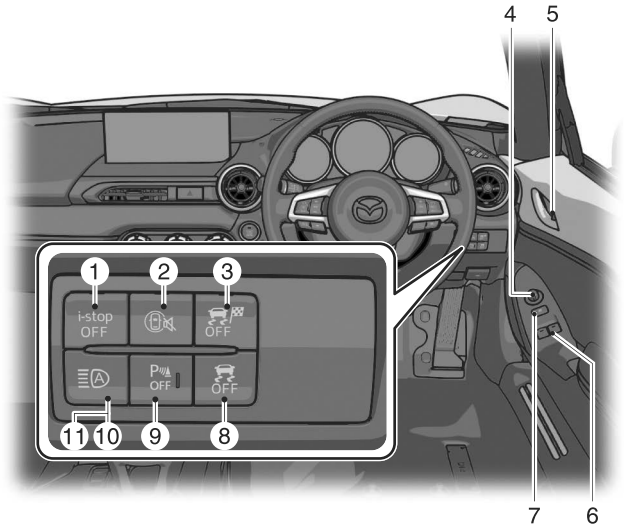
ハンドル周辺概略図



① ワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-48 ページ
② オーディオリモートコントロールスイッチ.....7-6 ページ
③ INFO スイッチ.....5-19 ページ
④ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) スイッチ.....5-96 ページ
⑤ クルーズコントロールスイッチ.....5-114 ページ
⑥ 方向指示器.....5-45 ページ
⑦ ランプスイッチ.....5-41 ページ

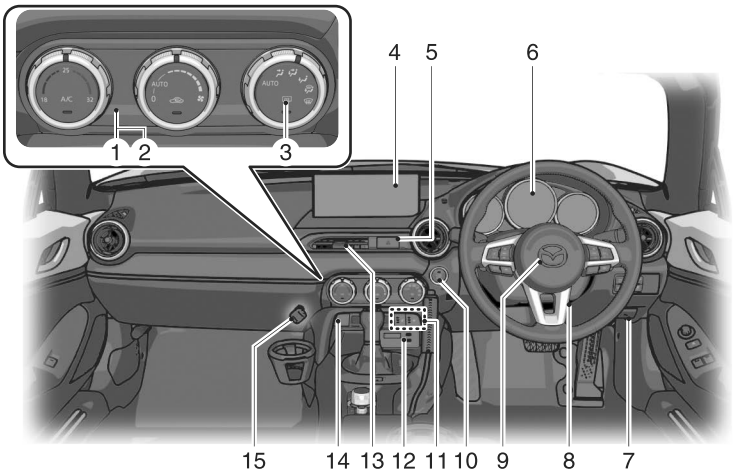
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

運転席周辺概略図



① i-stop OFF スイッチ.....5-16 ページ
② i-ACTIVSENSE ミュートスイッチ.....5-65 ページ
③ DSC-TRACK スイッチ.....5-56 ページ
④ ドアミラースイッチ.....5-8 ページ
⑤ ドアロックノブ.....4-9 ページ
⑥ パワーウインドースイッチ.....4-18 ページ
⑦ パワーウインドーロックスイッチ.....4-18 ページ
⑧ ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) OFF スイッチ.....5-53 ページ
⑨ パーキングセンサー OFF スイッチ.....5-117 ページ
⑩ アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) スイッチ.....5-78 ページ
⑪ ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) スイッチ.....5-75 ページ

インストルメントパネル周辺概略図

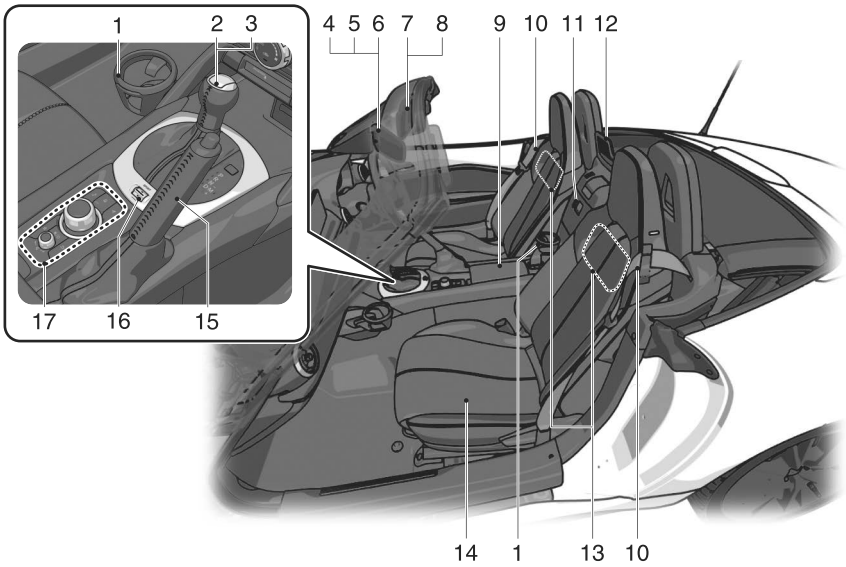


① フルオートエアコン.....6-6 ページ
② マニュアルエアコン.....6-14 ページ
③ リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-50 ページ
④ マツダコネクト.....7-6 ページ
⑤ 非常点滅表示灯スイッチ.....5-51 ページ
⑥ メーター.....5-17 ページ
⑦ ボンネットオープナー.....4-15 ページ
⑧ ハンドル調節レバー.....3-19 ページ
⑨ ホーン.....5-51 ページ
⑩ プッシュボタンスタート.....5-13 ページ
⑪ シートヒータースイッチ.....6-21 ページ
⑫ USB ポート/SD カードスロット.....7-6 ページ
⑬ 吹き出し口.....6-2, 6-11 ページ
⑭ リトラクタブルハードトップスイッチ.....4-28 ページ
⑮ 電源ソケット.....7-27 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

車室内概略図

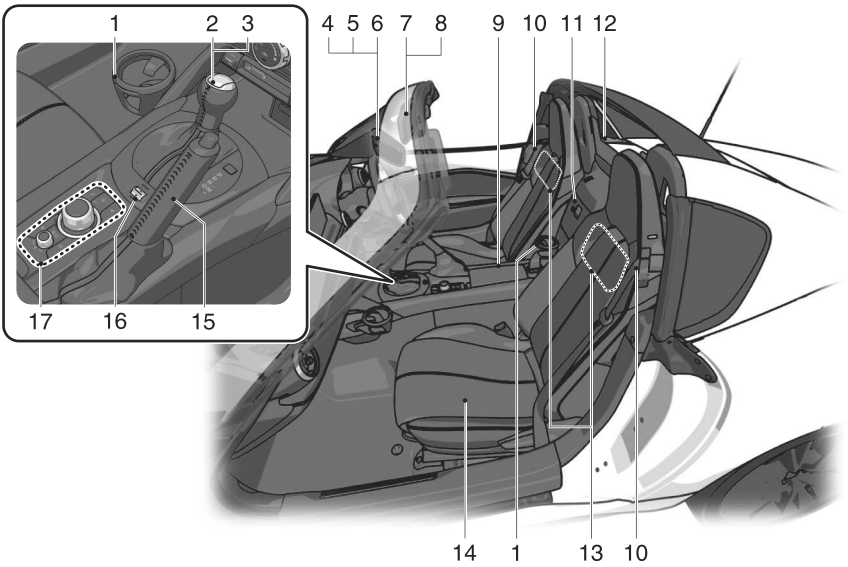
ソフトトップ



① カップホルダー.....7-20 ページ
② チェンジレバー.....5-28 ページ
③ セレクトレバー.....5-30 ページ
④ ルームミラー.....5-9 ページ
⑤ SOS ボタン.....7-18 ページ
⑥ ルームランプ.....7-26 ページ
⑦ サンバイザー.....7-25 ページ
⑧ バニティミラー.....7-25 ページ
⑨ センターコンソール.....7-22 ページ
⑩ シートベルト.....3-14 ページ
⑪ リアコンソールボックス.....7-23 ページ
⑫ エアロボード.....7-29 ページ
⑬ リアストレージボックス.....7-24 ページ
⑭ シート.....3-17 ページ
⑮ パーキングブレーキ.....5-38 ページ
⑯ ドライブセレクションスイッチ.....5-58 ページ
⑰ コマンダースイッチ.....7-6 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

ハードトップ

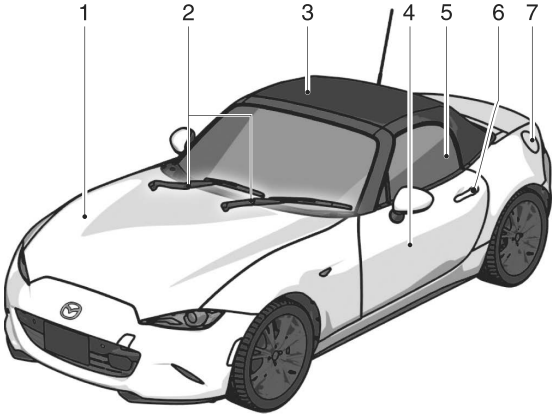


① カップホルダー.....7-20 ページ
② チェンジレバー.....5-28 ページ
③ セレクトレバー.....5-30 ページ
④ ルームミラー.....5-9 ページ
⑤ SOS ボタン.....7-18 ページ
⑥ ルームランプ.....7-26 ページ
⑦ サンバイザー.....7-25 ページ
⑧ バニティミラー.....7-25 ページ
⑨ センターコンソール.....7-22 ページ
⑩ シートベルト.....3-14 ページ
⑪ リアコンソールボックス.....7-23 ページ
⑫ エアロボード.....7-29 ページ
⑬ リアストレージボックス.....7-24 ページ
⑭ シート.....3-17 ページ
⑮ パーキングブレーキ.....5-38 ページ
⑯ ドライブセレクションスイッチ.....5-58 ページ
⑰ コマンダースイッチ.....7-6 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

車両外観フロント概略図

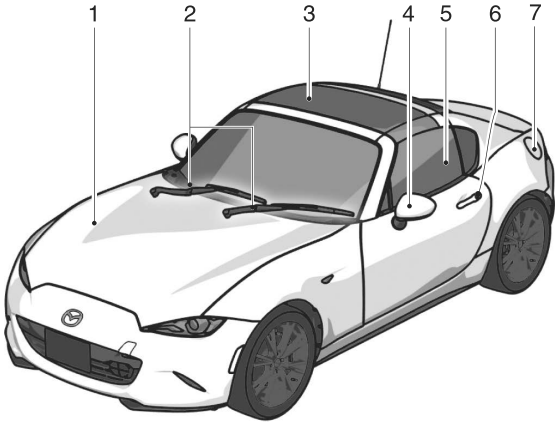
ソフトトップ



① ボンネット..... 4-15 ページ
② ワイパー..... 9-6 ページ
③ ソフトトップ..... 4-22 ページ
④ ドア..... 4-9 ページ
⑤ パワーウインドー..... 4-18 ページ
⑥ リクエストスイッチ..... 4-9 ページ
⑦ フューエルリッド..... 5-62 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

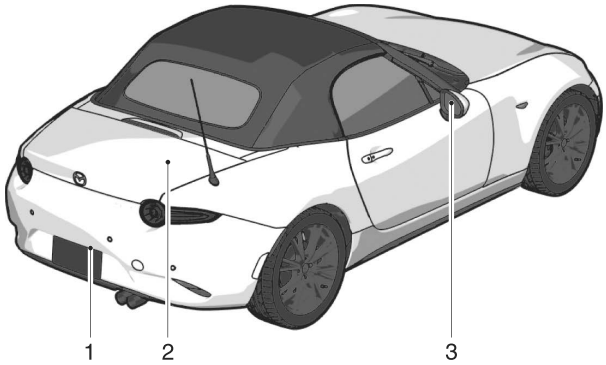
ハードトップ



① ボンネット..... 4-15 ページ
② ワイパー.....9-6 ページ
③ リトラクタブルハードトップ.....4-28 ページ
④ ドア.....4-9 ページ
⑤ パワーウインドー..... 4-18 ページ
⑥ リクエストスイッチ.....4-9 ページ
⑦ フューエルリッド..... 5-62 ページ

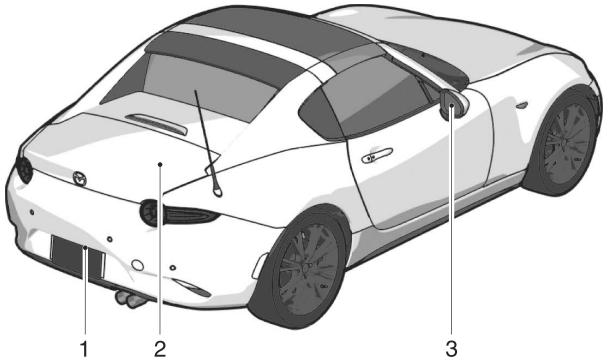
車両外観リア概略図

ソフトトップ



① 電磁式トランクリッドオープナー..... 4-12 ページ
② トランクリッド..... 4-12 ページ
③ ドアミラー..... 5-8 ページ

ハードトップ



① 電磁式トランクリッドオープナー..... 4-12 ページ
② トランクリッド..... 4-12 ページ
③ ドアミラー..... 5-8 ページ

MEMO

2 はじめにお読みください

守っていただきたいこと..... 2-2
駐停車時に守っていただきたいこと.....2-2

車に記録されるデータ..... 2-2
EDR (イベントデータレコーダー)について.....2-2
車両データを記録するコンピューターについて.....2-2
ドライバーの画像などを記録するコンピューターについて.....2-3
データの取り扱いについて .....
..... 2-3

オープンソースソフトウェア情報 2-3
メーター.....2-3

守っていただきたいこと

駐停車時に守っていただきたいこと

⚠ 警告

お子さまだけを車内に残さない。
炎天下の車内は高温になり、命に関わる可能性があります。
お子さまのいたずらなどで、装置の作動、車の発進など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠ 注意

高温になると車両火災につながる物を車内に放置しないでください。
炎天下の車内は高温になる可能性があります。

車は燃えやすい物のない場所に停めてください。

ガレージの中や積雪した場所など、換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。
排気管や排気音に異常を感じたときは点検を受けてください。
一酸化炭素中毒になる危険性があります。

エンジンをかけたまま車内で寝ないでください。
意図せず車が動くなどの危険性があります。

車に記録されるデータ

EDR (イベントデータレコーダー) について

衝突時のデータを記録する EDR を装備しています。
EDR は次のような情報を記録します。

・車速
・運転席乗員のシートベルト装着有無
・助手席乗員のシートベルト装着有無
・エアバッグ作動に関する情報 (加速度波形など)
・エアバッグシステムの故障診断情報

個人情報 (氏名・性別・年齢・衝突場所) は記録しません。

車両データを記録するコンピューターについて

車両の制御や操作、走行環境に関するデータ記録するコンピューターを装備しています。
このコンピューターは次のような情報を記録します。

・エンジンの回転数や車速など、車両の状態
・アクセル/ブレーキなどの運転状態・車両走行時の環境情報
・車載されるコンピューターの故障診断の情報
・その他、車載されるコンピューターの制御に関する情報

記録される情報はお車のグレードや装備により異なります。

個人情報 (氏名・性別・年齢・衝突場所) は記録しません。

ドライバーの画像などを記録するコンピューターについて

ドライバーの異常検知時の情報を記録するコンピューターを装備しています。
このコンピューターは次のような情報を記録します。

・車両に搭載されているカメラで撮影した静止画像
・i-ACTIVSENSE の作動に関するデータ

記録される情報はお車のグレードや装備により異なります。
音声は記録しません。

データの取り扱いについて

マツダおよびマツダの委託先は、EDR、車両データを記録するコンピューター、ドライバーの画像などを記録するコンピューターに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

・お車の使用者の同意 (リースは貸借主の同意) がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行なうなどの使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

オープンソースソフトウェア情報

メーター

この製品は、フリー/オープンソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

MEMO

3 乗員/歩行者を保護する装備

SRS エアバッグシステム..... 3-2
SRS エアバッグシステムについて 3-2
SRS エアバッグシステム使用上の警告･注意..... 3-3
SRS エアバッグシステムの作動について.....3-7

シートベルト.....3-10
シートベルトについて..... 3-10
シートベルト使用上の警告･注意 3-10
シートベルトの使いかた.....3-14

シート.....3-15
シート使用上の警告･注意.....3-15
シートの使いかた..... 3-17

ヘッドレスト (シート一体式).... 3-18
ヘッドレスト (シート一体式) について..... 3-18
ヘッドレスト (シート一体式) 使用上の警告･注意..... 3-18

ハンドル.....3-19
ハンドル使用上の警告･注意 3-19
ハンドル調節のしかた..... 3-19

お子さま専用シート.....3-19
お子さま専用シートについて 3-19
お子さま専用シート使用上の警告･注意.....3-20
お子さま専用シートの種類について..... 3-22
シート位置別お子さま専用シート選択の目安表..... 3-25
チャイルドシートの取り付けについて..... 3-28

アクティブボンネット.....3-29
アクティブボンネットについて 3-29
アクティブボンネット使用上の警告･注意.....3-29
アクティブボンネットの作動について..... 3-31

SRS エアバッグシステム

SRS エアバッグシステムについて

エアバッグは、車両の電源が ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助することで乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。
エアバッグは 3 種類あります。

運転席エアバッグ

運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。



助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。



サイドエアバッグ*

サイドエアバッグはシート背もたれの外側部分に格納されています。

側面衝突時

乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。



横転時

車両の横転時に両側のサイドエアバッグが膨らみます。



SRS エアバッグシステム使用上の警告･注意

お車に乗る前に

⚠ 警告

運転者はもちろん､同乗者も必ずシートベルトを着用する。
SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと､重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

⚠ 警告

ハンドル中央部に手を置いたり､顔や体を近づけたりしない。
エアバッグが作動したときに､強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

*グレード/仕様別装備

⚠ 警告



シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。
エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



お子さまを乗せるときは

⚠ 警告

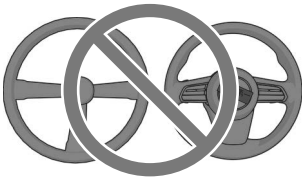
お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。
シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのチャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



こんなことにも注意

⚠ 警告

ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



インストルメントパネル上下部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。
エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



車両前部にグリルガードなどを装着しない。
SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

サスペンションの改造をしない。
車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしたりしない。
正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスや廃車について

⚠ 警告

事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店に相談する。
次の作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- シートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- 室内の電装品の取りはずし、取り付け

車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

サイドエアバッグについて

⚠ 警告

シート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。
シートに座ったときは、ドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートにシートカバーを使用しない。
シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドアやシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に荷物などを置かない。
シートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。

ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドエアバッグが作動するおそれがあります。

エアバッグの作動について

⚠ 注意

エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。

エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

SRS エアバッグシステムの作動について

運転席/助手席エアバッグは正面衝突において、サイドエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車両に衝撃を受けても、エアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動しにくいとき

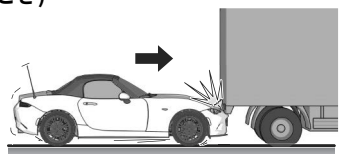
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席/助手席エアバッグ

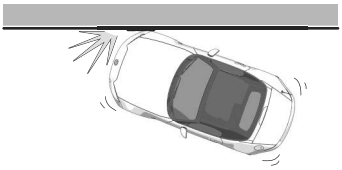
(立木や電柱に衝突したとき)



(トラックの下などに潜り込んだとき)

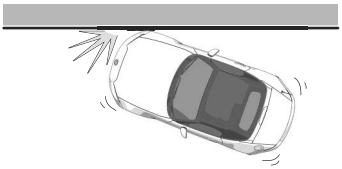


(斜め前方に衝突したとき)

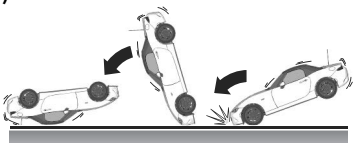


サイドエアバッグ

(斜め前方に衝突したとき)



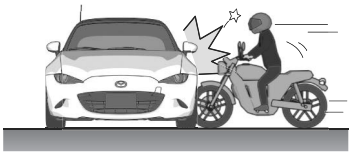
(前方または後方に回転したとき)



(車両の側面 (運転者または助手席同乗者付近) から立木や電柱に衝突したとき)



(2 輪車が側面に衝突したとき)

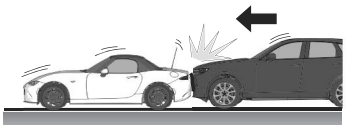


エアバッグが作動しないとき

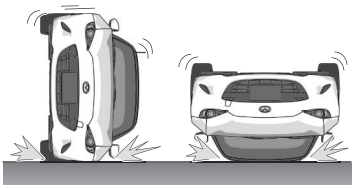
次のようなときには作動しません。

運転席/助手席エアバッグ

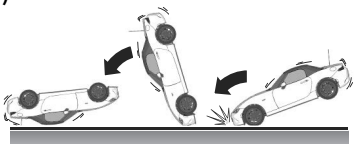
(後ろ方向から衝突されたとき)



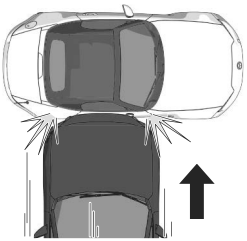
(横転や転覆したとき)



(前方または後方に回転したとき)

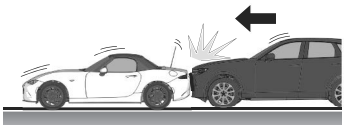


(横方向から衝突されたとき)

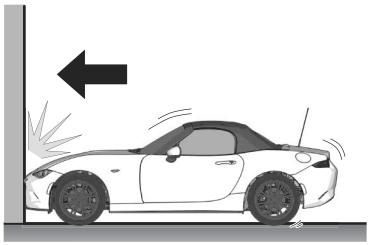


サイドエアバッグ

(後ろ方向から衝突されたとき)



(正面衝突したとき)



シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、事故や突然の停止時に重傷を負う可能性を減らすのに役立ちます。
シートベルトには 3 つ機構があります。

ELR (緊急時固定) 機構

全席のシートベルトに装備されています。
シートベルトは体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

プリテンショナー機構

全席のシートベルトに装備されています。
車両前方または側方から強い衝撃を受けたり、横転したりすると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。
衝突が検出されると、プリテンショナーはエアバッグと同時に展開します。
シートベルトリトラクター (巻き取り装置) は、エアバッグが膨張するときにシートベルトのたるみを素早く取り除きます。

ロードリミッター機構

全席のシートベルトに装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。
プリテンショナーが作動していない場合でも、ロードリミッター機構は専門の修理業者がチェックする必要があります (マツダ認定修理業者をおすすめします)。

知識

- プリテンショナー機構は、車両前方または側方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

シートベルト使用上の警告・注意

警告

シートベルトは全員が正しく着用する。
着用しないと体が拘束されないため、急ブレーキ時や衝突時に車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされたりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

1 つのシートベルトを同時に 2 人以上で使用しない。
2 人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。
万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

ベルトがねじれた状態で使用しない。
ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれは倒しすぎない。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



シートベルトのバックルの中に異物を入れない。
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

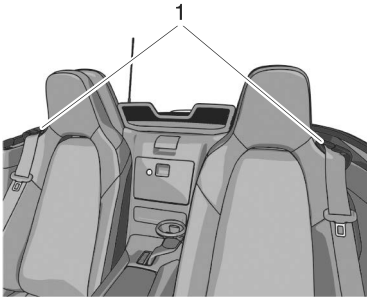
⚠ 警告

お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。
お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのチャイルドシート、ジュニアシートを使用する。
シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。
チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトを着用するときはシートベルトガイドに必ず通す。
通さずに使用すると万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な障害につながるおそれがあります。



1 シートベルトガイド

メンテナンスについて

⚠ 警告

シートベルトを分解･改造･交換しない。
万一の場合、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

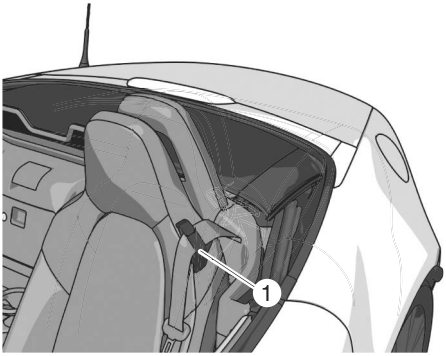
事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受ける。
プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしたりしない。
正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートベルトやシートベルトガイドが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。
シートベルトのお手入れについては 9-37 ページを参照してください。



1 シートベルトガイド

シートベルトの使いかた

シートベルトを着用するとき

シートベルトは、着用する前にシートベルトがシートベルトガイドに正しく通っていることと、ねじれていないことを確認してください。



1. 上体を起こし、シートに深く腰かける。
2. プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出す。



知識

ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

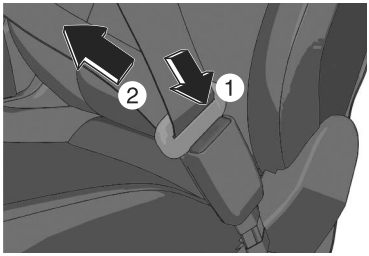
3. ベルトにねじれがないかを確認する。
4. プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込む。



5. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、肩に十分かける。ベルトが首、あご、顔などにあたらないようにしてください。



シートベルトをはずすとき



ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせる。

シート

シート使用上の警告･注意

⚠ 警告

シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。
走行中に行なうと、必要以上にシートが動いて姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートが損傷した場合は必ずマツダ販売店で点検を受ける。
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシート内部のエアバッグシステムの部品が本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。衝突後やシートクッションが破れたり、ウレタンまで達するほどの損傷の場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

背もたれは倒しすぎない。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作後は確実にロックされていることを確認する。
走行中シートが不意に動くと姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートを操作するときは、シートの動く部品周辺などに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。

シートを前後に動かすときや、後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、シートが急に動き、けがをするおそれがあります。

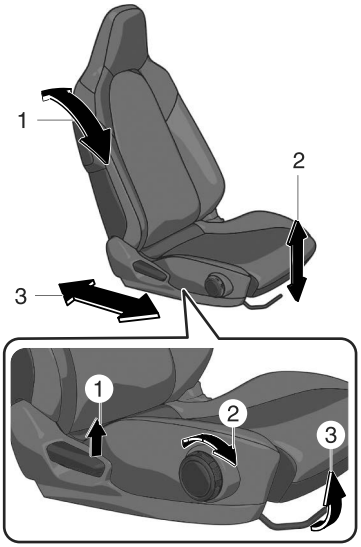
車室内を清掃したり、シートの下に落としたものを拾ったりするためにシートの下に手を入れるときは、けがをしないように注意してください。シートレールやシートフレーム、シート下周辺の可動部、および周辺部品にあたり、けがをするおそれがあります。

シートのまわりには物を置かないでください。物がある状態でシートを操作する とシートに無理な力がかかり損傷するおそれがあります。

急な坂道でのシート操作はしないでください。シートが不意に動き、けがをする おそれがあります。

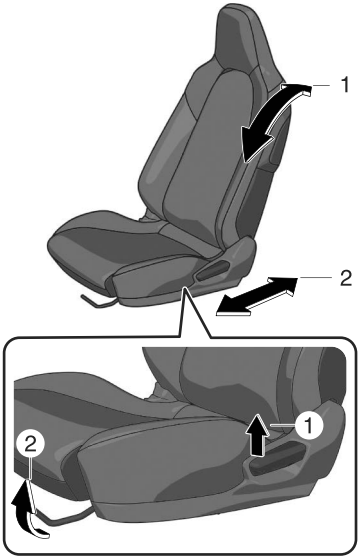
シートの使いかた

運転席



1 角度調節
2 シート前端高さ調節
3 前後調節

助手席



1 角度調節
2 前後調節

ヘッドレスト (シート一体式)

ヘッドレスト (シート一体式) について

シートにはシート一体式のヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

ヘッドレスト (シート一体式) 使用上の警告・注意

⚠ 警告

走行する前にシートの背もたれが適切に調節されていることを確認する。
シートの背もたれを調節しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭の後ろを支えられず頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル使用上の警告･注意

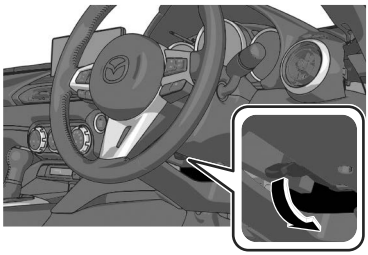
⚠警告

調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると､運転姿勢が不安定になるため､思わぬ事故につながるおそれがあります。

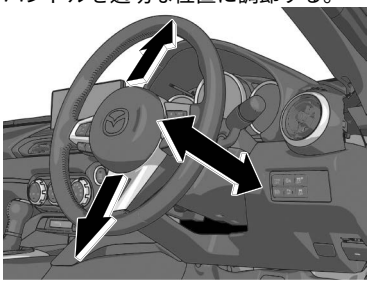
調節後は､ハンドルを上下にゆさぶり､確実に固定されていることを確認する。
走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため､思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドル調節のしかた

1.



2. ハンドルを適切な位置に調節する。



3. レバーを引き上げてハンドルを固定する。

お子さま専用シート

お子さま専用シートについて

シートベルトが首や顔などにあたったり､腰骨に正しく着用できなかったりするお子さまを乗せるときは､お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには､シートベルト固定タイプ､または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのチャイルドシートは､助手席のシートベルトを使用してシートに固定します。

この車両は、ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジが装備されていない ため、ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートを取り付けることができません。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

知識

ISO は International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シート使用上の警告･注意

⚠ 警告

お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。
お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。
正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

助手席には絶対にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。
エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負ったりする可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



警告ラベル



シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

⚠ 警告

お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。
誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートを前後に動かすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、シートが急に動き、けがをするおそれがあります。

お子さま専用シートの種類について

UN-R 44 規則に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 種類に分類されます。

知識

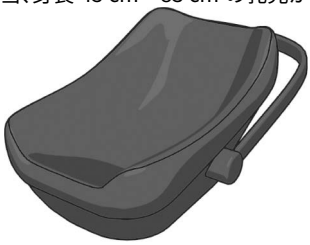
UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。

UN-R 44 法規は、お子さま専用シートに関する国連規則です。

グループ	体重	サイズ等級/器具 (CRF)
0	10kg まで	ISO/L1
		ISO/L2
		ISO/R1
0+	13kg まで	ISO/R1
		ISO/R2
		ISO/R3
I	9～18kg	ISO/R2
		ISO/R3
		ISO/F2
		ISO/F2X
		ISO/F3
II	15～25kg	—
III	22～36kg	—

本書では、3 種類のお子さま専用シートについて説明します。
取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
UN-R 44 規則のグループ 0、0+に相当、身長 45 cm～83 cm の乳児が使用目安です。



チャイルドシート
UN-R 44 規則のグループ I に相当、身長 76 cm～105 cm の幼児が使用目安です。

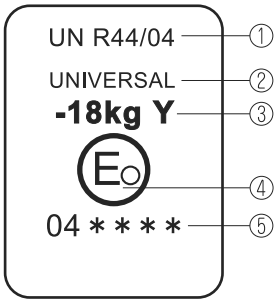


ジュニアシート
UN-R 44 規則のグループ II、IIIに相当、身長 100 cm～150 cm の学童が使用目安です。



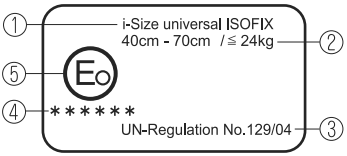
お子さま専用シートは UN-R44 規則および UN-R129 規則に適合したものをお選びください。これらの規則に適合しているお子さま専用シートには、次のマークがついています。

UN-R 44



1 法規番号
2 チャイルドシートのカテゴリー (UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表します。)
3 対象となるお子さまの体重範囲
4 当該装置を認可した国番号
5 当該装置認可番号

UN-R 129



1 チャイルドシートのカテゴリー (universal は汎用品の認可であることを表します。)
2 対象となるお子さまの身長/体重範囲
3 法規番号
4 当該装置認可番号
5 当該装置を認可した国番号

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

シート位置	着座位置
	助手席
汎用ベルト式に適する着席位置	無 (L)*1
アイサイズ着席位置	X
適する最大の後向き装具 (R1)	X
適する最大の後向き装具 (R2)	X
適する最大の後向き装具 (R2X)	X
適する最大の後向き装具 (R3)	X
適する最大の前向き装具 (F2)	X
適する最大の前向き装具 (F2X)	X
適する最大の前向き装具 (F3)	X
適する最大の横向き装具 (L1)	X
適する最大の横向き装具 (L2)	X
適する最大のブースター装具 (B2)	X
適する最大のブースター装具 (B3)	X
サポートレッグ付装具に適した着席位置 (有/無)	無
ロアアンカレッジを備えるがトップテザーのない着席位置 (有/無)	無

上表の記号について:
U ＝全質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
UF ＝全質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
L ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。

IUF ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。
IL ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
i-U ＝前向きおよび後向きの i-Size「汎用」チャイルドシートに適しています。
i-UF ＝前向き i-Size「汎用」チャイルドシートのみに適しています。
有＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できる席です。
無＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できない、または装具がない席です。
X ＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。
*1　MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER 12R は装着 (搭載) できません。

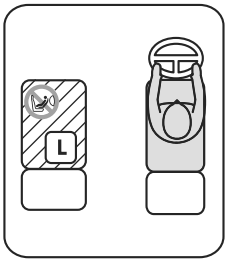
知識

助手席にお子さま専用シートを取り付けるときは、シート位置をできるだけ後ろに調節してください。
→3-17 ページ「シートの使いかた」

助手席にお子さま専用シートを取り付けにくいときやお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できないときは、次の操作をしてお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できるようにシートを調節してください。

・シートを前方または後方に動かす。
・シートの背もたれを前後に動かす。

MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER 12R 以外





：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）に適しています。



：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）の前向きに取り付けるタイプに適しています。



：「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。


：ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。


：i-Size および ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

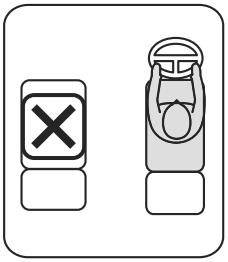

：前向きお子さま専用シートに適しています。


：後ろ向きのお子さま専用シートを取り付けないでください。


：お子さま専用シートを取り付けることはできません。


：トップテザーアンカレッジが装備されている座席です。

MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER 12R



：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）に適しています。

：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）の前向きに取り付けるタイプに適しています。

：「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。

：ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：i-Size および ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：前向きお子さま専用シートに適しています。

：後ろ向きのお子さま専用シートを取り付けないでください。

：お子さま専用シートを取り付けることはできません。

：トップテザーアンカレッジが装備されている座席です。

チャイルドシートの取り付けについて

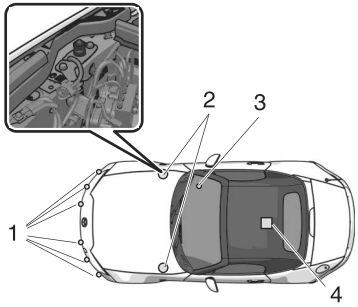
シートベルトを使用するとき

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。また、シート位置別お子さま専用シート選択の目安表も参照ください。
→3-25 ページ「シート位置別お子さま専用シート選択の目安表」
また、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。

アクティブボンネット

アクティブボンネットについて

万一、歩行者と衝突して、一定以上の衝撃が車両前部に加わったとき、ボンネットの後端を瞬時に持ち上げ、エンジンルーム内の部品との空間を広く保つことで、歩行者の頭部がボンネットに衝突したときの衝撃をやわらげます。電源ポジションが ON のとき、作動速度範囲内で走行中に、歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏に取り付けているセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットを持ち上げます。



アクティブボンネット使用上の警告・注意

⚠ 警告

アクティブボンネットが作動したときは、必ずマツダ販売店に相談する。
アクティブボンネットが作動したとき、ボンネットオープナーを引くと、さらにボンネットが上がります。ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬケガをしたりするおそれがあります。アクティブボンネットが作動した後マツダ販売店まで運転する場合は、持ち上がったボンネットが視界のさまたげにならないことを確認した後、十分に速度を落とし注意して運転してください。

⚠ 注意

アクティブボンネットが作動した直後は、アクチュエーターに触れないでください。作動直後はアクチュエーターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。

電源ポジションを ON にした後、数秒間はシステムが正常に作動しないことがあります。

4 輪とも異常摩耗していない同一指定サイズのタイヤを適正な空気圧で使用してください。異常摩耗しているタイヤ、異なるサイズ、適正でない空気圧のタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

フロントバンパー周辺に衝撃が加わったときは、アクティブボンネットが作動しなくてもセンサーが損傷している可能性があります。必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブボンネットの部品や配線を取りはずしたり修理しないでください。また、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しないおそれがあります。修理や交換作業が必要なときはマツダ販売店にご相談ください。

フロントバンパー、ボンネット、サスペンション、エアロパーツをマツダ純正品以外に交換しないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

フロントバンパーにマツダ純正品以外を取り付けないでください。また、ボンネットに物を取り付けないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

ボンネットを強く閉めたり、アクチュエーターに荷重を加えないでください。アクチュエーターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。不適切に取り付けると、衝撃を正しく検知できず、正常に作動しなくなるおそれがあります。

廃車にするときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。正しく取り扱わないと、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

アクティブボンネットは、一度作動すると再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

アクティブボンネットの作動について

作動するとき、しないとき

作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

・作動速度範囲での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき (衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽い物、小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります。)
・その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  ・縁石に衝突したとき
  ・深い溝や穴に落ち込んだとき
  ・ジャンプして地面にぶつけたとき
  ・駐車場のスロープ、うねりのある道路、突起物や落下物などにぶつけたとき

作動しにくいとき

次のような場合は、衝撃を感知しにくいため、作動しないことがあります。

・走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき
・かばんなど衝撃を吸収できるものを携帯した歩行者と衝突したとき

作動しないとき

次のようなときには作動しません。

・作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき
・横方向や後部から衝撃を受けたとき
・横転、転覆したとき (事故の状況、形態によっては、アクティブボンネットシステムが作動することがあります。)

MEMO

4 開閉する

キー.....4-2
キーについて.....4-2
キー使用上の警告･注意..... 4-2
キーの使いかた.....4-4
キーの便利な使いかた..... 4-6

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム 4-7
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムについて*.....4-7
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの使いかた..... 4-7

ドア.....4-9
ドア使用上の警告･注意..... 4-9
ドアの使いかた.....4-9
ドアの便利な使いかた..... 4-11

トランク.....4-12
トランク使用上の警告･注意 4-12
トランクの使いかた.....4-12

ボンネット.....4-14
ボンネット使用上の警告･注意 4-14
ボンネットの使いかた..... 4-15

ウインドー.....4-16
パワーウインドーについて 4-16
パワーウインドー使用上の警告･注意.....4-17
パワーウインドーの使いかた 4-18
パワーウインドーの便利な使いかた.....4-19

ソフトトップ.....4-20
ソフトトップ使用上の警告･注意 4-20
ソフトトップの概略図..... 4-22
ソフトトップの使いかた.....4-22

リトラクタブルハードトップ.... 4-26
リトラクタブルハードトップについて.....4-26
リトラクタブルハードトップ使用上の警告･注意.....4-26
リトラクタブルハードトップの概略図.....4-28
リトラクタブルハードトップの使いかた..... 4-28
リトラクタブルハードトップの便利な使いかた.....4-31

盗難防止システム.....4-31
イモビライザーシステムについて 4-31
イモビライザーシステム使用上の警告･注意.....4-31
イモビライザーシステムの使いかた.....4-31
バーグラアラームシステムについて.....4-32
バーグラアラームシステム使用上の警告･注意..... 4-32
バーグラアラームシステムの使いかた.....4-32

*グレード/仕様別装備

キー

キーについて

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、フューエルリッド、トランクリッドを施錠/解錠できます。
キーは必ず運転者が携帯してください。

キーナンバープレート

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーをもとに、マツダ販売店で補助キーを作ることができます。

・車両以外の安全な場所にキーナンバープレートを保管してください。
・お客さま以外の方にキーナンバーを知られないようにしてください。



キー使用上の警告・注意

⚠ 警告

車から離れるときは、お子さまとキーを車内に残さない。
お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

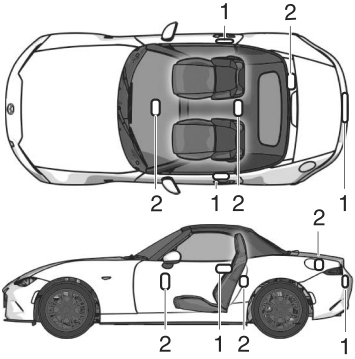
次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する
電波がペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、アドバンストキーレス機能およびキーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

- 植え込み型心臓ペースメーカー
- 植え込み型除細動器

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の医療用機器を使用している方は、車内・車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

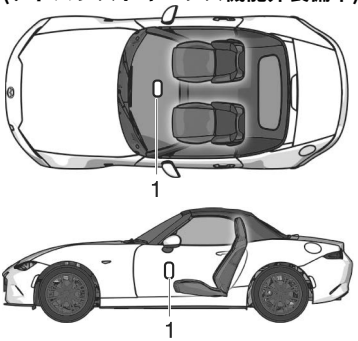
⚠ 警告

(アドバンストキーレス機能装備車)



1 車外のアンテナ
2 車内のアンテナ

(アドバンストキーレス機能非装備車)



1 車内のアンテナ

⚠ 注意

キーは､微弱な電波を使用しています。次のようなときはキーが正常に作動しないことがあります。

- 携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
- 金属製のものに接したり､覆われたりしているとき
- パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
- 純正品以外の電子機器を取り付けたとき

⚠ 注意

➢ 近くに電波を発する設備があるとき

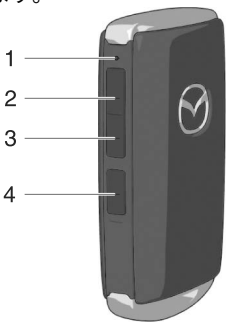
キーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。
キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

➢ 強い衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
➢ 分解しないでください。
➢ 重い物を上に置かないでください。
➢ 直射日光があたる場所や高温になるところに放置しないでください。
➢ 磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。
➢ システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。

航空機内ではキーを操作しないでください。
キーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運航に支障をおよぼすおそれがあります。
また、かばんやポケットなどで保管する場合は、キーのスイッチが容易に押されないように注意してください。

キーの使いかた

スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。



1 作動表示灯
2 ロックスイッチ
3 アンロックスイッチ
4 トランクスイッチ (HOLD)

ロックスイッチ

次の条件をすべて満たしているとき、ロックスイッチを押す。

・車両の電源が OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

ドア、トランクリッド、およびフューエルリッドが施錠し非常点滅表示灯が 1 回作動してチャイムが 1 回鳴ります。

知識

キーの操作により、ヘッドランプが点灯/消灯します。
→5-44 ページ「ランプスイッチの便利な使いかた」

アンロックスイッチ

車両の電源が OFF のとき、アンロックスイッチを押す。
ドア、トランクリッド、およびフューエルリッドが解錠し非常点滅表示灯が 2 回作動しチャイムが 2 回鳴ります。

トランクスイッチ HOLD

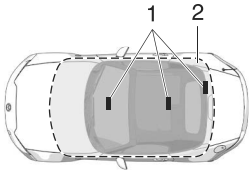
車両の電源が OFF のとき、トランクスイッチを約 1 秒以上押す。

機能の作動範囲

キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

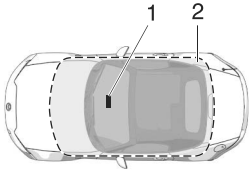
エンジンの始動

(アドバンストキーレス機能装備車)



1 車内のアンテナ
2 作動範囲

(アドバンストキーレス機能非装備車)



1 車内のアンテナ
2 作動範囲

知識

次のような場合は、キーの作動範囲が狭くなったり、作動しなくなったりすることがあります。

・電池が消耗しているとき
・強い電波、ノイズを受けているとき
・省電力モードのとき

次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。

知識

・インストルメントパネルの周辺
・小物入れなど

荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
車外からでも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

キーの便利な使いかた

チャイム機能

ドア、トランクリッド、フューエルリッドを施錠/解錠したことを確認するチャイムの音量をマツダコネクトで設定できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

オートリロック機能

アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはトランクリッド を開ける。
・車両の電源を OFF 以外にする。

知識

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

節電機能

キーの節電機能を ON にすることで、キーを取り出すことなく操作できる機能 (エンジンの始動、ドア、トランクリッド、フューエルリッドの施錠/解錠、トランクリッドを開ける) が OFF となり、キーの電池消耗を抑えることができます。
節電機能が ON の状態でも、キーのスイッチ操作は有効です。ただし、キーの作動表示灯は点灯/点滅しません。
節電機能が ON の状態でも、キーのスイッチ操作は有効です。ただし、キーの作動表示灯は点灯/点滅しません。

節電機能を ON にするとき

1. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押す。
   キーの作動表示灯が点灯します。
2. キーの作動表示灯が点灯している間に、ロックスイッチを 2 秒以上押す。
   非常点滅表示灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動し、節電機能が ON になります。

節電機能を OFF にするとき

1. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押す。
   キーの作動表示灯が点灯します。
2. キーの作動表示灯が点灯している間に、ロックスイッチを 2 秒以上押す。
   非常点滅表示灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動し、節電機能が OFF になります

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムについて*

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムには、キーを取り出すことなく次のことができる機能があります。

・エンジンを始動する。
・ドア、フューエルリッド、トランクリッドを施錠/解錠する。
・トランクリッドを開ける。

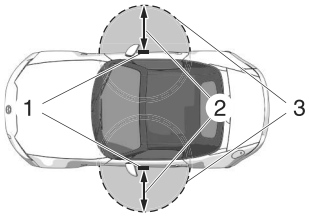
知識

キーの節電機能が ON になっている場合、アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムは作動しません。アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムが作動しない場合は、キーの節電機能が ON になっていないか確認してください。節電機能が ON になっているときは、キーの作動表示灯が点灯/点滅しません。節電機能が ON になっているときは節電機能を OFF にしてください。
→4-6 ページ「キーの便利な使いかた」

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの使いかた

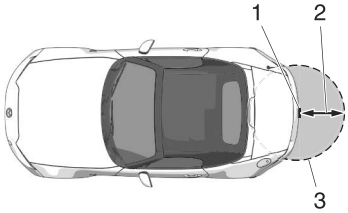
キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

リクエストスイッチによる施錠/解錠



1 車外のアンテナ
2 80 cm
3 作動範囲

電磁式トランクリッドオープナーによる解錠



1 車外のアンテナ
2 80 cm
3 作動範囲

知識

次のような場合は、キーの作動範囲が狭くなったり、作動しなくなったりすることがあります。

・電池が消耗しているとき
・強い電波、ノイズを受けているとき
・節電機能が ON のとき
・窓ガラス、ドアハンドル、トランクリッドに近づきすぎたとき

次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・小物入れなど

次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・小物入れなど
・携帯電話などの通信機器の近く

荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。車外からでも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。

ドア

ドア使用上の警告･注意

⚠ 警告

ドアを閉めた後は､確実にドアが閉まっていることを確認する。
半ドアのまま走行すると､不意にドアが開き､思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアを開けるときは､周囲の安全を確認する。
ドアを急に開けると､後続車や歩行者がぶつかるなど､思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにドアの開閉をさせない。
手､足､首などをはさみ､重大な傷害につながるおそれがあります。

半ドア警告灯/警告表示が点灯/表示したまま走行しない。
走行中にドアが開き､思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ドアを開閉するときは､強風や傾斜など周囲の状況を確認して開閉してください。指をはさんだり､ドアが通行人にあたったりするなど､思わぬ事故につながるおそれがあります。

バッテリーあがりなどで自動で窓ガラスが上下作動しなくなったときは､窓ガラスを室内側へ押しながらゆっくり開閉してください。窓ガラスとソフトトップ/リトラクタブルハードトップが干渉してドアが開閉できなくなったり､窓ガラスが破損するおそれがあります。

ドアの使いかた

知識

ドアを開けると自動で窓ガラスが少し下がり､ドアを閉めると自動で窓ガラスが上がります。これは密閉性を向上させるための機能で異常ではありません。
車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは､自動で窓ガラスが上下作動しなくなります。上下作動しなくなった場合は窓ガラスの自動開閉機構の復帰操作を行なってください。
→8-50 ページ「自動開閉機構を復帰する」

次の方法でドアを施錠/解錠することができます。
施錠するときはキーの閉じ込み防止のため､キーを持っていることを確認してください。

キーで施錠/解錠する

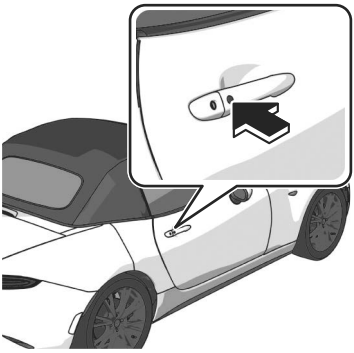
キーでの施錠/解錠方法については「キーの使いかた」の項目を参照してください。
→4-4 ページ「キーの使いかた」

リクエストスイッチで施錠/解錠する (アドバンストキーレス機能装備車)

施錠

次の条件をすべて満たしているとき、リクエストスイッチを押す。

・車両の電源が OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・キーがリクエストスイッチの作動範囲内にあるとき

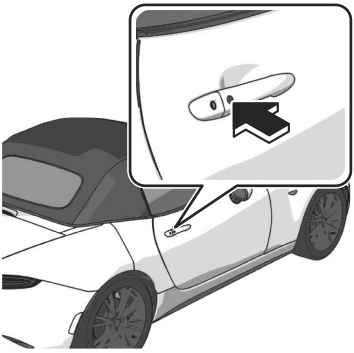


非常点滅表示灯とチャイムが 1 回作動し、すべてのドア、トランクリッドおよびフューエルリッドが施錠されます。

解錠

次の条件をすべて満たしているとき、リクエストスイッチを押す。

・車両の電源が OFF のとき
・運転席ドアが施錠されているとき
・キーがリクエストスイッチの作動範囲内にあるとき

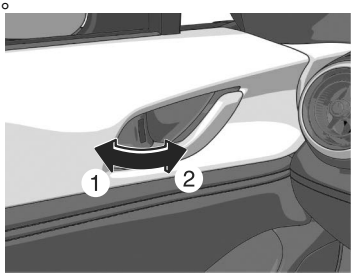


非常点滅表示灯とチャイムが 2 回作動し、すべてのドア、トランクリッドおよびフューエルリッドが解錠されます。

ドアロックノブで施錠/解錠する

運転席ドア
すべてのドア、トランクリッドおよびフューエルリッドが施錠/解錠されます。

助手席ドア
助手席ドアのみ施錠/解錠します。



1 解錠
2 施錠

車外からロックノブを使って施錠するとき

助手席ドアを開けた状態でロックノブを施錠側にした後、ドアを閉めると施錠できます。

知識

運転席ドアはキーの閉じ込みを防止するために、ロックノブを施錠側にすると解錠側にはね返るためこの方法では施錠できません。

キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

ドアの便利な使いかた

エリア離脱式オートロック機能

リクエストスイッチの作動範囲から出ると、自動的に施錠されるよう設定できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
キーを携帯して、すべてのドア、トランクリッドを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。
そのまま作動範囲から出ると、自動的に施錠されます (作動範囲から出なくても、約 30 秒後に自動的に施錠されます)。

知識

次のようなときは施錠されません。

・車内に別のキーがあるとき
・運転席ドアが既に施錠されているとき
・ドア、トランクが完全に閉まる前に作動範囲を出たとき

オートリロック機能

リクエストスイッチを押して解錠した後、またはキーで解錠した後に、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

・いずれかのドアを開ける。
・車両の電源を OFF 以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

トランク

トランク使用上の警告・注意

⚠ 警告

トランクルーム内に人を乗せない。
トランクルームに閉じ込められると中から開けられません。また、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

トランクリッドは必ず閉めてから走行する。
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

トランクリッドを閉めた後は、トランクリッドが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にトランクリッドが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

トランクリッド開警告表示が表示したまま走行しない。
走行中にトランクリッドが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

トランクリッドを開ける前に、トランクリッドから雪や氷などの付着物を取り除いてください。トランクリッドを開けたときに、雪や氷などの重みでトランクリッドが閉まり、けがをするおそれがあります。

強風時にトランクリッドを開閉するときは、風にあおられないよう注意して開閉してください。トランクリッドが急に閉まり、けがをするおそれがあります。

トランクリッドを開けるときは全開にして、トランクリッドが止まることを確認してください。トランクリッドを途中で止めると、振動や突風などでトランクリッドが閉まり、けがをするおそれがあります。

トランクルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。

トランクリッドを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

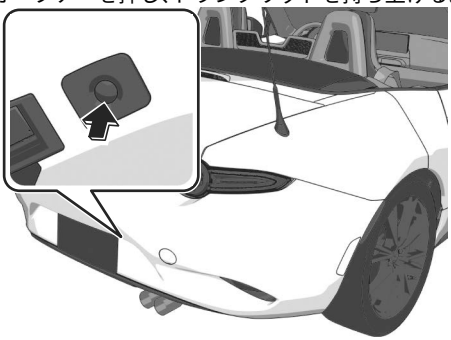
トランクの使いかた

キーのトランクスイッチ (HOLD) で開けるとき

キーのトランクスイッチでの操作方法については「キーの使いかた」の項目を参照してください。
→4-4 ページ「キーの使いかた」

電磁式トランクリッドオープナーで開けるとき

1. 車両を停止する。
2. ドアを解錠する。
3. 電磁式トランクリッドオープナーを押し、トランクリッドを持ち上げる。

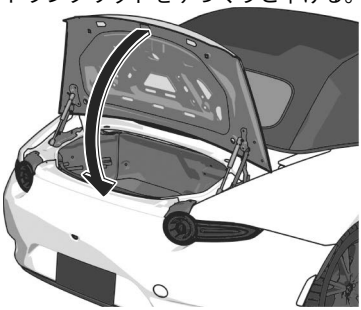


知識

(アドバンストキーレス機能装備車)
キーを携帯した状態で電磁式トランクリッドオープナーを押すと、ドアとトランクリッドが施錠されていても、トランクリッドを開けることができます。

トランクリッドを閉めるとき

1. トランクリッドをゆっくりと下げる。



2. トランクリッドを押さえつけるように閉める。

ボンネット

ボンネット使用上の警告･注意

⚠ 警告

ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ､思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクティブボンネットが作動したときは､ボンネットオープナーを引かない。
ボンネットオープナーを引くと､さらにボンネットが上がり視界のさまたげとなるため危険です。また､ボンネットを無理に押しもどさないでください。手動では下げることができないため､ボンネットが変形したり､思わぬケガをするおそれがあります。アクティブボンネットが作動したときは､必ずマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

ボンネットを閉めるときは､体重をかけるなどして強く押さえつけないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

ボンネットを閉めるときは､手などをはさまないように注意してください。万一､手などをはさむと､けがをするおそれがあります。

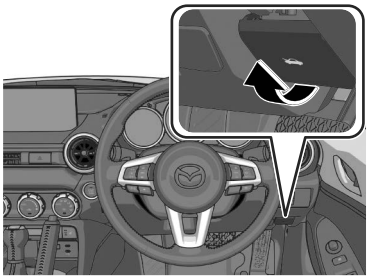
エンジンルームを点検したときは､工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れると､エンジンを損傷したり､火災につながったりするなど､思わぬ事故につながるおそれがあります。

ステーを動かすときは､パット部を持ってください。エンジンの排気熱によりやけどをするおそれがあります。

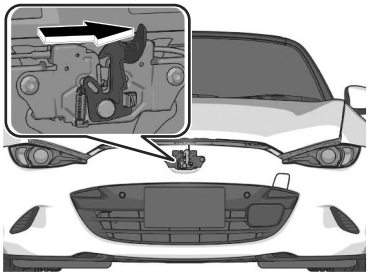
ボンネットの使いかた

ボンネットを開けるとき

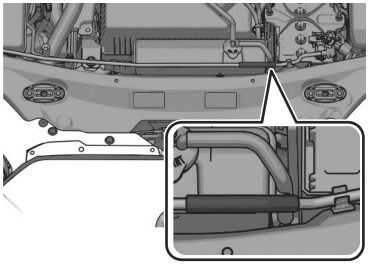
1. ボンネットオープナーを引く。
   ボンネットが少し浮き上がります。



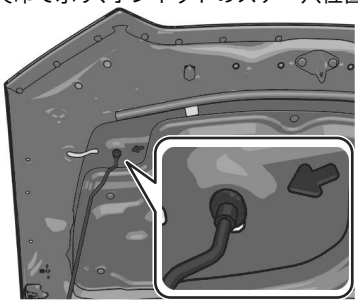
2. ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを矢印の方向に倒したままボンネットを持ち上げる。



3. ボンネットを維持したままパッド部を持ってステーを起こす。

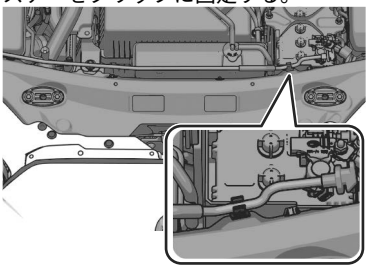


4. 矢印で示す、ボンネットのステー穴位置にステーをあわせてボンネットを下ろす。



ボンネットを閉めるとき

1. エンジンルームに工具などが残されていないことを確認する。
2. ボンネットを手で支えながら、パッド部を持って、ステーをはずす。
3. ステーをクリップに固定する。



4. ボンネットをゆっくり下ろし、約 20 cm の高さから手を離して閉める。

ウインドー

パワーウインドーについて

パワーウインドーには、2 つの機能があります。

自動開閉機構

パワーウインドースイッチを操作し続けなくても、窓ガラスを全開/全閉できます。

知識

窓ガラスが全閉していない状態でパワーウインドースイッチを何度も操作すると、自動開閉機構が作動しなくなることがあります。
→8-50 ページ「自動開閉機構を復帰する」

はさみ込み防止機構

窓ガラスが閉まる途中に、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが停止し、少し開きます。

知識

次のようなときも、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
→8-51 ページ「はさみ込み防止機構を解除する」

・窓ガラスが閉まる途中に強い衝撃を感知したとき
・極低温下で窓ガラスを閉めたとき

パワーウインドー使用上の警告･注意

警告

窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。
特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにパワーウインドースイッチを操作させない。
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。
お子さまが誤ってパワーウインドースイッチを操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

ウインドーが完全に閉じる直前、またはパワーウインドースイッチ引き続けている間は、ウインドーをさえぎるものがないこと確認する。
はさみ込み防止機構ではウインドーが完全に閉じるのを防止できない場合があります。指を挟むと重大な傷害につながるおそれがあります。

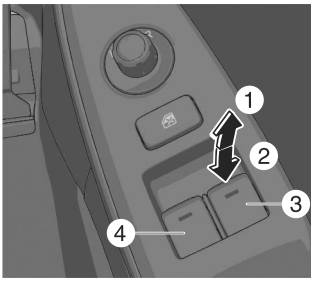
窓から手や顔を出させない。
走行中にお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物にあたったり、急ブレーキを踏んだりしたとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

パワーウインドーの使いかた

ウインドーの開閉

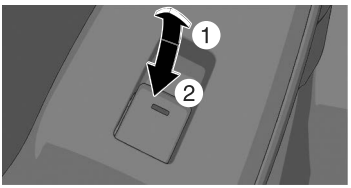
1. 車両の電源を ON にする。
2. パワーウインドースイッチを操作する。
   ウインドーを自動的に全開にするには、パワーウインドースイッチを完全に押し下げてからスイッチから手を離す。
   ウインドーを自動的に全閉にするには、パワーウインドースイッチを完全に引き上げてからスイッチから手を離す。
   窓ガラスの開閉を途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作してください。

運転席



1 閉める
2 開ける
3 運転席側スイッチ
4 助手席側スイッチ

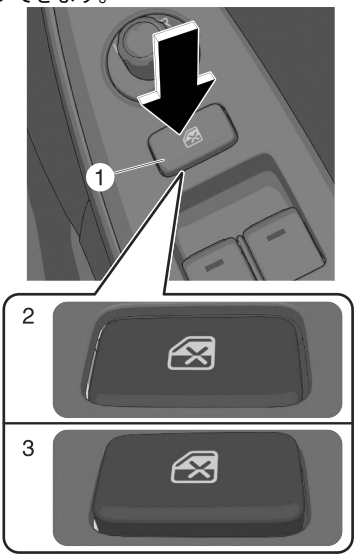
助手席



1 閉める
2 開ける

助手席のウインドー操作をロックする

運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをロックの位置にすると助手席のパワーウインドースイッチでの開閉操作をロックできます。



1 パワーウインドーロックスイッチ
2 ロック位置
3 アンロック位置

知識

パワーウインドースイッチを長時間操作し続けると、窓ガラスを開閉できなくなることがあります。
窓ガラスを開閉できないときは、しばらく待ってから再度スイッチを操作してください。

パワーウインドーの便利な使いかた

キー OFF 後作動機能

車両の電源を ACC または OFF にした後でも、約 40 秒間は全席の窓ガラスを開閉できます。

ソフトトップ

ソフトトップ使用上の警告･注意

⚠ 警告

風が強いときにはソフトトップを開閉しない。
風にあおられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中は､車両から手や頭などを出さない。
走行中に車外のものにあたったり､急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

折りたたんだソフトトップの上に荷物などを置かない。
走行中に飛散し､思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ソフトトップを開けた状態で乗り降りするときは､フロントガラスの角に頭や体をぶつけないように注意してください。けがをするおそれがあります。

ソフトトップを開閉するときは､フレームなどで手や指をはさまないよう慎重に行なってください。

ソフトトップを開閉するときは､フレームなどで手や指をはさまないよう慎重に行なってください。ソフトトップ周辺に落ち葉などがあるときは取り除いてください。ドレーンフィルターに落ち葉などが詰まると､室内に水が入るおそれがあります。ドレーンフィルターの清掃は､年に 1 回程度行なってください。
→9-26 ページ「外装をお手入れする」

ソフトトップを開けるときは､リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチが OFF になっていることを確認してください。デフォッガーの熱でソフトトップや内装材が損傷するおそれがあります。

ソフトトップは高品質の幌生地を使用しているため､手入れの方法を誤ると生地が硬化したり､シミや光沢ムラなどを起こすおそれがあります。

⚠ 注意

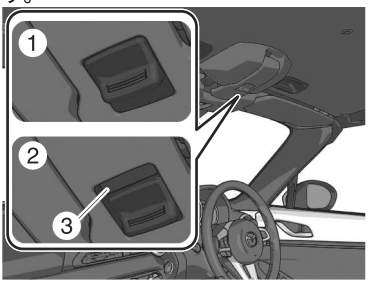
→9-28 ページ「ソフトトップをお手入れする」

ソフトトップがぬれた状態で折りたたまないでください。品質低下やカビの原因になります。

外気温が 5 °C 以下のときはソフトトップを開閉しないでください。凍結などにより、ソフトトップが損傷するおそれがあります。

折りたたんだソフトトップの上に座らないでください。ソフトトップの損傷や、転落してけがをするおそれがあります。

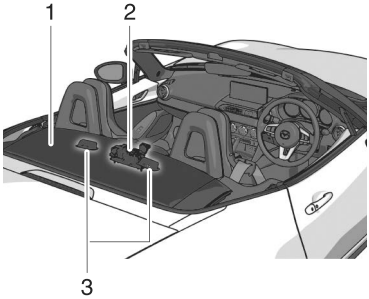
ロック解除ボタンに赤色の表示が見えているときは、ソフトトップがロックされていません。ソフトトップをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認してください。ロックしないまま走行すると、ソフトトップが不意に開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。



1 ロック
2 アンロック
3 赤色の表示

ソフトトップ (幌) の汚れを水で洗い流すとき、窓ガラスと幌の合わせ目付近に直接水をかけないでください。車内に水が入るおそれがあります。
→9-28 ページ「ソフトトップをお手入れする」

ソフトトップの概略図

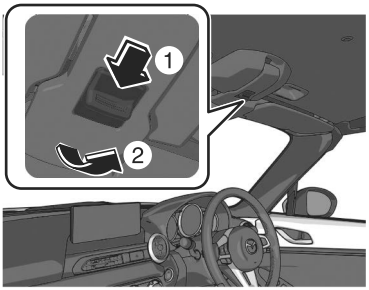


1 ソフトトップ
2 トップロックレバー
3 トップハンドル

ソフトトップの使いかた

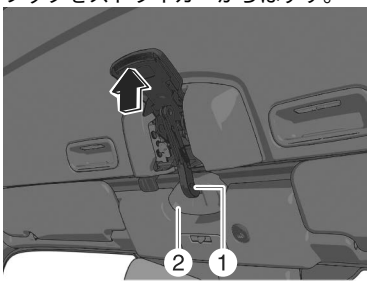
ソフトトップを開けるとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. エンジンがかかっている場合は、エンジンを止める。
3. ソフトトップが格納される部分に、物が置かれていないことを確認する。
4. ロック解除ボタンを前方に押しながら、トップロックレバーを手前に引いてロックを解除する。



1 ロック解除ボタン
2 トップロックレバー

5. フックをストライカーからはずす。

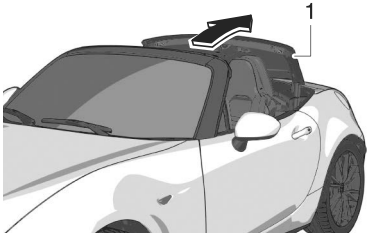


1 フック
2 ストライカー

知識

窓ガラスが自動で下がらない場合は、窓を全開にする、またはドアを開けてください。

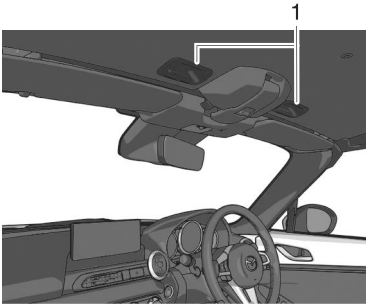
6. 車両の外側に立ち、ルーフサイド前側を持って、ソフトトップを車両後方へ引く。



1 ルーフサイド前側

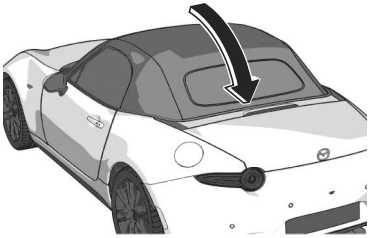
知識

トップハンドルを使うと、車内からソフトトップを開けることができます。

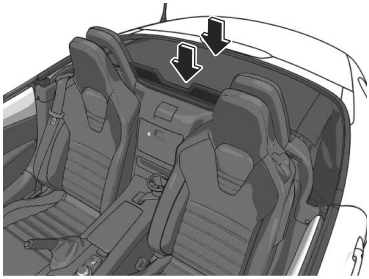


1 トップハンドル

7. リアガラスを手で軽く押さえながら、ソフトトップを後方へ移動し、折りたたむ。

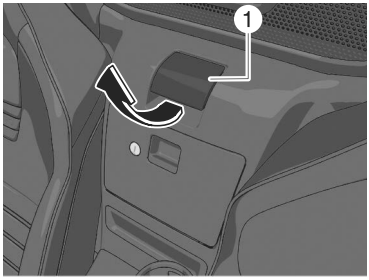


8. ソフトトップの後側を押さえた状態で、前側をカチッと音がするまで押さえつける。
   ソフトトップをゆさぶり、確実にロックされたことを確認する。



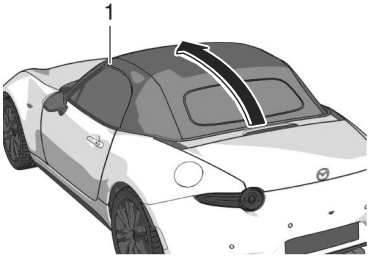
ソフトトップを閉めるとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. エンジンがかかっている場合は、エンジンを止める。
3. ロック解除レバーを上に引き、ロックを解除する。



1 ロック解除レバー

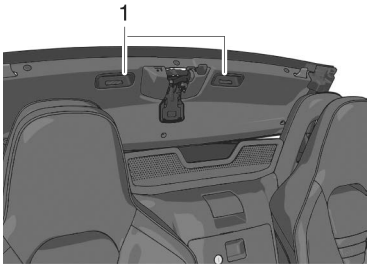
4. 車両の外側に立ち、ルーフサイド前側を持ちながら、ゆっくりと引き上げる。



1 ルーフサイド前側

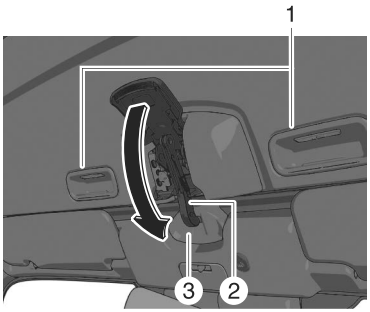
知識

・窓ガラスが自動で下がらない場合は、窓を全開にする、またはドアを開けてください。
・トップハンドルを使うと、車内からソフトトップを閉めることができます。



1 トップハンドル

5. シートに座り、トップハンドルを持って、ソフトトップをフロントガラス側に押しあてる。
フックがストライカーにかかっていることを確認し、トップロックレバーをゆっくり動かして、カチッと音がするまで押し上げる。



1 トップハンドル
2 フック
3 ストライカー

知識

ソフトトップの開閉により、自動で窓ガラスが下がります。これは操作性を向上させるための機能で異常ではありません。車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは、自動で窓ガラスが下がらなくなります。下がらなくなった場合は窓ガラスの自動開閉機構の復帰操作を行なってください。
→8-50 ページ「自動開閉機構を復帰する」

ソフトトップを長期間開けた状態で放置すると幌が収縮し、ソフトトップを閉めるときにトップロックレバーのフックがストライカーにかかりにくくなることがあります。

トップロックレバーをロックしてもソフトトップの閉まりが悪い場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

リトラクタブルハードトップ

リトラクタブルハードトップについて

リトラクタブルハードトップは、スイッチ操作により、ルーフ、窓ガラスが連動して作動し、フロントルーフをリアルーフ下に格納するシステムです。

リトラクタブルハードトップ使用上の警告･注意

⚠ 警告

ルーフを開閉するときは、周囲に人がいないことを確認する。
ルーフを動かしたとき、車両にはさまれるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

車両が動いているときは、シートベルトを着用しシートに座る。
車内で立ったり、リアルーフまたはコンソールの上に座ると、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

走行中は、車両から手や頭などを出さない。
走行中に車外のものにあたったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ルーフを開けた状態で乗り降りするときは、フロントガラスの角に頭や体をぶつけないように注意してください。けがをするおそれがあります。

ルーフが半開の状態では走行しないでください。ルーフが損傷するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにルーフの操作をさせないでください。お子さまが誤って操作すると、不意にルーフが閉まりお子さまや同乗者の手や頭をはさんだりするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアルーフやミドルルーフの周辺およびフロントルーフの格納部に荷物を置かないでください。荷物やハードトップが損傷するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ルーフ周辺に落ち葉などがあるときは取り除いてください。排水口が詰まるおそれがあります。

ルーフを開けるときは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチが OFF になっていることを確認してください。デフォッガーの熱でルーフや内装材が損傷するおそれがあります。

ルーフを開閉するときは、ルーフの上や上方 (地上高約 1.6m) に障害物がないことを確認してください。ルーフや障害物を損傷するおそれがあります。

ルーフを開閉しているときは、ルーフに荷重をかけないでください。ルーフの開閉機構が損傷するおそれがあります。

ルーフの汚れを水で洗い流すとき、窓ガラスとルーフの合わせ目付近に直接水をかけないでください。車内に水が入るおそれがあります。
→9-30 ページ「リトラクタブルハードトップをお手入れする」

ルーフを開閉するときは、交通のさまたげにならない安全かつ水平な場所に停車してから行なってください。坂道や段差に乗り上げた状態で開閉すると、ルーフの開閉機構が損傷するおそれがあります。

自動洗車機 (コイン洗車機) や高圧洗車機を使用しないでください。ルーフが損傷するおそれがあります。

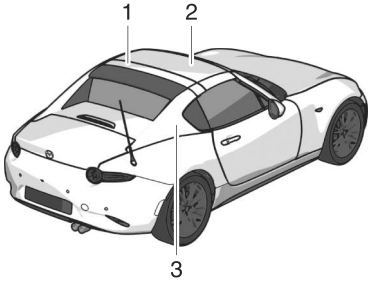
外気温が低く、ルーフおよびその周辺が凍結している場合は、無理に開閉しないでください。ルーフが損傷するおそれがあります。

ルーフがぬれているときは、ルーフを開けないでください。車内に水が入り、故障につながるおそれがあります。

風が強いときにはルーフを開閉しないでください。風にあおられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

開閉作動中に車速が 10 km/h を超えるとルーフの開閉が途中で停止します。 ルーフが途中で止まると、後方の視界が悪くなったり、ルーフが損傷するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。 交通状況に応じて車を停車させて、再度リトラクタブルハードトップスイッチを操作してルーフの開閉を完了させてください。

リトラクタブルハードトップの概略図



1 ミドルルーフ
2 フロントルーフ
3 リアルーフ

リトラクタブルハードトップの使いかた

次の条件をすべて満たしているときにリトラクタブルハードトップスイッチを操作するとルーフを開閉することができます。

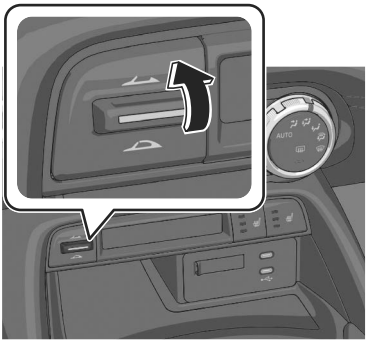
・電源ポジションが ON のとき
・チェンジレバー/セレクトレバーが R 以外のとき
・車速が 10 km/h 以下のとき
・トランクが閉まっているとき
・車両の傾斜角度が 15 度以下のとき

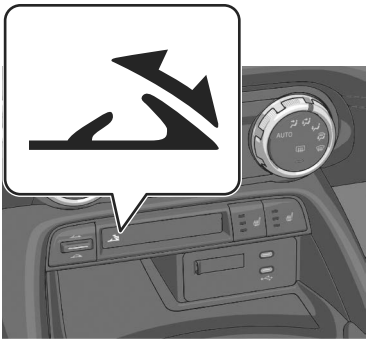
知識

作動条件をすべて満たしているにも関わらず開閉できない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
緊急時は、応急処置として手動で閉めることができます。
→8-28 ページ「ルーフを手動で閉める」

ルーフを開ける

ルーフを開けて走行するときは、車内の荷物が風で飛ばされないようにしてください。
1. 交通のさまたげにならない安全で平らな場所に停車させる。
2. トランクが閉まっていることを確認する。
3. エンジンを始動する。
4. ルーフの開作動が完了するまで、リトラクタブルハードトップスイッチを開側に押し続ける。
   スイッチを操作している間は、作動表示灯が点滅します。また、マルチインフォメーションディスプレイにルーフの開状態を表示します。開作動が完了すると、チャイムが鳴り、作動表示灯が消灯します。





マルチインフォメーションディスプレイ



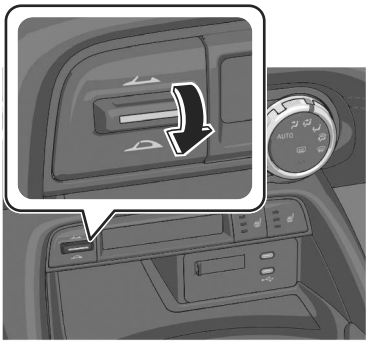
知識

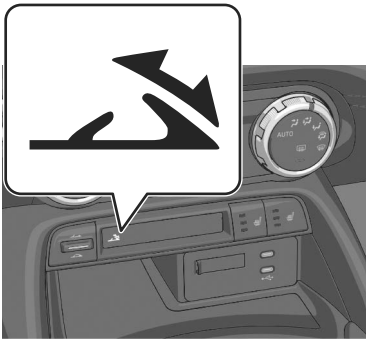
窓ガラスが閉まっているときにリトラクタブルハードトップスイッチを操作すると、窓ガラスが少し開きます。ルーフの開作動が完了するまでリトラクタブルハードトップスイッチを開側に押し続けると窓ガラスはもとの位置にもどります。ただし、条件によっては窓ガラスがもとの位置にもどらない場合があります。

半開の状態から開くときは、リアルーフが完全に開いた後、フロントルーフが開きます。

ルーフを閉める

1. 交通のさまたげにならない安全で平らな場所に停車させる。
2. トランクが閉まっていることを確認する。
3. バッテリーあがり防止のため、エンジンを始動する。
4. ルーフの閉作動が完了するまで、リトラクタブルハードトップスイッチを閉側に押し続ける。
   スイッチを操作している間は、作動表示灯が点滅します。また、マルチインフォメーションディスプレイにルーフの閉状態を表示します。閉作動が完了すると、チャイムが鳴り、作動表示灯が消灯します。





マルチインフォメーションディスプレイ



知識

窓ガラスが閉まっているときにリトラクタブルハードトップスイッチを操作すると、窓ガラスが少し開きます。ルーフの閉作動が完了するまでリトラクタブルハードトップスイッチを閉側に押し続けると窓ガラスはもとの位置にもどります。ただし、条件によっては窓ガラスがもとの位置にもどらない場合があります。その場合はパワーウインドースイッチで窓ガラスを完全に閉めてください。

リトラクタブルハードトップの便利な使いかた

窓ガラスの連動作動について

ルーフの開閉時には、操作性を向上させるため、自動で窓ガラスが下がります。

知識

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは、自動で窓ガラスが下がらなくなります。下がらなくなった場合は窓ガラスの自動開閉機構の復帰操作を行なってください。
→8-50 ページ「自動開閉機構を復帰する」

盗難防止システム

イモビライザーシステムについて

イモビライザーシステムは、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにする車両盗難防止装置です。
イモビライザーシステムやキーに問題がある場合は、マツダ販売店にご相談ください。

イモビライザーシステム使用上の警告・注意

注意

イモビライザーシステムやキーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。
- キーに強い衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
- キーに磁気を帯びた製品を近づけないでください。
- キーをインストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になるところに放置しないでください。

イモビライザーシステムの使いかた

システムの作動

車両の電源を ON から ACC または OFF にすると、システムが作動してセキュリティ表示灯 が点滅します。

システムの解除

車両の電源を ON にすると、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

バーグラアラームシステムについて

バーグラアラームシステムは車両や車内の貴重品が盗難にあわないように警戒状態にする車両盗難警報装置です。
不正な侵入をしようとすると、ホーンや非常点滅表示灯で周囲に異常を知らせます。
システムは、正しく設定されていないと作動しません。車から離れるときは、設定手順に従って正しく設定してください。
バーグラアラームシステムに異常が見られる場合はマツダ販売店にご相談ください。

バーグラアラームシステム使用上の警告・注意

⚠ 注意

バーグラアラームシステムの故障を防ぐため、システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。

バーグラアラームシステムの使いかた

バーグラアラームシステムを設定する

1. 窓ガラスとソフトトップ/ルーフを確実に閉めます。
2. 車両の電源を OFF にします。
3. すべてのドアとボンネット、トランクリッドが閉まっていることを確認します。
4. ドアを施錠します。
   非常点滅表示灯が 1 回点滅します。
   メーター内のセキュリティ表示灯が 20 秒間、毎秒 2 回点滅します。
5. 20 秒後に警戒状態へ設定されます。

知識

すべてのドア、ボンネット、トランクリッドを閉めた状態で、キーのアンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠され、バーグラアラームシステムが再設定されます。

・いずれかのドアまたはトランクリッドを開ける。
・車両の電源を OFF 以外にする。

キーのロックスイッチを押した後、20 秒以内に次の操作をした場合、警戒状態へは設定されません。
再度設定するには、最初から操作を行なってください。

・いずれかのドアを解錠する。
・いずれかのドアを開ける。
・ボンネットを開ける。

知識

・車両の電源を ON にする。

警戒中にキーのロックスイッチでドアを施錠すると、警戒状態であることを示す非常点滅表示灯が 1 回点滅します。

警報の作動条件

次のいずれかを行なうと、約 30 秒間ホーンが鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

・補助キー、ロックノブのいずれかで解錠する。
・ドア、ボンネット、トランクリッドのいずれかを無理に開ける。
・ボンネットを開ける。
・プッシュボタンスタートを使わずに車両の電源を ON にする。

ドアまたはトランクリッドがキーのアンロックスイッチまたはリクエストスイッチで解錠されるまでホーンが鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

知識

バーグラアラームシステム作動中はトランクリッドが開きません。

警戒状態のままで 12V バッテリーがあがった場合は、12V バッテリーを充電、または交換するときにホーンが鳴り、非常点滅表示灯が点滅することがあります。

警報を停止する

作動中の警報は次のいずれかの操作で停止します。

・キーのアンロックスイッチを押す。
・プッシュボタンスタートを操作してエンジンを始動する。
・リクエストスイッチを押す。
・キーを携帯して電磁式トランクリッドオープナーを押す。

警戒状態が解除されると、非常点滅表示灯が 2 回点滅します。

バーグラアラームシステムを解除する

次のいずれかの操作で警戒状態が解除されます。

・キーのアンロックスイッチを押す。
・プッシュボタンスタートを操作してエンジンを始動する。
・リクエストスイッチを押す。

警戒状態が解除されると、非常点滅表示灯が 2 回点滅します。

MEMO

5 運転する

ミラー.....5-8
ドアミラー使用上の警告･注意 5-8
ドアミラーの使いかた..... 5-8
ルームミラー使用上の警告･注意 5-9
ルームミラーの使いかた.....5-9
ルームミラーの便利な使いかた 5-10

プッシュボタンスタートについて 5-11
プッシュボタンスタートについて 5-11
プッシュボタンスタート使用上の警告･注意.....5-12
プッシュボタンスタートの使いかた.....5-13

i-ELOOP.....5-15
i-ELOOP について*.....5-15
i-ELOOP 使用上の警告･注意 5-15
i-ELOOP の使いかた..... 5-15

i-stop.....5-15
i-stop について*..... 5-15
i-stop の使いかた.....5-16

メーター.....5-17
メーターについて..... 5-17
スピードメーターについて 5-18
タコメーターについて..... 5-18
マルチインフォメーションディスプレイについて..... 5-19
マルチインフォメーションディスプレイの使いかた..... 5-19
オドメーター/トリップメーターについて.....5-21
オドメーター/トリップメーターの使いかた..... 5-21
水温計について..... 5-22
燃料計について..... 5-22
パネルライトコントロールについて..... 5-23
パネルライトコントロールの使いかた..... 5-23
外気温表示について.....5-24
走行可能距離表示について 5-24
平均燃費表示について..... 5-25
平均燃費表示の使いかた.....5-25
瞬間燃費表示について..... 5-25
i-ACTIVSENSE 表示について 5-26
ルーフ開閉状態表示について (ハードトップ車)..... 5-26
メッセージ表示について.....5-26

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)..... 5-26
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) について..... 5-26
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) ランプ.....5-27

チェンジレバー.....5-28
チェンジレバー使用上の警告･注意.....5-28
チェンジレバーの使いかた 5-28

*グレード/仕様別装備

セレクトレバー.....5-29
セレクトレバー使用上の警告･注意.....5-29
セレクトレバーの使いかた 5-30

ステアリングシフトスイッチ.... 5-34
ステアリングシフトスイッチ使用上の警告･注意..... 5-34
ステアリングシフトスイッチの使いかた.....5-34

ギア･シフト･インジケーター (GSI).....5-37
ギア･シフト･インジケーター (GSI) について(マニュアル車)..... 5-37
ギア･シフト･インジケーター (GSI) 使用上の警告･注意.....5-37

パーキングブレーキ.....5-37
パーキングブレーキ使用上の警告･注意.....5-37
パーキングブレーキの使いかた 5-38

ブレーキ･オーバーライド･システム 5-39
ブレーキ･オーバーライド･システムについて.....5-39
ブレーキ･オーバーライド･システム使用上の警告･注意..... 5-39
ブレーキ･オーバーライド･システムの便利な使いかた..... 5-39

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA).....5-39
ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について..... 5-39
ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) 使用上の警告･注意..... 5-40

エマージェンシーシグナルシステム (ESS)..... 5-40
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について.....5-40

ランプスイッチ.....5-40
ランプスイッチについて.....5-40
ランプスイッチ使用上の警告･注意.....5-41
ランプスイッチの使いかた 5-41
ランプスイッチの便利な使いかた 5-44

方向指示器.....5-45
方向指示器の使いかた..... 5-45

ワイパー/ウォッシャースイッチ 5-46
フロントワイパー/ウォッシャースイッチについて..... 5-46
フロントワイパー/ウォッシャースイッチ使用上の警告･注意 5-47
フロントワイパー/ウォッシャースイッチの使いかた.....5-48

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-50
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチについて.....5-50
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ使用上の警告･注意.....5-50

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた 5-50

非常点滅表示灯.....5-50
非常点滅表示灯について.....5-50
非常点滅表示灯の使いかた 5-51

ホーン..... 5-51
ホーンの使いかた.....5-51

アンチロックブレーキシステム (ABS).....5-51
アンチロックブレーキシステム (ABS) について.....5-51
アンチロックブレーキシステム (ABS) 使用上の警告･注意.....5-52

トラクションコントロールシステム (TCS)..... 5-52
トラクションコントロールシステム (TCS) について..... 5-52
トラクションコントロールシステム (TCS) 使用上の警告･注意 5-52
トラクションコントロールシステム (TCS) の使いかた.....5-52

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC).....5-53
ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について 5-53
ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) 使用上の警告･注意.....5-53
ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) の使いかた 5-53

DSC-TRACK..... 5-55
DSC-TRACK について.....5-55
DSC-TRACK 使用上の警告･注意 5-55
DSC-TRACK の使いかた..... 5-56

スピードリミッターの解除 (MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER) 5-56
スピードリミッターの解除について.....5-56
スピードリミッターを解除するうえでの警告･注意.....5-56
スピードリミッターの解除のしかた.....5-57

キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC).....5-57
キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) について.....5-57
キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) 使用上の警告･注意.....5-57
キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) の使いかた 5-57

ドライブセレクション..... 5-58
ドライブセレクションについて (オートマチック車).....5-58
ドライブセレクション使用上の警告･注意.....5-58
ドライブセレクションの使いかた.....5-58

パワーステアリング.....5-59
パワーステアリングについて 5-59

給油..... 5-60
給油時の警告･注意.....5-60
給油のしかた.....5-62

i-ACTIVSENSE.....5-63
i-ACTIVSENSE について..... 5-63
i-ACTIVSENSE 使用上の警告･注意.....5-63
アクティブセーフティ技術について..... 5-63
プリクラッシュセーフティ技術について..... 5-64
警報･リスク回避支援表示について..... 5-64
i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた..... 5-65

フォワードセンシングカメラ (FSC)..... 5-66
フォワードセンシングカメラ (FSC) について..... 5-66

レーダーセンサー.....5-69
レーダーセンサーについて 5-69

超音波センサー.....5-72
超音波センサーについて.....5-72

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)..... 5-75
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) について*.....5-75
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 使用上の警告･注意 5-75
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) の使いかた..... 5-75

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....5-76
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) について*.....5-76
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 使用上の警告･注意.....5-78
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) の使いかた..... 5-78

車線逸脱警報システム.....5-80
車線逸脱警報システムについて 5-80
車線逸脱警報システム使用上の警告･注意.....5-80
車線逸脱警報システムの使いかた 5-81

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)..... 5-82
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) について..... 5-82
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 使用上の警告･注意 5-82
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の使いかた.....5-82

交通標識認識システム (TSR).....5-87
交通標識認識システム (TSR) について*.....5-87
交通標識認識システム (TSR) 使用上の警告･注意.....5-87

交通標識認識システム (TSR) の使いかた..... 5-87
交通標識認識システム (TSR) の便利な使いかた.....5-89

ディスタンス & スピード・アラート (DSA).....5-90
ディスタンス & スピード・アラート (DSA) について*.....5-90
ディスタンス & スピード・アラート (DSA) 使用上の警告・注意 5-90
ディスタンス & スピード・アラート (DSA) の使いかた.....5-90

ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....5-91
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) について..... 5-91
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 使用上の警告・注意 5-92
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) の使いかた.....5-92

後側方接近車両検知 (RCTA).....5-93
後側方接近車両検知 (RCTA) について.....5-93
後側方接近車両検知 (RCTA) 使用上の警告・注意.....5-93
後側方接近車両検知 (RCTA) の使いかた..... 5-93

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)..... 5-94
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) について*..... 5-94
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 使用上の警告・注意.....5-95
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) の使いかた 5-96

スマート・ブレーキ・サポート (SBS)..... 5-103
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) について..... 5-103
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 使用上の警告・注意....5-105
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の使いかた.....5-105

AT 誤発進抑制制御..... 5-108
AT 誤発進抑制制御について 5-108
AT 誤発進抑制制御使用上の警告・注意.....5-110
AT 誤発進抑制制御の使いかた 5-110

衝突二次被害軽減システム..... 5-112
衝突二次被害軽減システムについて.....5-112
衝突二次被害軽減システム使用上の警告・注意.....5-113
衝突二次被害軽減システムの使いかた.....5-113

クルーズコントロール..... 5-113
クルーズコントロールについて*.....5-113
クルーズコントロール使用上の警告・注意..... 5-114
クルーズコントロールの使いかた 5-114

パーキングセンサー..... 5-117
パーキングセンサーについて 5-117
パーキングセンサー使用上の警告･注意..... 5-117
パーキングセンサーの使いかた 5-117

積雪､寒冷時の運転.....5-121
スノータイヤについて..... 5-121
タイヤチェーンについて.....5-121

MEMO

ミラー

ドアミラー使用上の警告･注意

⚠ 警告

車線変更する前に､必ず肩越しに目視確認する
実際の距離を考慮せずに車線変更することは危険です。重大な事故に遭う可能性があります。 凸面鏡に見えるものは､見た目よりも近くにあります。

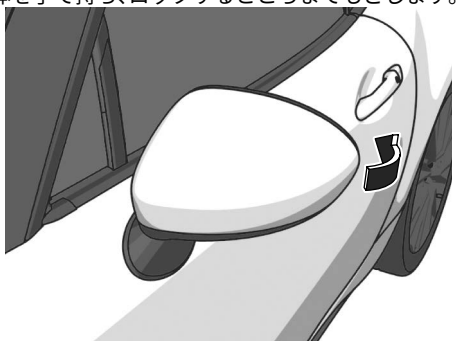
運転を開始する前に､必ずドアミラーを運転位置にもどす
ドアミラーを格納したまま運転するのは危険です。後方視界が制限され､思わぬ事故につながるおそれがあります。

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると､前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラーの使いかた

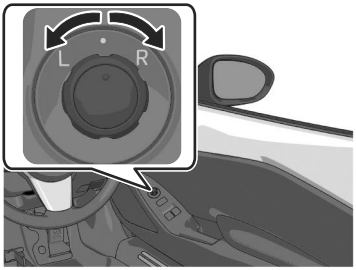
ドアミラーの展開/格納

ドアミラー本体を手で倒して格納します。
走行前には､ドアミラー本体を手で持ち､ロックするところまでもどします。

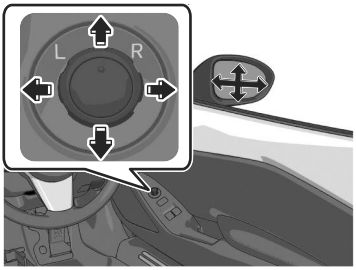


ドアミラーの角度調節

1. 車両の電源を ACC または ON にする。
2. 調節スイッチを助手席側**L**または運転席側**R**のどちらか調節したいドアミラー側にまわす。



3. 調節スイッチを操作して、後方が十分確認できるように調節する。



4. ドアミラーの調節後は、調節スイッチを中立位置にもどす。

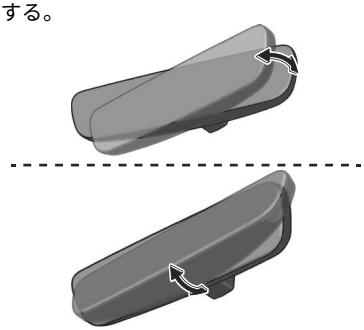
ルームミラー使用上の警告･注意

⚠ 警告

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ルームミラーの使いかた

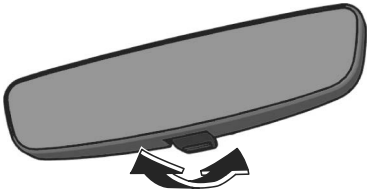
ルームミラー本体を動かし調節する。



ルームミラーの便利な使いかた

防眩機能

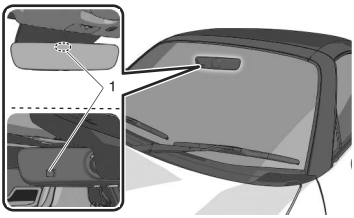
後続車のヘッドランプの眩しさを防ぎます。
マニュアルタイプ
通常はレバーを押した状態にしてください。
夜間などに後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いてください。



オートタイプ
車両の電源が ON でチェンジレバー/セレクトレバーが R の位置以外のときに、自動で作動します。

知識

センサーをステッカーやカバーなどで覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

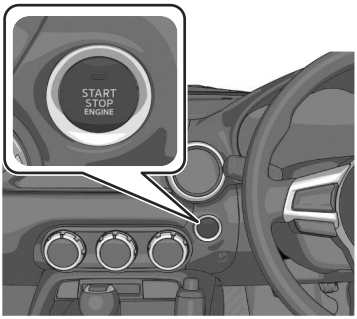


1 センサー

プッシュボタンスタートについて

プッシュボタンスタートについて

プッシュボタンスタートを押すと、エンジンの始動/停止、車両の電源 (OFF/ACC/ON) を切り替えることができます。



車両の電源

OFF

すべての電装品が使用できない状態です。

ACC

オーディオなど一部の電装品が使用できる状態です。

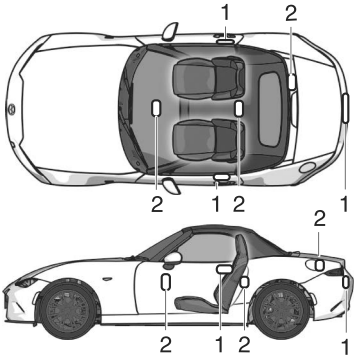
ON

すべての電装品が使用できる状態です。

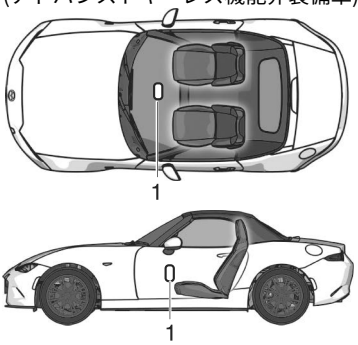
プッシュボタンスタート使用上の警告･注意

⚠ 警告

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内･車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により､医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。
(アドバンストキーレス機能装備車)



1 車外アンテナ
2 車内アンテナ
(アドバンストキーレス機能非装備車)



1 車内アンテナ

次にある以外の医療用機器を使用している方は､キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。
電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

- 植え込み型心臓ペースメーカー
- 植え込み型除細動器

⚠ 警告

プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。
ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。 また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しない。
走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

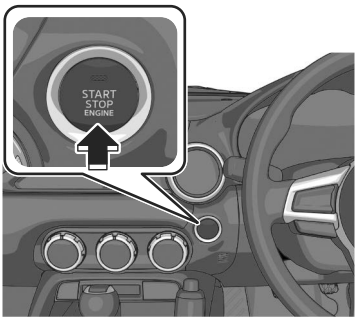
プッシュボタンスタートに異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

車から離れるときは、車両の電源が OFF になっていることを確認してください。

プッシュボタンスタートの使いかた

車両の状態や運転者の操作によって、エンジンの始動/停止、車両の電源を切り替えます。

エンジンを始動する

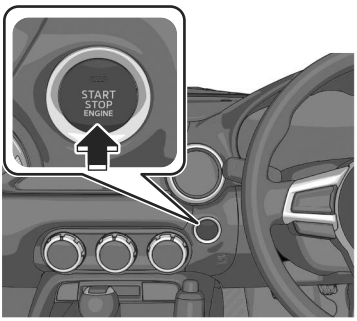
1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. **(オートマチック車)**
   セレクトレバーが P の位置にあることを確認する。
3. クラッチペダル (マニュアル車)、またはブレーキペダル (オートマチック車) を踏む。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯します。
4. 

5. エンジンが始動します。

知識

プッシュボタンスタートでエンジンを始動できない場合は、キーの節電機能が ON になっていないか確認してください。節電機能が ON になっているときは、キーの作動表示灯が点灯/点滅しません。
→4-6 ページ 「キーの便利な使いかた」

エンジンを停止する

1. 車両を停車する。
2. **(マニュアル車)**
   チェンジレバーをニュートラルの位置にする。
   (オートマチック車)
   セレクトレバーを P の位置にする。
3. 

4. エンジンが停止し、車両の電源が OFF になります。

知識

(オートマチック車)
セレクトレバーが P 以外の位置のときに、エンジンを停止すると、車両の電源が ACC になります。

車両の電源を切り替える

クラッチペダル (マニュアル車)、またはブレーキペダル (オートマチック車)を踏まずに、プッシュボタンスタートを押す。
プッシュボタンスタートを押すごとに、ACC、ON、OFF の順に車両の電源が切り替わります。

知識

車両の電源を ACC (オートマチック車は、セレクトレバーが P の位置になっていること) の状態で放置すると、約 25 分で車両の電源が OFF になります。

i-ELOOP

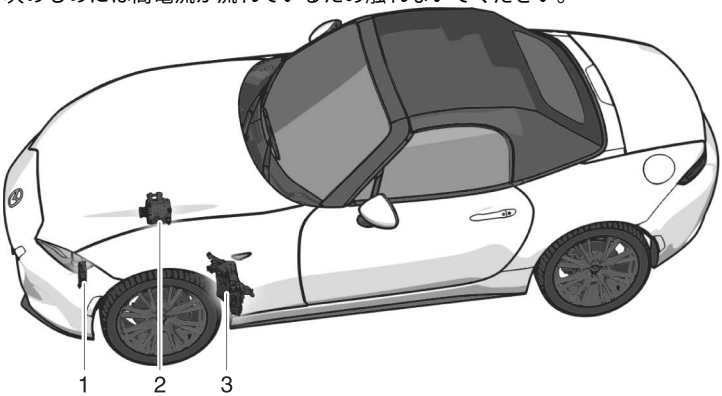
i-ELOOP について*

i-ELOOP は、車両が減速するときに発電し、発電した電力を電装品の電源として使用するシステムです。車両が減速するときに発電することで、発電によるエンジン負荷を低減し、走りの性能と燃費を向上させます。

i-ELOOP 使用上の警告・注意

⚠ 注意

次のものには高電流が流れているため触れないでください。



1 可変電圧式オルタネーター
2 DC-DC コンバーター
3 キャパシター

キャパシターを廃棄する場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。詳しくは次の URL を参照ください。
http://mazda.com/recycle/capa/

i-ELOOP の使いかた

マツダコネクトで i-ELOOP の作動状況を確認できます。
マツダコネクトホーム画面の“情報”→“燃費モニター”→“システム作動状態”を選択し、i-ELOOP の作動状況を確認する、またはマツダ販売店にご相談ください。

i-stop

i-stop について*

i-stop (アイ・ストップ) は、燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

i-stop の使いかた

i-stop を作動可能な状態にする

次の条件をすべて満たすと、i-stop が作動可能な状態になります。

- エンジン暖機後
- エンジンを始動し、一度走行した後
- すべてのドア、リアゲート、ボンネットが閉まっているとき
- **(リトラクタブルハードトップ装備車)**
  リトラクタブルハードトップが作動していないとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 曇り取りスイッチ が OFF の状態のとき
- エアコンの設定温度が最大暖房または最大冷房 (A/C ON) 以外の位置になっているとき
- **(フルオートエアコン)**
  車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
- **(マニュアルエアコン)**
  最大風量以外のとき
- 外気温が低すぎない、または高すぎないとき
- 気圧が低くないとき (標高が高いところを走行していないとき)
- ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力をかけているとアイドリングストップしない場合があります)
- 急な坂道ではないとき
- 急停車ではないとき
- **(オートマチック車)**
  - セレクトレバーが D または M の位置 (2 速固定モード以外) のとき
  - オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
  - オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
- ブレーキ負圧が十分に高いとき
- 12 V バッテリーの状態が良好のとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

i-stop を作動させる

マニュアル車

1. 停車する。
2. チェンジレバーを N の位置にする。
3. クラッチペダルから足を離す。
   i-stop が作動し、i-stop 表示灯 (緑) i-stopが点灯します。
4. 車両を発進させる。
   エンジンが再始動します。

オートマチック車

MRCC を使用していないとき

1. 停車する。
   i-stop が作動し、i-stop 表示灯 (緑) i-stopが点灯します。
2. 車両を発進させる。
   エンジンが再始動します。

MRCC を使用しているとき

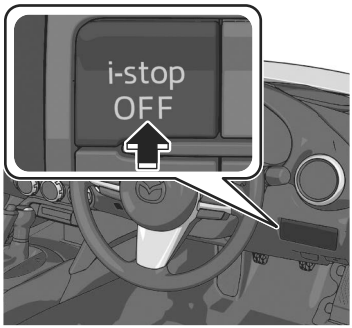
1. MRCC により停車後、ブレーキペダルを踏む。i-stop が作動し i-stop 表示灯 (緑) i-stopが点灯します。
2. アクセルペダルを踏むまたはステアリングスイッチの RES スイッチを押す。
   エンジンが再始動します。

知識

i-stop が作動してから 2 分以上経過するとエンジンが再始動します。

12 V バッテリー端子をはずすと、12 V バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、12 V バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要があるため、マツダ販売店にご相談ください。

i-stop の作動を停止する



i-stop が停止し、i-stop 警告灯 (橙) i-stop が点灯します。

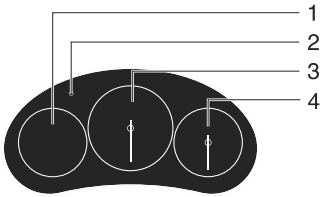
知識

i-stop を停止した状態でエンジンを停止したときは、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

メーター

メーターについて

以下で車両の情報をお知らせします。



1 マルチインフォメーションディスプレイ
2 パネルライトコントロールスイッチ
3 タコメーター
4 スピードメーター

スピードメーターについて

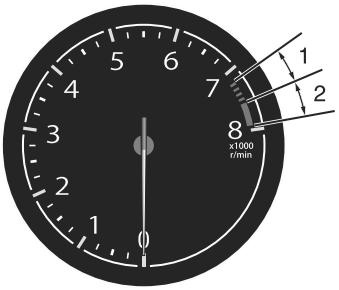
走行速度を km/h で示します。

タコメーターについて

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

⚠ 注意

指針がレッドゾーン (許容回転数以上を示す) に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。



1 ストライプゾーン
2 レッドゾーン

知識

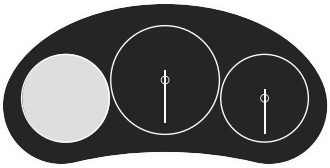
ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

(MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER (12R))

7200rpm 付近に、シフトアップ推奨ポイントとして、△マークが付いています。

マルチインフォメーションディスプレイについて

画面表示で車両の情報をお知らせします。

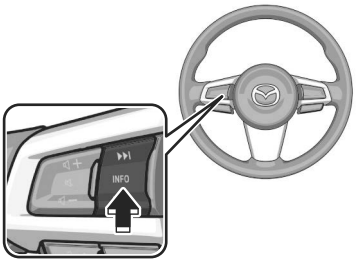


マルチインフォメーションディスプレイは次の情報を表示します。

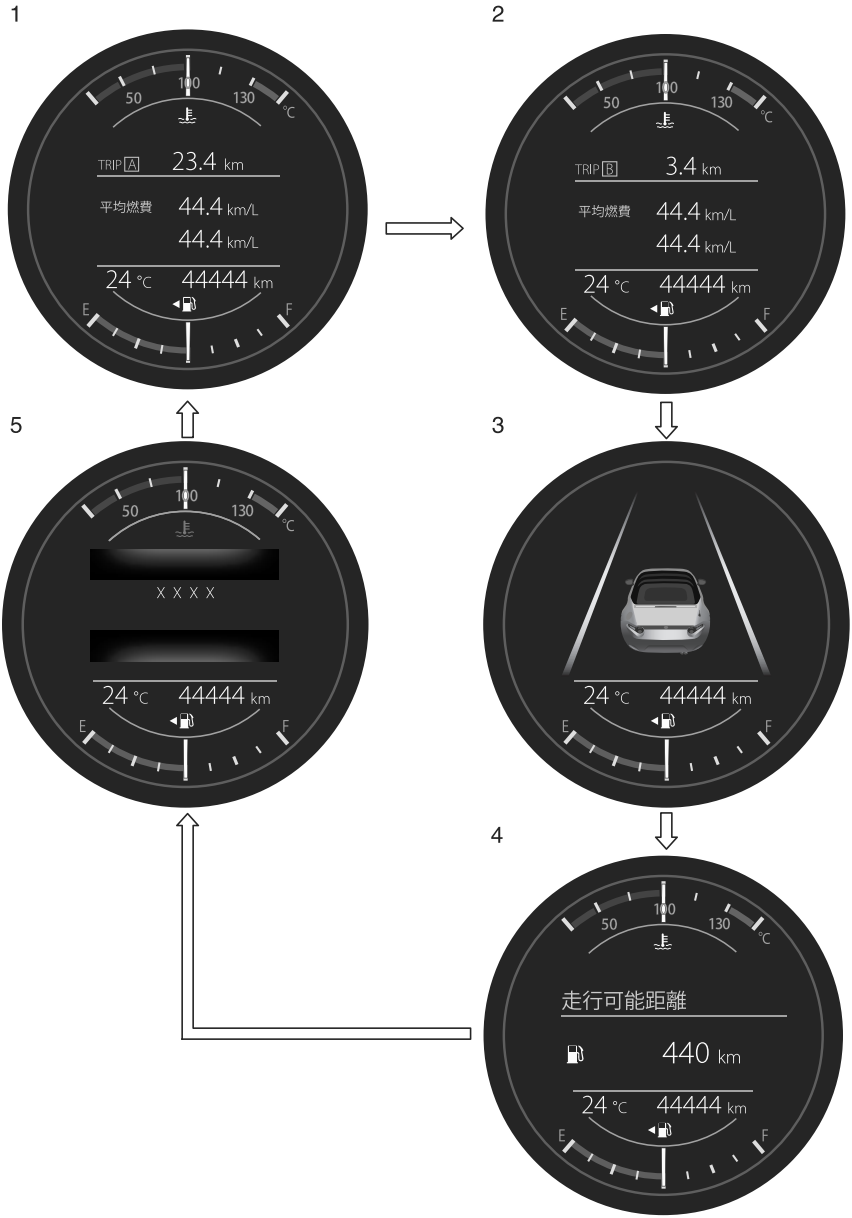
・オドメーター
・トリップメーター
・水温計
・燃料計
・外気温
・走行可能距離
・平均燃費
・瞬間燃費
・i-ACTIVSENSE 表示
・メッセージ表示
・半ドア警告灯/トランクリッド開警告灯*1
・ルーフ開閉状態表示 (ハードトップ車)

*1　ドア/トランクリッドが開いているときに点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイの使いかた



INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。



1 TRIP A 表示
2 TRIP B 表示

3 i-ACTIVSENSE 画面
4 走行可能距離表示
5 メッセージ表示画面*1
*1　メッセージ表示があるときのみ表示します。

オドメーター/トリップメーターについて

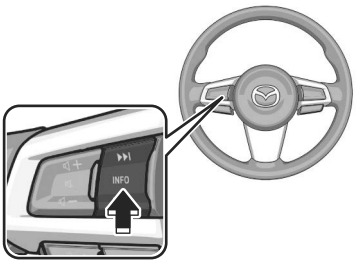
オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

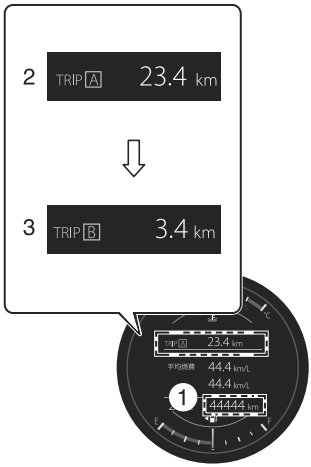
トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します (右側の数字は 100 m 単位です)。2 種類 (トリップメーター A、トリップメーター B) の区間距離を計測することができます。

オドメーター/トリップメーターの使いかた



INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。



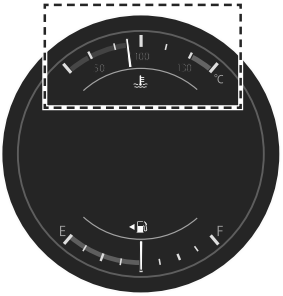
1 オドメーター表示
2 トリップメーター A 表示
3 トリップメーター B 表示
トリップメーターを“0”にもどすときは、トリップメーターが表示されているときに INFO スイッチを 2 秒以上押します。

知識

車両整備などで 12 V バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターの表示が“0”にもどります。

水温計について

エンジン冷却水の温度を示します。青いゲージはエンジン冷却水の温度が低いことを示し、赤いゲージはエンジン冷却水の温度が高く、過熱していることを示します。



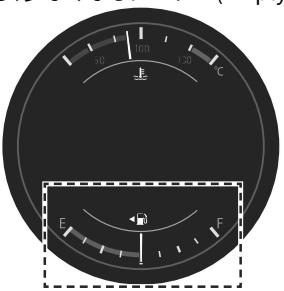
パネルライトコントロールスイッチを押すと、高温域水温計に切り替えることができます。

注意

水温計の指針が赤いゲージを示すときは、オーバーヒートのおそれがあります。エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。
→ 8-19 ページ「オーバーヒートを処置する」

燃料計について

燃料の残量を示します。
燃料が満タンのときは F (Full) を示し、少なくなるにつれ E (Empty) に移行します。



知識

給油後は、指針が安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が移動することがあります。

◂⛽の矢印は給油口が助手席側にあることを示します。

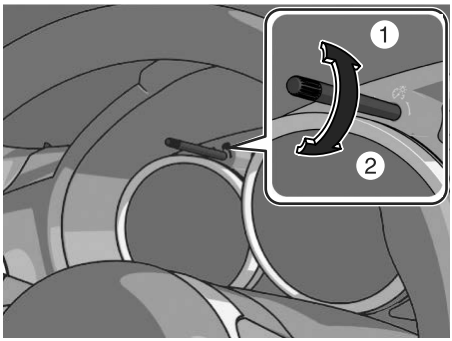
パネルライトコントロールについて

車両の電源が ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

夕方や薄暗い場所で車両の電源を ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。

パネルライトコントロールの使いかた



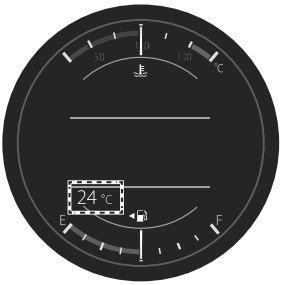
1 暗くする
2 明るくする
左にまわすと暗くなります。最も暗い状態になると音が鳴り、最も暗い位置になっていることを知らせます。

減光解除機能

車両の電源が ON でメーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチを右に音が鳴るまでまわすと、減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除してください。

外気温表示について

車両の電源が ON のとき、外気温を表示します。

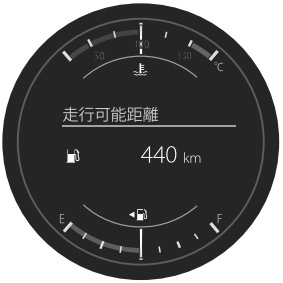


知識

外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

走行可能距離表示について

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。
走行可能距離が 50 km 以上の場合、走行可能距離表示は 10 km 単位で減少し、50 km 未満の場合は 1 km 単位で減少します。



知識

走行可能距離はあくまで目安の数値であって、実際に走行できる距離とは異なります。燃料計を確認しながら走行してください。

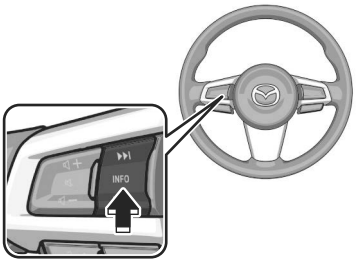
平均燃費表示について

お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費燃料から、平均燃費を算出して表示します。



平均燃費表示の使いかた

表示されている平均燃費のデータをリセットするには、INFO スイッチを 2 秒以上押します。



データをリセットすると、平均燃費を再算出して表示するまで“- - - km/L”を表示します。

瞬間燃費表示について

走行中の瞬間燃費を、消費燃料から算出して表示します。

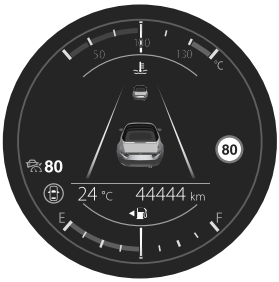


知識

時速が約 5 km/h 以下になると 0 位置を表示します。

i-ACTIVSENSE 表示について

システムの作動状態を表示します。



ルーフ開閉状態表示について (ハードトップ車)

ルーフの開閉状態を表示します。



メッセージ表示について

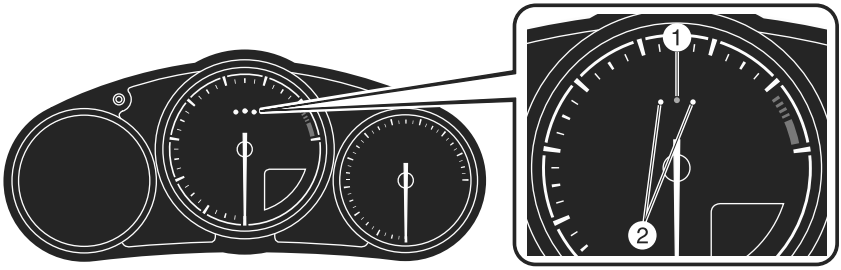
システムの作動状態や故障･異常状態などを知らせるメッセージが表示されます。
ディスプレイの指示に従ってください。
→5-19 ページ 「マルチインフォメーションディスプレイの使いかた」

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) について

i-DM は、気持ちのよい運転ができるようになる運転技術の習得/向上をサポートするシステムです。
走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況をお知らせします。

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) ランプ



1 グリーンランプ/ブルーランプ/ホワイトランプ

グリーンランプ

やさしい運転を示します。
ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。

ブルーランプ

しなやかな運転を示します。
特に次の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちのよい運転のときに点灯します。
走行タイプ 1
適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。
走行タイプ 2
加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。

ホワイトランプ

体が揺れる運転を示します。
やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行です。

知識

マツダコネクトで i-DM ランプの表示/非表示の変更、i-DM の作動状況をセンターディスプレイに表示させることができます。
マツダコネクトホーム画面の“情報”→“i-DM”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

チェンジレバー

チェンジレバー使用上の警告･注意

⚠ 注意

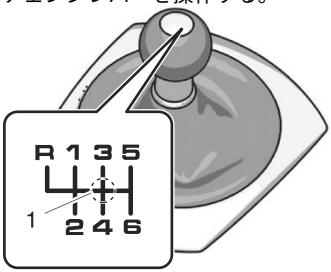
R に入れるときは､車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。

5 速から 4 速に変速するときは､チェンジレバーを横方向に押しすぎないでください。思いがけず 2 速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。

R に入れるとき以外は､誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。

チェンジレバーの使いかた

1. クラッチペダルを踏む。
2. **(R 以外の位置)**
   チェンジレバーを操作する。



1 ニュートラル位置
(R の位置)
チェンジレバーを下に押しながら操作する。



3. クラッチペダルを離す。
   ギア･シフト･インジケーター (GSI) が表示されます。

→5-37 ページ 「ギア･シフト･インジケーター (GSI) について」

知識

坂道でエンストしたときに、車両が動き出すのを防止するためパーキングブレーキが自動でかかることがあります。

エンスト時、エンジンが完全停止した後 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。

・運転席のドアが開いているとき
・運転席のシートベルトが装着されていないとき
・エンスト後にクラッチペダルを完全に離していないとき
・エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

セレクトレバー

セレクトレバー使用上の警告･注意

⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。ブレーキペダルをしっかりと踏み、車が完全に止まった状態でセレクトレバー操作を行なってください。

停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。
意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後、アクセルペダルを踏み込む前にセレクトレバーの位置をシフトインジケーターで確認してください。

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進したりしない。
エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。車両を動かしたい方向に応じて、適切にセレクトレバーの位置を切り替えてください。

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、エンジンをかけたままにしない。
パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーを P に入れただけで駐車していると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めてください。

⚠ 注意

後退時は体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。

走行中にセレクトレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、トランスミッションの故障につながります。

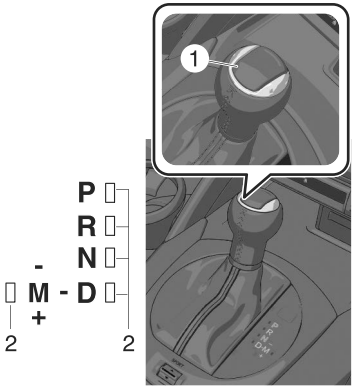
セレクトレバーを P に入れるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーを P に入れると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にして、アクセルを踏みながら停車したりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

セレクトレバーの使いかた

セレクトレバーを操作する

1. エンジンを始動する。
2. セレクトレバーを操作する。
   メーターに表示されるシフトポジションと同じ位置のシフトインジケーターが点灯します。



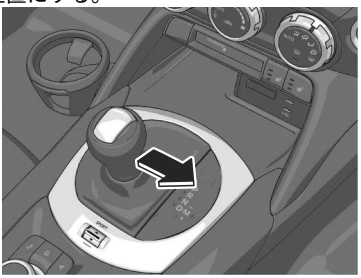
1 セレクトレバーボタン
2 シフトインジケーター
メーターにシフトポジションが表示されます。



セレクトレバーの操作	操作条件
P の位置から R の位置にする。	ブレーキペダルを踏んだ状態で、セレクトレバーボタンを押して操作する。
R の位置から N の位置にする。	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作する。
N の位置から D の位置にする。	
D の位置から M の位置にする。	
M の位置から D の位置にする。	
D の位置から N の位置にする。	
N の位置から R の位置にする。	セレクトレバーボタンを押して操作する。
R の位置から P の位置にする。	

マニュアルモードを使用する

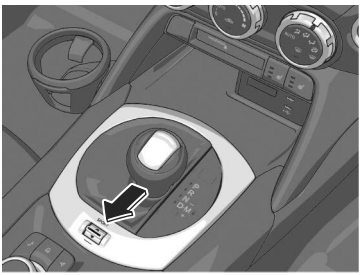
セレクトレバーを D から M の位置にする。



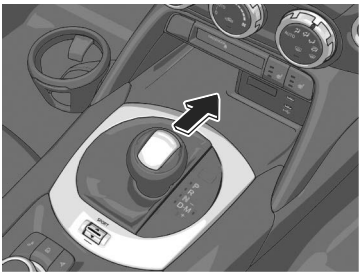
マニュアルモードになり、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
メーターにマニュアルモード表示とギヤ位置が表示されます。



シフトアップする



シフトダウンする

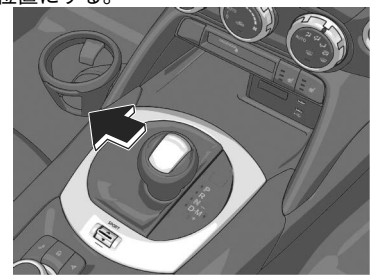


知識

マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンしますが、トラクションコントロールシステム (TCS) を OFF にしているときは、キックダウンしません。ただし、エンジン回転が高い状態で連続走行したときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。

マニュアルモードを解除する

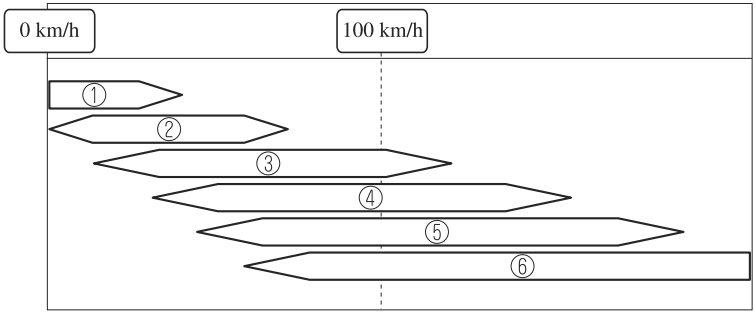
セレクトレバーを M から D の位置にする。



マニュアルモードが解除されます。

シフトチェンジ (変速) 制限速度

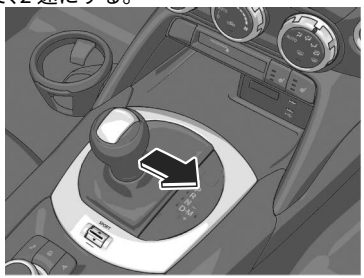
制限速度範囲内のときにセレクトレバーを操作すると変速します。



速度によりシフトダウンできないときは、メーターに表示されるギヤ位置が 2 回点滅します。

2 速固定モードを使用する

セレクトレバーを D から M の位置にする。
車速を 10 km/h 以下にする。
セレクトレバーを+側に操作して、2 速にする。



2 速固定モードになります。

知識

2 速固定モードを使用しているときは、2 速のまま停車します。

2 速固定モードを解除する

セレクトレバーを操作して 2 速以外にする。
2 速固定モードが解除されます。

ステアリングシフトスイッチ

ステアリングシフトスイッチ使用上の警告･注意

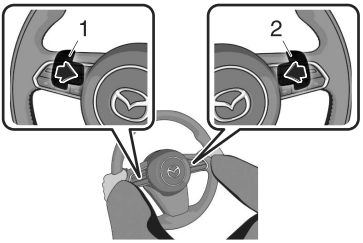
⚠ 警告

急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避ける。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときに急激なエンジンブレーキ (シフトダウン) をすると、タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ステアリングシフトスイッチの使いかた

ダイレクトモードを使用する

セレクトレバーが D の位置のときに、ステアリングシフトスイッチのアップスイッチ (+/OFF) またはダウンスイッチ (−) を手前に引く。

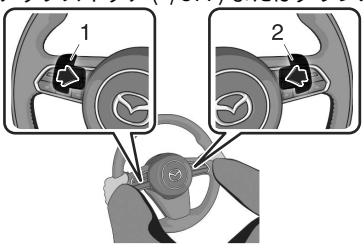


1 ダウンスイッチ (−)
2 アップスイッチ (+/OFF)
ダイレクトモードになり、一時的にギヤ位置を手動で切り替えることができます。
メーターにダイレクトモード表示とギヤ位置が表示されます。



シフトアップ/シフトダウンする

ステアリングシフトスイッチのアップスイッチ (+/OFF) またはダウンスイッチ (−) を手前に引く。



1 ダウンスイッチ (−)
2 アップスイッチ (+/OFF)
シフトアップ/シフトダウンします。

知識

停車中は、ダウンスイッチ (−) を手前に引いてもダイレクトモードにできません。

ダイレクトモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンしますが、トラクションコントロールシステム (TCS)、ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) を OFF にしているときは、キックダウンしません。ただし、エンジン回転が高い状態で連続走行したときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。

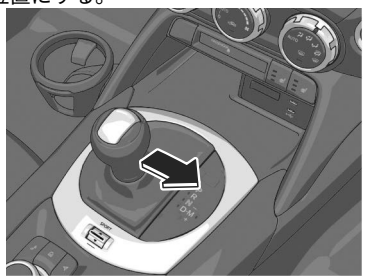
ダイレクトモードを解除する

次の操作を行なうと、ダイレクトモードを解除できます。

・アップスイッチ (+/OFF) を一定時間以上手前に引く。
・一定時間以上走行する (操作時の走行状態により時間は異なります)。
・停車する。
・低速で走行する。

マニュアルモードを使用する

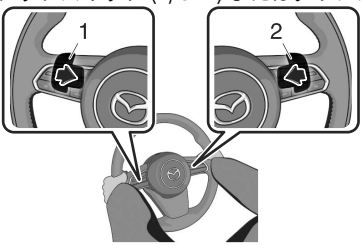
セレクトレバーを D から M の位置にする。



マニュアルモードになり、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
メーターにダイレクトモード表示とギヤ位置が表示されます。

シフトアップ/シフトダウンする

ステアリングシフトスイッチのアップスイッチ (+/OFF) またはダウンスイッチ (−) を手前に引く。



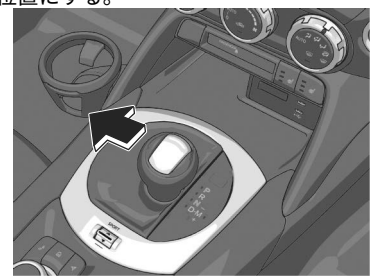
1 ダウンスイッチ (−)
2 アップスイッチ (+/OFF)
シフトアップ/シフトダウンします。

知識

マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンしますが、TCS、DSC を OFF にしているときは、キックダウンしません。ただし、エンジン回転が高い状態で連続走行したときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。

マニュアルモードを解除する

セレクトレバーを M から D の位置にする。



マニュアルモードが解除されます。

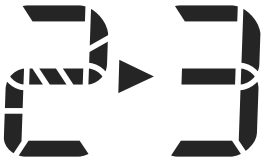
シフトチェンジ (変速) 制限速度

→5-30 ページ 「セレクトレバーの使いかた」

ギア･シフト･インジケーター (GSI)

ギア･シフト･インジケーター (GSI) について(マニュアル車)

GSI は､燃費のよい快適な走行をサポートします。メーターに現在のギヤ位置と走行状態に適した推奨ギヤ位置を表示します。



知識

次の状態のときは､GSI は表示しません。

・停車しているとき
・チェンジレバーがニュートラルまたは R の位置のとき
・車両を発進させるとき
・2 秒以上クラッチペダルを踏み続けたとき

ギア･シフト･インジケーター (GSI) 使用上の警告･注意

注意

GSI を過信しないでください。実際の走行状況では､表示と異なるシフト操作が必要な場合があります。変速する前に道路や周囲の状況を正確に判断してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキ使用上の警告･注意

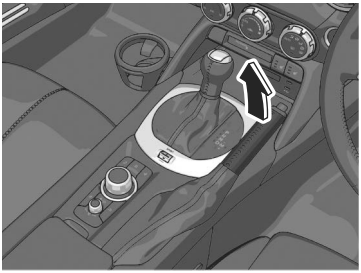
警告

パーキングブレーキをかけたまま走行しない。ブレーキ部品が早く摩耗したり､ブレーキが過熱するためブレーキの効きが悪くなり､思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングブレーキの使いかた

パーキングブレーキをかける

1. ブレーキペダルを踏む。
2. パーキングブレーキがかかります。

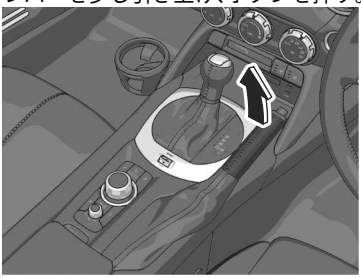


知識

寒冷時にパーキングブレーキをかけると凍結によりパーキングブレーキを解除できなるなるおそれがあります。パーキングブレーキをかけずに、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R の位置に、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にしてタイヤに輪止めをしてください。

パーキングブレーキを解除する

1. ブレーキペダルを踏む。
2. レバーを少し引き上げ、ボタンを押す。



3. ボタンを押したままレバーを下げる。



パーキングブレーキが解除されます。

ブレーキ･オーバーライド･システム

ブレーキ･オーバーライド･システムについて

ブレーキ･オーバーライド･システムは、ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏み込んだときに、安全のためにブレーキを優先するシステムです。ブレーキ･オーバーライド･システムが作動するとメーター内のブレーキ･オーバーライド警告灯 が点灯します。

ブレーキ･オーバーライド･システム使用上の警告･注意

⚠ 注意

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください。ブレーキオーバーライドシステムが正しく作動しない場合があります。

ブレーキ･オーバーライド･システムの便利な使いかた

ブレーキ･オーバーライド･システムの警告を作動しないように変更できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA)

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について

HLA は、坂道などでブレーキペダルから足を離したときに、車両の後退または前進を防止する装置です。

知識

緩勾配の坂道や積載状態によって HLA が作動しないことがあります。

パーキングブレーキがかかっているときや、車両が完全に停車していないときは HLA は作動しません。

TCS/DSC 作動表示灯 が点灯しているときは、HLA が作動しないことがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS)/ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) を解除しても HLA は解除されません。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

HLA を過信しない。
HLA は、あくまで発進するときの補助機能です。HLA が作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあるため危険です。発進時は周囲の安全を確認してください。積載やけん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。また、マニュアル車の場合、クラッチペダルやアクセルペダルの操作方法によっては車両が後退することがあります。

エマージェンシーシグナルシステム (ESS)

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について

ESS は、急ブレーキをかけると、すべての方向指示灯を高速で点滅させ、後続車に注意を促すシステムです。ESS は、急ブレーキをかけたときの車速が 55 km/h 以上のときに作動します。

知識

すべての方向指示灯が高速点滅中に停車したときは、すべての方向指示灯は通常の周期で点滅します。ブレーキペダルから足を離すと方向指示灯が消灯します。

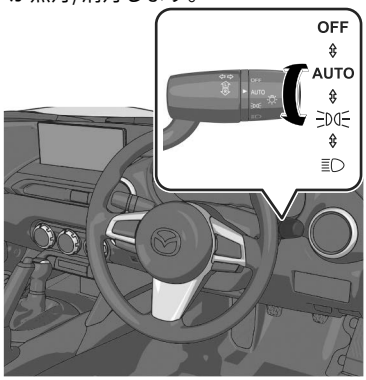
アンチロックブレーキシステム (ABS) 作動時は、ESS が作動しやすくなります。そのため、すべりやすい路面でブレーキをかけると ESS が作動することがあります。

非常点滅表示灯を使用しているときは、ESS が作動しません。

ランプスイッチ

ランプスイッチについて

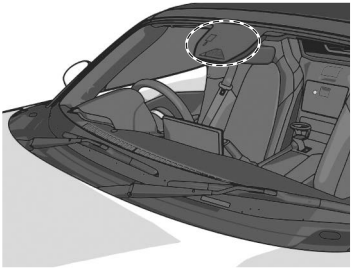
スイッチを操作すると、各ランプが点灯/消灯します。



ランプスイッチ使用上の警告･注意

⚠ 注意

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。
センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



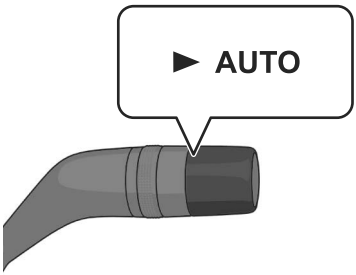
ランプスイッチの使いかた

知識

対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため､海外のような一時的な右側通行で使用するときでも､ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。

オートライトを使用する

ランプスイッチが AUTO の位置にあることを確認する。



明るいときはデイタイムランニングランプが自動で点灯し､暗くなるとヘッドランプ､車幅灯､尾灯､番号灯が自動で点灯します。

車幅灯､尾灯､番号灯が点灯すると､メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

知識

昼間でも周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。

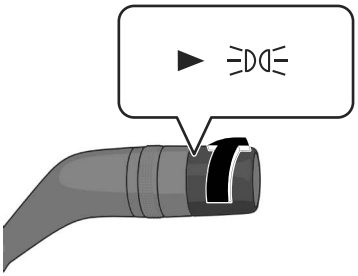
ヘッドランプを点灯させるタイミングを変更することができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

デイタイムランニングランプが点灯しないように設定できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

車幅灯、尾灯、番号灯のみを使用する

車両の電源が ON のとき

停車時にランプスイッチを  の位置にする。



車幅灯、尾灯、番号灯が点灯し、メーター内の車幅灯表示灯  が点灯します。
車両を発進させると、デイタイムランニングランプまたはヘッドランプが点灯します。

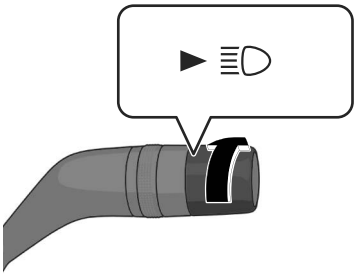
車両の電源が OFF のとき

停車時にランプスイッチを  の位置にする。
車幅灯、尾灯、番号灯が点灯し、メーター内の車幅灯表示灯  が点灯します。

知識

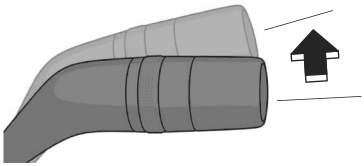
車両の電源が OFF のときに、ランプを点灯したままにしないでください。12 V バッテリーがあがるおそれがあります。

ヘッドランプを使用する



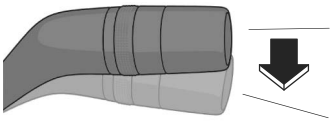
ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯し、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替える



ヘッドランプが上向き (ハイビーム) に切り替わり、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。
レバーをもとに位置にもどすと、下向き (ロービーム) に切り替わります。

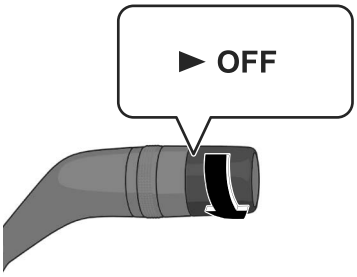
パッシングをする



レバーを操作している間、ヘッドランプが上向き (ハイビーム) が点灯し、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ランプを消灯する

停車時にランプスイッチを OFF の位置にする。
ランプスイッチは自動で AUTO の位置にもどります。



点灯しているすべてのランプが消灯し、メーター内の車幅灯表示灯が消灯します。
消灯したランプは、車両を発進させる、またはランプスイッチを OFF の位置にすると再び点灯します。

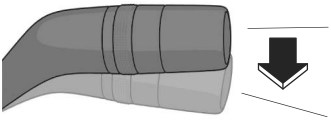
ランプスイッチの便利な使いかた

カミング･ホーム･ライト

車両の電源を OFF にした後に、しばらくの間ヘッドランプを点灯させることができます。

カミング･ホーム･ライトを使用する

1. 車両の電源を ACC または OFF にする。
2.



ヘッドランプが点灯し、次のいずれかの状態になると消灯します。

・車を降りて、すべてのドアが閉まってから一定時間が経過したとき
・ヘッドランプが点灯してから 3 分間経過したとき
・ヘッドランプが点灯してからランプスイッチを操作したとき

知識

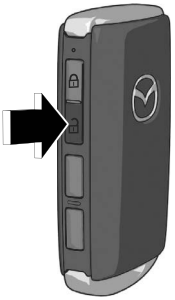
ヘッドランプが消灯するまでの時間を変更することができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

リービング･ホーム･ライト

キーの操作で、離れた車のランプを点灯させることができます。

リービング･ホーム･ライトを使用する

車両の電源が OFF のときに、キーのアンロックスイッチを押す。



車両がキー操作信号を受信すると、ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
次のいずれかの状態になると消灯します。

・ランプが点灯してから 30 秒間経過したとき
・ランプスイッチを OFF の位置にしたとき
・キーのロックスイッチを押したとき



知識

リービング･ホーム･ライトが作動しないように設定できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

方向指示器

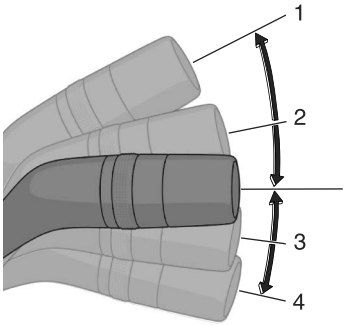
方向指示器の使いかた

レバーを操作すると、方向指示灯が点滅/消灯します。

方向指示器を使用する

左折または右折する

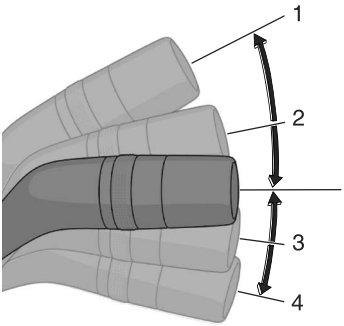
レバーを①または④の位置まで操作する。



各方向指示灯が点滅し、メーター内の方向指示灯⇦⇨が点滅します。
レバーはハンドル操作に連動してもとにもどります。もどらないときは手動でもどしてください。

車線変更をする

レバーを②または③の位置まで操作する。



レバーを②または③の位置にしている間、各方向指示灯が点滅し、メーター内の方向指示灯⇦⇨が点滅します。
レバーを②または③の位置にしてすぐに離すと、スリーフラッシュターンシグナルが作動し、方向指示灯が 3 回点滅します。

知識

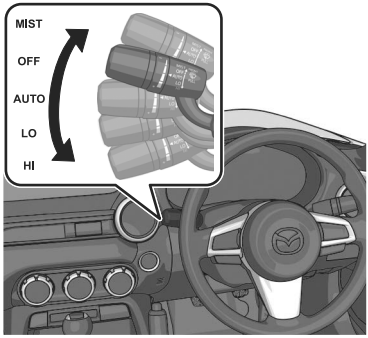
方向指示器のブザーの音量を変更することができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

スリーフラッシュターンシグナルを非作動に変更することができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

フロントワイパー/ウォッシャースイッチについて

スイッチやレバーを操作すると、フロントワイパー/ウォッシャーが作動します。



フロントワイパー/ウォッシャースイッチ使用上の警告･注意

⚠ 警告

寒冷地では不凍液が入ったウォッシャー液を使用する。また寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは､ガラスを温めてから行なう。
寒冷時に不凍液が含まれないウォッシャー液を使用した場合､フロントガラス上で凍結し､視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に､デフロスターを使用してフロントガラスが十分に温まっていることを確認してください。

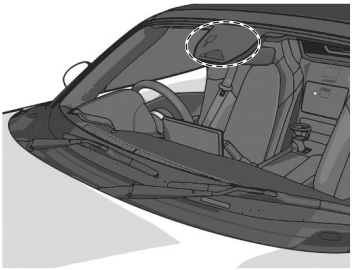
⚠ 注意

凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは､ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いた状態で作動させると､ワイパーゴムの損傷､ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。

ガラスが乾いている状態でワイパーを作動させると､ガラスに傷がついたり､ワイパーゴムを損傷したりするおそれがあります。ガラスが乾いているときは､ウォッシャー液を噴射してください。

ウォッシャー液が十分に出ないときは､ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ない状態で､ウォッシャースイッチを操作し続けると､ポンプの故障につながるおそれがあります。

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが雨量を感知できなくなります。



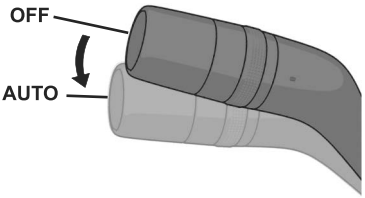
車両の電源が ON で､ワイパーレバーが AUTO の位置のとき､次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。

- フロントガラスのレインセンサー上部に触れたり､布などでふいたとき。
- フロントガラスや車内のレインセンサー部に衝撃が加わったとき。

ワイパーレバーが AUTO の位置のとき､フロントガラスやワイパーを触らないでください。ワイパーが自動で作動し､指を挟んだり､ワイパーが損傷するおそれがあります。車両の電源が ON で氷や雪を除去する､またはフロントガラスを清掃するときは､ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。

フロントワイパー/ウォッシャースイッチの使いかた

オートワイパーを使用する



雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。

知識

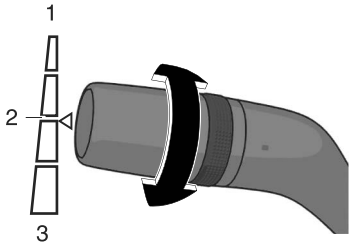
純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。

フロントガラスのレインセンサー上部に泥や氷などが付着しているときに、ワイパーが数回作動しても泥や氷などを取り除けない場合、オートワイパーは作動を停止します。オートワイパーが停止した場合は、フロントガラスの泥や氷などを取り除いてください。

レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線などの影響により、オートワイパーが作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを OFF の位置にして走行することをおすすめします。

オートワイパーの感度を変更する

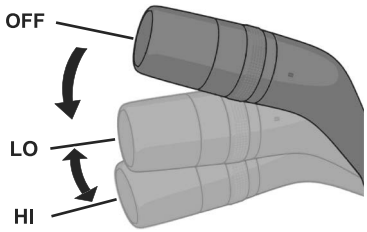
スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。



1 雨に反応しやすい
2 普通
3 雨に反応しにくい

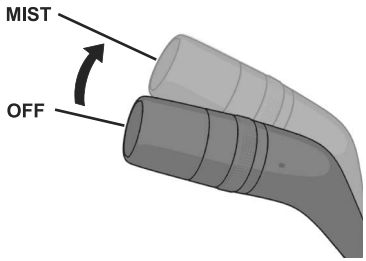
フロントワイパーを使用する

連続で使用する



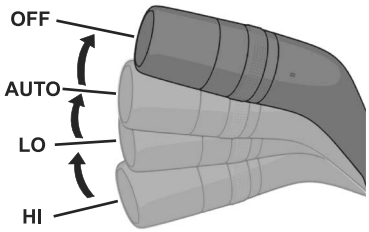
LO の位置にするとワイパーが低速で作動し、HI の位置にすると高速で作動します。

一時的に使用する



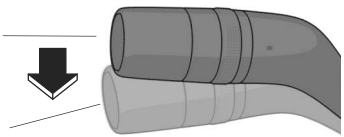
レバーを MIST の位置にしている間、ワイパーが作動します。
レバーを MIST の位置にしてすぐに離すと、ワイパーが一度だけ作動します。

フロントワイパーを停止する



ワイパーが停止します。

フロントウォッシャーを使用する



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチについて

リアウインドーを熱線で温め、曇りを取ります。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ使用上の警告･注意

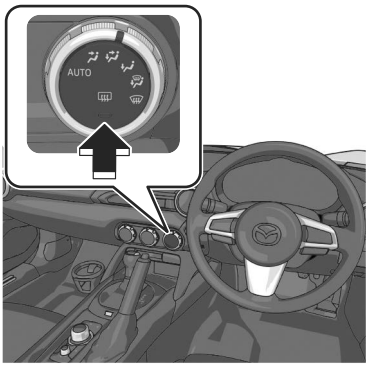
⚠ 注意

リアウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。
→9-26 ページ「外装をお手入れする」

リアウインドーデフォッガーは、エンジン作動中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。12 V バッテリーがあがるおそれがあります。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) を使用する

1. エンジンを始動する。
2. 

3. リアウインドーデフォッガー (曇り取り) が作動し、スイッチの表示灯が点灯します。
   リアウインドーデフォッガー (曇り取り) は約 15 分間作動すると自動で停止します。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) を停止する

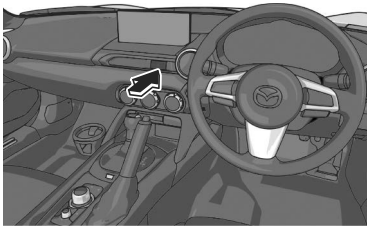
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) 作動中に、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押す。
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) が停止し、スイッチの表示灯が消灯します。

非常点滅表示灯

非常点滅表示灯について

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。

非常点滅表示灯の使いかた

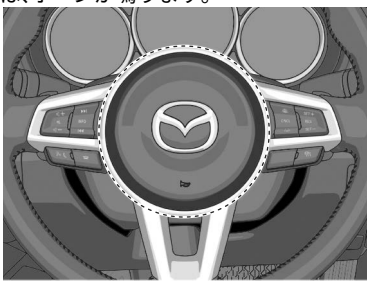


すべての方向指示灯が点滅し、メーター内の方向指示灯が点滅します。
もう一度スイッチを押すと消灯します。

ホーン

ホーンの使いかた

ハンドル中央部を押している間は、ホーンが鳴ります。



アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステム (ABS) について

ABS は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保するシステムです。

知識

ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。

ABS は低速 (10 km/h 以下) では作動しません。

アンチロックブレーキシステム (ABS) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

ABS を過信せず安全運転に心がける。
ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また､次のようなときには､速度をひかえめにし､車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため､思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャリ道､新雪道を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

⚠ 注意

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると､ABS が正常に作動しないことがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS)

トラクションコントロールシステム (TCS) について

TCS は､水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ､適切な駆動力と操縦性を確保するシステムです。

トラクションコントロールシステム (TCS) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

TCS を過信せず安全運転に心がける。
TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり､無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS) の使いかた

TCS を作動可能な状態にする

車両の電源を ON にすると､TCS が作動可能な状態になります。

TCS が作動すると TCS/DSC 作動表示灯 が点滅します。

TCS を作動可能な状態にする

DSC OFF スイッチを操作して､TCS の作動を停止できます。
→5-53 ページ「ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) の使いかた」

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC)

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について

DSC は､すべりやすい路面での走行時や､緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりを抑えるため､ABS や TCS などにより､ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して､車両の安定性を確保するシステムです。
「アンチロックブレーキシステム (ABS) について」､「トラクションコントロールシステム (TCS) について」､「キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) について」もあわせてお読みください。
→5-51 ページ「アンチロックブレーキシステム (ABS) について」
→5-52 ページ「トラクションコントロールシステム (TCS) について」
→5-57 ページ「キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) について」

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

DSC を過信せず安全運転に心がける。
DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため､無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。特に TCS/DSC 作動表示灯 が点滅しているときは､車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

⚠ 注意

DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- タイヤは指定されたサイズを使用し､4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは､DSC が正常に作動しないことがあります。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) の使いかた

DSC を作動可能な状態にする

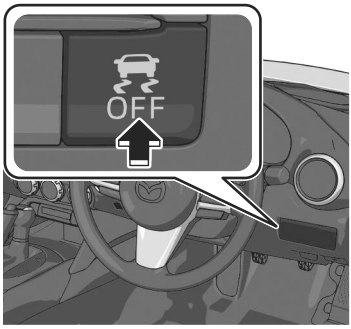
車速が 20 km/h 以上で走行する。
DSC が作動可能な状態になります。

DSC が作動すると TCS/DSC 作動表示灯 が点滅します。

トラクションコントロールシステム (TCS)/DSC/キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC)の作動を停止する

1. 車両の電源を ON にする。

2. 停車中に音が鳴るまで DSC OFF スイッチを押し続ける。



もう一度､DSC OFF スイッチを押すと､TCS/DSC/KPC が作動可能な状態になります。

TCS/DSC/KPC の作動状態

スイッチの操作	表示灯	TCS の作動状態	DSC の作動状態	KPC の作動状態
音が鳴るまで DSC OFF スイッチを押し続ける。	DSC OFF 表示灯 OFF点灯	車速 6Km/h 以下で作動	非作動	非作動
音が鳴るまで DSC TRACK スイッチを押し続ける。	DSC OFF 表示灯 OFF点灯 DSC TRACK 表示灯点灯	作動頻度が抑えられる	作動頻度が抑えられる	作動

知識

TCS/DSC/KPC の作動を停止した状態でエンジンを停止した場合､次にエンジンを始動すると TCS/DSC/KPC が作動可能な状態にもどります。

ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS/DSC/KPC が作動し､アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず､脱出困難なときに TCS/DSC/KPC の作動を停止します。

TCS/DSC/KPC の作動を停止しているときに､次のシステムが作動すると､TCS/DSC/KPC が作動可能な状態になります。

・スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
・クルーズコントロール

DSC OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると､その後 DSC OFF スイッチを押しても TCS/DSC/KPC の作動を停止することができなくなります。その場合､一度車両の電源を OFF にして､再度車両の電源を ON にすると､通常の DSC OFF スイッチの操作が可能になります。

DSC-TRACK

DSC-TRACK について

DSC-TRACK は、サーキットなどでスポーツ走行をするときにトラクションコントロールシステム (TCS)、ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) の作動頻度を抑え、通常の DSC よりも車両の横すべりを許容するシステムです。車両の横すべりが大きくなったときは、ハンドル操作に応じてブレーキやエンジンの出力を制御して車両の安定性を確保します。

DSC-TRACK 使用上の警告・注意

⚠ 警告

DSC-TRACK を過信せず安全運転に心がける。
DSC-TRACK が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

特に TCS/DSC 作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。
慎重に運転してください。
DSC-TRACK を公道で使用しない。
DSC-TRACK を作動させると DSC の作動頻度が低下するため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

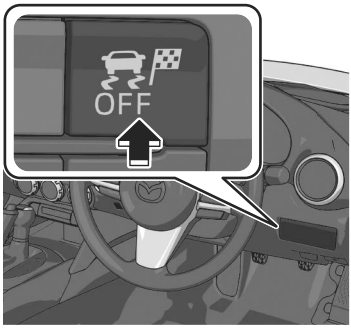
DSC-TRACK を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSC-TRACK が正常に作動しないことがあります。

DSC-TRACK の使いかた

停車中に音が鳴るまで DSC-TRACK スイッチを押し続ける。



DSC-TRACK が作動し、メーター内の DSC-TRACK 表示灯と DSC OFF 表示灯が点灯します。
もう一度、DSC-TRACK スイッチを押すと、DSC-TRACK の作動が停止します。

知識

DSC-TRACK を作動させた状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると DSC-TRACK の作動が停止します。

DSC-TRACK スイッチを 10 秒以上押し続けると、その後 DSC-TRACK スイッチまたは DSC OFF スイッチを押しても TCS/DSC の作動を停止することができなくなります。
その場合、一度車両の電源を OFF にして、再度車両の電源を ON にすると、通常の DSC-TRACK スイッチ、DSC OFF スイッチの操作が可能になります。

スピードリミッターの解除 (MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER)

スピードリミッターの解除について

サーキットでのスポーツ走行の際に、スピードリミッターの作動を解除できます。このとき、ブレーキ・オーバーライド・システムも同時に解除され、ブレーキ時のアクセル操作が可能となります。

スピードリミッターを解除するうえでの警告・注意

警告

サーキット以外ではスピードリミッターを解除しない。
スピードリミッターを解除すると高速走行が可能となるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
サーキット走行後は必ず、車両の電源を OFF にしてスピードリミッターを復帰してください。

スピードリミッターの解除のしかた

スピードリミッターを解除する条件

次の条件をすべて満たしている場合に、スピードリミッターを解除できます。

・チェンジレバーが N の位置のとき
・車速が 0 km/h のとき
・車両の電源を ON (エンジン停止状態) にして 30 秒以内のとき

スピードリミッターを解除する

1. パーキングブレーキをかける。
2. アクセルペダルを離した状態で、ブレーキペダルを 10 秒間踏み込む。
3. ブレーキペダルを踏み込んだまま、アクセルペダルをいちばん奥まで踏み込んで離す動作を 3 回繰り返す。
4. ブレーキペダルを離す。
5. メーターに、ブレーキ･オーバーライド･システムが無効になった旨のメッセージが表示されます。

知識

INFO スイッチを押すと、メーターのメッセージ表示を消すことができます。

スピードリミッターを復帰する

車両の電源を OFF にすると、次に車両の電源を ON にしたときにスピードリミッターが復帰します。

キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC)

キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) について

KPC は、急なカーブなどでブレーキを制御して車両の姿勢を安定させるシステムです。

キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) 使用上の警告･注意

警告

KPC を過信せず安全運転に心がける。
KPC が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

キネマティック･ポスチャー･コントロール (KPC) の使いかた

KPC を作動可能な状態にする

車速が 20 km/h 以上で走行する。KPC が作動可能な状態になります。

知識

KPC の作動状態を知らせする機能はありません。

KPC の作動を停止する

DSC OFF スイッチを操作して､KPC の作動を停止できます。
→5-53 ページ「ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) の使いかた」

ドライブセレクション

ドライブセレクションについて (オートマチック車)

ドライブセレクションは､車両の走行モードを SPORT モードに切り替えることができるシステムです。SPORT モードを選択すると､アクセルペダルを踏み込んだときの車両応答性を高め､力強く加速します。

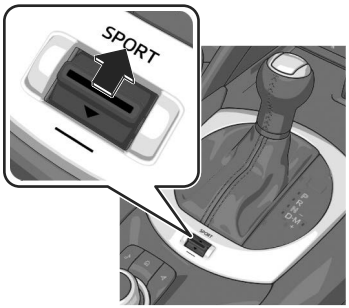
ドライブセレクション使用上の警告･注意

注意

ぬれた路面や積雪路などすべりやすい路面を走行しているときは､SPORT モードの使用を避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

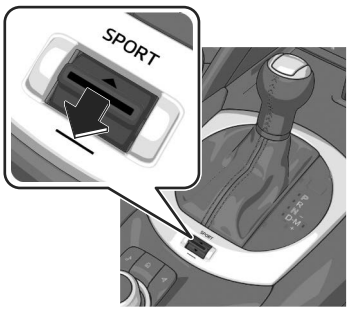
ドライブセレクションの使いかた

1.



2. SPORT モードが選択され､メーター内のセレクトモード表示灯SPORTが点灯します。

3.



4. SPORT モードが解除され、メーター内のセレクトモード表示灯SPORTが消灯します。

知識

SPORT モードを選択すると、アクセルペダルを踏み込んだときの車両応答性が高められます。

SPORT モードを選択すると、高いエンジン回転数での走行が多くなり、燃費が悪化することがあります。通常時は SPORT モードを解除して走行することをおすすめします。

次のときは、SPORT モードに切り替えることができません。SPORT モードに切り替えることができないときは、セレクトモード表示灯SPORTが点滅します。

・アンチロックブレーキシステム (ABS)が作動しているとき
・トラクションコントロールシステム(TCS) が作動しているとき
・ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) が作動しているとき
・急激なハンドル操作を行っているとき
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を使用しているとき

次のときは、SPORT モードが解除されます。

・車両の電源を OFF にしたとき
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を設定したとき

パワーステアリング

パワーステアリングについて

パワーステアリングはエンジン作動中に作動します。エンジンが停止している場合やパワーステアリングシステムが動作しない場合でも、ステアリング操舵は可能ですが、通常より重たくなります。

給油

給油時の警告･注意

⚠ 警告

給油するときは必ず次のことを守る。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため､火災や爆発のおそれがあります。

- エンジンを止める。
- タバコなどの火気を給油口に近づけない。
- こぼれた燃料はすみやかにふき取る。

給油を行なう前に､車体の金属部分に触れて体の静電気を除去する。
放電による火花で､燃料に引火したり､やけどしたりするおそれがあります。

給油中は必ず次のことを守る。
再帯電により､燃料に引火したり､やけどしたりするおそれがあります。

- 給油はひとりで行ない､給油口に他の人を近づけない。
- 車内にもどったり､帯電している人や物に触れたりしない。
- 携帯電話やスマートフォン､その他電子機器などを使用しない。

フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なう。
放電による火花で､燃料に引火したり､やけどしたりするおそれがあります。

フューエルキャップを開けるときは､ゆっくりとゆるめ､空気の抜ける音が止まってから開ける。
急に開けると燃料が噴き出すことがあるため､火災につながったり､目や皮膚に付着したりして､傷害につながるおそれがあります。

気化した燃料を吸い込まないようにする。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。
給油ノズルの挿入が浅いと給油の自動停止が遅れるため､燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

給油の自動停止後は､追加給油しない。
追加給油をすると､燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

給油の自動停止後は､すぐに給油ノズルを引き抜かない。
給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出て､火災につながるおそれがあります。

フューエルキャップは確実に閉める。
フューエルキャップが確実に閉まっていないと､走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

給油するときは、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

給油するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。

給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。

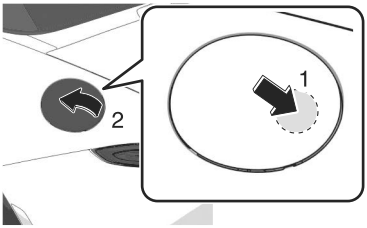
純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。

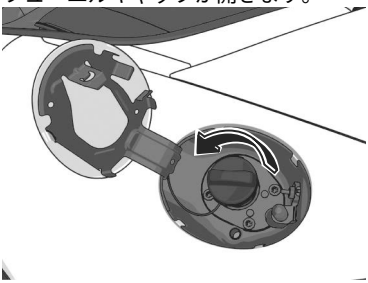
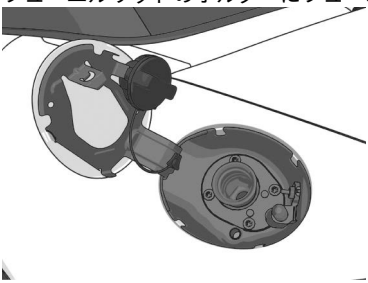
自動洗車機や高圧洗車機を使うときは、フューエルリッドが閉まっていることを確認してドアを施錠してください。フューエルリッドが意図せず開いて損傷するおそれがあります。

指定燃料以外の燃料を使用したり、純正以外の燃料添加剤を使用したりしないでください。
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、たとえば次のような悪影響をおよぼします。

- エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)
- エンジンの出力低下や始動性能の悪化

給油のしかた

1. すべてのドア、窓ガラス、トランクリッドを閉める。
2. 車両の電源を OFF にする。
3. 次のいずれかの方法で運転席ドアを解錠する。
   ・キーのアンロックボタン
   ・リクエストスイッチ
   ・運転席ドアのドアロックノブ
4. 

5. フューエルキャップをゆっくりまわす。
   フューエルキャップが開きます。

6. フューエルリッドのホルダーにフューエルキャップをかける。

7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
8. フューエルキャップをカチッと音がするまでまわす。
9. フューエルリッドを閉める。

知識

ドアを施錠した後にフューエルリッドを閉めると、フューエルリッドは施錠されません。

次の機能によってドアが施錠された場合は、ドアの施錠と同時にフューエルリッドも施錠されます。

・オートリロック機能

無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、エンジンの性能を十分発揮できないことがあります。
また、エンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだときに、異音が聞こえることがあります。

i-ACTIVSENSE

i-ACTIVSENSE について

i-ACTIVSENSE (アイ・アクティブセンス) とは、マツダの先進安全・運転支援システムの総称です。
i-ACTIVSENSE は、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術の 2 つの技術で構成されています。

i-ACTIVSENSE 使用上の警告・注意

⚠ 警告

i-ACTIVSENSE を過信しない。
i-ACTIVSENSE は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷および事故被害の軽減を目的としています。
i-ACTIVSENSE の各機能には限界がありますので、安全運転を心がけてください。

アクティブセーフティ技術について

アクティブセーフティ技術とは、運転者の安全運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。
アクティブセーフティ技術には、認知支援システムと運転支援システムがあります。

認知支援システム

認知支援システムは、道路、標識、車両の周囲、運転者の疲労などの認知を支援するシステムです。
認知支援システムには、次のシステムがあります。

夜間視界

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)..... 5-75 ページ
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)..... 5-76 ページ

左右側面・後側方認知

車線逸脱警報システム..... 5-80 ページ
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)..... 5-82 ページ

標識認知

交通標識認識システム (TSR)..... 5-87 ページ

車間認知

ディスタンス & スピード・アラート (DSA)..... 5-90 ページ

駐車場発進時後方認知

後側方接近車両検知 (RCTA)..... 5-93 ページ

運転者疲労検知

ドライバー・アテンション・アラート (DAA)..... 5-91 ページ

運転支援システム

運転支援システムは、走行中の加減速やハンドル操作を支援するシステムです。
運転支援システムには、次のシステムがあります。

車間距離

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)..... 5-94 ページ

プリクラッシュセーフティ技術について

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故を避けづらい状況での衝突回避支援、および避けられず衝突した際の被害軽減を図る技術です。
プリクラッシュセーフティ技術には、次のシステムがあります。

衝突回避支援・被害軽減

スマート・ブレーキ・サポート (SBS)..... 5-103 ページ
AT 誤発進抑制制御..... 5-108 ページ

衝突被害軽減

衝突二次被害軽減システム..... 5-112 ページ

警報・リスク回避支援表示について

警報・リスク回避支援表示は、次のシステムの作動状態を示します。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) の降車時警告機能付
・交通標識認識システム (TSR)
・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前方検知機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後方検知機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後進時左右接近物検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]
・AT 誤発進抑制制御 [後退時]

警報・リスク回避支援表示 (白)  (システム待機状態)

すべてのシステムが作動条件を満たしていない、またはいずれかのシステムが機能を停止している場合は、警報・リスク回避支援表示 (白)  *1/  が表示されます。

警報･リスク回避支援表示 (緑) / (システム作動状態)

いずれかのシステムが作動条件を満たしている場合は､警報･リスク回避支援表示 (緑) *1/ が表示されます。

知識

警報･リスク回避支援表示 (緑) が表示されていても､作動条件を満たしていないシステムは作動しません。

警報･リスク回避支援表示 (橙) / (システム故障状態)

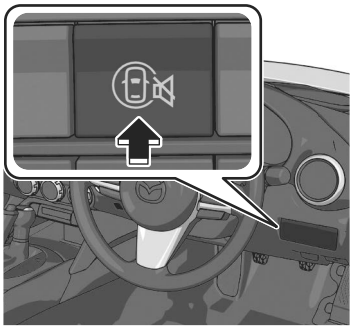
いずれかのシステムが故障している場合は､警報･リスク回避支援表示 (橙) *1/ が表示されます。

警報･リスク回避支援 OFF 表示 / (システム停止状態)

マツダコネクトですべてのシステムを OFF にしている場合は､警報･リスク回避支援 OFF 表示 *1/ が表示されます。

*1 i-ACTIVSENSE の警報音を OFF にしている場合に表示されます。
→5-65 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」

i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた



i-ACTIVSENSE ミュートスイッチを押すと､次のシステムが作動した際の警報音がなくなります。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の降車時警告機能付
・交通標識認識システム (TSR)
・後側方接近車両検知 (RCTA)

もう一度 i-ACTIVSENSE ミュートスイッチを押すと､もとの作動状態にもどります。

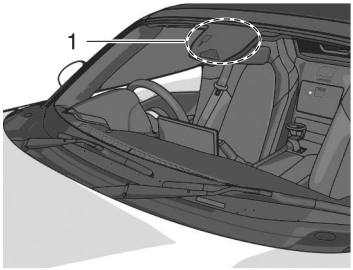
知識

i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで各システムの警報音を OFF にしたまま車両の電源を OFF にすると、次に車両の電源を ON にしたときに各システムの警報音が自動的に ON にもどります。

フォワードセンシングカメラ (FSC)

フォワードセンシングカメラ (FSC) について

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、走行時に前方の状況を判断したり、車線の白線 (黄線) などを検知したりしています。



1 フォワードセンシングカメラ (FSC)
次のシステムがフォワードセンシングカメラ (FSC) を利用します。

・ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
・アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)
・車線逸脱警報システム
・交通標識認識システム (TSR)
・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前進時検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]

注意

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。万一、衝撃が加わった場合は、次のシステムの使用を中止してマツダ販売店にご相談ください。
  - ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
  - アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)
  - 車線逸脱警報システム
  - 交通標識認識システム (TSR)
  - ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
  - ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
  - スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前進時検知機能

⚠ 注意

- AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- フォワードセンシングカメラ (FSC) のカバーをはずさないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。また、分解などもしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) の向きは厳密に調整されていますので、フォワードセンシングカメラ (FSC) の取り付け位置を変更したり、取りはずしたりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- カメラのレンズの手入れは、マツダ販売店にご相談ください。
- インストルメントパネルの上に、光を反射するものを置かないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに、アクセサリー、ステッカー、フィルムなどを貼らないでください。フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズの前方にさまたげとなるものがあると、それが透明であっても誤作動の原因となります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常にきれいな状態にしてください。フロントガラスが曇った場合は、曇り取りスイッチを押してください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、フロントガラスの汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋、氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。
- フロントガラスの手入れをする場合は、ガラスクリーナーなどがフォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズに付着しないようにしてください。また、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズには触れないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 前方のフロントガラス内側の清掃は、マツダ販売店にご相談ください。
- 飛び石などでフロントガラスに傷がついた場合は、フロントガラスを必ず交換してください。フロントガラスを交換する場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体周辺の修理をする場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- ルームミラー周辺の修理をする場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを、混ぜて使用しないでください (応急用スペアタイヤを含む)。

知識

フォワードセンシングカメラ (FSC) が逆光や霧などによって正常に機能しない場合に、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能が一時的に停止します。その際、次の警告表示を点灯させますが、故障ではありません。

・HBC 警告表示
・ALH 警告表示
・i-ACTIVSENSE 警告表示

知識

・SBS OFF 表示

フォワードセンシングカメラ (FSC) が高温によって正常に機能しない場合に、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能が一時的に停止します。その際、次の警告表示を点灯させますが、故障ではありません。エアコンを作動させるなどして、フォワードセンシングカメラ (FSC) 周辺の温度を下げてください。

・HBC 警告表示
・ALH 警告表示
・i-ACTIVSENSE 警告表示
・SBS OFF 表示

フォワードセンシングカメラ (FSC) がフロントガラスの汚れや曇りを検知した場合に、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能が一時的に停止します。その際、次の警告表示を点灯させますが、故障ではありません。フロントガラスの汚れを取り除く、または曇り取りスイッチを押してください。

・HBC 警告表示
・ALH 警告表示
・i-ACTIVSENSE 警告表示
・SBS OFF 表示

歩行者の検知について

次の条件をすべて満たしている場合に、フォワードセンシングカメラ (FSC) が歩行者を検知します。

・歩行者の身長が、約 1 m～2 m のとき
・頭部、両肩、足など、歩行者の輪郭が判別できるとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が歩行者を検知できないことがあります。

・歩行者が複数人いるとき
・歩行者が別の障害物の近くにいるとき
・歩行者がしゃがんでいる、横たわっている、前かがみになっているとき
・歩行者が急に飛び出してきたとき
・歩行者が何かを持っているとき (傘をさす、大きな荷物を持つなど)
・歩行者が背景に溶け込んでいるとき (夜間などに暗い場所にいる、背景と近い色の服を着ているなど)

物の検知について

次の条件のいずれかを満たしている場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正確に対象物を検知できず、各システムが正常に作動しないことがあります。

・前方車と同程度の速度で走行しているとき
・夜間やトンネル内などで、ヘッドランプを点灯していないとき
・対象物がフォワードセンシングカメラ (FSC) の死角にいるとき
・対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだりしたとき
・対象物との距離が極端に近いとき、または極端に遠いとき
・自車が進路変更をして対象物に接近したとき
・対象物 (前方車、白線 (黄線)、標識) に汚れや擦れがあるとき
・前方車が特殊な形状のとき (キャリアカーなど)

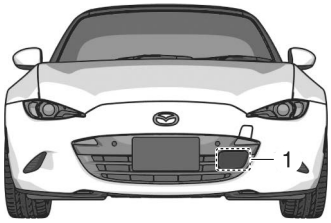
・前方車が荷台の低いトラックのとき
・前方車の車高が極端に低いとき、または極端に高いとき
・前方車がヘッドランプの照射範囲外にいるとき
・先行車のテールランプ点灯面積が小さいとき
・先行車のテールランプが暗いとき、または消灯しているとき
・対向車のヘッドランプが暗いとき、または消灯しているとき
・天候が悪いとき (雨、霧、雪など)
・前方の視界状況が悪いとき (前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど)
・前方から強い光を受けたとき (逆光、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
・周囲が暗いとき (夜間、夕方、朝方、トンネル、屋内駐車場など)
・周囲に光源があるとき (街灯、電光掲示、信号機など)
・周囲に光を反射する物があるとき (反射板、標識など)
・周囲の明るさが急に変わるとき (トンネルの出入り口など)
・自車のヘッドランプの明るさが十分でないとき (ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき、ヘッドランプの光軸がずれているときなど)
・自車のタイヤが指定サイズと異なるとき (タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など)
・自車のタイヤの偏摩耗が著しいとき
・フロントガラスに異物が付着しているとき (氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなど)
・フロントガラスが汚れたり、曇ったりしているとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近に遮へい物があり、前方が見えないとき (ルーフレールを装着して長尺物を載せたときなど)
・ウォッシャーを使用しているとき
・降雨時にワイパーを使用していないとき
・自車が傾いているとき (荷室や後席に重い荷物を載せたときなど)
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき
・カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
・凸凹な道を走行しているとき
・模様のない壁の横を走行しているとき (フェンスや縦じま模様の壁を含む)
・路面から強い光の反射があるとき

レーダーセンサー

レーダーセンサーについて

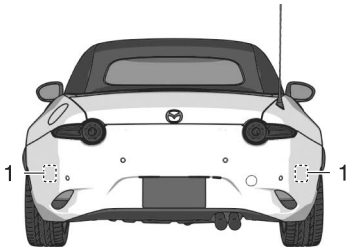
レーダーセンサーは、特定方向に電波を送信しつつ反射してもどってきた電波を受信することで対象物を検知します。

車両前方



1 フロントレーダーセンサー*

車両後方



1 リアサイドレーダーセンサー

⚠ 注意

レーダーセンサーを正しく機能させるために、次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを、混ぜて使用しないでください (応急用スペアタイヤを含む)。
- レーダーセンサーに強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。
- レーダーセンサー付近の部品に、ステッカーなどを貼り付けないでください。
- レーダーセンサー付近の部品に異物が付着した場合は、異物を取り除いて車両の電源を OFF にしてください。車両の電源を OFF にすることで、異物検知の状態がリセットされます。
- レーダーセンサー付近の部品を修理、交換、塗装する場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- レーダーセンサーの前面を覆うような部品を取り付けないでください。
- フロントレーダーセンサーのカバーを正規品以外の物に取り替えないでください。

レーダーセンサー付近の部品に強い力がかかった場合は、レーダーセンサーが故障したり、レーダーセンサーの向きがずれたりして、各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちに各システムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

レーダーセンサーは、センサーの異常や前面の汚れなどを検知して運転者に知らせる機能を備えています。対処可能なメッセージが画面に表示された場合は、メッセージに従ってください。

レーダーセンサーは、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

・本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。
・本製品の改造は禁止されています。 (適合証明番号などが無効となります。)

フロントレーダーセンサー

次のシステムがフロントレーダーセンサーを利用します。

・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)

・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)

知識

前方車が少ない道路を走行すると､フロントレーダーセンサーの汚れを示すメッセージが一時的に画面に表示されることがあります。

片側に高架が続いている道路を走行すると､フロントレーダーセンサーの機能が一時的に制限されることがあります。

12 V バッテリーが弱くなってきた場合は､フロントレーダーセンサーの検知性能が低下して各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は､フロントレーダーセンサーが前方車や障害物を正確に検知できないことがあります。

・天候が悪いとき
・前方の視界状況が悪いとき
・強力な電波を発する施設や物体などの近くを走行しているとき
・前方車の後面が電波を反射しにくいとき
・前方車の電波反射面積が小さいとき
・自車が傾いているとき
・フロントレーダーセンサー付近の部品に異物が付着しているとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は､フロントレーダーセンサーが隣接車線の車両や周辺の障害物を検知したり､前方車や障害物を検知できなかったりすることがあります。

・カーブの始まりやカーブの終わりを走行しているとき
・カーブが連続する道路を走行しているとき
・上り坂と下り坂が繰り返される道路を走行しているとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・悪路や未舗装の道路を走行しているとき
・前方車がフロントレーダーセンサーの死角にいるとき
・前方車との距離が極端に近いとき
・前方車が不安定な走行をしているとき
・割り込みなどで車両が急接近してきたとき

リアサイドレーダーセンサー

次のシステムがリアサイドレーダーセンサーを利用します。

・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の降車時警告機能付
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の後進時左右接近物検知機能

知識

背の高いコンクリート壁が続いている道路を走行すると、リアサイドレーダーセンサーの汚れを示すメッセージが一時的に表示されることがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないことがあります。

・天候が悪いとき
・急カーブや凸凹道路を走行しているとき
・隣接した車両のレーダーセンサーによって、電波干渉を受けているとき
・隣接した壁や車両によって、フロントサイドレーダーセンサーの検知範囲がさまたげられたり、レーダーが反射されたりしているとき
・自車の前方または側方から、車両などが検知範囲に突然進入してきたとき
・対象物が非常に小さいとき
・対象物が非常に低い/高いとき
・車両が旋回しながら接近してくるとき
・停止していた車両などが突然動き始めたとき
・複数の物体が同時に移動しているとき
・リアサイドレーダーセンサー付近のバンパーが変形しているとき
・リアサイドレーダーセンサー付近のバンパーに異物が付着しているとき
・リアサイドレーダーセンサー付近の温度が非常に高いとき

リアサイドレーダーセンサーは、次のような対象物を検知できないことがあります。

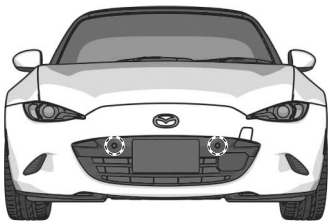
・動物
・歩行者
・低速で移動している、自転車および小型の自動二輪車
・ショッピングカート
・道路上および道路端の静止物体
・レーダーが反射しにくい形状の車両
・自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両

超音波センサー

超音波センサーについて

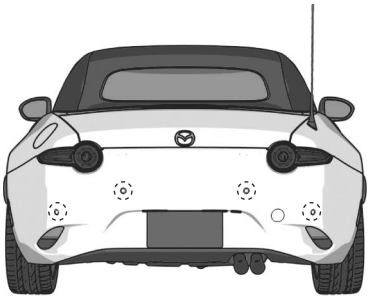
超音波センサーは、特定方向に超音波を送信しつつ反射してもどってきた超音波を受信することで対象物を検知します。

フロント超音波センサー*

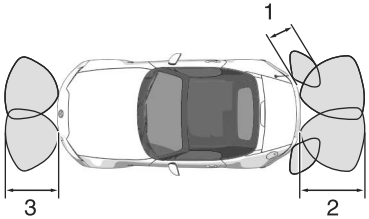


 *グレード/仕様別装備

リア超音波センサー



超音波センサーの検知範囲



1 約 50 cm
2 約 1 m 50 cm
3 約 1 m

⚠ 注意

超音波センサーを正しく機能させるために、次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- 超音波センサーに強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。
- 超音波センサーにステッカーなどを貼り付けないでください。
- バンパーを修理、交換、塗装する場合は、マツダ販売店にご相談ください。

対象物の種類や周囲の条件によっては、超音波センサーが対象物を検知できる距離が短くなったり、対象物を検知できなかったりすることがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

超音波センサー付近の部品に強い力がかかった場合は、超音波センサーが故障したり、超音波センサーの向きがずれたりして、各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちに各システムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

超音波センサーは、センサーの異常や前面の汚れなどを検知して運転者に知らせる機能を備えています。対処可能なメッセージが画面に表示された場合は、メッセージに従ってください。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、超音波センサーが対象物を検知できず (未検知、誤検知、位置が異なるなど) 各システムが正常に作動しないことがあります。

・対象物が針金、ロープ、ポールなどの細いもののとき
・対象物が綿、雪などの音波を吸収しやすいもののとき
・対象物が鋭角的な形を持つもののとき
・対象物の背が高く、上部が張り出しているとき
・対象物の背が低いとき
・対象物が複数あるとき
・対象物がセンサーに近づきすぎているとき
・センサー部に氷、雪、泥などの異物が付着したとき
・センサー部にどしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・センサー部が凍結したとき
・センサーを手でふさいだとき
・センサー付近に強い衝撃が加わったとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなど、超音波を発生するものが近づいたとき
・市販のフェンダーポールや無線機用アンテナを車に取り付けたとき
・背の高い縁石、直角の縁石、急な坂道に向かって進んだとき
・凹凸のある壁、階段に向かって進んだとき
・天井の低い場所を走行しているとき
・凹凸道、砂利道、草むら、グレーチングなどを走行しているとき
・移動する物体など進路上に障害物が飛び出してきたとき

超音波センサーは、バンパーの真下付近の対象物を検知しません。超音波センサーよりも低い位置にある対象物を一度検知しても、接近すると突然検知しなくなることがあります。

フロント超音波センサー

次のシステムがフロント超音波センサーを利用します。

・AT 誤発進抑制制御 [前進時]

リア超音波センサー

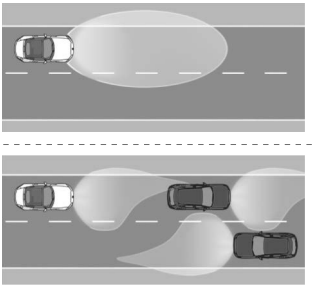
次のシステムがリア超音波センサーを利用します。

・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の後進時検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [後退時]
・パーキングセンサー

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) について*

HBC は､夜間走行時に前方の状況を判断して､ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を自動的に切り替えるシステムです。



ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 使用上の警告･注意

⚠ 注意

HBC を正常に作動させるために､次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- ヘッドランプユニットを改造しないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) を取りはずさないでください。

システムを過信せず､必要に応じて上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) の使いかた

知識

HBC が対象物を認識できる距離は､周囲の状況によって異なります。

フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できず､HBC が正常に作動しないことがあります。
→5-66 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

HBC を使用する

次の条件をすべて満たしている場合に､周囲の状況に応じて HBC が作動します。

・ランプスイッチが AUTO の位置にあるとき
・ランプレバーが中立の位置にあるとき (ヘッドランプが下向きのとき)

HBC が作動すると､メーター内の HBC 表示灯 が点灯します。

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) に切り替わるとき

次の条件をすべて満たしている場合に､HBC がヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替えます。

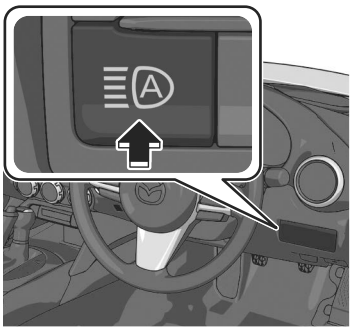
・車速が約 30 km/h 以上のとき
・システムが前方車を検知していないとき

ヘッドランプが下向き (ロービーム) に切り替わるとき

次の条件のいずれかを満たしている場合に､HBC がヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えます。

・車速が約 20 km/h 未満のとき
・街灯が並んでいるエリアや路面の明るい街中を走行しているとき
・システムが前方車のランプ類を検知したとき

作動中の HBC を停止する



HBC が停止すると､メーター内の HBC 表示灯 が消灯します。
もう一度 HBC スイッチを押すと､HBC が作動可能な状態にもどります。

知識

HBC を停止したまま車両の電源を OFF にすると､次に車両の電源を ON にしたときに HBC が自動的に ON になります。

HBC を OFF にする

マツダコネクトで HBC を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

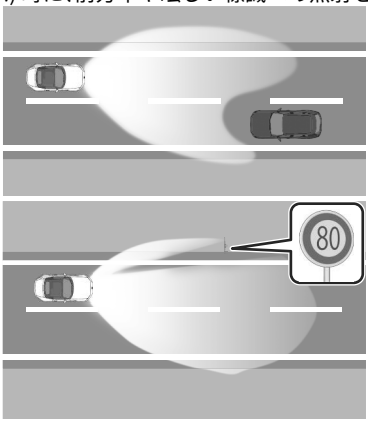
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) について*

ALH は､夜間走行時に前方の状況を判断して､ヘッドランプの照射範囲や明るさを自動的に変化させるシステムです。
ALH には､次の 4 つの機能があります。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

ヘッドランプ上向き (ハイビーム) 時に、前方車や眩しい標識への照射を減光します。

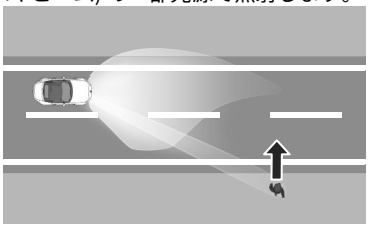


マーキングライト

自車と衝突する可能性がある歩行者をヘッドランプで強調照射します。

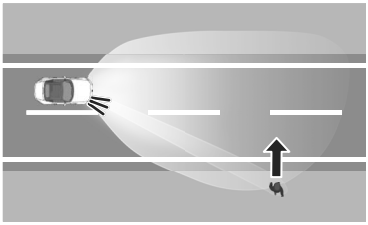
ヘッドランプが下向き (ロービーム) のとき

歩行者をヘッドランプ上向き (ハイビーム) の一部光源で照射します。



ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のとき

歩行者への照射のみ点滅させます。



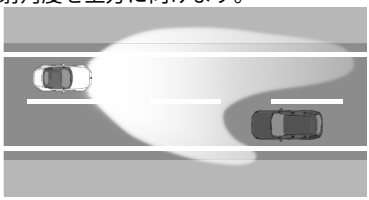
ワイド配光ロービーム

ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大します。



ハイウェイモード

高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方に向けます。



アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 使用上の警告･注意

⚠ 注意

ALH を正常に作動させるために､次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- ヘッドランプユニットを改造しないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) を取りはずさないでください。

システムを過信せず､必要に応じて上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) の使いかた

知識

フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できず､ALH が正常に作動しないことがあります。
→5-66 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

標識の位置や眩しさによっては､グレアフリー (防眩) ハイビームが正常に作動しないことがあります。

歩行者の位置や動きによっては､マーキングライトが正常に作動しないことがあります。

ALH を使用する

次の条件をすべて満たしている場合に、周囲の状況に応じて ALH が作動します。

・ランプスイッチが AUTO の位置にあるとき
・ランプレバーが中立の位置にあるとき (ヘッドランプが下向きのとき)

ALH が作動すると、メーター内の ALH 表示灯 が点灯します。

グレアフリー (防眩) ハイビームが作動するとき

対象に応じた条件をすべて満たしている場合に、グレアフリー (防眩) ハイビームが作動します。

・**(対象が前方車の場合)**
  ・車速が約 30 km/h 以上のとき
  ・システムが前方車を検知しているとき
・**(対象が標識の場合)**
  ・車速が約 60 km/h 以上のとき
  ・システムが眩しい標識を検知しているとき

マーキングライトが作動するとき

車速が約 20 km/h から約 80 km/h の場合に、システムが自車と衝突する可能性のある歩行者を検知すると、マーキングライトが作動します。

ワイド配光ロービームが作動するとき

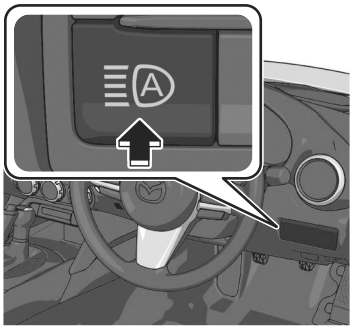
次の条件のいずれかを満たしている場合に、ワイド配光ロービームが作動します。

・車速約 40 km/h 未満で走行中のとき
・停車中に方向指示灯を点滅させたとき

ハイウェイモードが作動するとき

車速が約 95 km/h 以上のときにハイウェイモードが作動します。

作動中の ALH を停止する



ALH が停止すると、メーター内の ALH 表示灯 (緑) が消灯します。
もう一度 ALH スイッチを押すと、ALH が作動可能な状態にもどります。

知識

ALH を停止したまま車両の電源を OFF にすると､次に車両の電源を ON にしたときに ALH が自動的に ON になります。

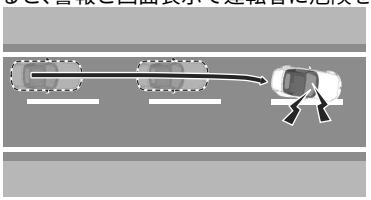
ALH を OFF にする

マツダコネクトで ALH を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

車線逸脱警報システム

車線逸脱警報システムについて

車線逸脱警報システムは､自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせるシステムです。自車が車線から逸脱する可能性があると､警報と画面表示で運転者に危険を知らせます。



車線逸脱警報システム使用上の警告･注意

⚠ 警告

車線逸脱警報システムを過信しない。

- 車線逸脱警報システムには限界があります。システムを過信せず､常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- 車線逸脱警報システムは､前方不注意を補助するものではありません。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

車線逸脱警報システムを正常に作動させるために､次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは､マツダ販売店にご相談ください。

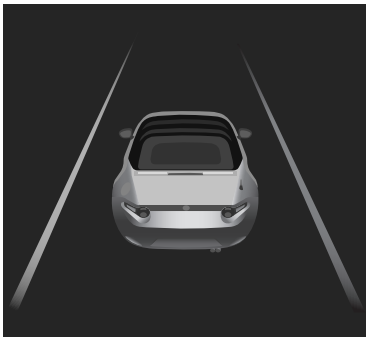
車線逸脱警報システムの使いかた

車線逸脱警報システムが作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、車線逸脱警報システムが作動します。

・車速が約 60 km/h 以上のとき
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき

車線逸脱警報システムが作動している場合は、画面表示と警報 (ハンドルの振動、警報音) で運転者に危険を知らせます。
メーター



知識

車線逸脱警報システムは、白線 (黄線) を検知している側のみ作動します。

フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できず、車線逸脱警報システムが正常に作動しないことがあります。
→5-66 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

マツダコネクトで車線逸脱警報システムの警報種類を変更できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

車線逸脱警報システムが一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、車線逸脱警報システムが一時的に解除されます。なお、車線逸脱警報システムは、作動可能な状態になると自動で復帰します。

・方向指示器を操作したとき
・アクセル操作をしたとき
・ハンドル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき

警報音を OFF にする

車線逸脱警報システム作動時の警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・マツダコネクトで警報音を OFF にする
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする
→5-65 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」

車線逸脱警報システムを OFF にする

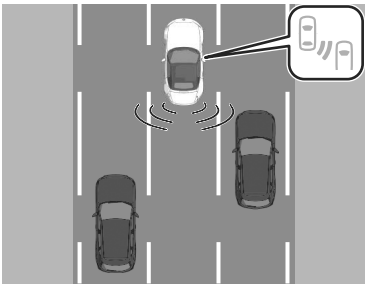
マツダコネクトで車線逸脱警報システムを OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

車線逸脱警報システムが OFF になると、車線逸脱警報システム OFF 表示 が点灯します。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) について

BSM は、車線変更時における運転者の後方確認を支援するシステムです。自車の後方から接近する車両を検知すると、各種表示と警報音で運転者に危険を知らせます。



降車時警告機能付

降車時警告機能は、降車時における運転者の後方確認を支援するシステムです。自車の後方から接近する車両や自転車を検知すると、各種表示と警報音で運転者に危険を知らせます。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
BSM は、車線変更時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので、隣接車線に車両が存在する場合でも接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れたりすることがあります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

降車時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
降車時警告機能は、降車時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので、自車周辺に車両が存在する場合でも接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れたりすることがあります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

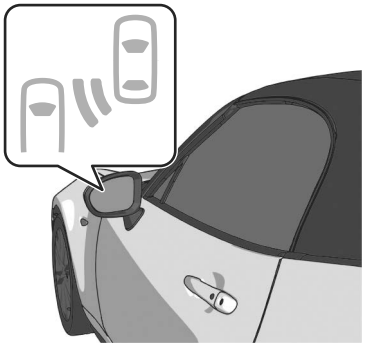
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の使いかた

BSM が作動するとき

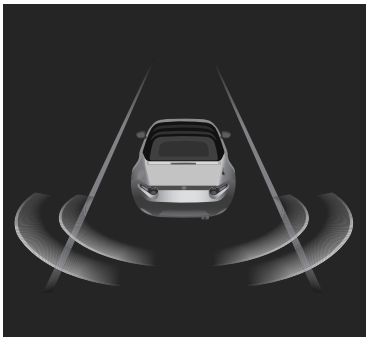
車速が約 15 km/h 以上の場合にシステムが接近車両を検知すると、BSM が作動します。

BSM が作動している場合は、接近表示灯の点灯と画面表示 (白)*1 で運転者に接近車両の存在を知らせます。

接近表示灯



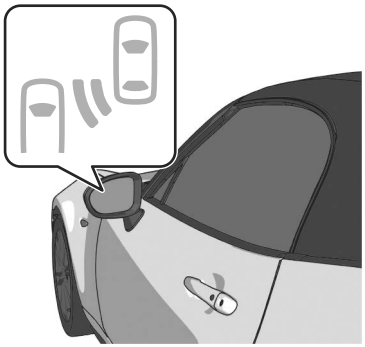
メーター



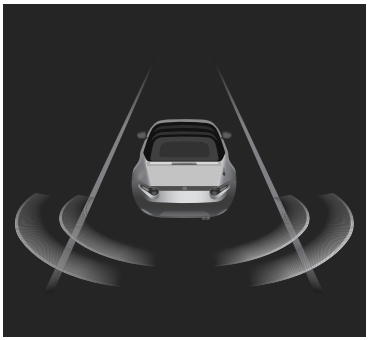
*1　メーターの画面表示 (白) は、メーターを i-ACTIVSENSE 画面に設定している場合のみに表示されます。

接近車両を検知している方向に方向指示器のレバーを操作すると、接近表示灯の点滅、警報音、警告表示 (橙) で運転者に危険を知らせます。

接近表示灯



メーター



知識

背の高いコンクリート壁が続いている道路を走行すると、BSM が一時的に制限されることがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、BSM が正常に作動しないことがあります。

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-69 ページ「レーダーセンサーについて」
・道路が急勾配のとき
・道路幅が極端に広いとき
・2 車線以上の車線変更をしているとき

道路上および道路端の停止物 (ガードレール、側壁、駐車車両、エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して、BSM が作動することがあります。

車両後部に自転車のキャリアなどを装着する場合は、BSM を OFF にしてください。レーダーの電波がさえぎられるため、BSM が正常に作動しない可能性があります。

接近表示灯の明るさは、パネルライトコントロールと連動しています。
→5-23 ページ「パネルライトコントロールの使いかた」

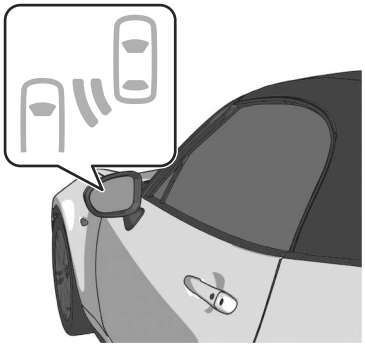
降車時警告機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合にシステムが接近車両を検知すると、降車時警告機能が作動します。

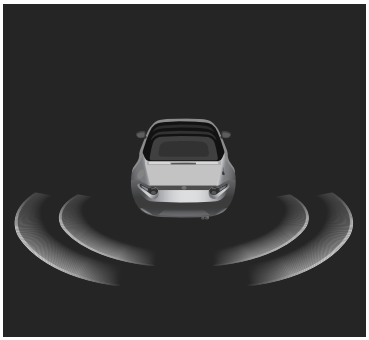
・自車が停止しているとき
・車両の電源が ON のとき、または車両の電源が OFF になってから 3 分以内のとき

降車時警告機能が作動している場合は、接近表示灯の点灯とメーターの画面表示 (白)[*1] で接近車両の存在を知らせます。

接近表示灯



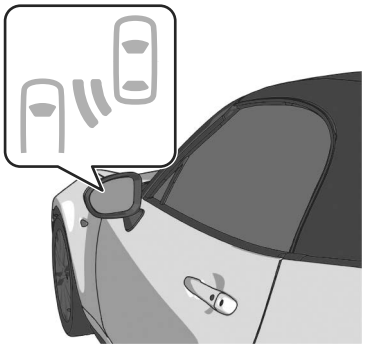
メーター



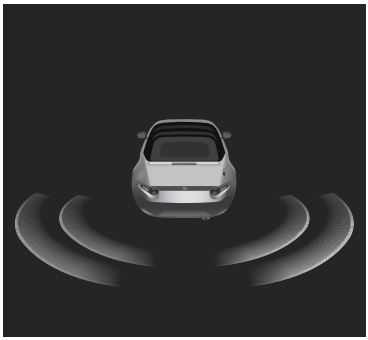
*1　メーターの画面表示 (白) は､メーターを i-ACTIVSENSE 画面に設定している場合のみに表示されます。ただし､車両の電源が OFF の場合は､メーターの画面表示 (白) が表示されません。

さらに､接近車両を検知している方向のドアを開けると､接近表示灯の点滅､警報音､メーターの警告表示 (橙) で危険を知らせます。

接近表示灯



メーター



知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は､降車時警告機能が正常に作動しないことがあります。

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-69 ページ「レーダーセンサーについて」
・自車の近くに駐車車両があるとき
・人が車に近づいてきたとき
・移動物の速度が遅いとき

道路上および道路端の停止物 (ガードレール､側壁､駐車車両､エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して､降車時警告機能が作動することがあります。

車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は､レーダーの電波がさえぎられて降車時警告機能が正常に作動しない可能性があります。

接近表示灯の明るさは､パネルライトコントロールと連動しています。
→5-23 ページ「パネルライトコントロールの使いかた」

警報音を OFF にする

BSM および降車時警告機能作動時の警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・マツダコネクトで警報音を OFF にする。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。
・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする
→5-65 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」

BSM および降車時警告機能を OFF にする

マツダコネクトで BSM および降車時警告機能を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

交通標識認識システム (TSR)

交通標識認識システム (TSR) について*

TSR は、走行中に車両が認識した交通標識を画面に表示することで、運転者に交通標識を知らせるシステムです。

交通標識認識システム (TSR) 使用上の警告・注意

⚠ 警告

走行中は、必ず目視にて交通標識を確認する。
TSR は、天候状況や交通標識の状況などによって交通標識を認識できなかったり、実際とは異なる交通標識を表示したりすることがあります。交通標識の確認を怠ると思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず、運転者の責任において実際の交通標識を確認してください。

交通標識認識システム (TSR) の使いかた

知識

TSR はナビゲーションシステムの SD カードが挿入されていない場合でも作動しますが、実際とは異なる交通標識を表示することがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、TSR が正常に作動しないことがあります。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) が交通標識を正しく検知していないとき
→5-66 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
・**(ナビゲーションシステム装備車)**
  ・地図が最新バージョンに更新されていないとき
  ・地図に含まれている最高速度標識が不正確なとき
  ・地図に最高速度標識が含まれていないとき
  ・ナビゲーションシステムの自車位置がずれているとき
  →ナビゲーションシステム取扱書「自車位置がずれていたら」

TSR は、次のいずれかのパターンで標識を同時に表示することがあります。

・単一の交通標識のみを同時に表示
・最高速度標識と条件付き速度標識を同時に表示 (システムが条件付き速度標識を正確に判断できないとき)
・最高速度標識とこの先の速度標識を同時に表示
・最高速度標識と、一時停止/車両進入禁止/追い越し禁止のいずれかを同時に表示

関連機器をアップデートする

TSR の性能を維持するために、地図データを定期的にアップデートしてください。地図データのアップデートについては、ナビゲーションシステム取扱説明書をご参照ください。
フォワードセンシングカメラ (FSC) のアップデートが必要となった場合は、マツダ販売店にご相談ください。

最高速度標識 (補助標識も含む) が表示されるとき

次のいずれかの条件を満たしている場合に、システムが認識した最高速度標識 80 が画面に表示されます。

・認識した標識を自車が通過したとき
・走行中、ナビゲーションシステムに保存されている最高速度標識をシステムが読み込んだとき

知識

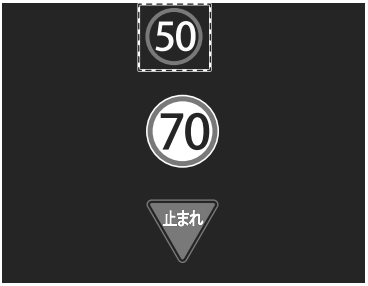
システムが何らかの条件付き標識を正しく認識できない場合は、[!] が表示されます。

システムが最高速度標識を認識できない場合は、最高速度標識表示が終了します。

システムが速度規制終わりの標識を認識した場合は、⇐ が表示されます。

最高速度標識の表示が変化すると、通知音が鳴ります。なお、この通知音はマツダコネクトまたは i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
→5-65 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」

(ナビゲーションシステム装備車)
ナビゲーションシステムがこの先の速度標識の切り替わりを判断できている場合は、その最高速度標識が表示されます。



なお、この表示はマツダコネクトで OFF にすることができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

車両進入禁止標識が表示されるとき

システムが車両進入禁止標識を認識した場合は、車両進入禁止標識 ⛔ が画面に表示されます。

知識

自車が標識を通過してから一定の時間が経過すると、画面表示が終了します。

一時停止標識が表示されるとき

自車が一定速度以下で走行している場合に、システムが認識した一時停止標識  が画面に表示されます。

知識

標識を画面表示してから一定の時間が経過すると、画面表示が終了します。

追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識が表示されるとき

追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識をシステムが認識して、自車がその標識を通過すると、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識 が画面に表示されます。

知識

次の条件のいずれかを満たす場合は、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識の表示が終了します。

・追い越し禁止終わりの標識をシステムが認識して、自車がその標識を通過したとき
・自車が同じ道を走行してから一定の距離を走行しても、標識を見つけられなかったとき
・右左折などの運転操作をしたとシステムが判断したとき

TSR を OFF にする

マツダコネクトで TSR を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

交通標識認識システム (TSR) の便利な使いかた

自車の速度が最高速度標識の速度を超えた場合に、速度超過の警報が出るように設定できます。

マツダコネクトで速度超過警報を ON にする。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

自車の速度が最高速度標識の速度を超えると、最高速度標識の表示のまわりが橙色に点滅  して警報音が鳴ります。また、速度超過の状態が続くと点灯に切り替わります。
なお、警報音はマツダコネクトまたは i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
→5-65 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」

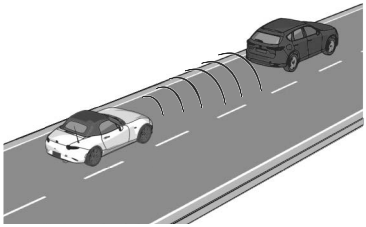
知識

マツダコネクトで警報パターンおよび警報タイミングを変更できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ディスタンス & スピード･アラート (DSA)

ディスタンス & スピード･アラート (DSA) について*

DSA は、先行車との車間距離が近いことを画面表示で運転者に知らせるシステムです。



ディスタンス & スピード･アラート (DSA) 使用上の警告･注意

警告

DSA を過信しない。
DSA は、先行車の種類や状態、天候状況、道路状況などによって、先行車を検知できないことがあります。 また、先行車との車間距離を維持する機能ではありませんので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

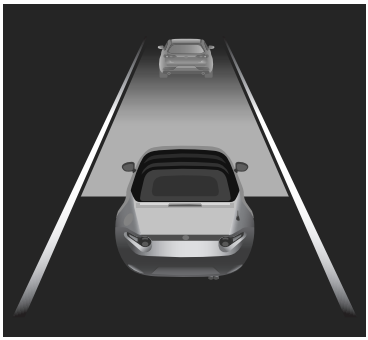
ディスタンス & スピード･アラート (DSA) の使いかた

DSA が作動するとき

車速が約 30 km/h 以上の場合に、自車と先行車との車間距離が近いとシステムが判断すると、DSA が作動します。
DSA が作動している場合は、先行車との車間距離が近いことを画面表示で運転者に知らせます。

 *グレード/仕様別装備

メーター



知識

DSA の作動対象は 4 輪車両です。ただし、自動二輪車や自転車などにも DSA が作動することがあります。

停止車両には DSA が作動しません。

先行車の速度が極めて遅い場合は、DSA が正常に作動しないことがあります。

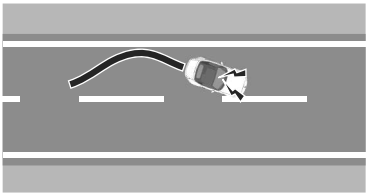
DSA を OFF にする

マツダコネクトで DSA を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ドライバー･アテンション･アラート (DAA)

ドライバー･アテンション･アラート (DAA) について

DAA は、各種車両情報から運転者の疲労や注意力低下を検知して、画面表示と警報音で運転者に休憩を促すシステムです。



ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

DAA を過信しない。
DAA は運転者の疲労や注意力低下を防止するものではありませんので、システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し、適切にハンドルを操作してください。
また、道路状況や走行状況などによっては、システムが運転者の疲労や注意力低下を適切に検知できないことがあります。運転者は十分に休憩を取り、安全運転を心がけてください。

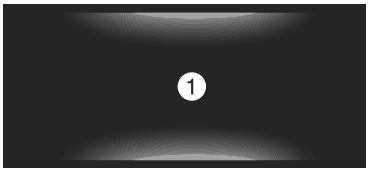
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) の使いかた

DAA が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、システムが運転者の疲労や注意力低下を検知すると、DAA が作動します。

・運転者の走行データ学習が完了したとき
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき
・運転開始後、1 時間経過したとき
・車速が約 65 km/h 以上のとき

DAA が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者の注意力が低下していることを知らせます。
メーター



1“休憩をおすすめします”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、DAA が作動しません。

・急カーブを走行しているとき
・車線変更をしたとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、DAA が正常に作動しないことがあります。

・車線の白線 (黄線) が見えにくいとき
・強風や悪路走行で車両が揺れ続けたとき

DAA は、車速が約 65 km/h 以上で約 20 分間走行したときの走行データをもとに、運転者の疲労や注意力低下を検知します。次の条件のいずれかを満たすと、学習した走行データがリセットされます。

・15 分以上停車したとき
・車速約 65 km/h 未満で約 30 分間走行したとき

知識

・車両の電源を OFF にしたとき

DAA は一度休憩を促すと､60 分間は次回休憩をお知らせしません。

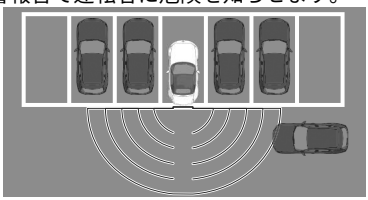
DAA を OFF にする

マツダコネクトで DAA を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

後側方接近車両検知 (RCTA)

後側方接近車両検知 (RCTA) について

RCTA は､駐車場などで自車が後退する際の後方確認を支援するシステムです。左右後方から接近する車両を検知すると､各種表示と警報音で運転者に危険を知らせます。



後側方接近車両検知 (RCTA) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

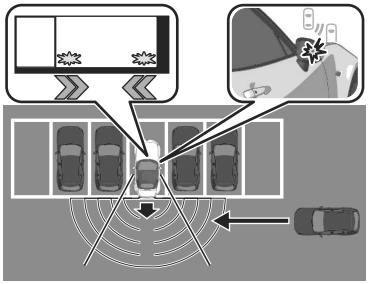
必ず目視にて周辺状況を確認する。
RCTA は､車両後退時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので､自車後方に車両が存在する場合でも接近表示灯が点滅しなかったり､点滅が遅れたりすることがあります。必ず､運転者の責任において後方を確認してください。

後側方接近車両検知 (RCTA) の使いかた

RCTA が作動するとき

車両を後退させようとしている場合に､システムが後側方から接近する車両を検知すると､RCTA が作動します。

RCTA が作動している場合は、接近表示灯の点滅、警告表示、警報音で運転者に危険を知らせます。



知識

道路上および道路端の停止物 (ガードレール、側壁、駐車車両、エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して、RCTA が作動することがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、RCTA が正常に作動しないことがあります。

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-69 ページ「レーダーセンサーについて」
・後退時の車速が約 10 km/h 以上のとき
・自車の真後ろから車両が接近してきたとき
・自車の斜め後ろから車両が接近してきたとき

車両後部に自転車のキャリアなどを装着する場合は、RCTA を OFF にしてください。レーダーの電波がさえぎられるため、RCTA が正常に作動しない可能性があります。

接近表示灯の明るさは、パネルライトコントロールと連動しています。
→5-23 ページ「パネルライトコントロールの使いかた」

警報音を OFF にする

RCTA 作動時の警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・マツダコネクトで警報音を OFF にする。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする。
→5-65 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」

RCTA を OFF にする

マツダコネクトで RCTA を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) について*

MRCC は、定速走行と追従走行によって運転者の負担を軽減するシステムです。運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度で定速走行をしたり、先行車との車間距離を保って追従走行をしたりします。

 *グレード/仕様別装備

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

MRCC を過信しない。
MRCC は､先行車の種類や状態､天候状況､道路状況などによって､先行車を検知できないことがあります。また､先行車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んできたときなどは十分な減速ができず､思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､先行車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため､次のような状況では MRCC を使用しない。

- 自動車専用道路以外を走行するとき
- 急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路を走行するとき
- 頻繁に加減速を繰り返すような道路を走行するとき
- 高速道路などで､インターチェンジ､サービスエリア､パーキングエリアに進入するなど､本線から出るとき
- 凍結路､積雪路､未舗装路などのすべりやすい路面を走行するとき
- 長い下り坂を走行するとき
- 勾配が急な坂を走行するとき
- バイクや自転車などの二輪車が前方を走行しているとき

MRCC を使用しないときは､MRCC を OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと､誤って MRCC を作動させ､思わぬ事故につながるおそれがあります。

MRCC 制御によるブレーキで停車した場合は､必ずブレーキペダルを踏む。 (オートマチック車のみ)
MRCC は､先行車に追従して停車するまで MRCC 制御によるブレーキを行ないますが､停車状態を保持しません。そのため､停車後に車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
MRCC 制御によるブレーキで停車した場合は､必ずブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 注意

けん引されるとき､または他の車をけん引するときは､MRCC を OFF にしてください。

シャシーローラーを使用するときは､MRCC を OFF にしてください。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) の使いかた

MRCC が作動する条件

次の条件をすべて満たしている場合に､MRCC を設定できます。

(マニュアル車)

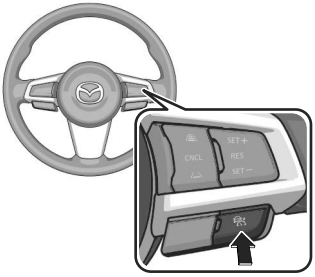
・ブレーキペダルを踏んでいないとき
・車速が 30 km/h 以上のとき
・クラッチペダルを踏んでいないとき

(オートマチック車)

・ブレーキペダルを踏んでいないとき
・車速が 0 km/h 以上のとき

MRCC を設定する

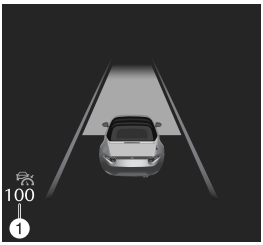
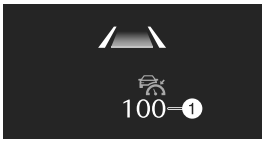
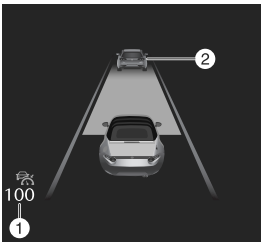
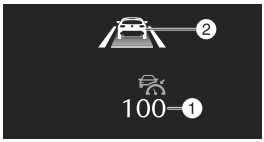
1. MRCC スイッチを押して､システムを ON にする。



システムが ON になると､MRCC スタンバイ表示 (白) が画面に表示されます。
2. 設定したい速度まで加速する。
3. RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げ (SET-) て､速度を設定する。



速度を設定すると､定速走行が開始されます。また､設定した速度が画面に表示され､MRCC スタンバイ表示 (白) が MRCC セット表示 (緑) に変わります。
定速走行中に先行車を検知すると､追従走行に切り替わります。追従走行中は､先行車表示が画面に表示されます。

走行状態	メーター表示	
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外
定速走行時		
追従走行時		

1 設定速度
2 先行車表示

知識

前方の地上から低い位置に道路構造物や障害物がある場合は、システムが先行車と認識することがあります。

定速走行中または追従走行中は、アクセルペダル操作による加減速が優先されます。アクセルペダルを離すと、設定速度での定速走行または追従走行にもどります。

先行車が極低速の場合は、先行車を正しく検知できないことがあります。

MRCC を使用して走行しているときは、チェンジレバー/セレクトレバーを操作しても意図したエンジンブレーキがかかりません。

MRCC 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯します。

車両の電源を OFF にすると、MRCC も自動的に OFF になります。

マツダコネクトで車間制御を無効に設定すると、クルーズコントロールに切り替わります。このとき、MRCC スイッチはクルーズコントロールスイッチとして機能します。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

車間制御を無効にしたまま車両の電源を OFF にすると､次に車両の電源を ON にしたときに車間制御が自動的に有効になります。

(マニュアル車)

MRCC 作動中に､シフトアップ要求表示またはシフトダウン要求表示が表示されることがあります。この場合はギヤの位置が不適切であるため､シフトチェンジをしてください。

知識

シフトアップ/シフトダウン要求表示が表示されてもシフトアップ/シフトダウンしない場合は､MRCC が自動的に解除されることがあります。また､エンジンが損傷したり､エンストしたりするおそれがあります。

設定した速度を変更する

RES スイッチで設定速度を変更する

希望の速度になるまで､RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-)。

・短押し : 1 km/h
・長押し : 10 km/h

アクセルペダルで設定速度を変更する

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで､RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-)。

RES スイッチで速度標識から設定速度を取り込む (速度標識連動型のみ)

速度標識セット表示 RES が点灯しているときに RES スイッチを押す。

注意

速度標識を認識する機能には限界があります。必ず､取り込まれた設定速度を確認してください。

知識

速度標識連動型は､ナビゲーションシステムの SD カードが挿入されている場合のみ作動します。

速度標識連動型は､交通標識認識システム (TSR) を利用しています。
→5-87 ページ「交通標識認識システム (TSR) について」

速度標識連動型は､30 km/h 未満の速度を取り込めません。

速度標識から取り込む設定速度を調整することができます。

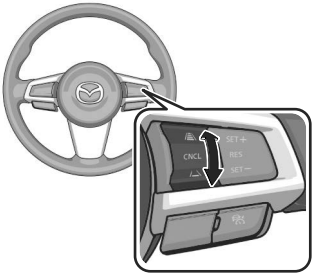
知識

マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

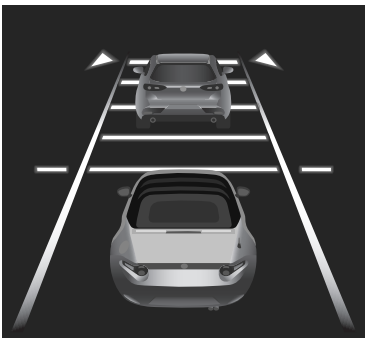
速度標識連動型を OFF にすることができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

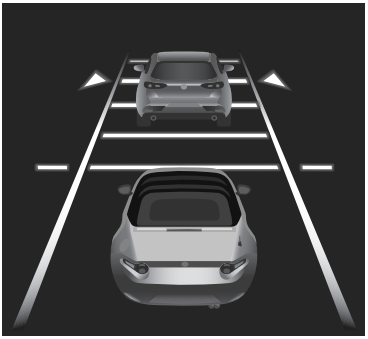
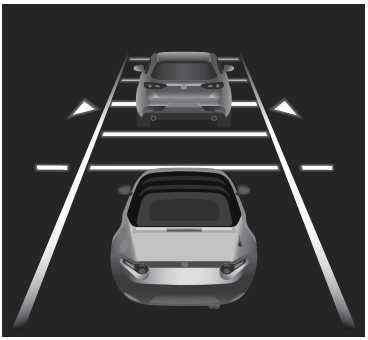
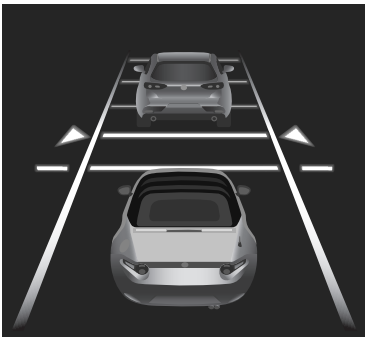
追従走行時の車間距離を設定する

1. CNCL スイッチを押し上げる (車間距離を長くする)、または押し下げる (車間距離を短くする)。

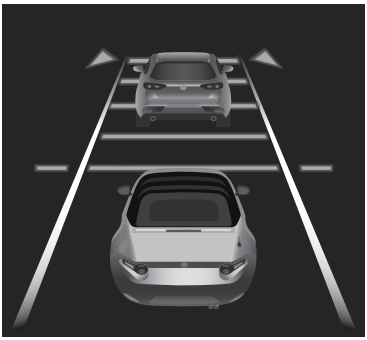
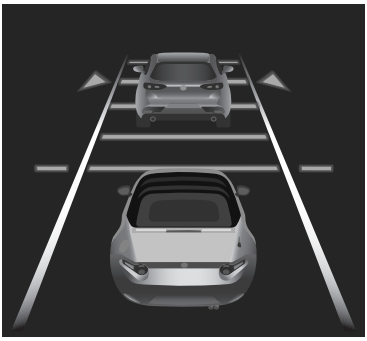
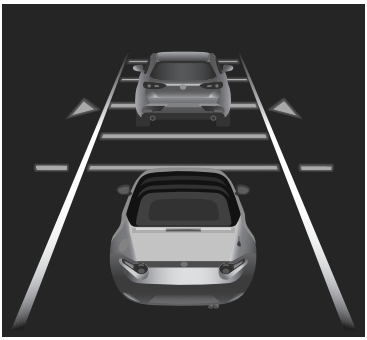


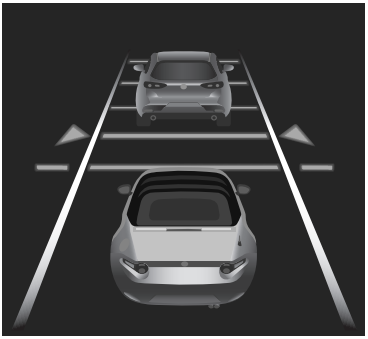
MRCC 非作動時 (白)

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示
長 (約 50 m)	

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示
中 (約 40 m)	
短 (約 30 m)	
極短 (約 25 m)	

MRCC 作動時 (緑)

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示
長 (約 50 m)	
中 (約 40 m)	
短 (約 30 m)	

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示
極短 (約 25 m)	

知識

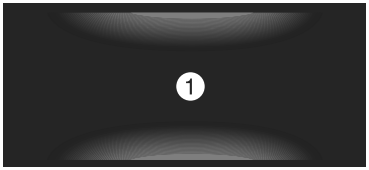
車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。

車間距離は速度によって異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。

接近警報

追従走行中に先行車に接近した場合は、画面表示と警報音で運転者に注意を促します。

メーター



1“ブレーキペダルを踏んでください”

知識

次のような場合は、接近警報が作動しないことがあります。

・先行車と同程度の速度で走行しているとき
・MRCC を設定した直後
・アクセルペダルから足を離した直後
・他の車が割り込んできたとき

接近警報が頻繁に作動するような状況では、MRCC を使用しないでください。

MRCC が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、MRCC が一時的に解除されます。

・ブレーキペダルを踏んだとき
・CNCL スイッチを 1 回押したとき
・DSC が作動したとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき
・パーキングブレーキがかかったとき
・いずれかのドアを開けたとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき
・MRCC 制御によるブレーキの作動頻度が高いとき
・**(マニュアル車)**
  ・車速が 25 km/h 以下になったとき
  ・クラッチペダルを一定時間踏んだとき
  ・チェンジレバーを N の位置にしたまま一定時間が経過したとき
・**(オートマチック車)**
  MRCC 制御によるブレーキで停車したとき

MRCC が一時的に解除された場合は、RES スイッチを押すと一時的に解除される前の設定速度で MRCC が作動します。

MRCC を OFF にする

MRCC スイッチを押す。

MRCC セット表示 (緑) /MRCC スタンバイ表示 (白) が消灯して MRCC が OFF になります。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS)

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) について

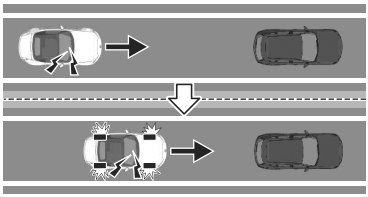
SBS は、ブレーキ制御をすることで衝突回避および衝突時の被害軽減を図るシステムです。車両に搭載されたセンサーやカメラで対象物を検知し、その対象物と自車とが衝突する可能性があるとブレーキ制御をします。
SBS には、自車が前進する際に機能を発揮するものと、自車が後退する際に機能を発揮するものとがあります。

前進時検知機能

前方検知機能

前方検知機能は、前方の対象物 (前方車、歩行者、自転車、自動二輪車) との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。
自車が前方の対象物と衝突する可能性があると、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まったときには、ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。

また､運転者がブレーキペダルを踏んだときには､ブレーキが素早く確実にかかるようアシストします。

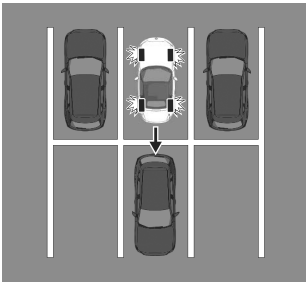


後進時検知機能

後進時検知機能には､次の 2 つの機能があります。

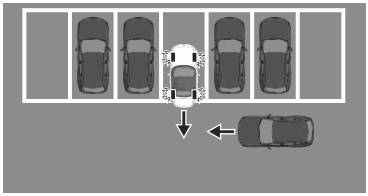
後方検知機能

後方検知機能は､後方の対象物 (障害物) との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。
自車が後方の対象物と衝突する可能性があると､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに､衝突の可能性が高まったときには､ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。



後進時左右接近物検知機能

後進時左右接近物検知機能は､後側方から接近する車両との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。
自車が後側方から接近する車両と衝突する可能性があると､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに､衝突の可能性が高まったときには､ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。



スマート･ブレーキ･サポート (SBS) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

SBS を過信しない。
SBS は､衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると､思わぬ事故につながるおそれがあります。

SBS を正しく作動させるために､次のことを守る。

- サスペンションを改造しないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) を適切に取り扱ってください。フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を正しく検知できない場合､思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-66 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
- レーダーセンサーを適切に取り扱ってください。レーダーセンサーが対象物を正しく検知できない場合､思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-69 ページ「レーダーセンサーについて」
- 超音波センサーを適切に取り扱ってください。超音波センサーが対象物を正しく検知できない場合､思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-72 ページ「超音波センサーについて」

必ず目視にて周辺状況を確認する。
SBS の作動には各種の制約があります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

⚠ 注意

次の条件のいずれかを満たす場合は､誤作動を防ぐために SBS を停止してください。

- トレーラーなどをけん引したり､車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりするとき
- 草の生い茂った場所やオフロードなどの悪路を走行するとき

タイヤは指定されたサイズを使用し､4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。また､摩耗状態が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると､SBS が正常に作動しなくなるおそれがあります。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の使いかた

知識

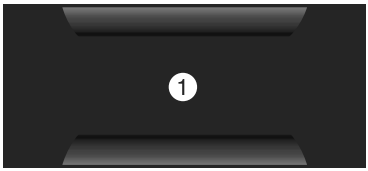
SBS のブレーキ制御中は､ブレーキペダルが奥に入ったり､固くなったりすることがあります。ブレーキは作動していますが､ブレーキペダルを踏み続けてください。

前方検知機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に､自車が前方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると､前方検知機能が作動します。

・**(対象が前方車/自動二輪車の場合)**
車速が約 4 km/h 以上のとき
・**(対象が自転車/歩行者の場合)**
車速が約 10 km/h から約 80 km/h のとき
・DSC が作動していないとき

前方検知機能が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。
さらに､車速が約 80 km/h 以下の場合に衝突の可能性が高まったときは､ブレーキ制御をします。
メーター



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は､前方検知機能が正常に作動しないことがあります。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できないとき
→5-66 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
・対象物と部分的な接触の可能性があるとき
・運転者が意図的に運転操作 (アクセルペダル操作､ハンドル操作､セレクトレバー操作､方向指示器操作など) を行なっているとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は､前方検知機能が作動することがあります。

・動物や路側物を検知したとき
・カーブで対向車とすれ違うとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に､金属物､段差､突起物などがあるとき

前方検知機能がブレーキ制御をして自車が停止した際､運転者がブレーキペダルを踏み込んでいない場合は､約 2 秒後にブレーキが自動的に解除されます。

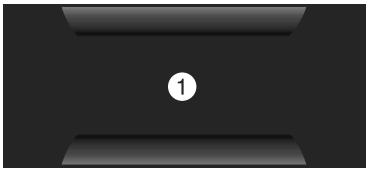
(マニュアル車)
前方検知機能がブレーキ制御をして自車が停止した際､運転者がクラッチペダルを踏み込んでいない場合はエンジンが停止します。

衝突警報の作動距離や音量を変更できます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

後方検知機能が作動するとき

車速が約 2 km/h から約 15 km/h の場合に､自車が後方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると､後方検知機能が作動します。
後方検知機能が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに､衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

知識

リア超音波センサーが対象物を検知できず、後方検知機能が正常に作動しないことがあります。
→5-72 ページ「超音波センサーについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は、後方検知機能が作動することがあります。

・垂れ幕などがあるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき

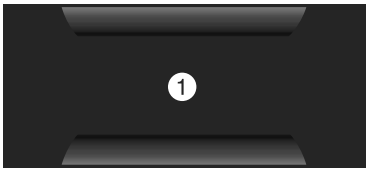
後方検知機能がブレーキ制御をして自車が停止した際、運転者がブレーキペダルを踏み込んでいない場合は、約 2 秒後にブレーキが自動的に解除されます。

(マニュアル車)
後方検知機能がブレーキ制御をして自車が停止した際、運転者がクラッチペダルを踏み込んでいない場合はエンジンが停止します。

後進時左右接近物検知機能が作動するとき

車速が約 15 km/h 以下の場合に、自車が後側方から接近する車両と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、後進時左右接近物検知機能が作動します。
後進時左右接近物検知機能が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、後進時左右接近物検知機能が正常に作動しないことがあります。

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-69 ページ「レーダーセンサーについて」

知識

・自車の真後ろから車両が接近してきたとき
・自車の斜め後ろから車両が接近してきたとき
・角度が急な方向から車両が接近してきたとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、後進時左右接近物検知機能が作動することがあります。

・垂れ幕などがあるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき

後進時左右接近物検知機能がブレーキ制御をして自車が停止した際、運転者がブレーキペダルを踏み込んでいない場合は、約 2 秒後にブレーキが自動的に解除されます。

(マニュアル車)
後進時左右接近物検知機能がブレーキ制御をして自車が停止した際、運転者がクラッチペダルを踏み込んでいない場合はエンジンが停止します。

SBS を OFF にする

マツダコネクトで SBS を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

SBS が OFF になると、SBS OFF 表示 OFF が点灯します。

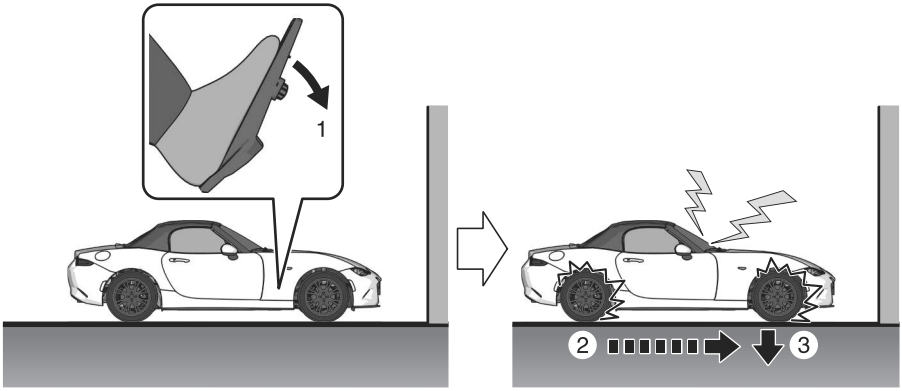
AT 誤発進抑制制御

AT 誤発進抑制制御について

AT 誤発進抑制制御は、アクセルペダルの踏み間違いによる急発進を抑制して衝突時の被害軽減を図るシステムです。
AT 誤発進抑制制御には、自車が前進する際に機能を発揮するものと、自車が後退する際に機能を発揮するものとがあります。

AT 誤発進抑制制御 [前進時]

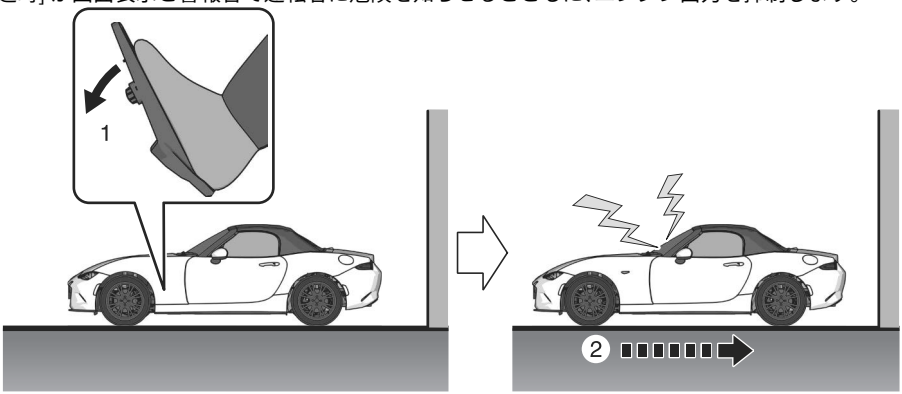
前方に対象物 (障害物、先行車、歩行者) がある状態で運転者がアクセルペダルを踏み込んだ場合に、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が画面表示と警報音で運転者に危険を知らせるとともに、エンジン出力を抑制します。さらに、衝突の可能性が高まった場合にはブレーキ制御をします。



1 アクセルペダルの踏み間違い
2 エンジン出力抑制
3 ブレーキ

AT 誤発進抑制制御 [後退時]

後方に対象物 (障害物) がある状態で運転者がアクセルペダルを踏み込んだ場合に、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が画面表示と警報音で運転者に危険を知らせるとともに、エンジン出力を抑制します。



1 アクセルペダルの踏み間違い
2 エンジン出力抑制

AT 誤発進抑制制御使用上の警告･注意

⚠ 警告

AT 誤発進抑制制御を過信しない。
AT 誤発進抑制制御は､ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時は､セレクトレバーの位置とペダルの位置を十分に確認してください。

停車中､むやみにアクセルペダルを踏まない。
停車状態を保ったり､発進を緩やかにしたりするものではありません。また､障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し､思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

踏切内に閉じ込められた場合､AT 誤発進抑制制御が遮断機を障害物と判断して作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合､あわてずにアクセルを踏み続ける､または踏み直して発進してください。その際､車両が急加速することがありますので注意してください。

AT 誤発進抑制制御 [前進時] がブレーキ制御をして自車が停止した際､運転者がブレーキペダルを踏み込んでいない場合は､約 2 秒後にブレーキが自動的に解除されます。

次のいずれかの条件を満たす場合は､誤作動を防ぐために AT 誤発進抑制制御を停止してください。

- けん引されるとき､または他の車をけん引するとき
- 草の生い茂った場所やオフロードなどの悪路を走行するとき

AT 誤発進抑制制御の使いかた

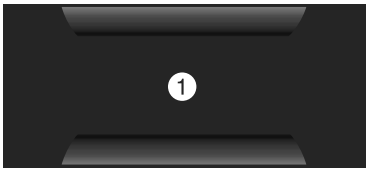
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に､自車が前方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると､AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動します。

- **(対象が歩行者または先行車の場合)**
  - 車速が約 50 km/h 以下のとき
  - 方向指示灯を点けていないとき
  - 方向指示灯が消灯してから約 2 秒経過しているとき
- **(対象がその他の障害物の場合)**
  車速が約 15 km/h 以下のとき
- アクセルペダルを踏んだとき

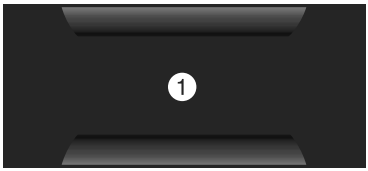
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに､衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“アクセルを踏んでいます”
アクセルペダルが踏み込まれると、画面表示と警報音が切り替わります。

メーター



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が正常に作動しないことがあります。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できないとき
→5-66 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
・フロント超音波センサーが対象物を検知できないとき
→5-72 ページ「超音波センサーについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。

・急な登坂路があるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき
・対象物に接近して通過するとき

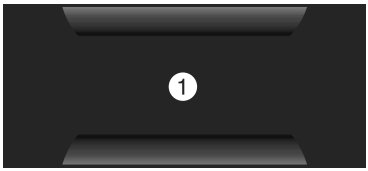
AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が後方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動します。

・車速が約 15 km/h 以下のとき
・アクセルペダルを踏んだとき

AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。

メーター



1“アクセルを踏んでいます”

知識

リア超音波センサーが対象物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しないことがあります。
→5-72 ページ「超音波センサーについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動することがあります。

・急な登坂路があるとき
・垂れ幕などがあるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき

AT 誤発進抑制制御を OFF にする

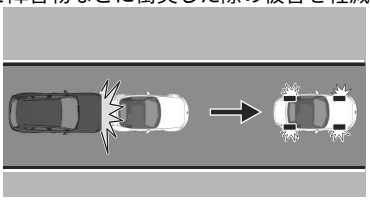
マツダコネクトで AT 誤発進抑制制御を OFF にできます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

AT 誤発進抑制制御が OFF になると、SBS OFF 表示 が点灯します。

衝突二次被害軽減システム

衝突二次被害軽減システムについて

衝突二次被害軽減システムは、走行中にエアバッグが作動するほどの衝突被害を受けた際に、車両を減速させて二次被害を軽減するシステムです。
走行中にエアバッグが作動するほどの衝突事故が起きると、非常点滅灯を点滅させて周辺車両に注意を促しつつ、ブレーキ制御をして障害物などに衝突した際の被害を軽減します。



衝突二次被害軽減システム使用上の警告･注意

⚠ 警告

衝突二次被害軽減システムを過信しない。

- 車両の状態、構成部品の損傷状態、対象物の状態、天候状況、道路状況などの条件によっては、衝突二次被害軽減システムが正常に作動しないことがあります。システムを過信せず、運転者の責任において運転してください。
- 衝突二次被害軽減システムの機能には限界があります。ブレーキペダルやアクセルペダルの適切な操作を怠ると、重大な傷害につながるおそれがあります。

衝突二次被害軽減システムの使いかた

衝突二次被害軽減システムが作動するとき

走行中にエアバッグが作動するほどの衝突被害を受けた場合に、衝突二次被害軽減システムが作動します。
衝突二次被害軽減システムが作動すると、システム制御によるブレーキがかかり、非常点滅灯が点滅し続けます。

知識

システム制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯します。

システム制御によるブレーキが解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、システム制御によるブレーキが解除されます。

・システムが作動してから一定時間が経過したとき
・システム制御による停車後、アクセルペダルを強く 3 回踏み込んだとき

知識

システムのブレーキ制御よりも運転者のブレーキペダル踏力が強い場合は、運転者のブレーキ操作が優先されます。

システム制御による非常点滅灯の点滅は、次のいずれかの操作をすると解除されます。

・非常点滅灯スイッチを押す
・車両の電源を OFF にする

クルーズコントロール

クルーズコントロールについて*

クルーズコントロールは、定速走行によって運転者の負担を軽減するシステムです。運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度で定速走行をします。

クルーズコントロール使用上の警告･注意

⚠ 警告

クルーズコントロールを過信しない。
クルーズコントロールの機能には限界があります。周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､安全運転を心がけてください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため､次のような状況ではクルーズコントロールを使用しない。

- 自動車専用道路以外を走行するとき
- 急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路を走行するとき
- 凍結路､積雪路､未舗装路などのすべりやすい路面を走行するとき
- 長い下り坂を走行するとき
- 勾配が急な坂を走行するとき

クルーズコントロールを使用しないときは､クルーズコントロールを OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと､誤ってクルーズコントロールを作動させ､思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

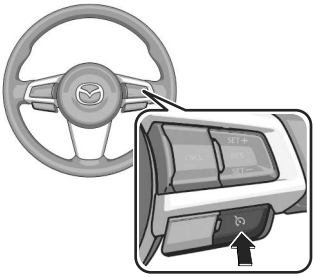
けん引されるとき､または他の車をけん引するときは､クルーズコントロールを OFF にしてください。

シャシーローラーを使用するときは､クルーズコントロールを OFF にしてください。

クルーズコントロールの使いかた

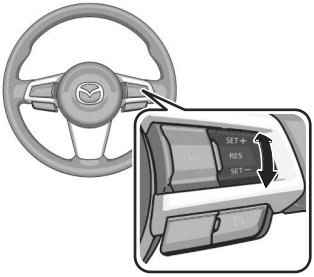
クルーズコントロールを設定する

1. クルーズコントロールスイッチを押して､システムを ON にする。



システムが ON になると､クルーズスタンバイ表示 (白) が表示されます。
2. 25 km/h 以上の設定したい速度まで加速する (ただし､設定速度の下限は 30 km/h)。

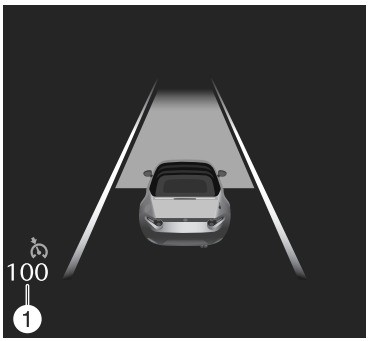
3. RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げ (SET-) て、速度を設定する。



速度を設定すると定速走行が開始されます。また、設定速度が画面に表示され、クルーズスタンバイ表示 (白) がクルーズセット表示 (緑) に変わります。

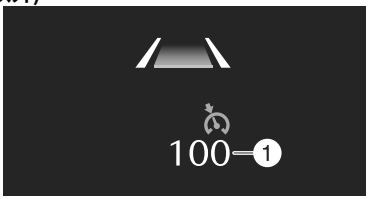
クルーズコントロールが作動している場合は、作動状況を画面表示で運転者に知らせます。

メーター (i-ACTIVSENSE 画面)



1 設定速度

メーター (i-ACTIVSENSE 画面以外)



1 設定速度

知識

定速走行中は、アクセルペダル操作による加減速が優先されます。アクセルペダルから足を離すと、設定速度での定速走行にもどります。

(マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 装備車)
マツダコネクトで車間制御を無効にすると、クルーズコントロールに切り替わります。このとき、MRCC スイッチはクルーズコントロールスイッチとして機能します。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

車間制御を無効にしたまま車両の電源を OFF にすると、次に車両の電源を ON にしたときに車間制御が自動的に有効になります。

急な上り坂または下り坂など、道路条件によっては設定速度を保てないことがあります。

車速が 20 km/h 未満になると、クルーズコントロールが解除されます。再度クルーズコントロールを使用する場合は、クルーズコントロールを設定し直してください。

クルーズコントロール制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯します。

(オートマチック車)
クルーズコントロールを使用して走行している場合には、手動で低速ギヤにシフトダウンしてもクルーズコントロールが解除されず、エンジンブレーキが効きません。減速が必要なときは、設定速度を下げるかブレーキペダルを踏んでください。

設定した速度を変更する

RES スイッチで設定速度を変更する

希望の速度になるまで、RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-)。

・短押し : 1 km/h
・長押し : 10 km/h

アクセルペダルで設定速度を変更する

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで、RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-)。

クルーズコントロールが一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、クルーズコントロールが一時的に解除されます。

・ブレーキペダルを踏んだとき
・CNCL スイッチを 1 回押したとき
・DSC が作動したとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
・システムによるブレーキの作動頻度が高いとき
・**(マニュアル車)**
  ・クラッチペダルを一定時間踏んだとき
  ・チェンジレバーを N の位置にしたまま一定時間が経過したとき

クルーズコントロールが一時的に解除された場合は、RES スイッチを押すと一時的に解除される前の設定速度でクルーズコントロールが作動します。

クルーズコントロールを OFF にする

クルーズコントロールスイッチを押す。

クルーズスタンバイ表示 (白) /クルーズセット表示 (緑) が消灯してクルーズコントロールが OFF になります。

パーキングセンサー

パーキングセンサーについて

パーキングセンサーは、駐車時などに車両周辺の障害物を検知して運転者に知らせることで、運転者の安全確認を補助するシステムです。障害物を検知すると、画面表示と警報音で障害物までの距離を運転者に知らせます。

パーキングセンサー使用上の警告･注意

⚠警告

必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転する。
パーキングセンサーはあくまでも前進時または後退時の補助装置です。また、センサーの検知範囲は限られていますので、システムを過信して前進/後退すると、障害物に接触するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーの使いかた

パーキングセンサーが作動するとき

システムが障害物を検知すると、障害物の存在を画面表示と警報音で運転者に知らせます。この画面表示と警報音は、障害物との距離に応じて変化します。
なお、複数箇所の障害物を検知した場合は、最も近い障害物との距離に応じて吹鳴します。
リア

車両と障害物の距離	表示	ブザーの鳴りかた
約 1 m 50 cm～60 cm	赤 	遅い継続音

車両と障害物の距離	表示	ブザーの鳴りかた
約 60 cm～50 cm	赤 	継続音
約 50 cm～40 cm	赤 	早い継続音
約 40 cm 以内	赤 	連続音

コーナー

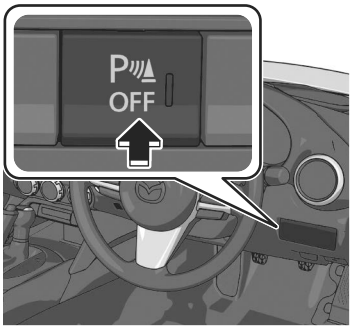
車両と障害物の距離	表示	ブザーの鳴りかた
約 50 cm～40 cm	赤 	継続音
約 40 cm～30 cm	赤 	早い継続音
約 30 cm 以内	赤 	連続音

知識

超音波センサーが対象物を正確に検知できないときは、システムが正常に作動しないことがあります。
→5-72 ページ「超音波センサーについて」

6 秒以上同じ検知範囲で障害物を検知し続けている場合は、警報音のみを停止します (ただし、最も近い検知範囲を除く)。検知範囲が近い側に変わった場合は、警報音を再開します。

パーキングセンサーを OFF にする



パーキングセンサーが OFF になり、パーキングセンサー OFF スイッチの表示灯が点灯します。ただし、チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると、パーキングセンサーは自動的に ON になります。
パーキングセンサーが OFF の状態でスイッチを押すと、パーキングセンサーが作動可能な状態になります。また、同時にスイッチの表示灯が消灯します。

知識

チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にするとパーキングセンサーは自動的に ON となりますが、このときにパーキングセンサー OFF スイッチを押すとパーキングセンサーを OFF にすることができます。

こんなときは

・異常が発生した場合は、次の表示で運転者に知らせます。システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。



・特定の検知表示が表示し続ける場合は、検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認をしてください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

積雪、寒冷時の運転

スノータイヤについて

⚠ 警告

指定サイズ以外のタイヤを使用しない。また、異なる種類のタイヤを混ぜて使用しない。
走行安定性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、法令違反になる場合があります。
運転席ドアを開けたボディー側にあるラベルに記載されているサイズのタイヤを使用してください。また、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンは後輪に取り付けます。

⚠ 注意

標準タイヤのみタイヤチェーンを装着できます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、チェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。

タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h 以下で走行してください。30 km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

MEMO

6 車内を快適にする装備

フルオートエアコン..... 6-2
吹き出し口について.....6-2
吹き出し口の使いかた..... 6-2
フルオートエアコンについて 6-5
フルオートエアコンの概略図 6-6
フルオートエアコンの使いかた 6-6
各スイッチの使いかた..... 6-8

マニュアルエアコン.....6-11
吹き出し口について.....6-11
吹き出し口の使いかた..... 6-11
マニュアルエアコンの概略図 6-14
マニュアルエアコンの使いかた*..... 6-14
各スイッチの使いかた..... 6-18

シートヒーター.....6-20
シートヒーターについて*..... 6-20
シートヒーター使用上の警告・注意.....6-21
シートヒーターの使いかた 6-21

フルオートエアコン

吹き出し口について

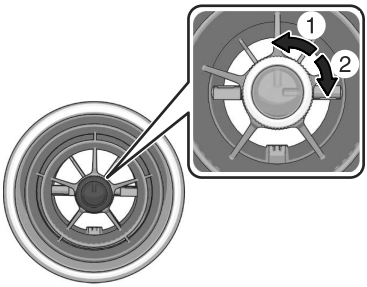
吹き出し口を調整することにより、風の出る位置や方向などが変わります。

吹き出し口の使いかた

吹き出し口の開閉

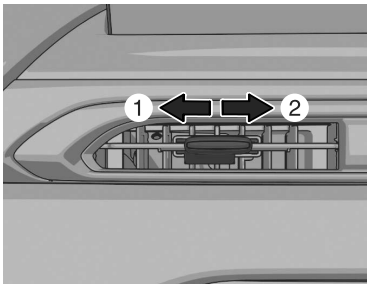
全開また全閉方向にノブをいっぱいまで動かす。

運転席側吹き出し口



1 全開
2 全閉

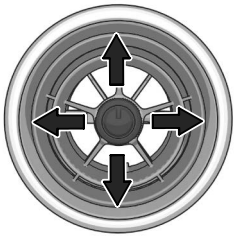
助手席側吹き出し口



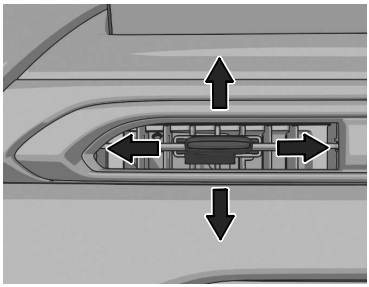
1 全開
2 全閉

風向きの調節

運転席側吹き出し口

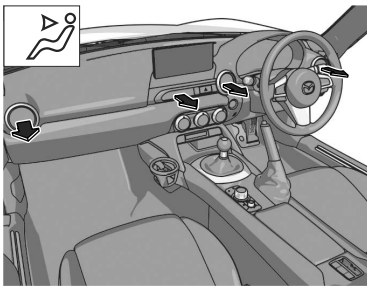


助手席側吹き出し口

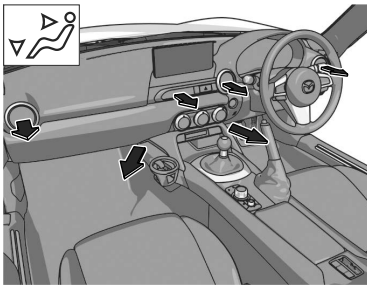


吹き出し口の選択

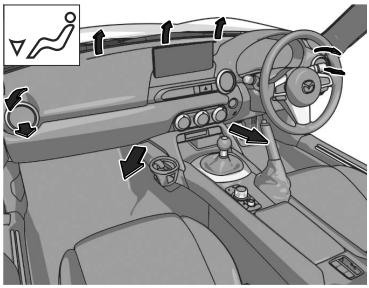
上半身に送風するとき



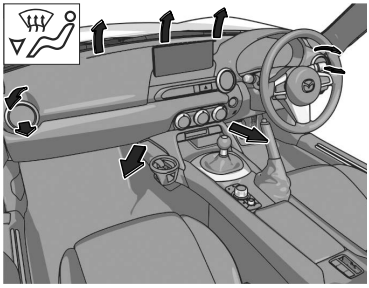
上半身、足元に送風するとき



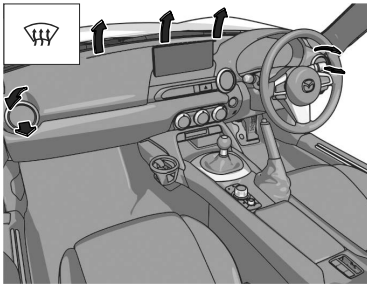
主に足元に送風するとき



足元への送風とガラスの曇りを取るとき



ガラスの曇りを取るとき



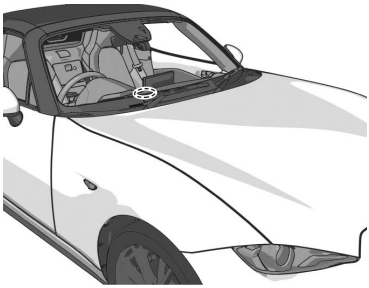
フルオートエアコンについて

設定温度にあわせて、次の機能が自動制御されます。

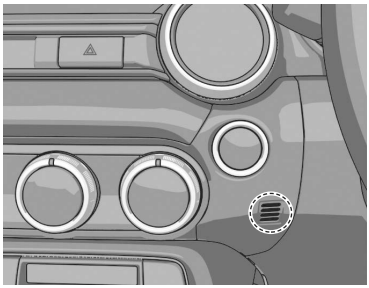
・吹き出し風の温度調節
・吹き出し風量調節
・吹き出し口の切り替え
・内気循環/外気導入の切り替え
・エアコン (冷房機能) の作動/停止

フルオートエアコンは、日射/室内温度センサーを使用して、内外の温度、日射を測定し、室内の温度を制御しています。日射/室内温度センサーをふさがないでください。

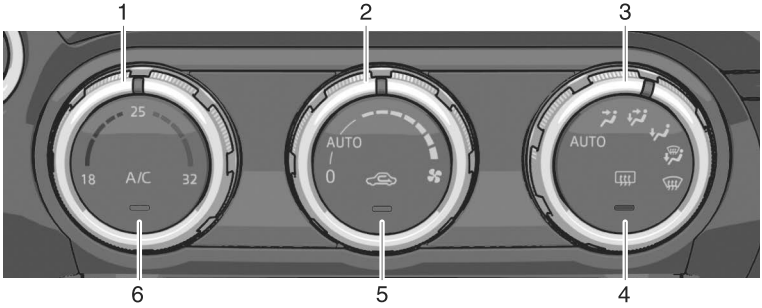
日射センサー



室内温度センサー



フルオートエアコンの概略図



1 温度設定ダイヤル
2 ファン調節ダイヤル
3 吹き出し口切り替えダイヤル
4 リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ
5 内外気切り替えスイッチ
6 エアコンスイッチ

フルオートエアコンの使いかた

1. エンジンを始動する。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを AUTO の位置にする。



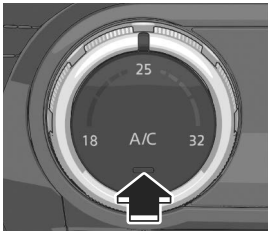
3. 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) にする。



4. ファン調節ダイヤルを AUTO の位置にする。



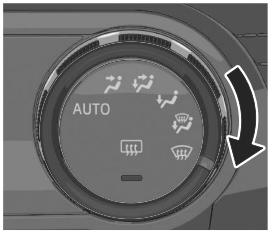
5. エアコンスイッチを押してエアコンを作動 (表示灯点灯) させる。



6. 温度設定ダイヤルをまわして希望の温度に調節する。
7. 作動を停止したいときは、ファン調節ダイヤルを 0 の位置にする。

ガラスの曇りを取るとき

1. エンジンを始動する。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを にする。



3. ファン調節ダイヤルをまわして希望の風量に調節する。
   自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、窓ガラスに送風されます。

⚠ 警告

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

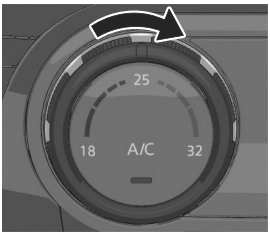
知識

・ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
・温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

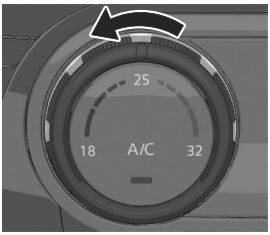
各スイッチの使いかた

温度設定ダイヤル

設定温度を上げるとき



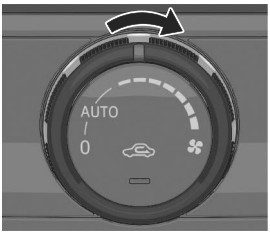
設定温度を下げるとき



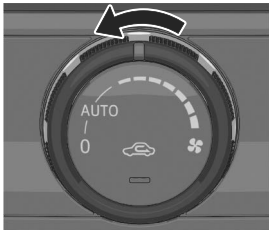
ファン調節ダイヤル

風量は 7 段階に調節できます。
作動を停止したいときは、ファン調節ダイヤルを 0 の位置にします。

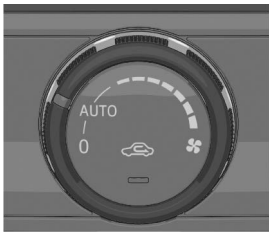
風量を増やすとき



風量を減らすとき

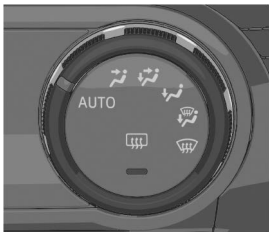


AUTO 位置



設定温度にあわせて、吹き出し風量が自動制御されます。

吹き出し口切り替えダイヤル



使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→6-2 ページ「吹き出し口の使いかた」

AUTO 位置

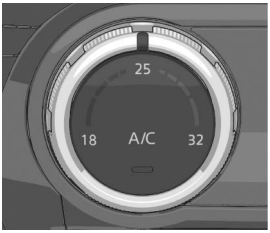
設定温度にあわせて吹き出し口の切り替えを自動で行ないます。

知識

吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にし、温度調節ダイヤルを中間付近で使用すると暖められた風が足元から吹き出し、比較的温度の低い風がインストルメントパネル中央および左右から吹き出します。

ファン調節ダイヤルが 0 以外の位置のとき、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置に設定すると、エアコンが自動的に作動し、また自動的に外気導入に切り替わり除湿された吹き出し風がフロントガラス、窓ガラスに送風されます。

エアコンスイッチ

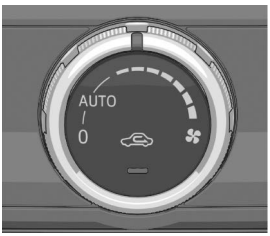


スイッチを押すごとに冷房･除湿機能の作動と停止が切り替わります。作動中は表示灯が点灯します。

知識

外気温が 0 °C 近くまで下がると､システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

内外気切り替えスイッチ



スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

警告

寒いときや湿度が高いときに内気循環にしない。
ガラスの外側が曇り､視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

内気循環 (表示灯点灯)

トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや､急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。

外気導入 (表示灯消灯)

外気を取り入れて換気したいときや､ガラスの曇りを取るときに使用します。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーの曇りを取りたいときに使用します。
→5-50 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた」

マニュアルエアコン

吹き出し口について

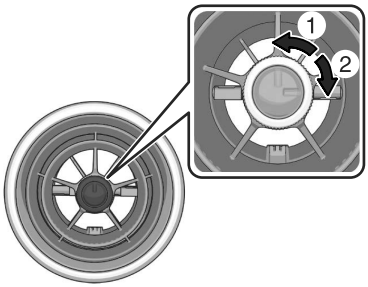
吹き出し口を調整することにより、風の出る位置や方向などが変わります。

吹き出し口の使いかた

吹き出し口の開閉

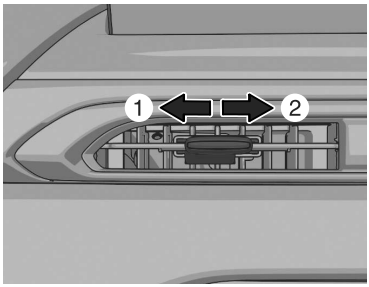
全開また全閉方向にノブをいっぱいまで動かす。

運転席側吹き出し口



1 全開
2 全閉

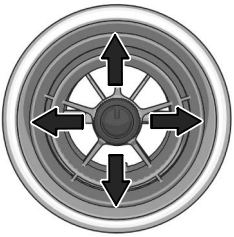
助手席側吹き出し口



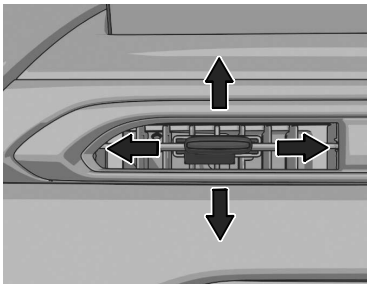
1 全開
2 全閉

風向きの調節

運転席側吹き出し口

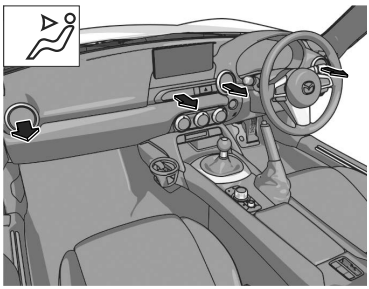


助手席側吹き出し口

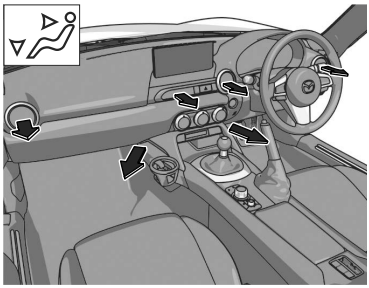


吹き出し口の選択

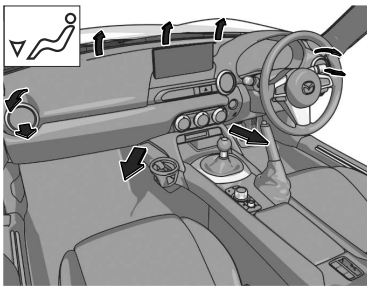
上半身に送風するとき



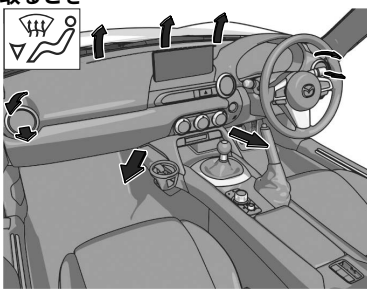
上半身、足元に送風するとき



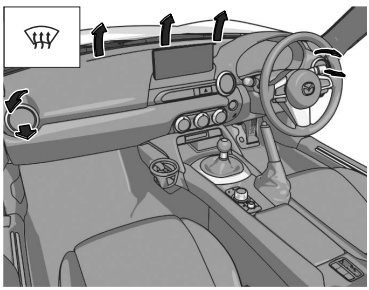
主に足元に送風するとき



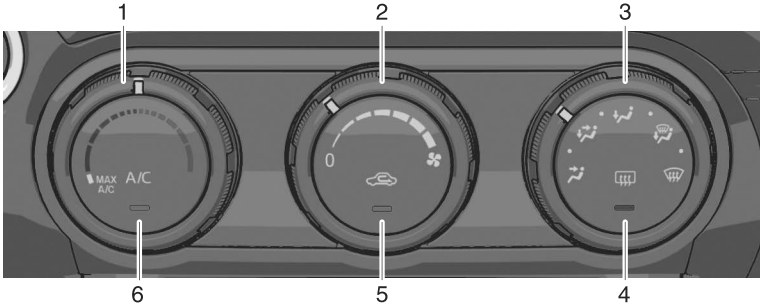
足元への送風とガラスの曇りを取るとき



ガラスの曇りを取るとき



マニュアルエアコンの概略図



1 温度調節ダイヤル
2 ファン調節ダイヤル
3 吹き出し口切り替えダイヤル
4 リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ
5 内外気切り替えスイッチ
6 エアコンスイッチ

マニュアルエアコンの使いかた*

暖めるとき

1. エンジンを始動する。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルをの位置にする。



3. 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) にする。
4. 温度設定ダイヤルを高温の位置にする。
5. ファン調節ダイヤルで風量をお好みにあわせて調節する。
6. 除湿しながらあたためたいときは、エアコンをオン (表示灯点灯) にする。

知識

ガラスが曇りやすいときは、吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にしてください。

上半身への風の温度を低くしたいときは、吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にしてから、温度設定ダイヤルでお好みの温度に調節してください。

足元への風は、上半身への風よりも比較的温度の高い風が出ます。(温度設定ダイヤルを左右いずれかいっぱいまでまわしている場合を除く)

冷やすとき

1. エンジンを始動する。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルをの位置にする。



3. 温度設定ダイヤルを低温の位置にする。
4. ファン調節ダイヤルで風量をお好みにあわせて調節する。
5. A/C スイッチを押してエアコンをオン (表示灯点灯) にする。
6. 冷たい風が出始めたら、お好みにあわせて温度、風量を調節する。

注意

長い上り坂が続くときや長時間の渋滞中にエアコンを使用するときは、高水温警告灯が点灯していないか確認してください。
→8-53 ページ「高水温警告灯」

エアコンの使用がオーバーヒートにつながる場合があります。高水温警告灯が点灯したときは、エアコンをオフにしてください。
→8-19 ページ「オーバーヒートを処置する」

知識

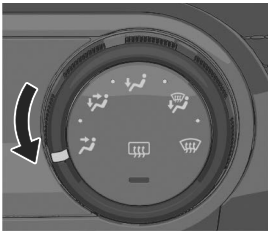
室内を素早く冷やしたいときは、温度設定ダイヤルを左側いっぱいまでまわし、内外気切り替えスイッチを内気循環 (表示灯点灯) にして、ファン調節ダイヤルで風量を最大に設定してください。

足元への風の温度を高めにしたいときは、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にしてから、温度設定ダイヤルでお好みの温度に調節してください。

足元への風は、上半身への風よりも比較的温度の高い風が出ます。(温度設定ダイヤルを左右いずれかいっぱいまでまわしている場合を除く)

換気するとき

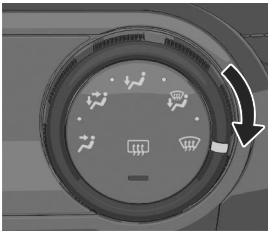
1. エンジンを始動する。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にする。



3. 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) にする。
4. 温度設定ダイヤルで温度をお好みにあわせて調節する。
5. ファン調節ダイヤルで風量をお好みにあわせて調節する。

ガラスの曇りをとるとき

1. エンジンを始動する。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にする。



3. 温度設定ダイヤルで温度をお好みにあわせて調節する。
4. ファン調節ダイヤルで風量をお好みにあわせて調節する。
5. 除湿しながらあたためたいときは、エアコンをオン (表示灯点灯) にする。

⚠ 警告

吹き出し風の温度を低く設定かつ吹き出し口を  に設定した状態でガラスの曇りとりをしない。

吹き出し風の温度を低く設定した状態で、吹き出し口を  に設定してガラスの曇り取りを行なうと、ガラスの外側が曇り、視界不良により思わぬ事故につながるおそれがあるため、危険です。吹き出し口を  に設定するときは、温度設定を高めにしてください。

知識

素早く曇りをとりたいときは、エアコンを ON にし、温度設定ダイヤルを右側いっぱいまでまわして、ファン調節ダイヤルで風量を最大に設定してください。

暖かい風にしたいときは、吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にしてください。

吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にすると自動的に外気導入に切り替わります。

除湿するとき

気温が低いときは、エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りをとることができます。

1. エンジンを始動する。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルをお好みの位置に設定する。
3. 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) に設定する。
4. 温度設定ダイヤルで温度をお好みにあわせて調節する。
5. ファン調節ダイヤルで風量をお好みにあわせて調節する。
6. A/C スイッチを押してエアコンをオン (表示灯点灯) にする。

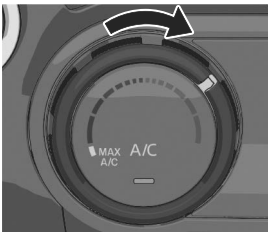
知識

エアコンの機能の 1 つとして除湿機能があるため、温度を低温に設定する必要はありません。室内の空気を除湿したいときは、温度調整ダイヤルをお好みの位置 (高温または低温) に設定して、エアコンをオンにしてください。

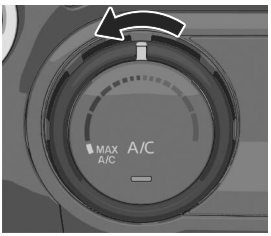
各スイッチの使いかた

温度設定ダイヤル

設定温度を上げるとき



設定温度を下げるとき



MAX A/C

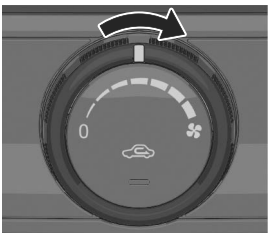
温度調節ダイヤルを反時計回りに完全にまわすと、MAX A/C (最大冷却) になります。

知識

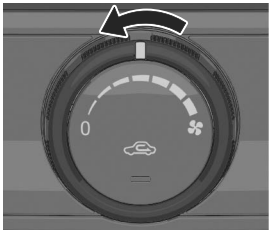
吹き出し口切り替えスイッチが または モードで、ファン調節ダイヤルが 0 以外で温度調節ダイヤルを MAX A/C の位置にすると、自動的に内気循環に切り替わり、エアコンが作動します。エアコンの作動を停止させたいときは、エアコンスイッチを押してください。

ファン調節ダイヤル

風量を増やすとき

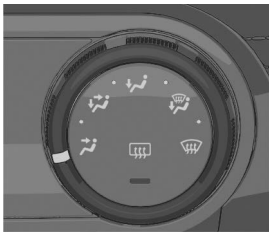


風量を減らすとき



風量を 7 段階に調節できます。

吹き出し口切り替えダイヤル

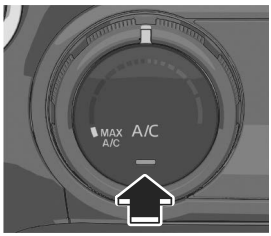


使用目的にあわせて、吹き出し口を選択することができます。

知識

ダイヤルは各モードの中間位置●に固定することができます。風量を少し調節したいときは、ダイヤルを中間位置に固定してください。たとえば、ダイヤルをとの間の●位置に固定すると、足元からの吹き出し風量は位置のときよりも減少します。

エアコンスイッチ

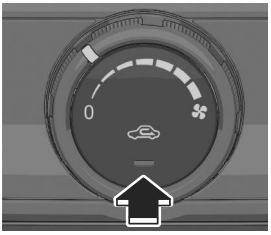


ファン調節ダイヤルが 0 以外のとき、スイッチを押すごとに冷房機能の作動と停止が切り替わります。機能の作動中は表示灯が点灯します。

知識

外気温が 0 °C 近くまで下がると、システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

内外気切り替えスイッチ



スイッチを押すごとに、内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) が切り替わります。

警告

寒いときや湿度が高いときは、内気循環にしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

寒いときや湿度が高いときは、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

内気循環 (表示灯点灯)

トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。

外気導入 (表示灯消灯)

外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーの曇りを取りたいときに使用します。
→5-50 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた」

シートヒーター

シートヒーターについて*

シートを温めることができます。

 *グレード/仕様別装備

シートヒーター使用上の警告･注意

⚠ 警告

次のような方がご使用になる場合は､熱すぎたり､低温やけどを起こしたりするおそれがありますので､十分注意してください。

- 乳幼児､お子さま､お年寄り､病人､体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬 (睡眠薬､かぜ薬など) を服用された方

低温やけどを起こさないために､次のことをお守りください。

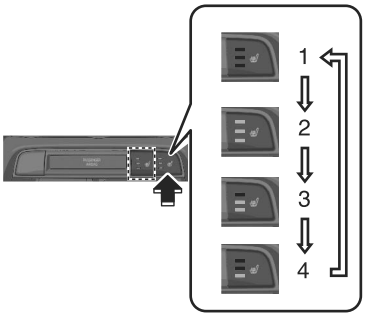
- 毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。異常加熱するおそれがあります。
- 仮眠するときは使用しないでください。
- 突起のある重量物をシートの上に置いたり､針金やピンなどでシートクッションや背もたれをつきさしたりしないでください。異常加熱するおそれがあります。

⚠ 注意

シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

シートヒーターの使いかた

1. エンジンを始動する。
2. シートヒータースイッチを押すごとに､設定温度が切り替わります。



1 OFF
2 高
3 中
4 低
シートヒータースイッチ内の表示灯が設定温度に応じて点灯します。

MEMO

7 その他装備

マツダコネクト.....7-4
マツダコネクトについて.....7-4
マツダコネクト使用上の警告・注意.....7-5
マツダコネクトの概略図.....7-6
マツダコネクトの使いかた.....7-6
付録.....7-11

Alexa..... 7-15
Alexa について..... 7-15
Alexa 使用上の警告・注意.....7-15
Alexa の使いかた..... 7-15

マツダエマージェンシーコール 7-16
マツダエマージェンシーコールについて..... 7-16
マツダエマージェンシーコール使用上の警告・注意..... 7-17
マツダエマージェンシーコールの使いかた.....7-18

収納..... 7-18
収納使用上の警告・注意..... 7-18

カップホルダー.....7-19
カップホルダー使用上の警告・注意.....7-19
カップホルダーの使いかた 7-20

センターコンソール.....7-22
センターコンソール使用上の警告・注意.....7-22
センターコンソールの使いかた 7-22

リアコンソールボックス..... 7-23
リアコンソールボックス使用上の警告・注意..... 7-23
リアコンソールボックスの使いかた..... 7-23

リアストレージボックス.....7-24
リアストレージボックス使用上の警告・注意..... 7-24
リアストレージボックスの使いかた.....7-24

サンバイザー.....7-25
サンバイザーの使いかた.....7-25

バニティミラー.....7-25
バニティミラーの使いかた 7-25

ルームランプ..... 7-25
イルミネーテッドエントリーシステムについて.....7-25
イルミネーテッドエントリーシステムの使いかた..... 7-25
ルームランプの使いかた..... 7-26
トランクルームランプの使いかた 7-26

電源ソケット.....7-27
電源ソケットについて..... 7-27
電源ソケット使用上の警告・注意 7-27
電源ソケットの使いかた.....7-27

USB 電源ソケットについて 7-28
USB 電源ソケット使用上の警告・注意.....7-28
USB 電源ソケットの使いかた 7-28

エアロボード.....7-29
エアロボードについて..... 7-29

アクセサリー.....7-29
電気・電子部品/機器使用上の警告・注意.....7-29

フロアマット.....7-29
フロアマット使用上の警告・注意 7-29

故障診断コネクター.....7-30
故障診断コネクターについて 7-30

発炎筒..... 7-31
発炎筒について..... 7-31
発炎筒使用上の警告・注意.....7-31

ジャッキ..... 7-32
ジャッキについて.....7-32
ジャッキ使用上の警告・注意 7-32

MEMO

マツダコネクト

マツダコネクトについて

マツダコネクトとは、車両情報の表示、音楽の再生、モバイル機器との接続、車両設定の変更など、さまざまな機能を利用できるシステムです。

マツダコネクトのホーム画面



本書にはマツダコネクト取り扱い情報の一部を記載しています。
取り扱い情報の詳細は、マツダコネクト取扱説明書を参照してください。

マツダコネクトの機能

マツダコネクトには、次の 8 つの機能があります。

情報

車両に記録されている情報を確認できます。

オーディオ

ラジオや音楽などを聴くことができます。

通知一覧

車両からのお知らせを確認できます。重大な故障が発生しているときは、お知らせ表示の背景が橙色または赤色になります。

コミュニケーション

スマートフォンなどのモバイル機器とマツダコネクトとを Bluetooth®で接続することで、ハンズフリー通話やショートメッセージ機能を利用できます。

ナビゲーション

ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれている場合は、ナビゲーションシステムを利用できます。
ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。

設定

マツダコネクトの設定や車両機能の設定を変更できます。

Apple CarPlay

Apple CarPlay に対応した iPhone を接続することで、Apple CarPlay を利用できます。

Android Auto™

Android Auto™に対応した Android™スマートフォンを接続することで、Android Auto™を利用できます。

知識

本書に記載されている機能の説明、画面やボタンの文字および形状などは、実際とは異なる場合があります。また、これらのコンテンツは、今後のソフトウェアアップデートによって予告なしに変更されることがあります。

車内や車両の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがあります。

マツダコネクト使用上の警告・注意

⚠ 警告

オーディオは、車を止めてから操作する。
走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

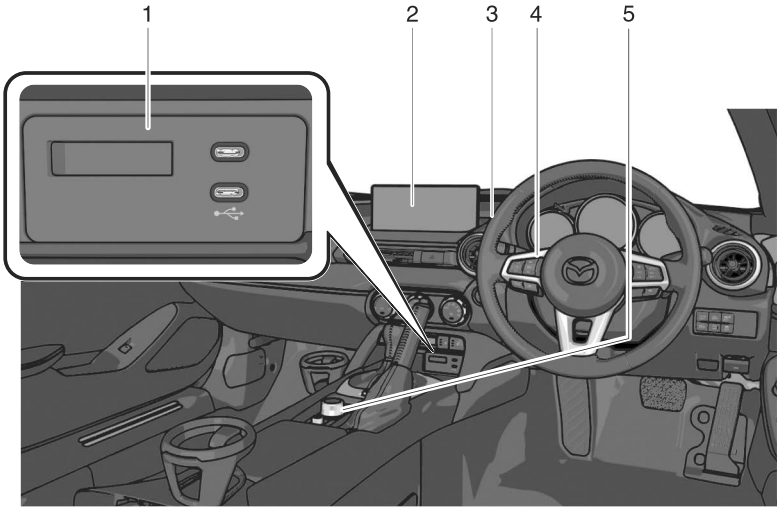
USB 端子に接続したコードが、チェンジレバー/セレクトレバーに絡まないようにする。
運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転中にポータブルオーディオ機器などを調節しない。
走行中に調節すると前方不注意で重大な事故につながるおそれがあります。ポータブルオーディオ機器などの調節は必ず車両を停止した状態で行なってください。

⚠ 注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

マツダコネクトの概略図



1 USB ポート/SD カードスロット*1
2 センターディスプレイ
3 マイク
4 オーディオリモートコントロールスイッチ
5 コマンダースイッチ

*1　ナビゲーションシステム用の SD カードスロットです。
　　ナビゲーションシステム用の SD カード (マツダ純正品) を差し込んでください。

マツダコネクトの使いかた

マツダコネクトの操作方法

車両の電源が ACC または ON の場合に、マツダコネクトを操作できます。
マツダコネクトの操作方法は 3 つあります。

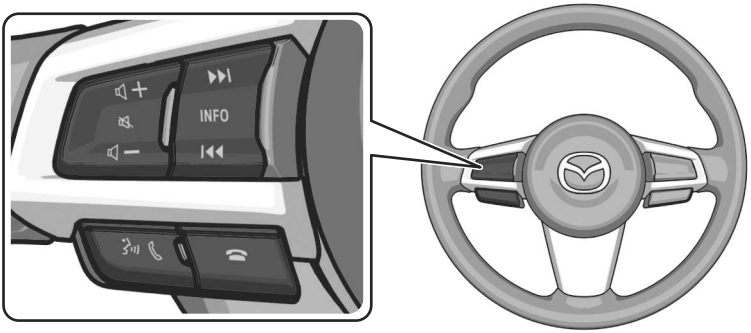
コマンダースイッチでの操作



ボタン		説明
	音量ノブ	**音量を調節する** ・音量ノブをまわすことで、音量を調節できます。 ・音量ノブを短押しすると消音できます。再度音量ノブを短押しすると、消音を解除できます。 **電源を OFF/ON にする** ・音量ノブを長押しすると、マツダコネクトの電源を OFF にすることができます。 再度音量ノブを押すと、マツダコネクトの電源を ON にすることができます。
	オーディオボタン	オーディオボタンを押すと、最後に再生されたオーディオソース画面が表示されます。
	コマンダーノブ	**カーソルを操作する** ・コマンダーノブをまわす/スライドすることで、画面上のカーソルを操作できます。 **決定する** ・コマンダーノブを押すと、カーソルがあわさっている機能を決定します。
	マップボタン	マップボタンを押すと、ナビゲーション画面/コンパス画面が表示されます。
	バックボタン	バックボタンを押すと、前の画面が表示されます。

ボタン		説明
	ホームボタン	**ホーム画面を表示する** ・ホームボタンを短押しすると、ホーム画面が表示されます。 **画面を切り替える** ・ホームボタンを長押しすると、Apple CarPlay/Android Auto™の画面とマツダコネクトの画面とを切り替えることができます。
	お気に入りボタン	**お気に入り画面を表示する** ・お気に入りボタンを短押しすると、お気に入り画面が表示されます。 **お気に入り登録をする** ・お気に入りボタンを長押しすると、現在表示中の連絡先、放送局、ナビゲーションの地点などをお気に入りに登録できます。

オーディオリモートコントロールスイッチでの操作

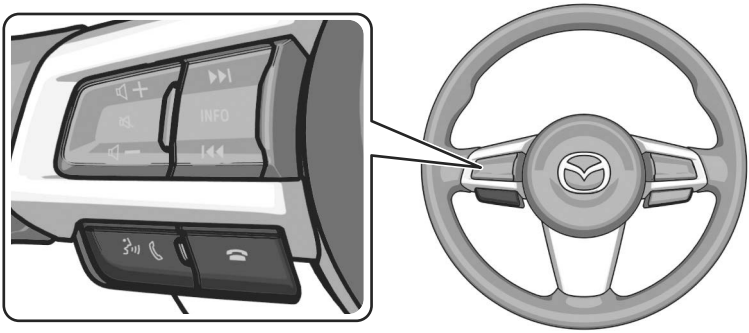


ボタン		説明
	音量調節ボタン	音量調節ボタンを押すことで、音量を調節できます。

ボタン		説明
	ミュートボタン	**消音する** ・ミュートボタンを押すと消音できます。 ・再度ミュートボタンを押すと、消音を解除できます。 **オーディオを一時停止する** ・一時停止が可能なオーディオソースを再生中にミュートボタンを押すと、オーディオソースが一時停止されます。
	選局ボタン	選局ボタンを押すと、ラジオ/テレビの放送局や、オーディオの楽曲を切り替えることができます。
	トーク/ピックアップボタン*1	電話を着信中にボタンを押すと、電話に応答できます。
	ハングアップボタン*1	**通話を終了する** ・通話中にハングアップボタンを押すと、通話を終了できます。 **通話を保留する** ・電話を着信中にハングアップボタンを押すと、応答保留になります。

*1　トーク/ピックアップボタンとハングアップボタンは、音声認識での操作でも使用します。

音声認識機能での操作



ボタン		説明
	トーク/ピックアップボタン	**音声認識を起動する** ・トーク/ピックアップボタンを押すと、音声認識を起動できます。また、音声認識のトップ画面が表示されます。 **音声認識を終了する** ・トーク/ピックアップボタンを長押しすると、音声認識を終了できます。 **音声ガイダンスをスキップする** ・音声ガイダンスが流れているときにトーク/ピックアップボタンを押すと、音声ガイダンスをスキップできます。
	ハングアップボタン	ハングアップボタンを押すと、音声認識を終了できます。

音声認識のトップ画面では、それぞれのカテゴリーにおいて有効な音声コマンドの例が表示されます。有効な音声コマンドではないものは、システムに認識されません。

知識

車両の仕様やモバイル機器の接続状況によっては、使用できない音声コマンドがあります。

Apple CarPlay または Android Auto™を接続中にトーク/ピックアップボタンを短押しすると、マツダコネクトの音声認識/Alexa が起動します。また、トーク/ピックアップボタンを長押しすると、Siri または Android Auto™の音声認識が起動します。

音声ガイダンスが流れている間でも音声コマンドを発話して操作することができます (バージイン機能)。ただし、ガイダンス音量を大音量に設定すると、音声コマンドが正しく認識されないことがあります。
“バージイン”の設定はマツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

音声認識を失敗しないようにするために、次のポイントに注意してください

・必要以上にゆっくり発話せず、通常話すときの速さで発話してください。
・少し大きめの声で発話すると認識されやすくなりますが、過度に大声を出す必要はありません。同乗者に話しかけるよりも少し大きめの声が目安です。
・単語や数字の間で区切らないように発音してください。
・マイクの方を向いたり、マイクに近づいたりする必要はありません。運転姿勢を維持したまま、音声コマンドを発話してください。
・車外の雑音や車内の気流の乱れにより、音声コマンドが正しく認識されないことがあります。
・モバイル機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
・モバイル機器側の電話帳の人物を音声認識で呼びだす場合、登録されている名前が長いほど認識率が向上します (「はは」、「いえ」、「つま」などのように短い場合、認識に失敗することがあります)。

マツダコネクトを OFF/ON にする

OFF にする

音量ノブを長押しすると、マツダコネクトが OFF になり画面が消えます。

ON にする

マツダコネクトを ON にする方法は 2 つあります。

・音量ノブを押す
・コマンダーノブを押す

付録

Gracenote® データベース

USB オーディオ、Bluetooth®オーディオを再生した場合、車両に収録されているデータベースの中からアルバムアートを検索し、情報がデータベースに収録されていると、情報を自動で付与します。本機に収録されているデータベース情報は、Gracenote®音楽認識サービスのデータベース情報を使用しています。

テレビ*

⚠ 注意

本機は、ARIB (電波産業会) 規格にもとづいた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。

各社の商標および製品商標に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

本機に搭載されているソフトウェア、またはその一部につき、改変、翻訳、翻案、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行なったりそれに関与してはいけません。

本機を、法令により許されている場合を除き、日本国外に持ち出してはいけません。

コンテンツ権利保護専用方式について

本機は、コンテンツ権利保護専用方式 (ソフトウェア方式) を採用しています。そのため、B-CAS カードは不要です。

Apple CarPlay

⚠ 注意

適用法によって認められる最大の範囲で Apple CarPlay (以下「アプリケーション」) およびその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証をともなわない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客さまの責任の下で使用されるものとします。
アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害などについて、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。

⚠ 注意

なお、当該損害などには以下のものを含みます。

- 逸失利益
- データの破損または損失
- 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失など

Apple CarPlay を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Apple CarPlay を使用してください。

知識

Apple CarPlay は Apple 社によって提供されています。使用するには Apple iOS 利用規約および Apple CarPlay 利用規約に同意していることを条件としています。

Apple CarPlay 使用中は、場所や速度などの車両データが iPhone に転送されます。詳しくは Apple プライバシーポリシーを参照ください。

Android Auto™

⚠ 注意

適用法によって認められる最大の範囲で Android Auto™ (以下「アプリケーション」) およびその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証をともなわない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客さまの責任の下で使用されるものとします。
アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害などについて、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
なお、当該損害などには以下のものを含みます。

- 逸失利益
- データの破損または損失
- 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失など

Android Auto™を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Android Auto™を使用してください。

知識

Android Auto™は Google 社によって提供されています。使用するには Android Auto™利用規約に同意していることを条件としています。

Android Auto™使用中は、場所や速度などの車両データが Android™スマートフォンに転送されます。詳しくは Google プライバシーポリシーを参照ください。

商標について

- iPhone, iPod touch, iPod nano, Siri and Lightning are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
- The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.
- Apple CarPlay is trademarks of Apple Inc.
- Use of the Apple CarPlay logo means that a vehicle user interface meets Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this vehicle or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this product with iPhone, iPod may affect wireless performance.
- iOS is a trademark or registered trademark of Cisco in the U.S. and other countries and is used under license.
- “Made for iPhone” and “Made for iPod” mean that an accessory has been designed to connect specifically to iPhone or iPod, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.
  Please note that the use of this accessory with iPhone or iPod may affect wireless performance.



Made for

- iPhone 12 Pro Max
- iPhone 12 Pro
- iPhone 12
- iPhone 12 mini
- iPhone SE (2nd generation)
- iPhone 11 Pro Max
- iPhone 11 Pro
- iPhone 11
- iPhone XS Max
- iPhone XS
- iPhone XR
- iPhone X
- iPhone 8 Plus
- iPhone 8
- iPhone 7 Plus
- iPhone 7
- iPhone SE
- iPhone 6s Plus
- iPhone 6s

・iPhone 6 Plus
・iPhone 6
・iPhone 5s
・iPod touch (7th generation)
・iPod touch (6th generation)

・Google, Android, Android Auto and other related marks are trademarks of Google LLC.
・AUDIOPILOT は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
・Windows Media and Microsoft are registered trademarks of Microsoft Corporation U.S. in the United States and other countries.
・This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.
・Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック(株)はこれらのマークをライセンスにもとづいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。



・SDHC Logo is a trademark of SD-3C, LLC.



・HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。
・Gracenote、Gracenote ロゴとロゴタイプ、“Powered by Gracenote”ロゴ、Gracenote MusicID は、米国およびその他の国における Gracenote Inc. の登録商標または商標です。



・本製品は、MPEG-4 Patent Portfolio License、AVC Patent Portfolio License および VC-1 Patent Portfolio License にもとづきライセンスされており、以下に記載する行為に係るお客さまの個人的かつ非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。
・画像情報を MPEG-4 Visual、AVC、VC-1 規格に準拠して (以下、MPEG-4/AVC/VC-1 ビデオ) を記録すること。
・個人的活動に従事する消費者によって記録された MPEG-4/AVC/VC-1 ビデオ、または、ライセンスをうけた提供者から入手した MPEG-4/AVC/VC-1 ビデオを再生すること。
詳細については MPEG LA, L.L.C. (http://www.mpegla.com) をご参照ください。
・Amazon、Alexa、Echo およびこれらに関連するすべての商標は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

Alexa

Alexa について

車内で Alexa に話しかけることができます。Alexa はハンズフリーで簡単に使用でき、運転姿勢のまま、発話によって車両機能の操作が可能です。
Alexa の音声認識によりナビゲーション、ハンズフリー電話、オーディオ機能などが操作できます。
また、Alexa のさまざまな機能 (天気予報、ニュース機能、ショッピング、スマートホーム*1 など) も利用できます。
*1　Alexa の一部の機能は、お使いの際にスマートホーム製品との連携が必要です。
Alexa は Amazon が提供するサービスで、Amazon 利用規約およびプライバシーポリシーが適用されます。マツダはお客さまの Amazon アカウントにアクセスできません。

Alexa 使用上の警告･注意

⚠ 注意

Amazon アカウントにサインインしているときは、Alexa は同乗者やお客さま以外の方でも操作できます。Alexa および Amazon アカウントの不正使用を避けるため、車両を他人に貸し出し、売却する場合は、Amazon アカウントからサインアウトしてください。Amazon アカウントからのサインアウトは、設定初期化でも可能です。

Alexa の使いかた

Alexa を利用する前に

Alexa を利用するために、車両と Amazon クラウドとで通信を行なう必要があります。コネクティッドサービス機能または Wi-Fi クライアント機能を有効にしてください。なお、Alexa でストリーミング配信の音楽などを再生するには、Wi-Fi クライアント機能で通信する必要があります。

コネクティッドサービス機能

コネクティッドサービス取扱説明書を参照してください。

Wi-Fi クライアント機能の設定

次の手順で Wi-Fi クライアント機能を設定してください。
1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。
2. “モバイル機器連携”を選択する。
3. “Wi-Fi クライアント設定”を選択する。
4. “Wi-Fi クライアント”が有効になっているか確認する。
5. “周辺ネットワーク検索”または “簡単接続”から、使用するデバイスとの Wi-Fi 接続を行なうことができます。

Wi-Fi クライアント機能は、お客さまのモバイル機器を利用して通信するため、通信料はお客さまのご負担となります。Wi-Fi クライアント機能を有効にした場合、Apple CarPlay の接続方法は USB 接続のみになります。

次の手順で Amazon アカウントにサインインしてください。
1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。
2. “Alexa”を選択する。
3. “サインイン”を選択する。
4. マツダコネクトの画面にしたがって、サインインしてください。

知識

Alexa でストリーミング配信の音楽などを再生しているとき、電波状態などにより、ノイズが発生したり、音楽が途切れたりすることがあります。

12 V バッテリーを脱着した後、GPS 信号を受信するまで Alexa を利用できません。GPS 信号を受信できる場所に車両を移動してください。

Alexa を利用するとき

Alexa の利用方法は 2 つあります。

・“アレクサ”と発話する*1
・トーク/ピックアップボタンを押す*2

*1　マツダコネクトの“Alexa”で“Alexa ハンズフリー”を有効にしているときに利用できます。
*2　マツダコネクトの“Alexa”で“トークボタンで起動”を有効にしているときに利用できます。

Alexa で操作できる主な機能は次のとおりです。これら以外の機能例もマツダコネクトで確認できます。

・ナビゲーションの目的地の設定と消去
・ハンズフリー電話

Alexa の機能例を確認するとき

1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。
2. “Alexa”を選択する。
3. “試してみよう!”を選択する。

Amazon アカウントからサインアウトするとき

1. “Alexa”のメニュー画面から“サインアウト”を選択する。
2. マツダコネクトの画面にしたがって、サインアウトしてください。

マツダエマージェンシーコール

マツダエマージェンシーコールについて

エアバッグが展開される衝突事故を車両が検知した場合や、SOS ボタンを押した場合に、緊急通報オペレーターを通じて緊急車両の手配などを行なうことができます。
また、交通事故発生時、車両データの活用によりお客さまの重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行なう D-Call Net®にも対応しています。

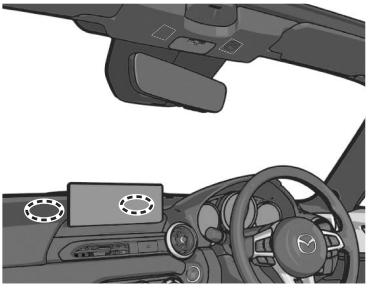
注意

マツダエマージェンシーコールを作動させるためには、コネクティッドサービスの契約が必要になります。
詳しくはコネクティッドサービス取扱説明書をご確認ください。
(URL)
https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/

マツダエマージェンシーコール使用上の警告･注意

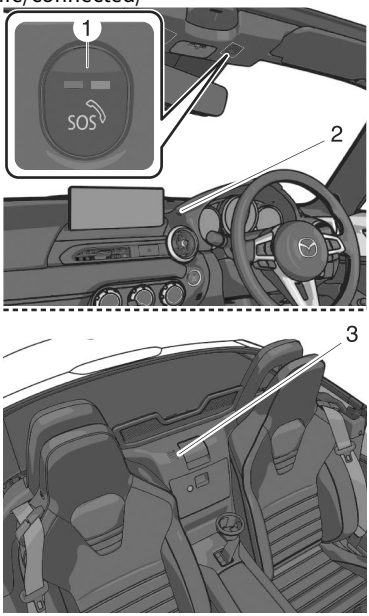
⚠警告

コネクティッドサービス使用時､植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方はアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により､医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



マツダエマージェンシーコールの使いかた

詳しくはコネクティッドサービス取扱説明書をご確認ください。
(URL)
https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/



1 SOS ボタン
2 マイク
3 スピーカー

収納

収納使用上の警告･注意

⚠ 警告

荷物を積むときは確実に固定する。
荷物を確実に固定しないと､走行中や急ブレーキ時などに荷物が移動したりくずれたりして､けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

フタ付きの収納は走行中必ずフタを閉めてください。急ブレーキ時や衝突時にフタや内部の物が飛散してけがをするおそれがあります。

フタのついていない収納スペースに物を入れるときは、収納のしかたに注意してください。収納の状態により、急ブレーキや急旋回時、急加速時などに内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こしたりすることがあります。

カップホルダー

カップホルダー使用上の警告・注意

⚠注意

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

ペットボトル、カップ、缶以外のものを置かないでください。走行中に落ちて、けがをするおそれがあります。

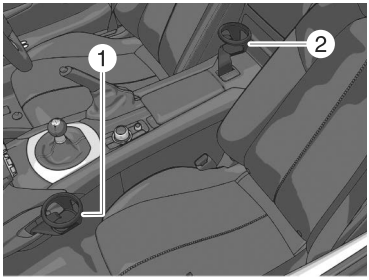
ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中にペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。

手をついたり、ひじをかけたりして無理な力をかけないでください。無理な力をかけると破損するおそれがあります。

同乗者がいる場合は、前側のカップホルダーをリアコンソールに取り付けて使用してください。前側で使用すると、ひざなどがあたり、中身がこぼれるおそれがあります。

カップホルダーを取り付けるときは、取り付け穴の奥まで差し込み、固定されていることを確認してください。固定されていないと、走行中にカップホルダーがはずれて、飲み物などがこぼれるおそれがあります。

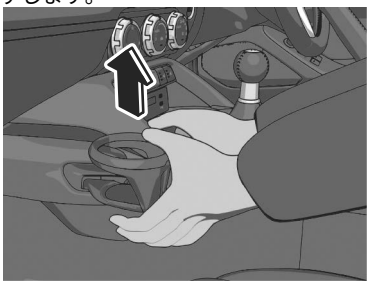
カップホルダーの使いかた



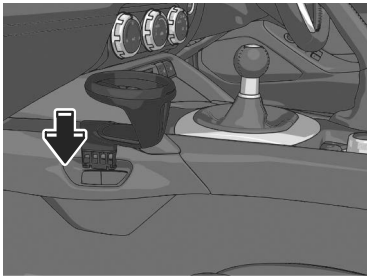
1 前側
2 後側*

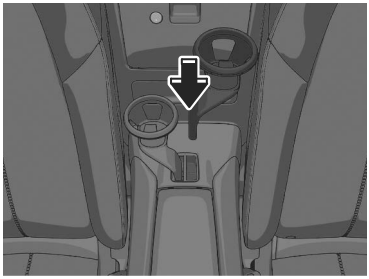
取りはずすとき

取りはずすときは両手で取りはずします。



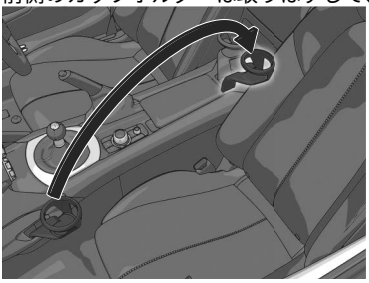
取り付けるとき





知識

前側のカップホルダーは取りはずして、リアコンソールに取り付けることができます。



後側のカップホルダーはリアコンソール専用のため前側に取り付けることはできません。

知識



センターコンソール

センターコンソール使用上の警告･注意

注意

フタを操作するときは､フタの可動域周辺に手や指を置かないでください。手や指などをはさんで､けがをするおそれがあります。

センターコンソールの使いかた



リアコンソールボックス

リアコンソールボックス使用上の警告･注意

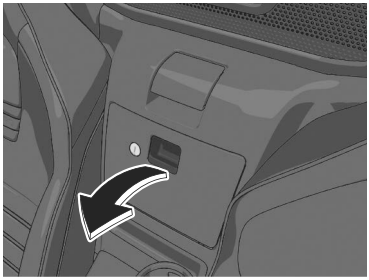
⚠ 注意

コンソール後側のカップホルダーを使用している場合は､カップなどを取り除いてからリアコンソールボックスを開いてください。カップなどを置いたまま､リアコンソールボックスを開くとフタがカップなどにあたり､中身がこぼれるおそれがあります。

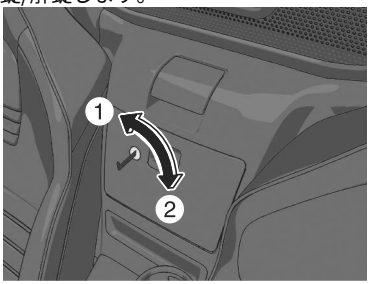
リアコンソールを使用する際、シートとリアコンソールが干渉して、シートがこすれて損傷する可能性があります。リアコンソールを使用する場合は、シートを前方まで動かしてください。

リアコンソールボックスの使いかた

ノブを下に押しながらリアコンソールボックスを開く。



閉めるときは､カチッと音がするまでリアコンソールボックスを押さえる。
補助キーを差し込みまわすと施錠/解錠します。



1 解錠
2 施錠

リアストレージボックス

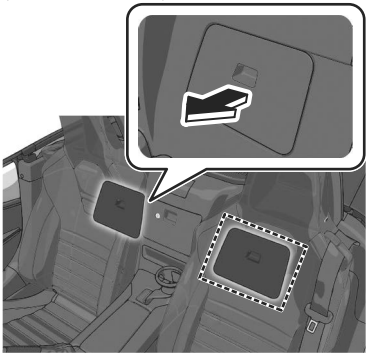
リアストレージボックス使用上の警告･注意

⚠ 注意

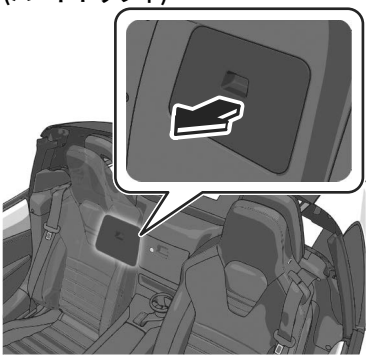
リアストレージボックスに無理に物を押しこまないでください。無理に押しこむと破損するおそれがあります。

リアストレージボックスの使いかた

1. シートをいちばん前へスライドさせ､背もたれを前に倒す。
2. **(ソフトトップ車)**



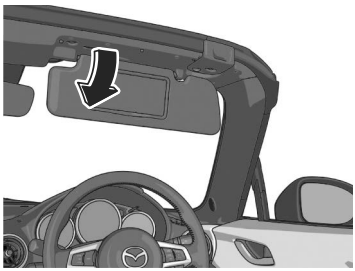
(ハードトップ車)



使用後はシートをもとの位置にもどします。
もどした後は､シート､背もたれを前後に軽くゆさぶって､確実にロックされていることを確認してください。

サンバイザー

サンバイザーの使いかた



バニティミラー

バニティミラーの使いかた

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。

ルームランプ

イルミネーテッドエントリーシステムについて

運転席ドアの開閉や車両の電源に連動して、室内照明が点灯/消灯します。

イルミネーテッドエントリーシステムの使いかた

ルームランプスイッチが DOOR の位置で、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

・車両の電源が OFF で、ドアを解錠したとき。
・すべてのドアが閉まっている状態で、車両の電源を OFF にしたとき。

次のような操作をすると、ルームランプが消灯します。

・運転席ドアを施錠したとき
・車両の電源を ON にしたとき

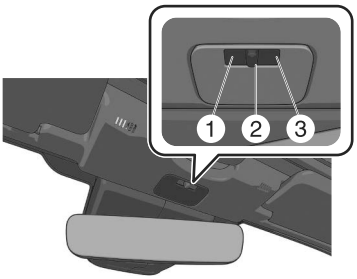
車両の電源が OFF で室内照明が点灯したままのときは、一定時間経過後に消灯します。

知識

イルミネーテッドエントリーシステムが消灯するまでの時間を変更することができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ルームランプスイッチが ON または OFF の位置のときは、イルミネーテッドエントリーシステムは連動しません。

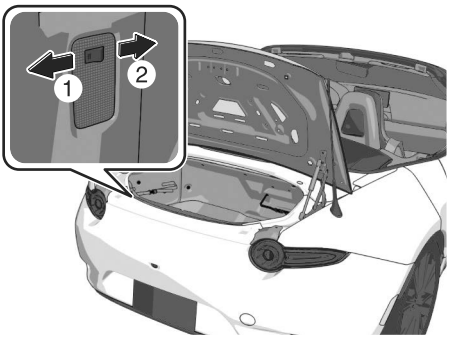
ルームランプの使いかた



1 ON
2 DOOR
3 OFF

・スイッチを ON の位置にする。
ルームランプが点灯します。
・スイッチを DOOR の位置にする。
ドアを開けるとルームランプが点灯し、閉めると消灯します。
イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。
・スイッチを OFF の位置にする。
ルームランプが消灯します。

トランクルームランプの使いかた



1 ON
2 OFF

・スイッチを ON の位置にする。
トランクを開けるとトランクルームランプが点灯し、閉めると消灯します。
・スイッチを OFF の位置にする。
トランクルームランプが消灯します。

電源ソケット

電源ソケットについて

車両の電源が ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120 W (DC 12 V―10 A) 以下の電気製品を使用してください。

電源ソケット使用上の警告・注意

⚠ 注意

使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障につながるおそれがあります。

電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。

消費電力が 120 W (DC12 V―10 A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。

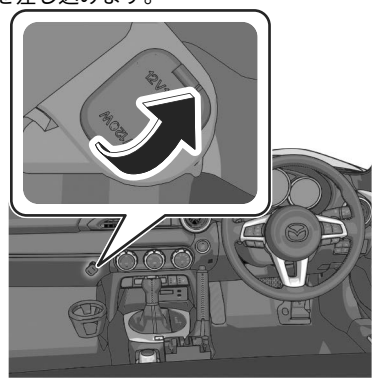
電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。

シガーライターを差し込まないでください。

電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器をはずし、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットからはずした後、車両の電源を OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。

電源ソケットの使いかた

フタを開けて、使用するプラグを差し込みます。



使用後は、プラグを抜き、フタを閉めます。

USB 電源ソケットについて

USB 電源ソケットは車両の電源が ACC または ON のとき、USB デバイスの電源として使用することができます。
USB デバイスは、次の最大消費電力のものだけを使用してください。

Type-C

・18 W (DC 9 V, 2 A) 以下*1
・15 W (DC 5 V, 3 A) 以下

*1　USB Power Delivery 対応機器を接続したとき

USB 電源ソケット使用上の警告・注意

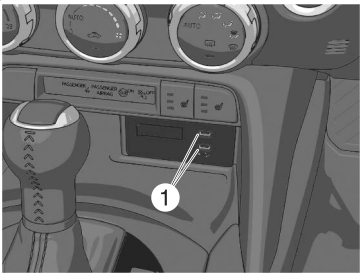
⚠ 注意

USB プラグを USB 電源ソケットに確実に差し込んでください。USB プラグが確実に差し込まれていないと、異常発熱してヒューズが切れることがあります。

3 A を超える電流を必要とする USB デバイスは使用しないでください。故障の原因となることがあります。

USB 電源ソケットの使いかた

使用するプラグを差し込みます。



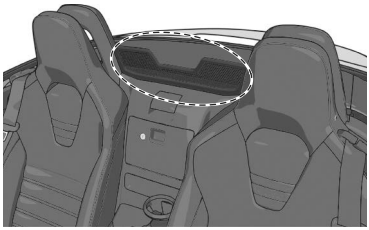
1 USB 電源ソケット
このソケットを使用し、マツダコネクトと接続することができます。
マツダコネクトとの接続方法は、マツダコネクト取扱書を参照ください。

エアロボード

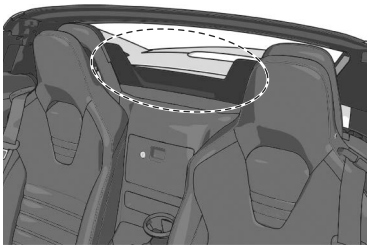
エアロボードについて

エアロボードは、ソフトトップ/リトラクタブルハードトップを開けて走行するとき、後方からの風の巻き込みを防ぎます。

(ソフトトップ車)



(ハードトップ車)



アクセサリー

電気・電子部品/機器使用上の警告・注意

⚠ 注意

車両の電気・電子部品/機器の取り付け、取りはずし、交換をする場合は、マツダ販売店に相談してください。車両や他の部品への悪影響、誤動作や破損、故障の原因になる可能性があります。

フロアマット

フロアマット使用上の警告・注意

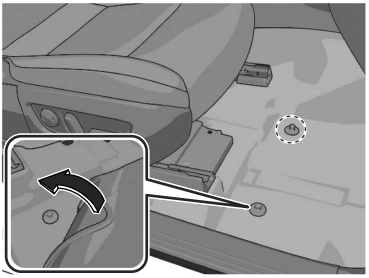
⚠ 注意

フロアマットは車にあったものを使用してください。

フロアマットは重ねて使用しないでください。

フロアマットはフロア上のフックでしっかり固定してください。

⚠ 注意

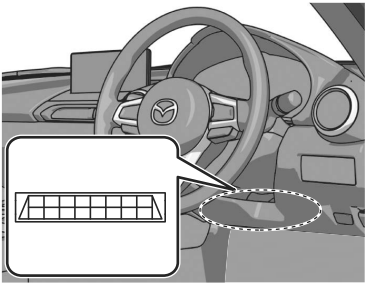


故障診断コネクター

故障診断コネクターについて

⚠ 注意

故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断機以外を接続しないでください。故障診断機以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬ故障につながるおそれがあります。

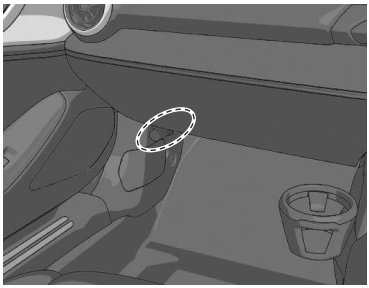


発炎筒

発炎筒について

事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

・使用方法
・使用上の注意事項
・発炎時間
・有効期限



発炎筒使用上の警告･注意

⚠ 警告

油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。
火災につながるおそれがあります。

使用するときは筒先を顔や体に向けたり近づけたりしない。
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにはさわらせない。
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

トンネル内では発炎筒を使用しない。
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

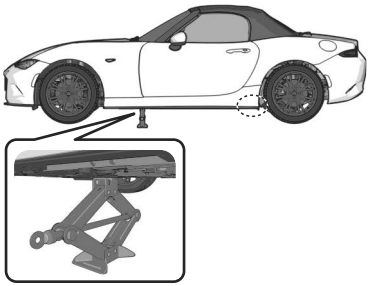
ジャッキ

ジャッキについて

知識

ジャッキはお客さまのお車に標準で搭載されておりません。

ジャッキアップ指定位置



ジャッキ使用上の警告･注意

警告

ジャッキアップするときはチェンジレバーを 1 または R の位置 (マニュアル車)/セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車)に入れ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。
パーキングブレーキをかけて輪止めをしないと、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れたりしない。
車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上にジャッキアップしない。
車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップした状態で車のエンジンを始動しない。
ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップした車の下には絶対に入らない。
万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

MEMO

8 いざというときの対処法

緊急を要するとき..... 8-4
事故に対処する.....8-4
マツダエマージェンシーコールを利用する.....8-4
冠水や浸水しているときの対処をする.....8-4

車両が動けなくなったとき..... 8-5
路上で動けなくなったときの対処をする.....8-5
踏切内で動けなくなったときの対処をする..... 8-6
スタックしたときの対処をする 8-7

フューエルリッドが開けられなくなったとき.....8-7
フューエルリッドを荷室から開ける.....8-7

けん引が必要なとき..... 8-8
けん引してもらう.....8-8
けん引フックを使う.....8-10

キーが作動しないとき..... 8-13
キーの一時停止機能を解除する 8-13
補助キーを使って施錠･解錠する 8-13
電池切れしたキーでエンジンを始動する..... 8-14

エンジンが始動しないとき..... 8-15
12 V バッテリーあがりを処置する.....8-15

エンジンが停止できないとき.... 8-17
エンジンを強制的に停止する 8-17

セレクトレバーが操作できないとき 8-18
シフトロック装置を解除する 8-18

オーバーヒートしたとき..... 8-19
オーバーヒートを処置する 8-19

パンクやバースト (破裂) したとき 8-20
パンクやバースト (破裂) に対処する.....8-20
タイヤパンク応急修理キットを使う.....8-21

ルーフが閉められなくなったとき 8-28
ルーフを手動で閉める..... 8-28

トランクリッドが開けられなくなったとき.....8-43
トランクリッドを車内から開ける.....8-43

パワーウインドーが操作できないとき.....8-50
自動開閉機構を復帰する.....8-50
はさみ込み防止機構を解除する 8-51

フロントワイパーが高速作動するとき..... 8-51
マツダ販売店で点検を受ける 8-51

ウォッシャー液が噴射しないとき 8-51
ウォッシャータンクの液量を確認する..... 8-51

警告灯が点灯したとき..... 8-51
警告灯について..... 8-51
ブレーキ警告灯..... 8-52
充電警告灯..... 8-52
オイル警告灯.....8-53
高水温警告灯.....8-53
電動パワーステアリング警告灯 8-53
ABS 警告灯.....8-54
マスター警告灯..... 8-54
電動バキュームポンプ警告灯 8-54
エンジン警告灯..... 8-55
i-stop 警告灯 (橙)..... 8-55
i-ELOOP 警告灯 (橙).....8-56
TCS/DSC 作動表示/表示灯 8-56
DSC-TRACK 表示灯..... 8-56
エアバッグ/シートベルトプリテンショナー警告灯..... 8-56
アクティブボンネット警告灯 8-57
KEY 警告灯 (赤)..... 8-57
セキュリティ表示灯.....8-57
リトラクタブルハードトップ警告灯.....8-58
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告灯 (橙).....8-58
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告灯 (橙).....8-58
i-ACTIVSENSE 警告灯..... 8-58
エクステリアランプ警告灯 8-59
燃料残量警告灯.....8-59
シートベルト警告灯.....8-59
半ドア警告灯/トランクリッド開警告灯..... 8-60
KEY 表示灯 (緑) (点滅).....8-60
レンチ表示灯.....8-60

チャイムがなったとき.....8-61
ランプ消し忘れ防止チャイム 8-61
リトラクタブルハードトップ警告チャイム.....8-61
電源オフ忘れ警告チャイム 8-61
キー車外持ち出し警報チャイム 8-61
キー車内閉じ込み警報チャイム 8-62
トランク内キー閉じ込み警報チャイム (アドバンストキーレス機能装備車).....8-62
ドアロック不作動警告チャイム 8-62
電動ハンドルロック警告チャイム 8-62
ブレーキシステム警告チャイム 8-62
12 V バッテリー充電量低下チャイム..... 8-62

Alexa が作動しないとき.....8-63
Alexa の設定を確認する.....8-63

MEMO

緊急を要するとき

事故に対処する

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。
1. 事故の続発を防止する。
   他の交通のさまたげにならない安全な場所 (路肩、空き地など) に車を移動させ、エンジンを停止します。
2. 負傷者の救護をする。
   負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
   この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。
3. 警察へ連絡する。
   事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。
4. 相手の氏名、住所などを確認する。
5. マツダ販売店、保険会社へ連絡する。

マツダエマージェンシーコールを利用する

緊急通報オペレーターを通じてコネクティッドサービスを利用することができます。
→7-16 ページ「マツダエマージェンシーコールについて」

冠水や浸水しているときの対処をする

⚠ 警告

冠水した道路や冠水のおそれがある道路は、走行しない。
水位がフロアを超えると、パワーウインドーが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止したりして車が移動できなくなるおそれがあります。

水没し車が移動できなくなったときは

・ドアを開けることができる場合は、ドアを開け車外に出る
・ドアを開けることができない場合、ドアの窓ガラスを開けて窓から車外に出る

知識

車内が浸水していない状態で、車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けるのが難しくなります。車内の水位が車外の水位と同じになると、ドアを開けることができる可能性が高まります。

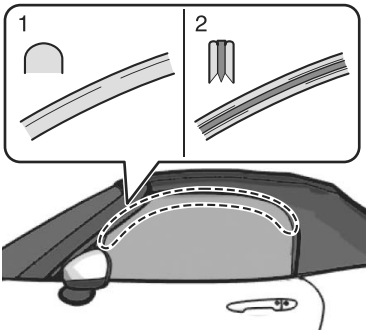
緊急脱出用ハンマーの使用について

使用方法は、脱出用ハンマーに付属している取扱説明書をお読みください。

・フロントガラスは合わせガラスのため、脱出用ハンマーで割ることはできません。
・窓ガラスに合わせガラスを使用しているお車があります。その場合も脱出用ハンマーでは割ることはできません。

知識

ガラスの断面から、ガラスの種類を見分けることができます。平常時にご確認ください。



1 強化ガラスなど: 脱出用ハンマーで割れるガラス
2 合わせガラス: 脱出用ハンマーで割れないガラス

車両が動けなくなったとき

路上で動けなくなったときの対処をする

警告

万一、事故や故障などで車から燃料が漏れている場合は、すぐにエンジンを停止する。
爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

1. 車を路肩に止め、非常点滅表示灯を点滅させる。
   →5-50「非常点滅表示灯について」
2. 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせる。
   →7-31「発炎筒について」
   高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務付けられています。
   停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。

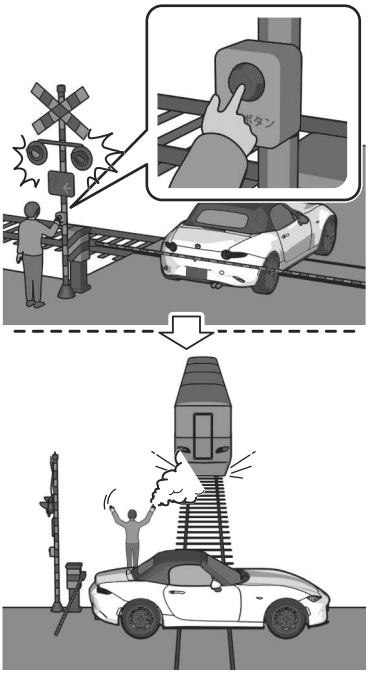


3. 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難する。
4. 安全を確保した後、救援を求める。
   故障の修理などお困りの際はマツダ販売店に連絡してください。

踏切内で動けなくなったときの対処をする

脱輪などで動けなくなったとき

1. 踏切の非常ボタンを押す。
2. 緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図する。
   →7-31「発炎筒について」



3. 付近の人に救援を求める。

エンストで動けなくなったとき

1. エンジンをかけ直す。
2. エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押す。
   緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図する。
   →7-31 ページ「発炎筒について」
3. 付近の人に救援を求める。
4. チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置に入れ、安全な場所まで押し出す。

知識

スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

スタックしたときの対処をする

ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んだりして動けなくなることをスタックといいます。

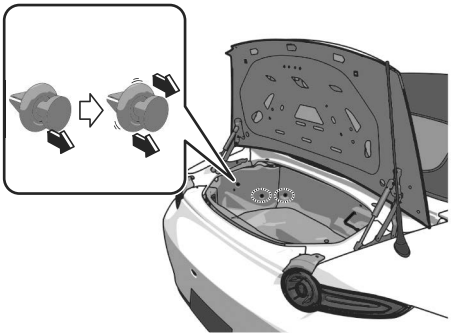
・周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを D または R の位置に入れて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
・タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
・アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させたりしないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

フューエルリッドが開けられなくなったとき

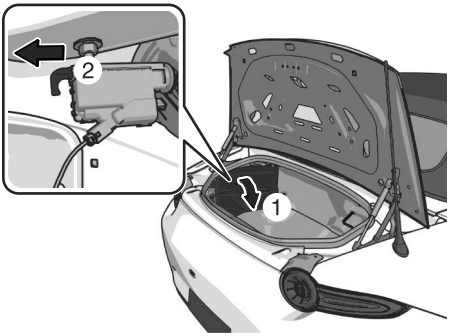
フューエルリッドを荷室から開ける

バッテリーがあがると、フューエルリッドが開けられなくなります。
この場合、バッテリーあがりの対処をすることでフューエルリッドを開けることができるようになります。
→8-15 ページ「12V バッテリーを処置する」
バッテリーあがりの対処をしても、フューエルリッドを開けることができない場合は電気系統の故障が考えられます。
この場合は応急処置として次の手順で開けることができます。

1. トランクを開ける。
   4-12 ページ「トランクの使いかた」
2. ファスナーを取りはずす。



3. トランク内側のカバーをめくります。レバーを引いて、フューエルリッドを開ける。



けん引が必要なとき

けん引してもらう

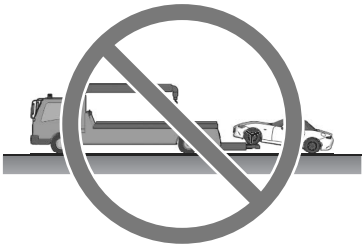
けん引はできるだけマツダ販売店などに依頼してください。特に、エンジンが始動しているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店などに連絡してください。

⚠ 警告

長い下り坂を走行するときは、レッカー車でけん引する。
ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

⚠ 注意

駆動輪が接地した状態でけん引しないでください。駆動装置が破損するおそれがあります。

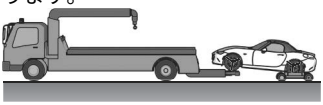


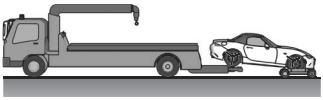
吊り下げタイプのレッカー車の使用は避けてください。車体を傷つけるおそれがあります。

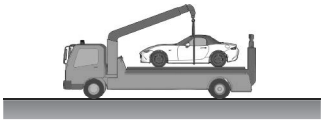
⚠ 注意



パーキングブレーキが解除できないときのけん引は、図のように前後輪をすべて持ち上げた状態で搬送してください。車輪を持ち上げないでけん引すると、ブレーキシステムが破損するおそれがあります。







オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度 30 km/h 以下、走行距離は 30 km 以内にしてください。

ロープでけん引してもらうときの手順については、次の項目を参照してください。
→8-10 ページ「けん引フックを使う」

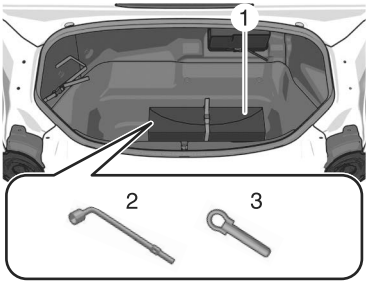
けん引フックを使う

⚠ 注意

けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

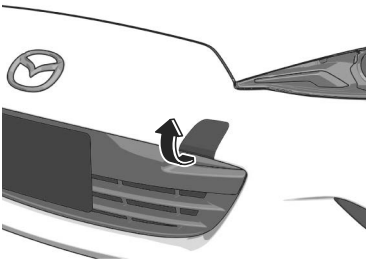
- 自車の重量より重い車はけん引しないでください。
- 急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。
- けん引フック以外にロープをかけないでください。
- 金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端に付いているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

1. けん引フック、ホイールレンチをトランクルームから取り出す。

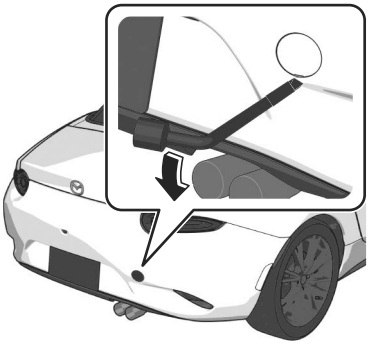


1 工具袋
2 ホイールレンチ
3 けん引フック
各工具の有無と位置は、仕様により異なる場合があります。

2. ホイールレンチなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずす。
フロント



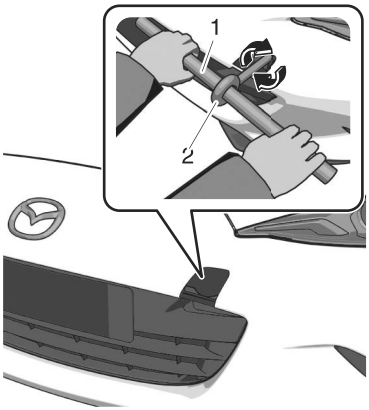
リア



⚠ 注意

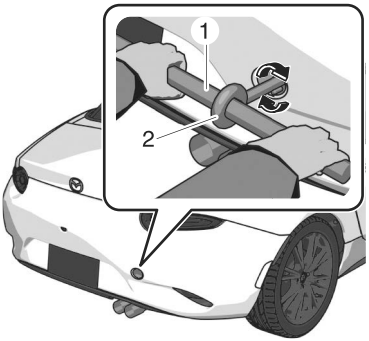
カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。

3. けん引フックを取り付ける。
フロント



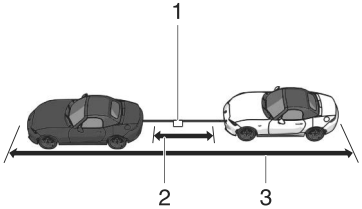
1 ホイールレンチ
2 けん引フック

リア



1 ホイールレンチ
2 けん引フック

4. けん引ロープをフックにかける。



1 ロープの中央に 0.3 m×0.3 m 以上の白い布を必ず付ける。
2 ロープの長さは 5 m 以内にする。
3 全体の長さは 25 m 以内にする。

故障車をけん引するとき

故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

自車をけん引してもらうとき

1. エンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーを N に入れる。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ON にする。

⚠ 警告

エンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。
エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりするなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

2. パーキングブレーキを解除する。
3. ロープをたるませないように走行する。

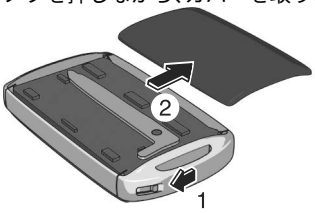
キーが作動しないとき

キーの一時停止機能を解除する

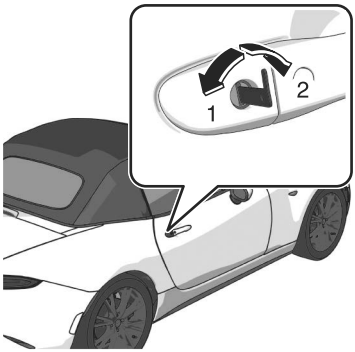
キーが車内にあるとき、車内に置いてあるキーの機能が、盗難防止のために一時停止する場合があります。
この場合は、車内から一時停止したキーのアンロックスイッチを押すと復帰します。

補助キーを使って施錠・解錠する

1. ノブを押しながら、カバーを取りはずす。



2. 補助キーを取りはずす。
3. 補助キーをまわす。
   ドアが解錠します。
   施錠
   次の場所が施錠されます。
   ・すべてのドア
   ・フューエルリッド
   ・トランクリッド
   解錠
   次の場所が解錠されます。
   ・運転席のドア



   1 解錠
   2 施錠
4. 補助キーをもとの位置に取り付ける。

5. カバーのツメを差し込むように取り付ける。



電池切れしたキーでエンジンを始動する

⚠ 注意

次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- キーに他のキーの金属部や金属製のものが接している。



- キーにスペアのキーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある。

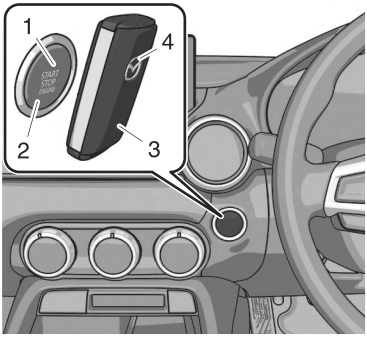


- キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある。

キーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、次の手順でエンジンを始動できます。

1. クラッチペダル (マニュアル車)、またはブレーキペダル (オートマチック車) を踏む。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅します。

2. キーのエンブレム中心をプッシュボタンスタートの中心にあわせる。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯します。



1 表示灯
2 プッシュボタンスタート
3 キー
4 エンブレム

3. プッシュボタンスタートを押す。

知識

プッシュボタンスタート機能に異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯しない場合は、最初から操作を行なってください。それでも点灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

車両の電源を切り替えるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わった後、クラッチペダル (マニュアル車)、またはブレーキペダル (オートマチック車) から足を離してからプッシュボタンスタートを押してください。車両の電源が ACC、ON、OFF の順に切り替わります。なお、車両の電源が OFF になると、それ以降は車両の電源を切り替えることができないため、エンジンを始動する場合は最初から操作してください。

エンジンが始動しないとき

12 V バッテリーあがりを処置する

次のような状態は 12 V バッテリーあがりです。

・エンジンが始動しない。
・ホーンの音が小さい、または鳴らない。
・ランプ類がいつもより極端に暗い。

別売りのブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車の 12 V バッテリーを接続してエンジンを始動します。
自車と同じ 12 V バッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

⚠ 警告

正しく安全に 12 V バッテリーを取り扱うために、12 V バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

必ず保護メガネを着用する。
12 V バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、12 V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

12 V バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、12 V バッテリー液をこぼさない。
12 V バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

絶対に火気を近づけない。
12 V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

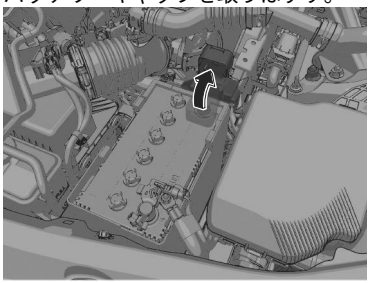
換気の悪い場所では、12 V バッテリーの充電を行なわない。また、充電中は 12 V バッテリーに近づかない。
12 V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ず 12 V バッテリー液の量を点検する。
12 V バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

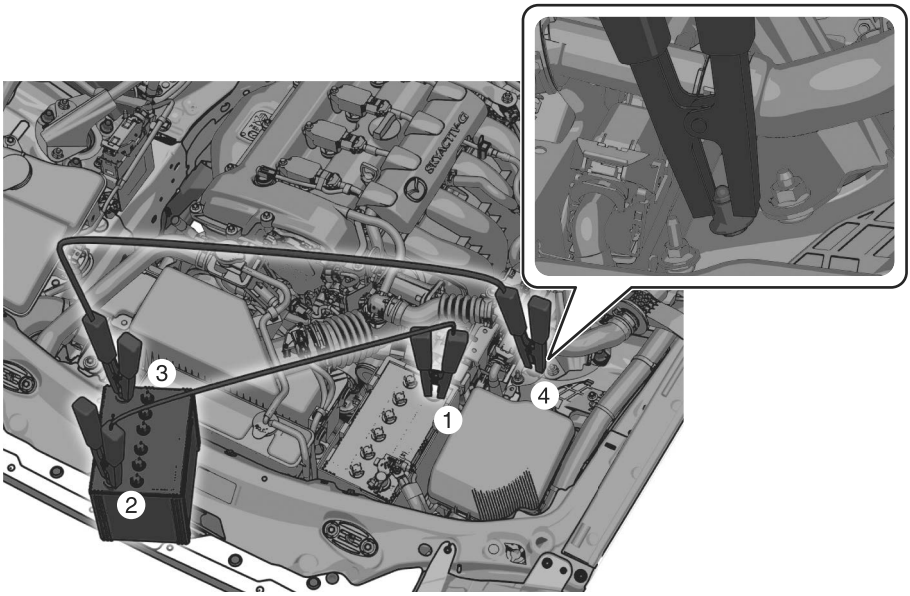
ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

1. ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認する。
2. バッテリーキャップを取りはずす。



3. 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続する。
   ブースターケーブルはエンジンの振動などではずれないよう確実に接続してください。

   1. 1 本目のブースターケーブルを、自車の 12 V バッテリーのプラス (+) 端子に接続する。
   2. 1 本目のブースターケーブルを、救援車の 12 V バッテリーのプラス (+) 端子に接続する。
   3. 2 本目のブースターケーブルを、救援車の 12 V バッテリーのマイナス (-) 端子に接続する。
   4. 2 本目のブースターケーブルを、図で示す場所に接続する。



4. 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにする。
5. 自車のエンジンを始動する。約 3 分間エンジンを回転させて、応急的に自車の 12 V バッテリーを充電する。
6. ブースターケーブルを、接続したときと逆の順で取りはずす。
7. バッテリーキャップを取り付ける。
8. 早めにマツダ販売店で点検を受ける。

押しがけについて

押しがけによる始動はできません。

エンジンが停止できないとき

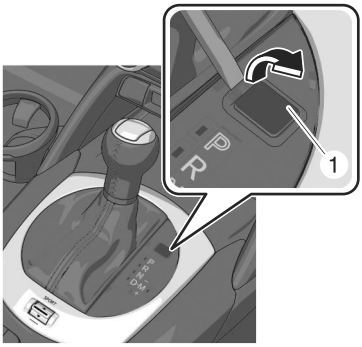
エンジンを強制的に停止する

プッシュボタンスタートを押し続ける、または素早く何度も押す。
エンジンが停止し、車両の電源が ACC になります。

セレクトレバーが操作できないとき

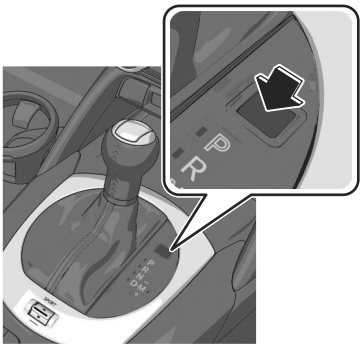
シフトロック装置を解除する

1. マイナスドライバーなどを使用してカバーをはずす。



1 カバー

2. ブレーキペダルを踏む。
3. マイナスドライバーなどを使用してシフトロック解除ボタンを押した状態でセレクトレバーボタンを押し、セレクトレバーを操作する。



1 シフトロック解除ボタン

マツダ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートを処置する

次のようなときは、オーバーヒートです。

・高水温警告灯が点灯し、出力が急に低下したとき。
・エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠ 警告

エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。
エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。



エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。
エンジンが熱いときにラジエーターキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。
特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが停止していてもファンが回転することがあるため、手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

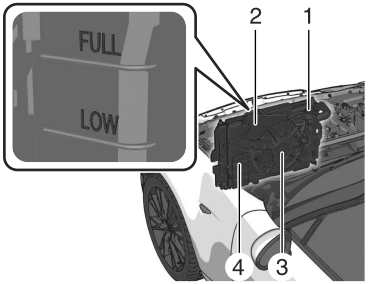
1. 安全な場所に車を止める。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認する。
   エンジンルームから蒸気が出ているときは
   エンジンを停止してください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
   エンジンルームから蒸気が出ていないときは
   エンジンを作動させたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。

   クーリングファンが作動していることを確認し、高水温警告灯が消灯したらエンジンを停止します。

⚠ 注意

クーリングファンが作動していないときは、クーリングファンの故障が考えられます。ただちにエンジンを停止し、マツダ販売店にご連絡ください。

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検する。冷却水量が不足しているときは(1)ラジエーター、(2)リザーバータンクの順に冷却水を補充する。
   冷却水がない場合は一時的に水を補充してください。
   補充後はキャップを確実に取り付けてください。



1 ラジエーターキャップ
2 リザーバータンク
3 クーリングファン
4 ラジエーター

4. 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受ける。

パンクやバースト (破裂) したとき

パンクやバースト (破裂) に対処する

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

・ハンドルがとられるとき。
・異常な振動があるとき。
・車両が異常に傾いたとき。

タイヤパンク応急修理キットを使う

タイヤパンク応急修理キットについて

本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤに刺さった釘やネジなどを抜かず、応急修理してください。

⚠ 警告

万一誤飲したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。
修理剤を誤飲すると健康に害があります。

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したりしたときは、すぐに多量の水で洗浄する。
それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

お子さまには修理剤をさわらせない。
誤って使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

天然ゴムに対するアレルギーを有する人は修理剤に触れない。
アレルギー症状を発症する可能性があります。

知識

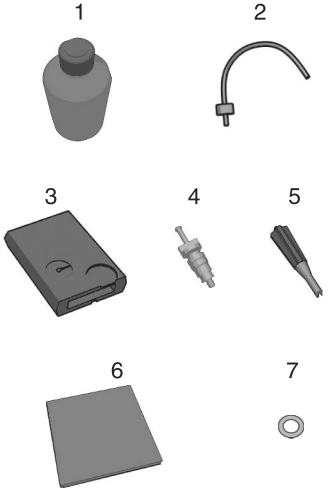
お客さまの車にはスペアタイヤが標準装備されておりません。パンクした場合は応急処置としてタイヤパンク応急修理キットをお使いください。お使いの際は、本キットに同梱されている取扱説明書をご参照ください。本キットでの応急処置後は、マツダ販売店などでできるだけ早くタイヤの修理または交換を行なってください。

一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。

次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店などに連絡してください。

・修理剤の有効期限が切れているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
・約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
・タイヤ側面、ホイール、バルブなど、タイヤ接地部以外が損傷を受けたとき
・タイヤがホイールからはずれているとき
・タイヤが 2 本以上パンクしているとき

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。

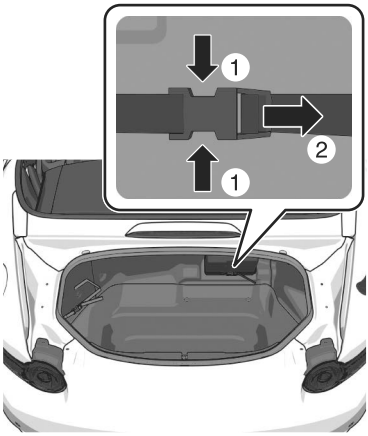


1 修理剤
2 注入ホース
3 エアコンプレッサー
4 予備バルブコア
5 コアまわし
6 取扱説明書
7 速度制限シール

タイヤパンク応急修理キットを使う

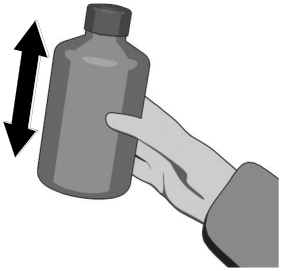
1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動する。
2. チェンジレバーを 1 または R の位置 (マニュアル車)/セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車)に入れ、車両の電源を OFF にする。
3. 必要に応じて、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用する。

4. 人や荷物を降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。



タイヤパンク応急修理キットの位置は仕様により異なる場合があります。

5. 修理剤のボトルをよく振る。



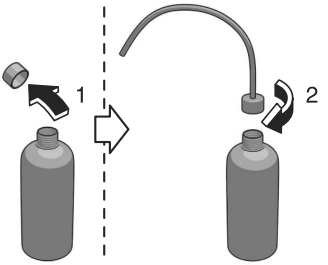
⚠ 警告

注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。
注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、衣服などに付着すると取れないおそれがあります。

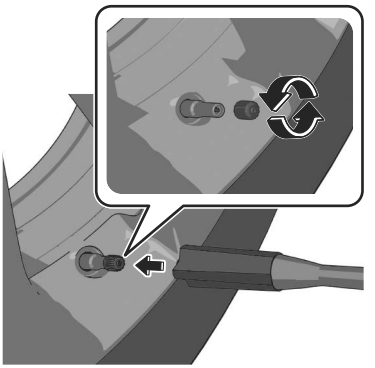
知識

修理剤が使用可能な外気温は−30 °C 以上です。
0 °C 以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで温めると注入作業がしやすくなります。

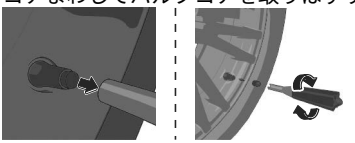
6. ボトルのキャップをはずし、内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込む。(ねじ込むことで、ボトルの内ぶたが破れる)



7. パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜く。



8. コアまわしでバルブコアを取りはずす。



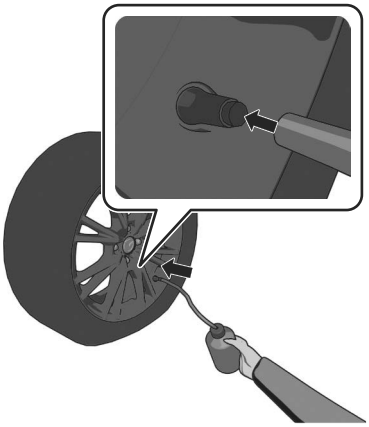
⚠ 注意

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。
バルブコアは慎重に取りはずしてください。

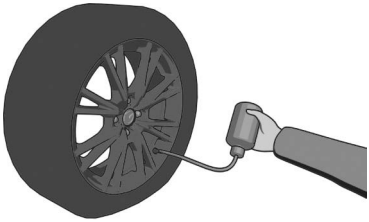
知識

バルブコアは汚れないように保管してください。

9. 注入ホースをバルブに差し込む。



10. 手でボトルを圧迫し、修理剤をすべてタイヤの中に注入する。



11. 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわしてバルブコアを取り付ける。
その後、残った修理剤が漏れないようにするために、注入ホースをタブに取り付ける。



知識

注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または修理の際に使用済み修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。

12. 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼る。

⚠ 警告

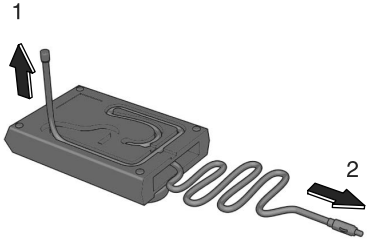
ハンドルのパッド部に速度制限シールを貼らない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

⚠ 注意

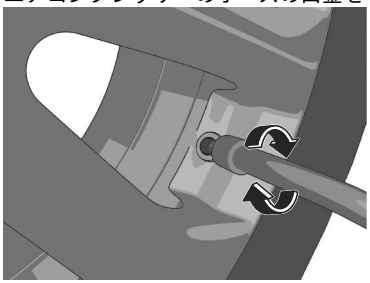
速度制限シールをメーターパネルやディスプレイなどに貼らないでください。剥がすときに傷がつくおそれがあります。

速度制限シールは、タイヤ修理交換後すみやかに剥がしてください。

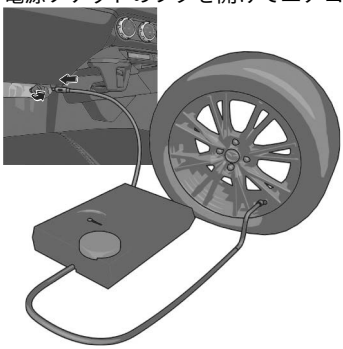
13. エアコンプレッサーからコンプレッサーホースと電源プラグを引き出す。



14. エアコンプレッサーのホースの口金を右にまわしてバルブに取り付ける。



15. 電源ソケットのフタを開けてエアコンプレッサーのプラグを差し込み、車両の電源を ACC にする。



⚠ 注意

電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。

エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。

16. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧する。

知識

タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼り付けられているラベルで確認してください。

エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。

タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店などに連絡してください。

空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。

17. 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースの口金をバルブから抜く。
18. バルブキャップを取り付ける。
19. 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、ただちに走行を始める。

⚠ 注意

80 km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80 km/h を超えた速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

20. 10 分間もしくは 5 km 程度走行後に手順 14 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を確認する。適正空気圧より低下していたら、手順 15 の作業から再度行なう。

⚠ 警告

空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店などに連絡する。
本修理キットによる応急修理はできません。

手順 14〜19 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。
マツダ販売店などに連絡してください。

⚠ 注意

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

21. 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理・再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早く新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理・再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

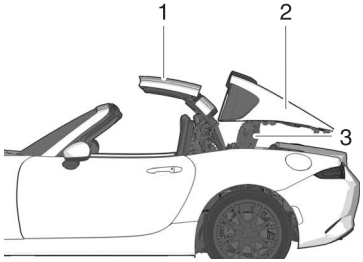
ルーフが閉められなくなったとき

ルーフを手動で閉める

ルーフがリトラクタブルハードトップスイッチで閉まらなくなったときは、ルーフの作動条件を確認してください。
→4-28 ページ「リトラクタブルハードトップの使いかた」
ルーフの作動条件をすべて満たしているにも関わらず閉まらない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。 緊急時は、応急処置として手動でルーフを閉めることができます。
手動でルーフを閉める手順は以下のとおりです。

1. **リアルーフを開ける**
   リアルーフを固定しているロックを解除し、リアルーフを開ける。
2. **フロントルーフを閉める**
   フロントルーフを持ち上げて閉める。

3. **リアルーフを閉める**
   ロープをリアルーフのリンクに結びつけ、リアルーフを閉める。



1 フロントルーフ
2 リアルーフ
3 リアルーフリンク

⚠ 注意

- ルーフが半開の状態では走行しないでください。風にあおられ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 風が強いときには作業を行なわないでください。風にあおられ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 作業は必ず大人 2 人で行なってください。特に、フロントルーフを持ち上げる作業は、必ず大人 2 人以上で行なってください。2 人いない場合は作業を行なわないでください。けがをするおそれや、車両を損傷させるおそれがあります。
- 作業には、複数の工具を同時に使用するなど、技術が必要な作業があります。また、長時間無理な姿勢を続ける作業、力が必要な作業や、けがをするおそれのある箇所が含まれます。マツダ販売店で点検を受けていただくことをおすすめします。

知識

・本作業は緊急時の応急処置として手動でルーフを閉める処置です。作業後はマツダ販売店での復旧作業を行なうまで、電動での操作はできません。
・懐中電灯などを使用すると、作業がしやすくなります。

手動で閉める前に

⚠ 警告

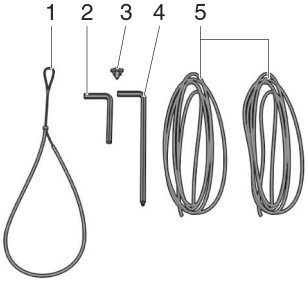
手動でルーフを閉める前に電源ポジションが OFF になっていることを確認する。
突然ルーフが動き出し、手や指を挟むなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. 交通のさまたげにならず、安全に作業できる平らで固い地面がある場所に車を停車させる。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P に入れる。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、電源ポジションを OFF にする。

4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用する。

工具の準備

リアコンソールボックス内にある 5 種類の工具を用意します。
→7-23 ページ「リアコンソールボックスの使いかた」



1 ワイヤー
2 L 型六角レンチ (小)
3 ギヤ
4 型六角レンチ (大)
5 ロープ

リアルーフを開ける

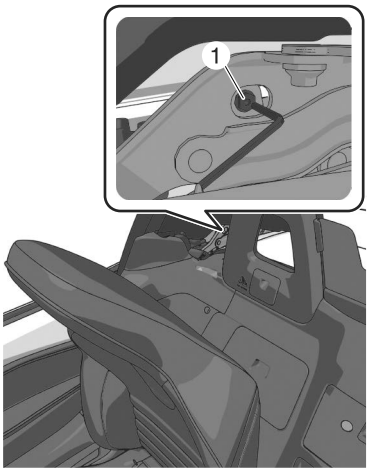
⚠ 注意

ボルトをまわす作業をするときは、フロントルーフの上に布を置いて作業をしてください。L 型六角レンチがルーフにあたると、フロントルーフに傷がつくおそれがあります。
ボルトをまわす作業をするときは、格納されたフロントルーフとのすき間が狭いため、L 型六角レンチがルーフにあたらないように注意してください。

知識

シートを最前部に移動させ、背もたれを前方へ倒すと作業がしやすくなります。
→3-17 ページ「シートの使いかた」

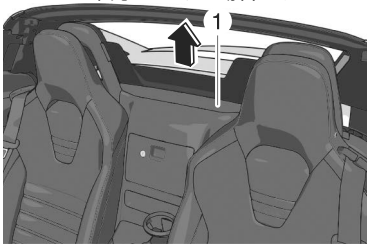
1. アンテナを取り付けている場合は、アンテナを取りはずす。
2. モーターブラケットのボルトにL型六角レンチ (大) の短い方を差し込む。



1 ボルト

知識

ボルトが確認しにくい場合は、エアロボードを取りはずして、車両中央から確認してください。

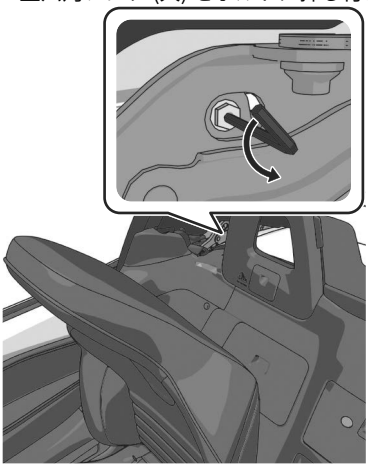


1 エアロボード

3. L 型六角レンチ (大) を反時計回りにまわして、ボルトを少しゆるめる。



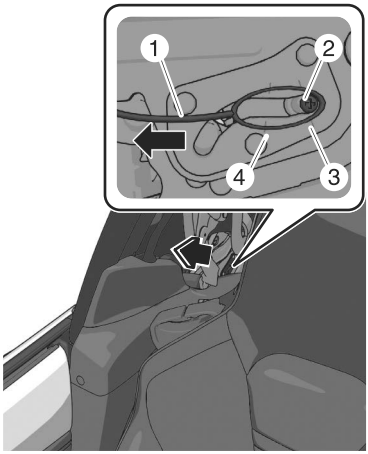
4. L 型六角レンチ (大) をいったんボルトから取りはずし、長い方をボルトに差し込む。
5. L 型六角レンチ (大) をボルトに押し付けながら、反時計回りに 13 回転以上まわす。



知識

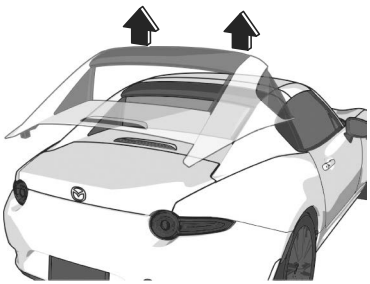
・L 型六角レンチ (大) の長い方の先端は角度を付けて作業することができる形状になっています。少し上方に傾けて作業すると、格納されたフロントルーフとのすき間が広くなり、作業がしやすくなります。
・ボルトは完全には取りはずせません。
・ボルトが回りにくいときは、手順 3 を 2～3 回繰り返してください。

6. ワイヤーを図の位置に引っかけます。



1 ワイヤー
2 ピン
3 施錠
4 解錠

7. 1 人がリアルーフを上から押さえながら、もう 1 人がカチッと音がするまでワイヤーを引っ張って、リアルーフのロックを解除する。
8. 反対側も同様の作業を行なう。
9. 車両の両側に立ち 2 人で左右の高さを平行に保ちながら、リアルーフが止まる位置まで持ち上げる。



⚠ 注意

リアルーフが完全に開くまで手を離さないでください。リアルーフが下がり、けがをするおそれがあります。

リアルーフは無理に持ち上げないでください。ロックが解除されていない場合、リアルーフを無理に持ち上げると車両部品を破損させるおそれがあります。

リアルーフは左右の高さがなるべく平行になるように持ち上げてください。左右の高さがねじれたままリアルーフを持ち上げるとリンク機構が変形するおそれがあります。

フロントルーフを閉める

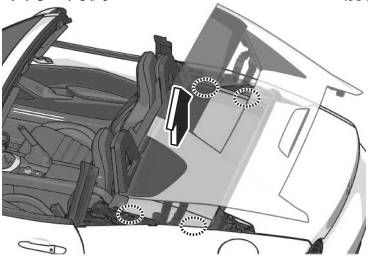
⚠ 注意

作業には、長時間無理な姿勢を続ける作業、力が必要な作業や、けがをするおそれのある箇所が含まれます。

フロントルーフを閉めるときは、手や指を挟まないように十分に注意しながら作業を行なってください。手や指をはさみ、けがをするおそれがあります。

作業にはトップシーリングをはずす作業が含まれますが、トップシーリングを取りはずした状態では絶対に走行しないでください。トップシーリングを取りはずした状態での走行は法律で禁止されています。手順にしたがって確実に作業を行なってください。

1. 車両の両側に立ちフロントルーフの前側と後側を持ち、フロントルーフを上方に引き出す。



2. フロントルーフの後側の手をフロントルーフの前側に持ち替えて、フロントルーフを前方に引き出す。



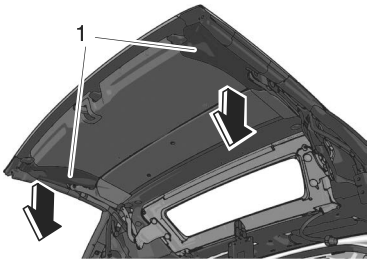
3. フロントルーフの前側が少し開いた状態で止める。



知識

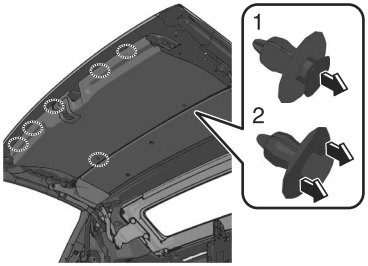
完全に閉めると、次の作業を行なうことができません。

4. 車内から左右のリンクカバーを手で引っ張って取りはずす。

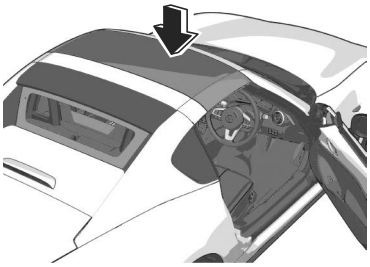


1 リンクカバー

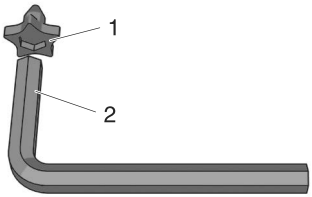
5. ファスナーを取りはずし、トップシーリングを取りはずす。



6. 車外からフロントルーフの前側を軽く押さえて、フロントルーフを閉める。

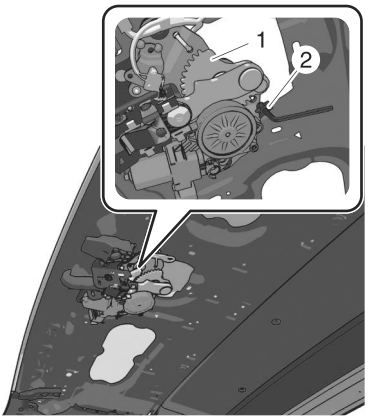


7. 六角レンチ (小) の短い方を工具のギヤに差し込む。



1 ギヤ
2 六角レンチ (小)

8. 車内から、六角レンチを差し込んだままのギヤの先端をトップロックモーターギヤ横の穴に差し込む。

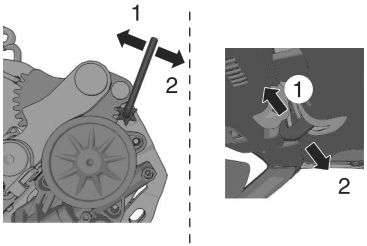


1 トップロックモーターギヤ
2 ギヤ

⚠ 注意

ギヤとトップロックモーターギヤの歯がかみ合うまで、確実に差し込んでください。確実に差し込んでいないと、不意にギヤがはずれ、破損するおそれがあります。

9. トップシーリングの開口部がフックに引っかけられる程度のすき間を残すように、六角レンチをまわしてフックを施錠方向に移動させる。

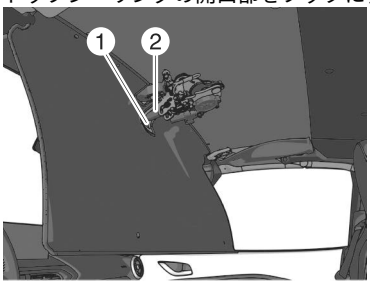


1 施錠
2 解錠

知識

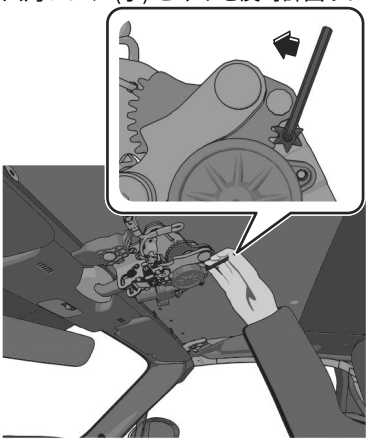
ギヤをまわすときはモーターの抵抗により回転させるときに力が必要です。ゆっくりと六角レンチをまわしてください。

10. トップシーリングの開口部をフックに引っかける。



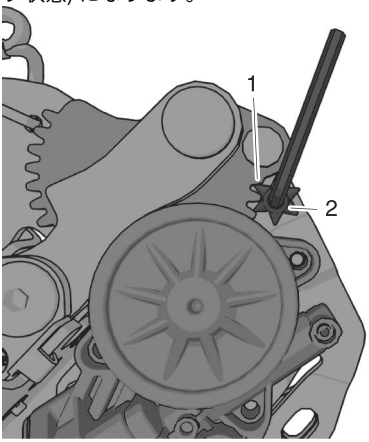
1 開口部
2 フック

11. 六角レンチ (小) とギヤを反時計回りにまわして、フックを車体側にかみ合わせる。



知識

ギヤの歯とブラケットが接触する位置までまわすと、フックが車体と完全に噛み合った状態 (ロック状態) になります。

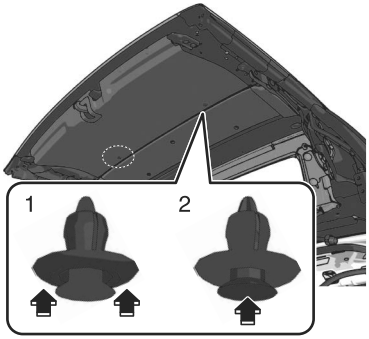


1 ブラケット
2 ギヤ

12. 開口部を軸にしてトップシーリングの後端を持ち上げる。



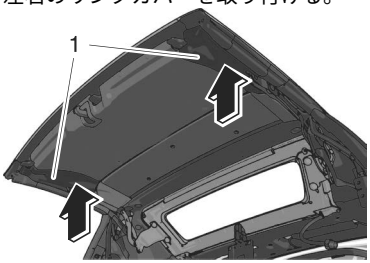
13. 2 箇所のファスナーを取り付ける。



知識

トップシーリング前側の 5 箇所のファスナーは取り付けません。マツダ販売店での修理で使用するため、ファスナーは紛失しないように保管してください。

14. 左右のリンクカバーを取り付ける。



1 リンクカバー

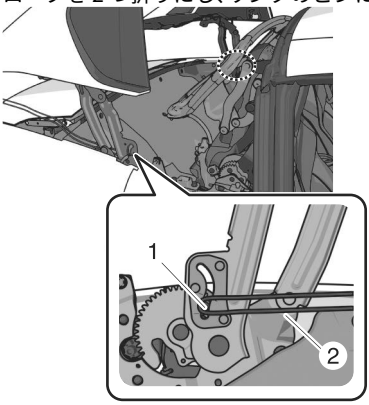
リアルーフを閉める

⚠ 注意

リアルーフを閉めるときはゆっくり閉めてください。急にリアルーフが閉まると手などを挟み、重大な傷害につながるおそれがあります。

リアルーフは無理に押さないでください。無理に押すと車両部品を破損することがあります。

1. ロープを 2 つ折りにし、リンクのピンにひっかける。



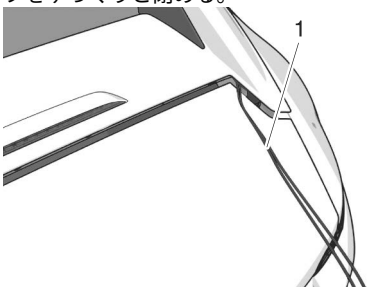
1 ピン
2 ロープ

2. 反対側も同様の作業を行なう。
3. 車両の両側に立って、リアルーフを下げる。

⚠ 注意

リアルーフは左右の高さがなるべく平行になるように下げてください。左右の高さがねじれたままリアルーフを下げようとするとリンク機構が変形するおそれがあります。

4. 引っかけたロープが外れないように、2 人とも片方の手でロープを軽く引っ張りながら、リアルーフをゆっくりと閉める。

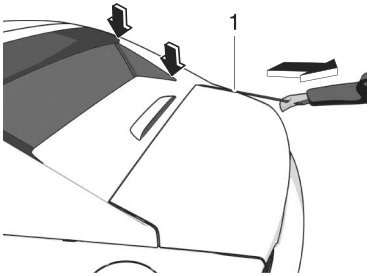


1 ロープ

知識

ロープは、リアルーフとトランクのすき間を通してください。

5. 1 人がリアルーフを上から押し付け、もう 1 人がロープを車両後方へ水平に”カチッ”と音がするまで強めに引っ張る。

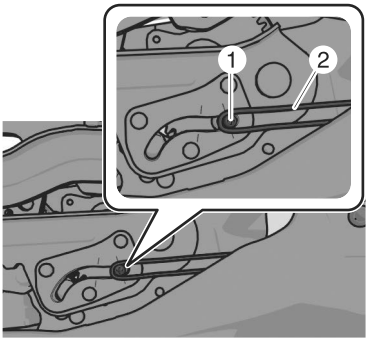


1 ロープ

知識

・車室側から見たとき、図のようにロープを引っかけた位置がブラケット溝の車両後方側の最後端にあれば、リアルーフが完全にロック状態となります。

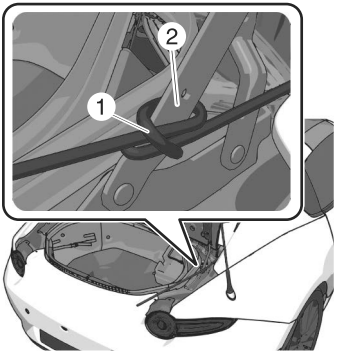
知識



1 ピン
2 ロープ

・リアルーフが完全にロックしていない場合、電磁式トランクオープナー、キーのトランクスイッチを操作してもトランクが開きません。

6. 反対側も同様に作業を行なう。
7. トランクを開け、ロープの末端をトランクのヒンジ部にしっかりと結ぶ。



1 ロープ
2 ヒンジ

8. 反対側も同様にロープを結ぶ。
9. トランクを閉める。

作業が終わった後

作業が終わったら必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

警告

走行するときは車速を 40km/h 以下にする。
走行中にルーフが開くなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

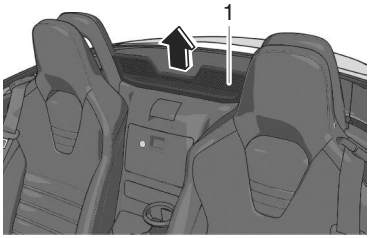
トランクリッドが開けられなくなったとき

トランクリッドを車内から開ける

バッテリーがあがると、トランクの解錠ができず開けられなくなります。
この場合、バッテリーあがりの対処をすることでトランクの解錠ができるようになります。
→8-15 ページ「12V バッテリーを処置する」
バッテリーあがりの対処をしても、トランクの解錠ができない場合は電気系統の故障が考えられます。
この場合は応急処置として次の手順で開けることができます。

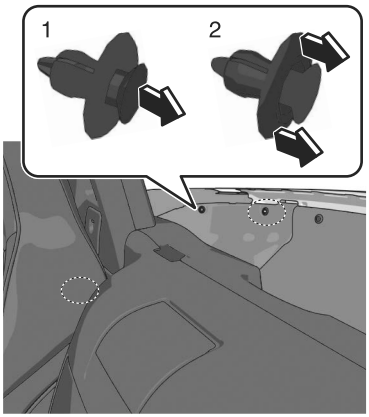
ソフトトップ車

1. ソフトトップを閉める。
   4-22 ページ「ソフトトップの使いかた」
2. エアロボードを取りはずす。

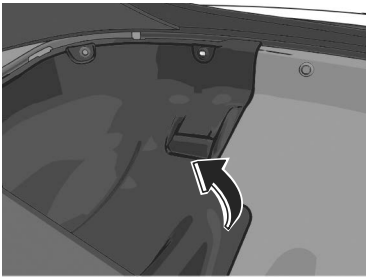


1 エアロボード

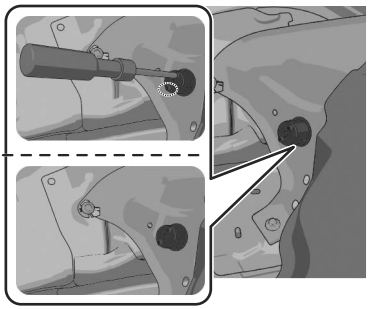
3. 車両右側のファスナーを取りはずす。



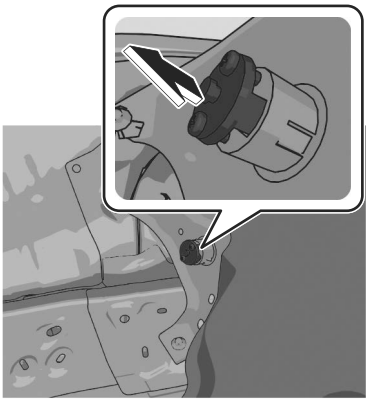
4. 車両右側のカバーをめくる。



5. キャップのネジを空回りするまでゆるめる。



6. キャップを引いて、トランクを開ける。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。



⚠ 注意

キャップを引くときは、ネジを引っ張らないでください。
ネジが脱落し、紛失するおそれがあります。

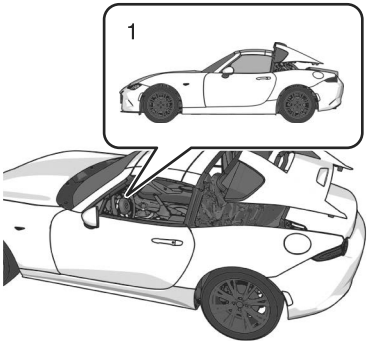
ハードトップ車

⚠ 注意

リンク機構やギヤに触らないでください。エッジやギヤに触れるとけがをするおそれがあります。

ルーフが電動で動くとき

1. アンテナを取り付けている場合は、アンテナを取りはずす。
2. エンジンを始動する。
3. リアルーフが全開の状態になるまでリトラクタブルハードトップスイッチを開方向へ押し続ける。
→4-28 ページ「リトラクタブルハードトップの使いかた」



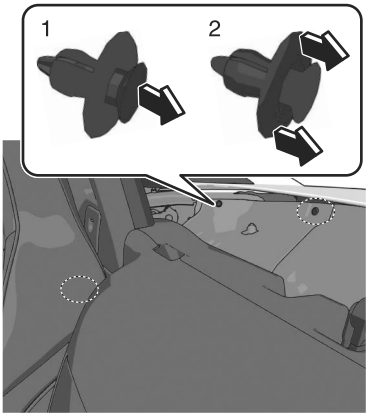
1 マルチインフォメーションディスプレイ表示

知識

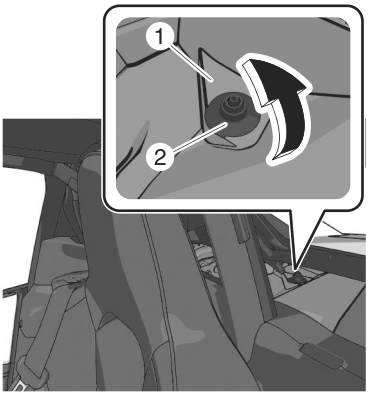
フロントルーフが開く前にスイッチの操作をやめてください。スイッチを操作し続けるとフロントルーフが開き、以降の作業ができなくなります。

4. 電源ポジションを OFF にする。

5. 車両右側のファスナーを取りはずす。



6. 車両右側のカバーを軽く上方に持ち上げながら、ストッパーラバーを下側にくぐらせる。

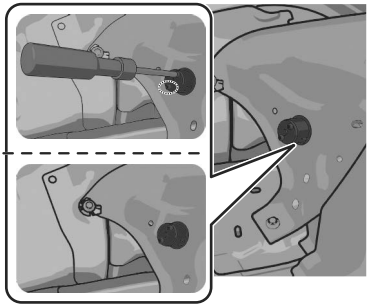


1 カバー
2 ストッパーラバー

7. 車外から、カバーを持ち上げる。



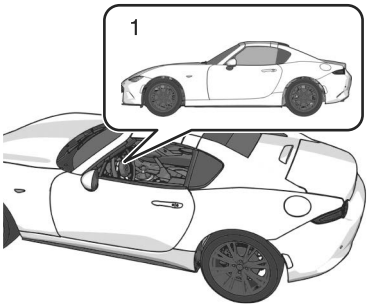
8. 持ち上げたカバーの間から手を入れ、キャップのネジを空回りするまでゆるめる。



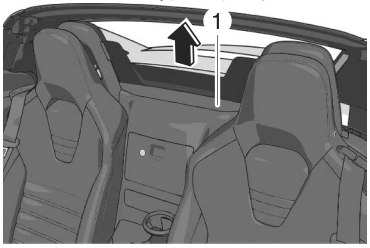
知識

この時点ではキャップを引っ張らないでください。キャップを引っ張ると、トランクのロックは解除されますが、リアルーフが電動で作動しなくなります。

9. エンジンを始動する。
10. リアルーフが全閉の状態になるまでリトラクタブルハードトップスイッチを閉方向へ押し続ける。
→4-28 ページ「リトラクタブルハードトップの使いかた」



11. 電源ポジションを OFF にする。
12. エアロボードを取りはずす。

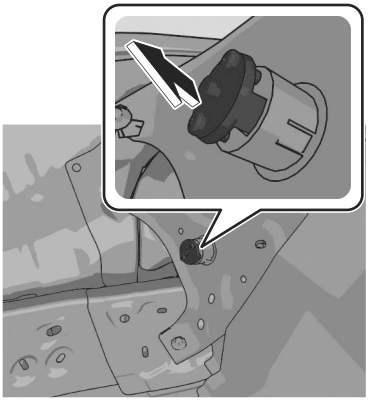


1 エアロボード

13. 車の中央部分から車両右側のカバーをめくる。



14. キャップを引いて、トランクのロックを解除する。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。



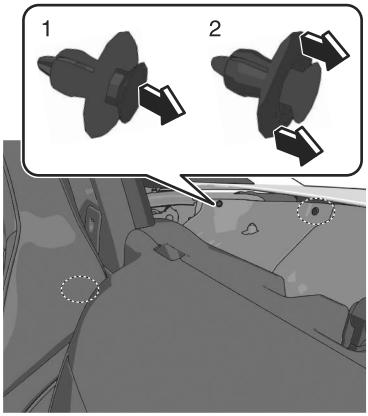
⚠ 注意

キャップを引くときは、ネジを引っ張らないでください。 ネジが脱落し、紛失するおそれがあります。

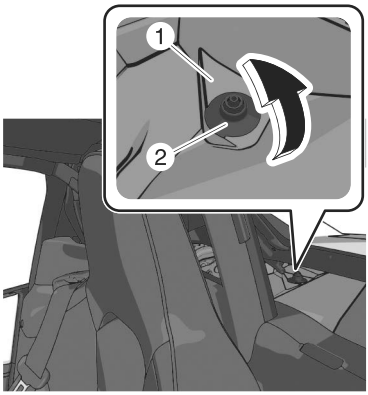
ルーフが電動で動かないとき

1. アンテナを取り付けている場合は、アンテナを取りはずす。
2. 手動操作でリアルーフを持ち上げる。
→8-28 ページ「ルーフを手動で閉める」

3. 車両右側のファスナーを取りはずす。

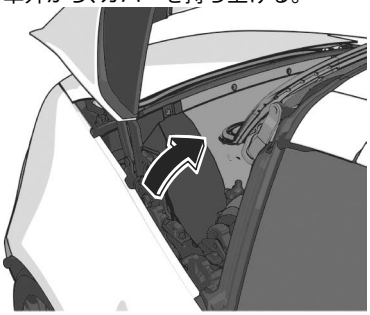


4. 車両右側のカバーを軽く上方に持ち上げながら、ストッパーラバーを下側にくぐらせる。

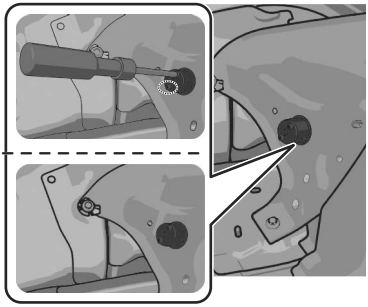


1 カバー
2 ストッパーラバー

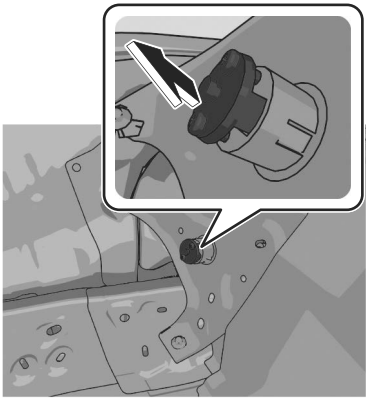
5. 車外から、カバーを持ち上げる。



6. 持ち上げたカバーの間から手を入れ、キャップのネジを空回りするまでゆるめる。



7. キャップを引いて、トランクのロックを解除する。



⚠ 注意

この時点ではトランクを開けないでください。リアルーフを完全に閉める前にトランクを開けるとリアルーフとトランクが干渉し、傷がつくおそれがあります。

8. 手動操作でリアルーフを閉める。
→8-28 ページ「ルーフを手動で閉める」
9. トランクを開ける。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

パワーウインドーが操作できないとき

自動開閉機構を復帰する

次の操作で復帰させてください。
1. 車両の電源を ON にする。
2. パワーウインドースイッチを押して窓ガラスを全開にする。
3. パワーウインドースイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続ける。
ドア、ソフトトップ/リトラクタブルハードトップ開閉時の窓ガラスの自動作動が正常に作動しなくなったときも上記の操作を行なって復帰させてください。

はさみ込み防止機構を解除する

はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスを閉められないときは、窓枠の周囲に異物がないか確認してください。
窓枠の周囲に異物がなければ、次の操作で窓ガラスを強制的に閉めてください。
1. 車両の電源を ON にする。
2. はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスが止まるまで、窓ガラスを閉める方向にスイッチを操作する。
3. 手順 2 を 5 回繰り返す。
4. スイッチを引き上げ続けて、窓ガラスを全閉にする。

フロントワイパーが高速作動するとき

マツダ販売店で点検を受ける

ワイパーの制御に異常があると、フロントワイパーが高速作動する場合があります。
ワイパースイッチの操作にかかわらずフロントワイパーが高速作動するときはマツダ販売店で点検を受けてください。

ウォッシャー液が噴射しないとき

ウォッシャータンクの液量を確認する

ウォッシャー液が噴射されないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。
→9-5 ページ「ウォッシャー液を補充する」
空のウォッシャータンクにウォッシャー液を補充したときなどにウォッシャーパイプに空気が入ると、ウォッシャー液が噴射されない場合があります。
ウォッシャー液が噴射されるまで、ワイパーレバーを操作してください。
ウォッシャー液を補充してもウォッシャー液が噴射されないときは、マツダ販売店にご相談ください。

警告灯が点灯したとき

警告灯について

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、それぞれの方法で対処してください。警告灯/表示灯が消灯しない場合、または再度点灯、点滅する場合はマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、ただちに安全な場所に停車し適切な処置を行なう。
警告灯/表示灯の点灯、点滅を無視して運転を続けると、エンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

センターディスプレイやメーターで詳細を確認できる警告があります。

センターディスプレイで確認する

1. ホーム画面の“情報”を選択する。
2. “車両ステータスモニター”を選択する。
3. 確認したい警告を選択すると、警告の詳細が表示します。

メーターで確認する

ステアリングスイッチの INFO スイッチを押すと、メッセージ表示画面が表示します。
→5-19 ページ「マルチインフォメーションディスプレイの使いかた」

ブレーキ警告灯



・パーキングブレーキをかけているとき点灯し、解除すると消灯します。
・次のようなときは点灯し続けます。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

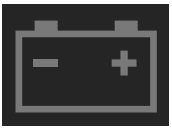
・ブレーキ液が不足しているとき。
・ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯(ABS)が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

充電警告灯



充電システムに異常があると点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

充電警告灯が点灯したまま走行しない。
エンジンが不意に停止したり、パーキングロックが作動しなかったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オイル警告灯



エンジンオイルの圧力が低下したときに点灯します。

⚠ 注意

オイル警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンオイルの圧力が低下している状態で走行すると、エンジン破損につながるおそれがあります。

走行中に、オイル警告灯が点灯したときは次の手順でエンジンオイルを確認してください。
1. 安全な場所に停車する。
2. 車両の電源を OFF にする。
3. エンジンオイルがオイルパンに流れるのを 5 分間待つ。
4. エンジンオイルの量を確認する。
   →9-4 ページ「エンジンオイルを点検、補充する」
   エンジンオイルが不足しているときは適量を補充する。
5. エンジンを始動し、オイル警告灯を確認する。

エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても消えないときは、エンジンを停止し、マツダ販売店に連絡してください。

高水温警告灯



エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点灯します。
表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

⚠ 注意

高水温警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが冷却されない状態で走行すると、エンジン破損につながるおそれがあります。

電動パワーステアリング警告灯



電動パワーステアリングに異常があると点灯します。
点灯したときは安全な場所に停車し、車両の電源を OFF にしてください。
しばらく経ってエンジンを再始動したときに警告灯が消灯した場合は問題ありません。

エンジンを再始動した後でも点灯するときは、マツダ販売店に連絡してください。

知識

警告灯が点灯したときは電動パワーステアリングが正常に作動しません。この場合、ハンドル操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。

停車中または低速走行時にハンドル操作を繰り返すと、システム保護のためハンドル操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ハンドル操作をしないでください。しばらくするともとにもどります。

ABS 警告灯



システムに異常があるときは点灯し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

ブレーキ警告灯 と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マスター警告灯



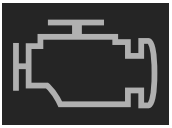
システムに異常があると点灯します。
センターディスプレイまたはメーターに表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

電動バキュームポンプ警告灯



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



⚠ 警告

エンジン警告灯が点灯/点滅しているときに 12 V バッテリーケーブルをはずさない。
12 V バッテリーケーブルを再接続するときにエンジンが損傷し、火災につながるおそれがあります。

エンジン警告灯は次の異常が発生したときに、点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

・エンジンコントロールシステムに異常があるとき
・エミッションコントロールシステムに異常があるとき
・トランスミッションコントロールシステムに異常があるとき
・燃料残量が異常に少ないとき

エンジン警告灯が点灯/点滅し続けるときは高速走行をせず、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop 警告灯 (橙)



エンジン始動後、システムに異常があるときは点灯/点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-ELOOP 警告灯 (橙)



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店に連絡してください。

TCS/DSC 作動表示/表示灯



次のようなときは DSC、TCS、またはヒル・ローンチ・アシスト (HLA) の異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

・車両の電源を ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
・走行中に点灯したとき

DSC-TRACK 表示灯



DSC-TRACK スイッチを操作していないのに点灯したときは、システムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

エアバッグ/シートベルトプリテンショナー警告灯



次のようなときはシステムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

・車両の電源を ON にしても点灯しないとき
・点灯/点滅し続けるとき

⚠ 警告

エアバッグ/シートベルトプリテンショナー警告灯が点灯/点滅したまま走行しない。
衝突したときにエアバッグまたはシートベルトプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブボンネット警告灯



次のようなときはシステムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

・車両の電源を ON にしても点灯しないとき
・点灯/点滅し続けるとき

⚠ 警告

アクティブボンネット警告灯が点灯または点滅したまま走行しない。
歩行者に衝突したときにアクティブボンネット機構が正常に作動せず、本来の機能を果たせないおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

KEY 警告灯 (赤)



システムに異常があるときに点灯します。
表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

⚠ 注意

同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅している場合は、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

セキュリティ表示灯



運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合はエンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できない場合があります。

エンジンが始動できないときは一度、車両の電源を OFF にもどし、キーを作動範囲内の別の場所に置いて、再度エンジンを始動してください。
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、もう一度車両の電源を OFF にもどし、しばらく待って再度エンジンを始動してください。

3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

イモビライザーシステムを修理するときはキーのコードを再登録する必要があります。お手持ちのすべてのキーを、マツダ販売店に持参してください。

リトラクタブルハードトップ警告灯



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 警告灯 (橙)



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯 (橙)



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

i-ACTIVSENSE 警告灯



i-ACTIVSENSE 関連システムに異常があると点灯します。
表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

エクステリアランプ警告灯



エクステリアランプ (番号灯は含まない) に異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

エクステリアランプ に異常がある状態で走行しないでください。視界不良やブレーキ、方向指示器の合図ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ランプが点灯しない状態で走行すると、整備不良により法規に抵触するおそれがあります。

燃料残量警告灯

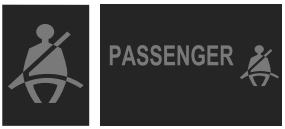


燃料残量が空に近づくと点灯/点滅します。
警告灯が点滅したとき、チャイムも鳴ります。
すみやかに燃料を補給してください。

知識

走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、点灯タイミングが変わる場合があります。

シートベルト警告灯



点灯するとき

車両の電源が ON のとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。
シートベルトを着用してください。

点滅するとき

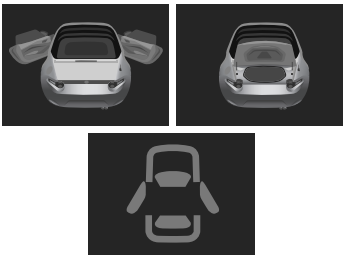
運転席/助手席シートベルトを着用しないまま約 20 km/h 以上になると、しばらくの間点滅します。
一定時間経過すると、点滅は止まりますが、点灯し続けます。
また、警告灯が点滅したとき、チャイムも鳴ります。
シートベルトを着用してください。

知識

助手席のシートに重いものを置くと、重さによってシートベルト警告システムが作動することがあります。

助手席にお子さまを座らせた場合、シートベルト警告システムが作動しないときがあります。

半ドア警告灯/トランクリッド開警告灯



いずれかのドア/トランクリッドが確実に閉まっていないときに点灯します。
また、いずれかのドア/トランクリッドが閉まっていないときに走行すると、チャイムも鳴ります。
ドア/トランクリッドを確実に閉めてください。

KEY 表示灯 (緑) (点滅)



キーの電池残量が少ないときに車両の電源を OFF にすると、点滅します。
キーの電池を交換してください。
→9-24 ページ「キーの電池交換のしかた」

レンチ表示灯



次のようなときにレンチ表示灯が点灯します。

・あらかじめ設定されたメンテナンス時期になったとき
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

メンテナンス時期になったまま走行を続けないでください。メンテナンスを怠ると、車両性能の低下、さらには故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までに点検を受けてください。

エンジンオイル交換時期をすぎたまま走行を続けると、エンジン故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までにエンジンオイルを交換してください。

知識

お車の使用状態によっては、別冊のメンテナンスノートに記載された交換時期よりも早く表示されることがあります。

チャイムがなったとき

ランプ消し忘れ防止チャイム

車両の電源を OFF にして運転席ドアを開けたときに、エクステリアランプが点灯しているとチャイムが鳴ります。
ヘッドランプスイッチを操作して、エクステリアランプを消してください。

知識

マツダコネクトでランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更することができます。
マツダコネクトホーム画面の“設定”で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

リトラクタブルハードトップ警告チャイム

システムに異常があるときは、リトラクタブルハードトップスイッチを操作中にチャイムが鳴り続けます。
安全な場所に停車し、エンジンを再始動してください。
エンジン再始動後にリトラクタブルハードトップスイッチを操作しチャイムが鳴り続けるときはマツダ販売店で点検を受けてください。

電源オフ忘れ警告チャイム

車両の電源が ACC のときに、運転席ドアを開けると車内のチャイムが鳴り続けます。
車両の電源を OFF にしてください。

キー車外持ち出し警報チャイム

アドバンストキーレス機能装備車

車両の電源が ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車外のチャイムが 6 回鳴り、車内のチャイムが 1 回鳴ります。

アドバンストキーレス機能非装備車

車両の電源が ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車内のチャイムが 1 回鳴ります。

キーを携帯したまま車外に出ていないかを確認、または車両の電源を OFF にしてください。

キー車内閉じ込み警報チャイム

キーが車内にある状態で、運転席ドアを施錠し、すべてのドアを閉めるとチャイムが鳴ります。
キーが車内に置いたままになっていないかを確認してください。

- **(アドバンストキーレス機能装備車)**
  チャイムが鳴ります。
- **(アドバンストキーレス機能非装備車)**
  ホーンが鳴ります。

トランク内キー閉じ込み警報チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

ドアが施錠された状態で、キーをトランク内に置いたままトランクリッドを閉めると、チャイムが鳴ります。
トランク内にキーを置いてないかを確認してください。

ドアロック不作動警告チャイム

次のいずれかの状態のときに、キーを携帯してドアのリクエストスイッチを押すと、チャイムが鳴ります。

・車両の電源が OFF 以外
・いずれかのドアが開いている

上記の状態になっていないことを確認して、再度リクエストスイッチを押してください。

電動ハンドルロック警告チャイム

ハンドルがロックされた状態で、プッシュボタンスタートを押すとチャイムが鳴り、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅します。
ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。

ブレーキシステム警告チャイム

ブレーキシステムに異常が発生し、ブレーキが意図通りに効かないおそれがある場合にチャイムが鳴ります。
周囲の安全を確認しながら減速し安全な場所に停車してください。
停車後にマツダ販売店に連絡してください。

12 V バッテリー充電量低下チャイム

電力消費が一定量を超えるとチャイムが鳴ります。
12 V バッテリーを充電させるため、5 分以上エンジンをかけてください。

Alexa が作動しないとき

Alexa の設定を確認する

問題	原因	解決方法
Alexa の操作でストリーミング配信の音楽などが再生できない	Wi-Fi クライアント機能の通信ができていない。	次の手順で Wi-Fi クライアント機能の通信を確認してください。 1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。 2. “モバイル機器連携”を選択する。 3. “Wi-Fi クライアント設定”を選択する。 4. “Wi-Fi クライアント”が有効になっているか確認する。 5. “周辺ネットワーク検索”または、“簡単接続”から、使用するデバイスとの Wi-Fi 接続を行なうことができます。
トーク/ピックアップボタンを押しても Alexa が応答しない	Amazon アカウントにサインインしていない、または“トークボタンで起動”が無効になっている。	次の手順で Amazon アカウントにサインインしているか確認してください。 1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。 2. “Alexa”を選択する。 “サインイン”が画面に表示されていない場合は、サインインされています。“サインイン”が画面に表示されている場合は、“サインイン”を選択し、画面の指示に従ってサインインしてください。 次の手順で“トークボタンで起動”が有効になっているか確認してください。 1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。 2. “Alexa”を選択する。 3. “設定”を選択する。 4. “トークボタンで起動”が有効になっているか確認する。

問題	原因	解決方法
“アレクサ”と発話しても Alexa が応答しない	Amazon アカウントにサインインしていない、または“Alexa ハンズフリー”が無効になっている。	次の手順で Amazon アカウントにサインインしているか確認してください。 1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。 2. “Alexa”を選択する。 “サインイン”が画面に表示されていない場合は、サインインされています。“サインイン”が画面に表示されている場合は、“サインイン”を選択し、画面の指示に従ってサインインしてください。 次の手順で“Alexa ハンズフリー”が有効になっているか確認してください。 1. マツダコネクトのホーム画面から“設定”を選択する。 2. “Alexa”を選択する。 3. “設定”を選択する。 4. “Alexa ハンズフリー”が有効になっているか確認する。

9 点検整備する/お手入れする

点検、整備..... 9-2
点検整備について..... 9-2

定期点検.....9-2
定期点検について..... 9-2

日常点検.....9-2
日常点検について..... 9-2
日常点検についての警告･注意 9-3

エンジンルーム内の点検..... 9-4
点検項目と点検箇所を確認する 9-4
エンジンオイルを点検、補充する 9-4
ウォッシャー液を補充する 9-5
12 V バッテリーを点検する 9-5

車両外観の点検.....9-6
点検項目と点検箇所を確認する 9-6
ワイパーブレードゴムを交換する 9-6
タイヤを点検する..... 9-11
タイヤの位置交換 (タイヤローテーション) をする.....9-13
タイヤパンク応急修理キットを点検する.....9-14
電球 (バルブ) を交換する..... 9-15

車室内の点検.....9-19
点検項目と点検箇所を確認する 9-19
エアコンをお手入れする.....9-20
ヒューズを交換する.....9-20
ヒューズの受け持つ装置.....9-23

キーの点検.....9-24
キーの電池交換のしかた.....9-24

外装のお手入れ.....9-26
外装をお手入れする.....9-26
ホイールをお手入れする.....9-27
ソフトトップをお手入れする 9-28
リトラクタブルハードトップをお手入れする..... 9-30

内装のお手入れ.....9-35
内装をお手入れする.....9-35
インストルメントパネル上面をお手入れする..... 9-35
布張り、合成皮革部分、アルカンターラ部分をお手入れする.....9-35
革張り部分をお手入れする 9-36
シートベルトをお手入れする 9-37

点検、整備

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

廃棄物を処理するときは、法律などに沿って適切に処置する必要があります。タイヤ、バッテリー、エンジンオイル、クーラントなどはそれらを購入した販売店に処分を依頼してください。エアコンガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店、専門の修理業者に依頼してください。

定期点検

定期点検について

1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

知識

新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000 km)、6 か月 (または走行距離 5,000 km) は無料で点検が受けられます。

日常点検

日常点検について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
日常点検はお客さまのお車の使用状況に応じて、お客さま自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
お客さま自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

日常点検整備のしかたは別冊のメンテナンスノートに記載しています。
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

日常点検についての警告･注意

⚠ 警告

点検は平らな場所で､車に輪止めをしてから行なう。
車が不意に動き出すと､思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンルーム内を点検するときは､ファンやベルトなどの回転部に触れない。
手や衣服などが巻き込まれるなど､重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンルーム内を点検するときは､エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。

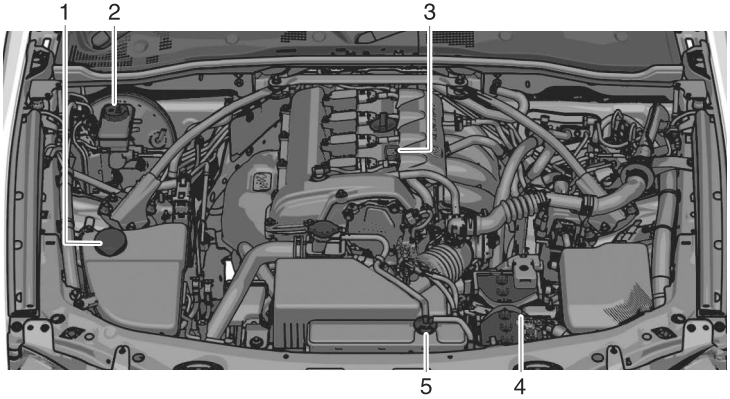
エンジンルームを点検したときは､工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり､火災につながったりなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

シャシーローラーを使用するときは､シャシーローラー上を走行中にシステムが誤作動することを防ぐため､次のシステムを OFF にしてください。

- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

エンジンルーム内の点検

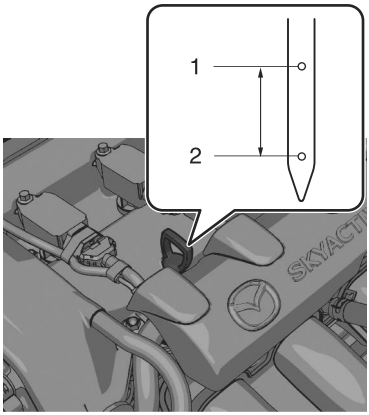
点検項目と点検箇所を確認する



1 ウォッシャー液の量
2 ブレーキ液の量
3 エンジンオイルの量
4 12 V バッテリー液の量
5 冷却水の量

エンジンオイルを点検、補充する

オイルレベルゲージでエンジンオイルの量を点検してください。
不足しているときは上限から下限の間になるよう補充してください。
点検の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。



1 上限
2 下限
オイル交換後は、記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯が通常より早めに点灯することがあります。

マツダコネクトホーム画面の“情報”→“車両ステータスモニター”→“設定”→“エンジンオイル交換距離のリセット”を選択し、エンジンオイル交換までの走行距離を初期化する、またはマツダ販売店にご相談ください。

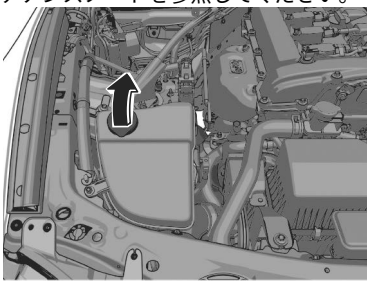
ウォッシャー液を補充する

⚠ 注意

エンジンが始動しているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

ウォッシャー液のかわりにせっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装のしみや、ポンプの故障によりウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。



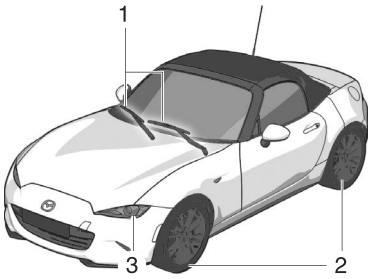
12 V バッテリーを点検する

12 V バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。12 V バッテリー液が不足しているときは、マツダ販売店などにご相談ください。
点検の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
12 V バッテリーを交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

車両外観の点検

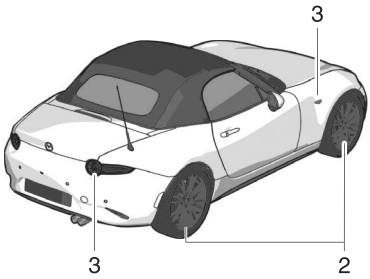
点検項目と点検箇所を確認する

フロント



1 ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2 タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常摩耗、溝の深さなど
3 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

リア



1 ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2 タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常摩耗、溝の深さなど
3 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

ワイパーブレードゴムを交換する

⚠ 注意

撥水コートを使用すると、種類によっては作動不良やふき性能の低下を発生させる場合があります。

ワイパーブレードの損傷を防ぐため、ワイパーブレードの上またはその付近でガソリン、灯油、シンナーまたはその他の溶剤を使用しないでください。

車両の電源が ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。けがやワイパーの故障につながるおそれがあるため、手や指を挟まないように注意してください。洗車や整備を行なうときは、ワイパーレバーが OFF の位置になっていることを確認してください。

⚠ 注意

- フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき
- フロントガラスのレインセンサー上部を布などでふいたとき
- フロントガラスが手またはその他の物でたたかれたとき
- レインセンサーが車両の中から手またはその他の物でたたかれたとき

フロントガラスまたはブレードは、異物または汚染物質により、ワイパーの効力を低減するおそれがあります。共通の原因は、昆虫、樹液、市販の車用洗剤などです。

知識

ワイパーブレードはお客さま自身で交換できますが、ワイパーアームを交換することはできません。ワイパーアームを交換するときはマツダ販売店にご相談ください。

ワイパーブレードのゴム交換時の注意

⚠ 注意

マツダ純正品のワイパーブレードに交換してください。マツダ純正品以外のワイパーブレードに交換すると、ふき取り性能が低下するおそれがあります。

ワイパーアームやその他の部品を破損するおそれがあるため、手でワイパーアームを掃除しないようにしてください。

ブレードゴムを交換するときは、必要以上にブレードゴムを曲げないでください。ワイパーブレード内にある金属部分が変形し、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。

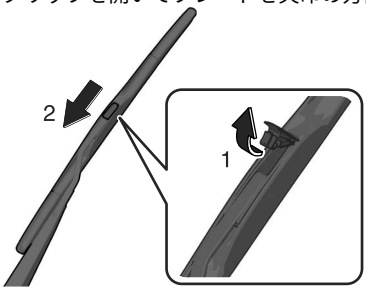
ワイパーアームを立てるときに、ワイパーブレードの先端を持たないでください。ワイパーブレードの先端を持つと、部品が変形してふき取り性能が低下するおそれがあります。

立てたワイパーを勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。

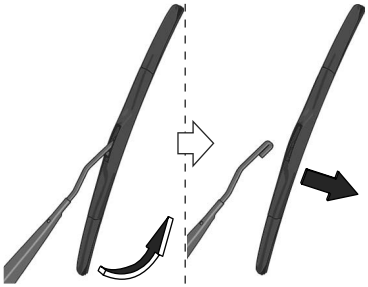
ワイパーブレードのゴムを交換する

A タイプ

1. ワイパーアームを立てる。
2. クリップを開いてブレードを矢印の方向にスライドさせる。



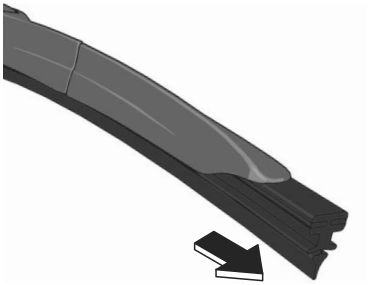
3. ブレードを立ててワイパーアームから取りはずす。



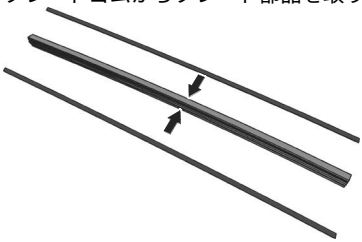
⚠ 注意

ワイパーアームはゆっくり下ろしてください。ワイパーアームがフロントガラスに強くあたると、フロントガラスが破損するおそれがあります。

4.



5. ブレードゴムからブレード部品を取りはずし、新しいブレードゴムに取り付ける。



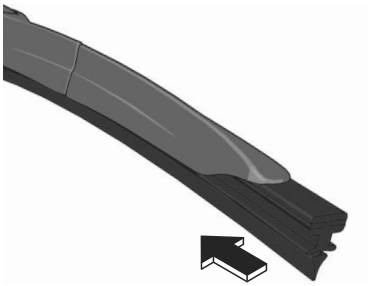
⚠ 注意

ブレード部品を曲げたり廃棄したりしないでください。再度使用する必要があります。

運転席側と助手席側のブレード部品を入れ替えないでください。ふき取り性能が低下するおそれがあります。

ブレード部品は、ブレードゴムの向きが交換前と交換後で同じになるように取り付けてください。

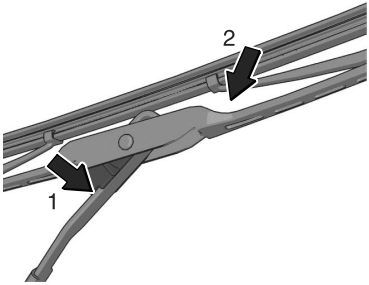
6.



7. ブレードをワイパーアームに、はずした手順と逆の手順で取り付ける。

B タイプ

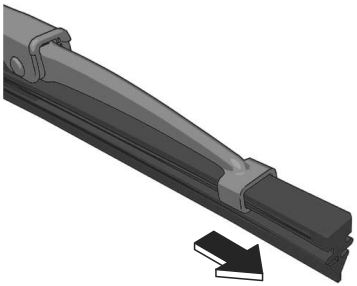
1. ワイパーアームを立て、ロック用のクリップが見えるまでブレードを回転させる。
その後、クリップを押しながらブレードを下にスライドさせてアームからはずす。



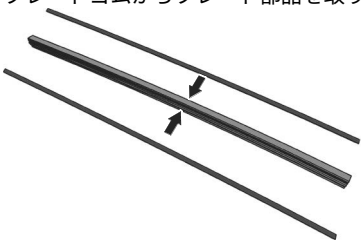
⚠ 注意

ワイパーアームはゆっくり下ろしてください。ワイパーアームがフロントガラスに強くあたると、フロントガラスが破損するおそれがあります。

2. ブレードゴムの端を持ち、ブレード部品からタブを取りはずせる位置までブレードゴムを引き出す。



3. ブレードゴムからブレード部品を取りはずし、新しいブレードゴムに取り付ける。



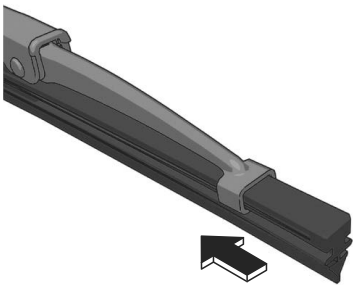
⚠ 注意

ブレード部品を曲げたり廃棄したりしないでください。再度使用する必要があります。

運転席側と助手席側のブレード部品を入れ替えないでください。ふき取り性能が低下するおそれがあります。

ブレード部品は、ブレードゴムの向きが交換前と交換後で同じになるように取り付けてください。

4.



5. ブレードをワイパーアームに、はずした手順と逆の手順で取り付ける。

知識

タブがアームの付け根側に向くようにブレードを取り付けてください。

タイヤを点検する

タイヤの点検について

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
タイヤは、正しい動作、安全、燃費向上のため、適正空気圧を維持し、積載制限を守ってください。

⚠ 警告

指定サイズ以外のタイヤを使用しない。また、異なる種類のタイヤを混ぜて使用しない。
走行安定性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、法令違反になる場合があります。
運転席ドアを開けたボディー側にあるラベルに記載されているサイズのタイヤを使用してください。また、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。

⚠ 注意

タイヤ、ホイール、ホイールナットは、純正品以外は使用しないでください。破損や故障により思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧を点検する

⚠ 警告

タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。
タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する。
タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

き裂、損傷の点検をする

⚠ 警告

異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になったりするおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

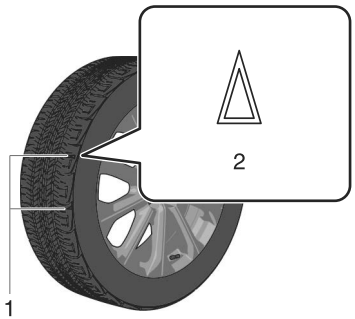
- 走行中にハンドルがとられる
- 異常な振動を感じる
- パンクやバースト (破裂) する
- 車の性能 (燃費・走行安定性・制動距離など) が十分に発揮できない
- 部品に悪影響を与える

溝の深さ、異常摩耗を点検する

摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

⚠ 警告

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しない。
そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。



1 摩耗限界表示
2 摩耗限界表示の位置を示すマークの例

知識

摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6 mm だけ浅くなっています。

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション) をする

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。
タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

タイヤを交換するときは指定されたサイズや種類のタイヤを装着する。
指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

定期的にタイヤの位置交換を行なう。
異常なタイヤ摩耗は危険です。操舵・制動を良好に保てるよう摩耗を均一にするため、定期的に、偏摩耗が現れた場合はできるだけ早くタイヤの位置交換を行なってください。

⚠ 注意

サイドウォールに回転方向指示のあるタイヤは、左右の位置交換は行なわず、前後のみ位置交換してください。左右で位置交換すると車両の性能が損なわれます。

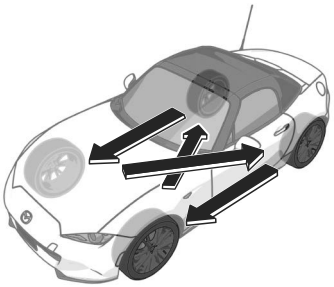
知識

タイヤの位置交換を行なう前にタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→9-11 ページ「タイヤを点検する」

タイヤの位置交換を行なった後はタイヤの空気圧を規定値に調整してください。
→10-7 ページ「タイヤ空気圧」

お客さまのお車にはスペアタイヤ、ジャッキが標準で搭載されていないため、お客さま自身ではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤ位置交換のしかた



タイヤの位置交換を行なった後は、適正なバランスとなっているか点検してください。
また、偏摩耗や損傷がないか点検してください。異常な摩耗には、通常次のような原因があります。

・タイヤ空気圧が適正でない。
・アライメントが適正でない。
・ホイールバランスが適正でない。
・ブレーキが強すぎる。

タイヤパンク応急修理キットを点検する

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

・修理剤の有効期限の確認
・コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤には有効期限があります。有効期限が切れたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限が切れる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

電球 (バルブ) を交換する

注意

電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

ルームランプ、トランクルームランプのレンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズや内装にあたると、傷がつくおそれがあります。

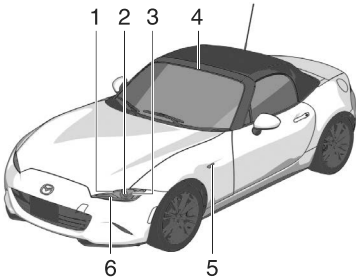
マイナスドライバーなどを使ってレンズやランプ本体を取りはずすときは、マイナスドライバーなどが内部の端子にあたらないようにしてください。マイナスドライバーなどが直接端子にあたると、ショートするおそれがあります。

知識

交換する電球について
必ず同じ W 数の電球を使用してください。

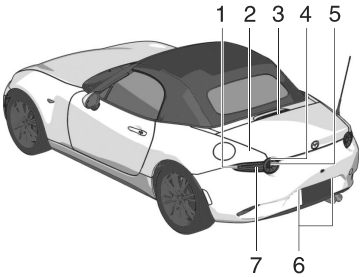
ランプの曇りについて
ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

フロント



1 ヘッドランプ (ワイド配光ロービーム) (アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 装備車)
2 ヘッドランプ (ハイビーム/ロービーム)
3 前面方向指示灯/非常点滅灯/デイタイムランニングランプ/車幅灯
4 ルームランプ
5 側面方向指示灯/非常点滅灯
6 デイタイムランニングランプ/車幅灯

リア



1 制動灯/尾灯
2 トランクルームランプ
3 ハイマウントストップランプ
4 制動灯/尾灯
5 後退灯
6 番号灯
7 後面方向指示灯/非常点滅灯

電球には LED タイプとバルブタイプがあります。
バルブタイプのみ交換することができます。

LED タイプ

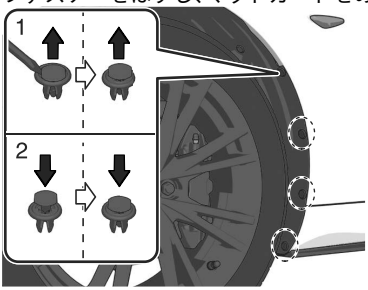
・ヘッドランプ (ハイビーム/ロービーム)
・前面方向指示灯/非常点滅灯/デイタイムランニングランプ/車幅灯
・ハイマウントストップランプ
・後面方向指示灯/非常点滅灯
・制動灯
・尾灯
・後退灯

LED タイプの電球のため交換できません。交換については､マツダ販売店へご相談ください。

バルブタイプ

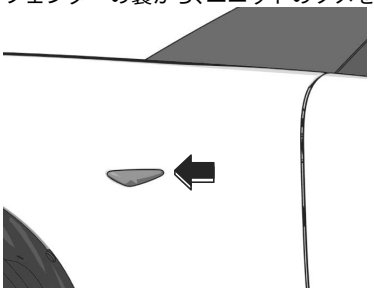
側面方向指示灯/非常点滅灯

1. エンジンをかけ、交換する側と同じ方向にハンドルをいっぱいに切り、エンジンを切る。
2. ファスナーをはずし、マッドガードをめくる。

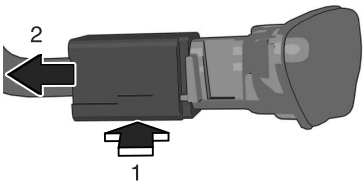


1 取りはずし
2 取り付け

3. フェンダーの裏から、ユニットのツメを押し、ユニットを取りはずす。



4. ツメを押し、コネクターをはずす。

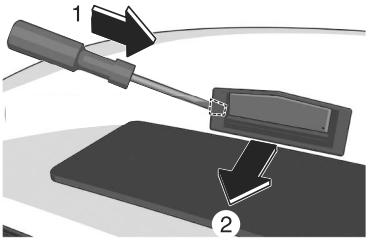


5. ユニットを取り替え、はずした手順と逆の手順で取り付ける。

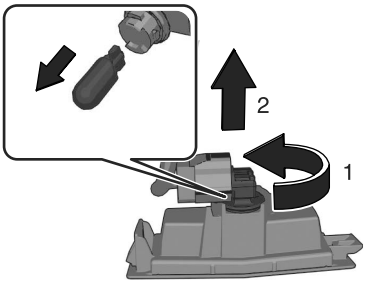
番号灯

1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻く。

2. ドライバーを左側から差し込み (強めに押し込む)、差し込んだドライバー先端部分を下方向に動かしてランプ本体を取りはずす。



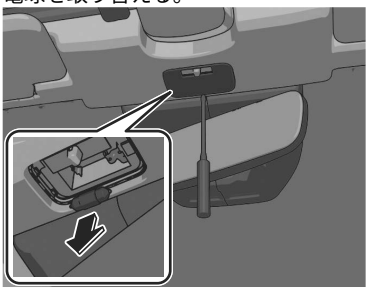
3. ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取る。



4. はずした手順と逆の手順で取り付ける。

ルームランプ

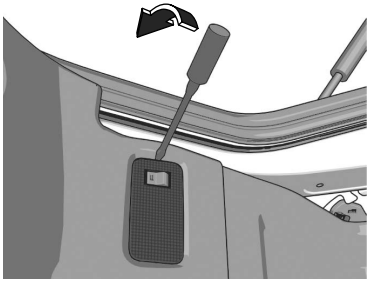
1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずす。
2. 電球を取り替える。



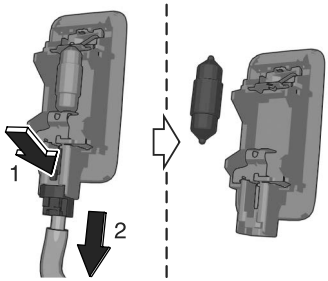
3. はずした手順と逆の手順で取り付ける。

トランクルームランプ

1. トランクを開ける。
2. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、ランプ本体を取りはずす。



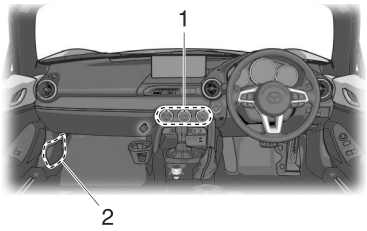
3. ツメを押し、コネクターを取りはずす。
4. 電球を取り替える。



5. はずした手順と逆の手順で取り付ける。

車室内の点検

点検項目と点検箇所を確認する

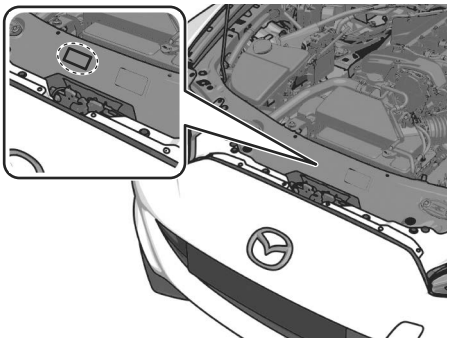


1 エアコン
2 ヒューズ

エアコンをお手入れする

エアコンを使用する前に

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。冷媒の仕様はエンジンルームに貼られたラベルに記載してあります。違った種類の冷媒を使用すると、エアコンの重大な故障につながる可能性があります。エアコンのメンテナンスには特別な装置が必要ですので、点検や修理は政府認定の専門修理業者にご相談ください。詳しくは専門の修理業者にご相談ください(マツダ販売店をお勧めします)。



ヒューズを交換する

⚠ 警告

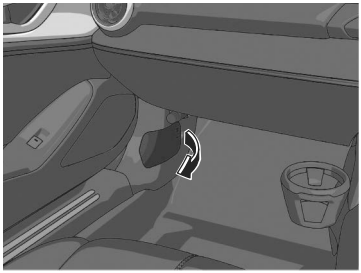
規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用したりしない。
配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

⚠ 注意

必ずマツダ純正品または同等品を使用してください。

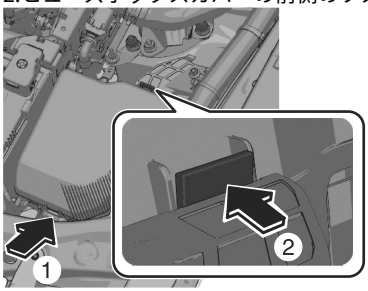
室内ヒューズボックス

1. ヒューズボックスのカバーを開く。

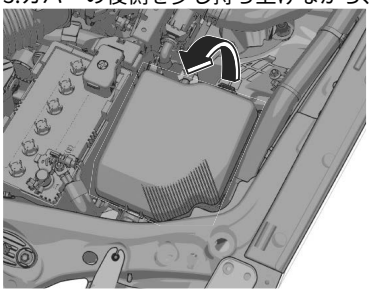


室内ヒューズの取りはずし/取り付け

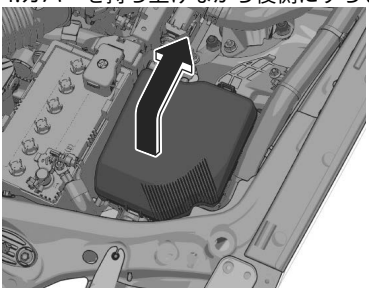
1. 電源ポジションを OFF にする。
2. 次の手順でエンジンルーム内ヒューズボックスに付属しているヒューズはずし具を取り出す。
   1.ボンネットを開ける。
   →4-15 ページ「ボンネットの使いかた」
   2.ヒューズボックスカバーの前側のツメを手で押さえながら、後側のロックを解除する。



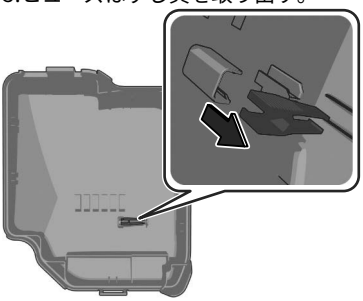
   3.カバーの後側を少し持ち上げながら、前側のツメをはずす。



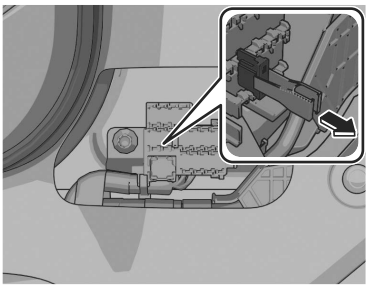
4.カバーを持ち上げながら後側にずらして、カバーを取りはずす。



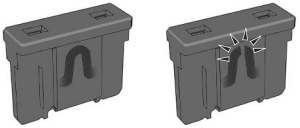
5.ヒューズはずし具を取り出す。



3. ヒューズはずし具を使ってヒューズを抜き取る。



4. ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換する。



1 2

1 切れていない場合
2 切れている場合

5. ヒューズボックスのカバーをもとの通り取り付ける。

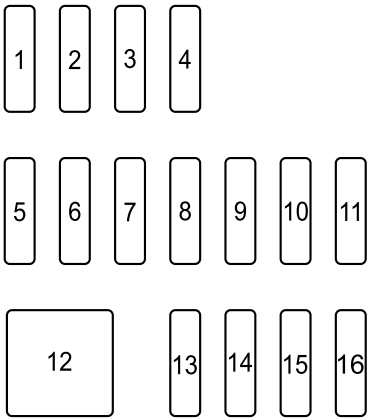
知識

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

エンジンルーム内ヒューズボックス

エンジンルーム内ヒューズの交換については、マツダ販売店にご相談ください。

ヒューズの受け持つ装置



位置	表示	容量	保護装置
1	RHT R	30 A	リトラクタブルハードトップ*
2	RHT L	30 A	リトラクタブルハードトップ*
3	—	—	—
4	ENGINE6	10 A	—
5	F.OUTLET	15 A	電源ソケット
6	—	—	—
7	AT IND	7.5 A	セレクトレバー位置表示*
8	MIRROR	7.5 A	電動ミラー
9	R_DECK R	30 A	リトラクタブルハードトップ*

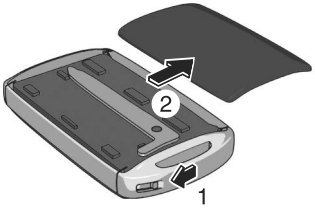
*グレード/仕様別装備

位置	表示	容量	保護装置
10	R_DECK L	30 A	リトラクタブルハードトップ*
11	F.WASHER	15 A	ウォッシャー
12	P.WINDOW	30 A	パワーウインドー
13	—	—	—
14	SRS2/ESCL	15 A	ステアリングロック
15	SEAT WARM	20 A	シートヒーター*
16	M.DEF	7.5 A	—

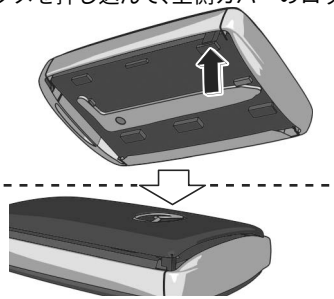
キーの点検

キーの電池交換のしかた

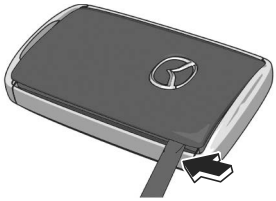
電池の規格: リチウム電池 CR2032
キーが使用できなくなる前に、新しい電池に交換してください。
1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずす。



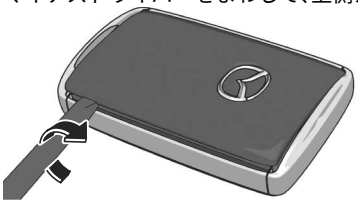
2. ツメを押し込んで、上側カバーのロックを解除する。



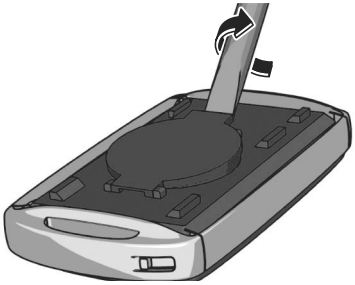
3. 保護テープを巻いたマイナスドライバーをすき間に差し込み、マイナスドライバーをスライドさせる。



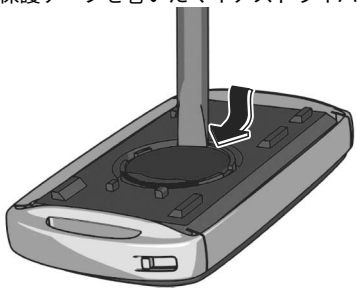
4. マイナスドライバーをまわして、上側カバーを取りはずす。



5. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、キャップを取りはずす。

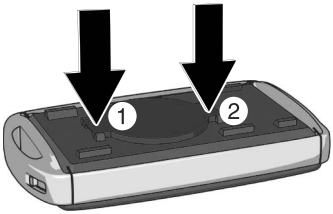


6. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、電池を取りはずす。

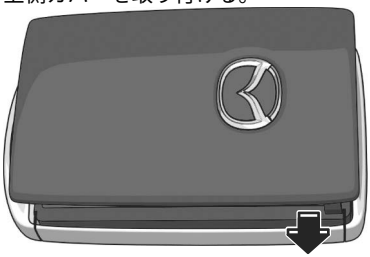


7. 電池の+側が上になるように、キーに新しい電池をはめ込む。

8. キャップを取り付ける。



9. 上側カバーを取り付ける。



10. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付ける。



外装のお手入れ

外装をお手入れする

⚠ 警告

洗車後はブレーキの効きを確認する。
ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを離してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

⚠ 注意

次のようなときは、早めに洗車などのお手入れを行なってください。そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。

- 海岸地帯や、凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。

⚠ 注意

- ばい煙や粉じん、砂じん、鉄粉、コールタール、塗料、化学物質などが付着したとき。
- 鳥のふん、虫の死骸、樹液、果実などが付着したとき。

ワイパーを下ろすときはワイパーアームに手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーブレードやワイパーアームが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。

車両の電源が ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。車両の電源が ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のときは、フロントガラスやワイパーに触れないでください。ワイパーが自動で作動し、指を挟まれたり、フロントガラスに傷がついたりするおそれがあります。氷や雪を除去したり、フロントガラスを清掃したりするときは、ワイパーレバーが OFF の位置にあることを確認してから行なってください。

- フロントガラスのレインセンサー上部に触れたり、布などでふいたりしたとき。
- フロントガラスや車内のレインセンサー部に衝撃が加わったとき。

エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。

洗車やワックスがけを行なうときは、車体のボンネット部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。

ガラス、ミラーのお手入れをするときは、熱線を損傷するおそれがあるため、熱線に沿ってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

お手入れには、コンパウンド入りワックス、ガソリン、ベンジンなどの有機溶剤、アルコール類、酸性・アルカリ性溶剤、漂白剤などは使用しないでください。

外装にガソリンなどの有機溶剤、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着した場合はすぐにふき取ってください。

クロムメッキまたは陽極酸化アルミニウム部品には、スチールウール、研磨剤入りクリーナー、またはアルカリ性または腐食性の強い物質を含む強力な洗剤を使用しないでください。保護コーティングが損傷する可能性があります。また、クリーナーや洗剤によって塗装が変色したり劣化したりする可能性があります。

自動洗車機や高圧洗車機は使用しないでください。

ホイールをお手入れする

⚠ 注意

ホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く洗い流してください。

中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。変色・シミの原因となります。

ソフトトップをお手入れする

ソフトトップは高品質の幌生地を使用しています。
手入れの方法を誤ると、生地が硬化したり、シミや光沢ムラなどが発生したりするおそれがあります。
ソフトトップの劣化を防ぐため、駐車時はなるべく直射日光を避けてください。
車庫内で長期保管する場合は、十分に換気してください。
幌が濡れているときは、水気を取って乾燥させてからボデーカバーや幌カバーを使用してください。

水洗いするとき

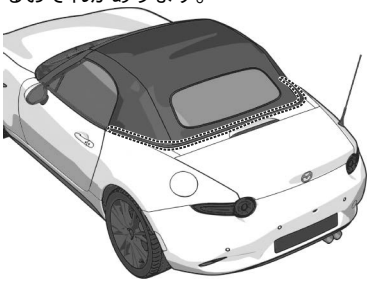
1. 水洗いする前に毛のやわらかいブラシを使用し、砂埃を取り除く。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗う。
3. ボディー用ワックスや油脂類が付着したときは、水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) を使用して落とす。

⚠ 注意

自動洗車機や高圧洗車機を使用しないでください。幌が破損したり、損傷したりするおそれがあります。

窓ガラスと幌の合わせ目付近に、直接水をかけないでください。室内に水が入るおそれがあります。

ボディーと幌の合わせ目付近に、直接水をかけないでください。室内、およびトランク内に水が入るおそれがあります。

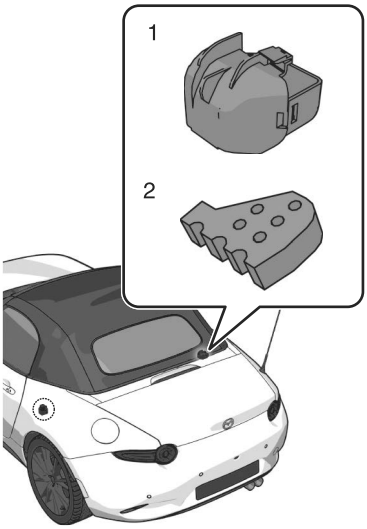


知識

シンナー、ガソリンなどの有機溶剤やアルコール、塩素系漂白剤などを使用しないでください。生地が硬化したり、シミや光沢ムラなどが発生したりすることがあります。

ソフトトップの手入れは定期的に行なってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミなどの原因になったりします。

ドレーンフィルター清掃手順



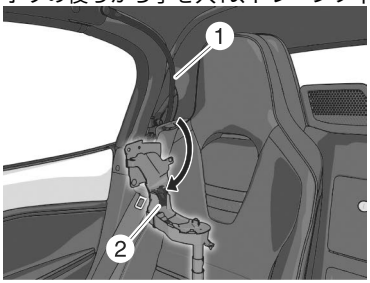
1 ドレーンフィルター A
2 ドレーンフィルター B

知識

ドレーンフィルターに落ち葉などが詰まると、室内に水が入るおそれがあります。

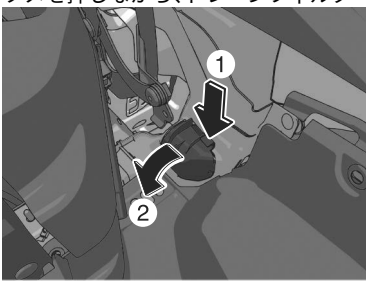
ドレーンフィルターの清掃は、年に 1 回程度行なってください。

1. ボウの後ろから手を入れ、ドレーンフィルター A の位置を確認する。

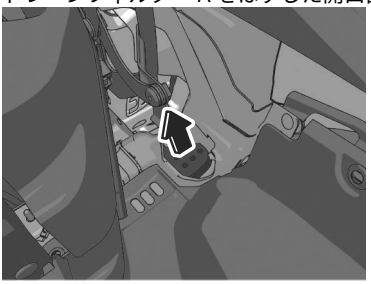


1 ボウ
2 ドレーンフィルター A

2. ツメを押しながら、ドレーンフィルター A を取りはずす。



3. ドレーンフィルター A をはずした開口部から、ドレーンフィルター B を取り出す。



4. ドレーンフィルター A とドレーンフィルター B に溜まった落ち葉などを取り除く。
5. はずした手順と逆の手順で取り付ける。

⚠ 注意

ドレーンフィルターを取り付ける際は、ツメがかかるまでしっかりと押し込み、所定の位置に確実に固定されたことを確認してください。ドレーンフィルターが所定の位置に固定されていない場合、室内に水が入るおそれがあります。

リトラクタブルハードトップをお手入れする

水洗いするとき

1. リトラクタブルハードトップに付いている汚れを洗い落とす。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗う。
   汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取る。

知識

洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装を傷つけるおそれがあります。

ワックスをかけるとき

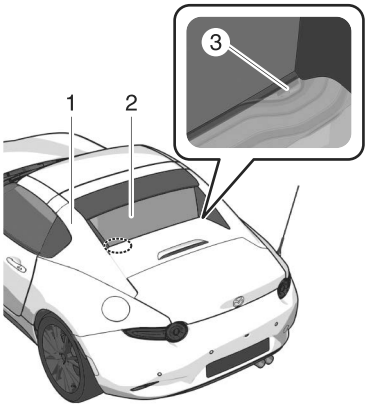
・ワックスがけは月に一回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
・直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

排水口清掃手順

リアルーフ下側左右に、排水口があります。



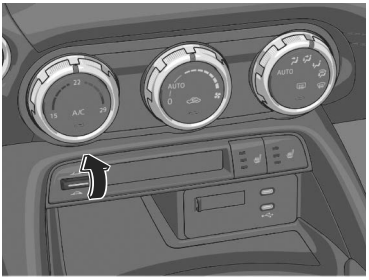
1 リアルーフ
2 リアウインドー
3 排水口

知識

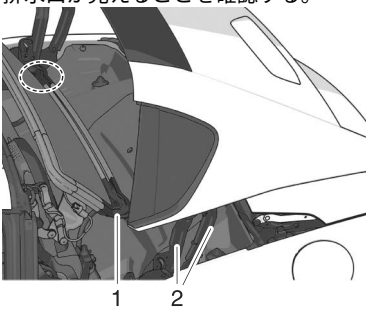
排水口に落ち葉などが詰まると、室内に水が入るおそれがあります。

排水口の清掃は、2 か月に 1 回程度行なってください。

1. エンジンをかける。
2. リアルーフが全閉の状態から上がりきるまで、リトラクタブルハードトップスイッチを開方向へ押し続ける。
→4-28 ページ「リトラクタブルハードトップの使い方」



3. リアルーフが上がりきったら、スイッチから手を離す。
4. 排水口が見えることを確認する。



1 排水口
2 リアルーフリンク

5. 電源ポジションを OFF にする。

⚠ 警告

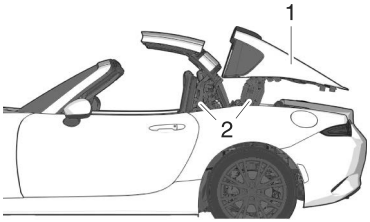
電源ポジションが OFF になっていることを確認する。
突然ルーフが動き出し、手や指を挟むなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

6. 排水口に溜まった落ち葉などを取り除く。

⚠ 注意

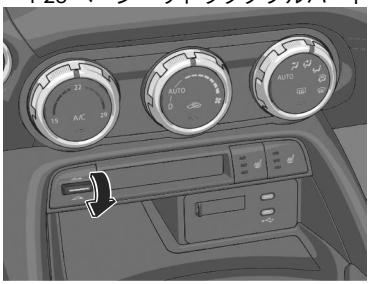
清掃するときは、ルーフリンクやリアルーフ外郭との接触に気をつけてください。接触によりけがをするおそれがあります。

⚠注意

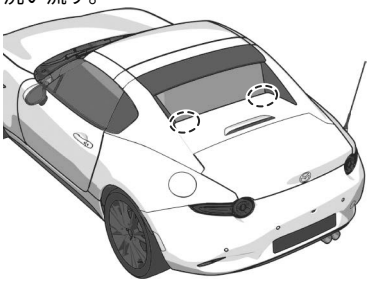


1 リアルーフ
2 ルーフリンク

7. 排水口の清掃が終わったら、リトラクタブルハードトップスイッチを閉方向へ押し続けて、リアルーフを閉める。
→4-28 ページ「リトラクタブルハードトップの使い方」



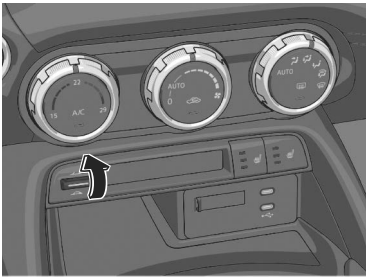
8. 約 300cc の水を、左右それぞれの排水口に向けてゆっくりと流し込み、排水経路内の微細なゴミを洗い流す。



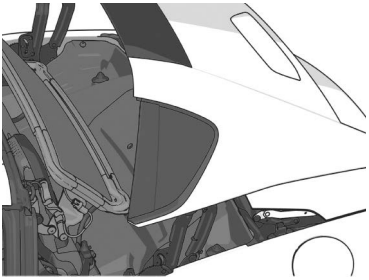
⚠注意

寒冷下では、水の代わりにウインドーウォッシャー液を使用してください。水を流すと内部で凍結し、氷で排水経路がふさがれることがあります。

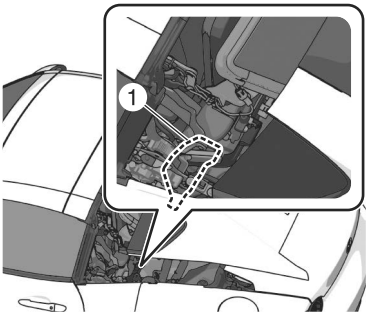
9. エンジンをかける。
10. リアルーフが全閉の状態から上がりきるまで、リトラクタブルハードトップスイッチを開方向へ押し続ける。
→4-28 ページ「リトラクタブルハードトップの使い方」



11. リアルーフが上がりきったら、スイッチから手を離す。



12. リアルーフとボディーとの隙間から、ドレーンカバーの水受け皿の中に水が残っているかを確認する。
水が残っていなければドレーンホースのつまりはありません。
水が残っている場合はドレーンホースのつまりが考えられます。マツダ販売店にご相談ください。



1 水受け皿

内装のお手入れ

内装をお手入れする

⚠ 警告

室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

樹脂部品のお手入れにはつや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。
熱線を損傷するおそれがあるため、熱線に沿ってふいてください。
また、ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

内装に芳香剤などの液体をこぼしたときは、すぐにふき取ってください。

お手入れには、コンパウンド入りワックス、ガソリン、ベンジンなどの有機溶剤、アルコール類、酸性・アルカリ性溶剤、漂白剤などは使用しないでください。

光沢のあるパネル、メッキ部分は乾いた布などでこすらないでください。すり傷がつくことがあります。

インストルメントパネル上面をお手入れする

特に汚れが気になるときのインストルメントパネルのお手入れ方法

1. 水で薄めた中性洗剤をやわらかい布に含ませて汚れをふき取る。
2. 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る。

布張り、合成皮革部分、アルカンターラ部分をお手入れする

⚠ 注意

布張り、合成皮革部分に汚れがついたときは、早めに手入れを行なってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じたりすることがあります。

布張り

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取る。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。

合成皮革

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除く。
2. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れた部分をふき取る。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。

アルカンターラ

1. 柔らかいブラシまたは乾いた布でほこりや砂を取り除く。
2. ぬるま湯を含ませた柔らかい布を固く絞って、軽くたたいて汚れを落とす。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、水分をふき取る。
4. 乾いたら、柔らかいブラシなどで軽くブラッシングする。

知識

アルカンターラ部分には塩素系漂白剤を使用しないでください。

アルカンターラ部分にはスチームを使用しないでください。

革張り部分をお手入れする

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除く。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。
4. 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させる。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させる。

知識

天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷がわかる場合があります。

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

次のような場合は、早めに手入れを行なってください。そのまま放置しておくと早く摩耗したり、カビやシミなどの原因になったりします。

・砂、ほこりなどが付いたとき
・ハンドクリームなどの油分が付いたとき
・化粧品、整髪料などのアルコール類が付いたとき

革張り部分がぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。

直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。

ビニール製品を長時間、革張り部分の上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

シートベルトをお手入れする

⚠ 警告

シートベルトにほつれ、すり傷などの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。
有機溶剤を使用したり、染色、漂白したりするとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取る。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認する。

知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなったりすることがあります。

MEMO

10 仕様

車両スペック..... 10-2
12 V バッテリー..... 10-2
スパークプラグ..... 10-2
燃料..... 10-2
エンジンオイル/エンジンオイルフィルター..... 10-3
冷却水..... 10-4
マニュアルトランスミッションオイル..... 10-4
オートマチックトランスミッションフルード..... 10-4
ディファレンシャルオイル 10-5
ウォッシャー液..... 10-5
ブレーキ液..... 10-5
電球 (バルブ)..... 10-6
タイヤ/ホイールサイズ..... 10-6
タイヤ空気圧..... 10-7
ホイールナットの締め付けトルク..... 10-8
ブレーキディスクの摩耗限度情報 10-8
ブレーキペダル..... 10-8
パーキングブレーキ..... 10-8
クラッチペダル..... 10-8
補機ベルト..... 10-8
エアクリーナーエレメント 10-8

車両スペック

12 V バッテリー

エンジン		型式*1
SKYACTIV-G	i-stop 装備車	N-55 (S)
	i-stop 非装備車	46B24L、45Ah (20 時間率)

*1　車両に取り付けられた 12 V バッテリーを確認の上、同等以上の性能のバッテリーを使用してください。ただし、同一型式の中でも性能が異なる場合がありますので、交換する際はマツダ販売店にご相談ください。

スパークプラグ

エンジン	型式	
SKYACTIV G	NGK	ILKAR7L11*1

*1　SKYACTIV G の最適な性能を発揮するためのスパークプラグです。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

イリジウムプラグを使用しておりますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

燃料

使用燃料

使用燃料については、5-62 ページ「給油のしかた」もあわせてお読みください。

エンジン	使用燃料
SKYACTIV-G	無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン

燃料タンク容量

エンジン	燃料タンク容量 (参考値)
SKYACTIV-G 1.5	40 L
SKYACTIV-G 2.0	45 L

エンジンオイル/エンジンオイルフィルター

エンジンオイル/オイルフィルター交換時期

交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。車両の使用状況により、レンチ表示/表示灯が点灯することがあります。その場合は、エンジンオイルとエンジンオイルフィルターを交換してください。シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エンジン	標準	シビアコンディション
SKYACTIV-G	15,000 km または 1 年ごと	7,500 km または 6 か月ごと

エンジンオイルの規格/銘柄

表に記載されたエンジンオイルを使用してください。

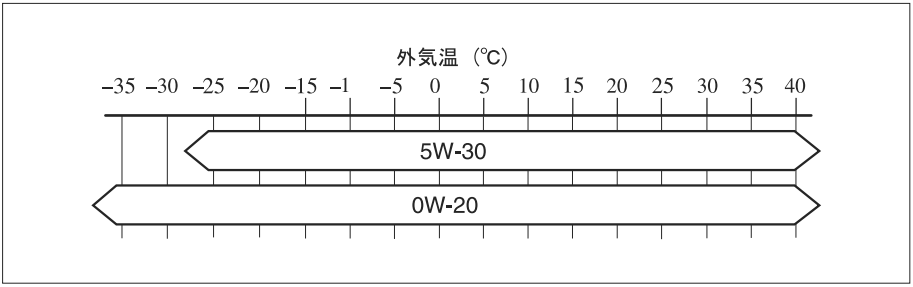
エンジン	指定規格	推奨銘柄
SKYACTIV-G	API SN 以上 (SAE 0W-20、 SAE 5W-30)	純正モーターオイル ゴールデン ECO 7 PLUS (0W-20)、 純正モーターオイル ゴールデン ECO 7 (0W-20)、 純正モーターオイル ゴールデン SP (5W-30)

エンジンオイル/オイルフィルター交換時のオイル容量

エンジン	エンジンオイル容量
SKYACTIV-G	4.3 L

使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表に基づき使用してください。



冷却水

推奨銘柄と交換時期

ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

エンジン	推奨銘柄	交換時期
SKYACTIV-G	純正ロングライフクーラント	2 年ごと (初回は 3 年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)	100,000 km 走行または 4 年ごと (初回は 180,000 km 走行または 9 年)

冷却水容量

エンジン	トランスミッション	容量 (参考値)
SKYACTIV-G	マニュアルトランスミッション	6.2 L
	オートマチックトランスミッション	5.8 L

マニュアルトランスミッションオイル

エンジン	推奨銘柄	容量 (参考値)
SKYACTIV-G	マツダロングライフギヤオイル IS	2.0 L

オートマチックトランスミッションフルード

エンジン	推奨銘柄	容量 (参考値)
SKYACTIV-G	ATF JWS3317	7.2 L

ディファレンシャルオイル

交換時期

エンジン	車の使われかた	交換時期
SKYACTIV-G	標準	無交換
	シビアコンディション*1	60,000 km 走行ごと

*1　シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

推奨オイルとディファレンシャルオイル容量

エンジン	ディファレンシャルオイル	サービスデータ
SKYACTIV-G	推奨銘柄	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1
	容量 (参考値)	0.6 L

ウォッシャー液

エンジン	項目	サービスデータ
SKYACTIV-G	タンク容量 (参考値)	1.2 L

ブレーキ液

エンジン	項目	サービスデータ
SKYACTIV-G	交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
	推奨銘柄	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)、 純正ブレーキフルード B7 (DOT-3)

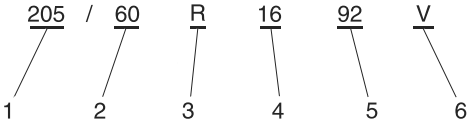
電球 (バルブ)

電球 (バルブ)	W 数 (12 V 用)	規格 (UN-R*1 (SAE))
・ヘッドランプ ・前面方向指示灯/非常点滅灯 ・後面方向指示灯/非常点滅灯 ・ハイマウントストップランプ ・制動灯 ・尾灯 ・後退灯 ・車幅灯	LED	— (—)
側面方向指示灯/非常点滅灯	5 W*2	WY5W (—)
番号灯	5 W	WY5W (—)
トランクルームランプ	5 W	— (—)
ルームランプ	10W	— (—)

*1　UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。
*2　電球(バルブ)は 21/5 W タイプを使用しています。

タイヤ/ホイールサイズ

タイヤサイズ表示 (一例) の見方



1 タイヤ幅の呼称 (mm)
2 偏平率 (%)
3 ラジアル構造
4 リム径の呼称 (インチ)
5 ロードインデックス (LI)
6 速度記号

速度記号の見方

次の速度記号情報で、車両の適切なタイヤを選んでください。

速度記号	最高速度
L	120 km/h まで
N	140 km/h まで

速度記号	最高速度
Q	160 km/h まで
R	170 km/h まで
S	180 km/h まで
T	190 km/h まで
U	200 km/h まで
H	210 km/h まで
V	240 km/h まで
W	270 km/h まで

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイールサイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル直径
195/50R16 84V	16×6-1/2J	45.0 mm	100 mm
	16×7J		
205/45R17 84W	17×7J		

タイヤ空気圧

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	前輪	後輪
195/50R16 84V	200 kPa (2.0 kgf/cm2)	200 kPa (2.0 kgf/cm2)
205/45R17 84W	200 kPa (2.0 kgf/cm2)	200 kPa (2.0 kgf/cm2)

ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。
108 N･m～147 N･m (12 kgf･m～14 kgf･m)

ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

ブレーキペダル

エンジン	遊び	フロアマットとのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})
SKYACTIV-G	4.6 mm 以下	63 mm 以上

パーキングブレーキ

エンジン	引きしろ (操作力 98 N (10 kgf))
SKYACTIV-G	1～4 ノッチ

クラッチペダル

エンジン	遊び (クラッチ油圧が立ち上がるまでのストローク)	フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)
SKYACTIV-G 1.5	8.3 mm 以下	37 mm 以上
SKYACTIV-G 2.0	8.3 mm 以下	36 mm 以上

補機ベルト

補機ベルトは、自動調整式です。点検や交換については、マツダ販売店へご相談ください。

エアクリーナーエレメント

車の使われかた	交換時期
標準	50,000 km 走行ごと
シビアコンディション*1	25,000 km 走行ごと

*1　シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

11 さくいん

A

ABS.....5-51
Alexa
Alexa の設定を確認する.....8-63
概要..... 7-15
使いかた.....7-15
ALH.....5-76
AT 誤発進抑制制御
概要..... 5-108
使いかた..... 5-110

B

BSM.....5-82

D

DAA..... 5-91
DSA..... 5-90
DSC..... 5-53
DSC-TRACK
概要..... 5-55
使いかた.....5-56

E

ESS.....5-40

F

FSC.....5-66

G

GSI.....5-37

H

HBC..... 5-75
HLA.....5-39

I

i-ACTIVSENSE
AT 誤発進抑制制御..... 5-108
i-ACTIVSENSE 警告灯.....8-58
i-ACTIVSENSE 表示.....5-26
i-ACTIVSENSE ミュートスイッチ.....5-65
アクティブセーフティ技術.....5-63
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....5-76
概要..... 5-63
警報･リスク回避支援表示.....5-64
後側方接近車両検知 (RCTA)..... 5-93
交通標識認識システム (TSR).....5-87
車線逸脱警報システム..... 5-80
衝突二次被害軽減システム..... 5-112
スマート･ブレーキ･サポート (SBS).. 5-103
超音波センサー..... 5-72
ディスタンス&スピード･アラート (DSA).....5-90
ドライバー･アテンション･アラート (DAA).....5-91
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)..... 5-75
フォワードセンシングカメラ (FSC).... 5-66
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)..... 5-82
プリクラッシュセーフティ技術..... 5-64
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC).....5-94
レーダーセンサー..... 5-69
i-DM.....5-26
i-ELOOP
i-ELOOP 警告灯 (橙).....8-56
概要..... 5-15
使いかた..... 5-15
i-stop
i-stop 警告灯 (橙)..... 8-55
概要..... 5-15
使いかた..... 5-16

K

KPC..... 5-57

M

MRCC.....5-94

R

RCTA.....5-93

S

SBS.....5-103
SOS ボタン..... 7-18

T

TCS.....5-52
TSR.....5-87

U

USB 電源ソケット
概要..... 7-28
使いかた..... 7-28

あ

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
概要..... 5-76
使いかた..... 5-78
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム..... 4-7
概要..... 4-7
アンチロックブレーキシステム..... 5-51

い

イモビライザーシステム
概要..... 4-31
セキュリティ表示灯..... 8-57
使いかた..... 4-31
イルミネーテッドエントリーシステム
概要..... 7-25
使いかた..... 7-25
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)
概要..... 5-26
使いかた..... 5-27

う

ウォッシャー
ウォッシャー液補充.....9-5
フロントウォッシャースイッチ概要... 5-46
フロントウォッシャースイッチ使いかた 5-48
噴射しないとき..... 8-51
容量..... 10-5
ウォッシャー液
スペック..... 10-5

え

エアクリーナーエレメント
スペック..... 10-8
エアコン
お手入れ..... 9-20
フルオートエアコン概要.....6-5
フルオートエアコン使いかた..... 6-6
マニュアルエアコン使いかた.....6-14
エアバッグ
エアバッグ/シートベルトプリテンショナー警告灯..... 8-56
概要..... 3-2
作動について.....3-7
エアロボード
概要..... 7-29
エマージェンシーシグナルシステム..... 5-40
エンジン
i-stop 警告灯 (橙)..... 8-55
エアクリーナーエレメント..... 10-8
エンジンオイル点検.....9-4
エンジンオイル/フィルター.....10-3
エンジンが停止できないとき..... 8-17
エンジン警告灯..... 8-55
エンジンを強制的に停止する..... 8-17
オーバーヒート..... 8-19
オイル警告灯.....8-53
高水温警告灯.....8-53
スパークプラグ..... 10-2
電池切れしたキーでエンジンを始動する 8-14
プッシュボタンスタート.....5-11
12 V バッテリーあがりを処置する..... 8-15
エンジンオイル/フィルター
スペック..... 10-3

お

オートマチックトランスミッション
AT 誤発進抑制制御.....5-108
オートマチックトランスミッションフルード..... 10-4
シフトロック装置を解除する..... 8-18
ステアリングシフトスイッチ..... 5-34
セレクトレバー..... 5-30
オートマチックトランスミッションフルード
スペック..... 10-4

か

カップホルダー..... 7-20
カメラ
フォワードセンシングカメラ (FSC).... 5-66

き

キー
KEY 警告灯 (赤)..... 8-57
KEY 表示灯 (緑) (点滅).....8-60
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム.....4-7
概要..... 4-2
キー車外持ち出し警報チャイム.....8-61
キー車内閉じ込み警報チャイム.....8-62
キーの一時停止機能を解除する.....8-13
使いかた..... 4-4
電池切れしたキーでエンジンを始動する 8-14
電池交換.....9-24
補助キー.....8-13
ラゲッジルーム内キー閉じ込み警報チャイム..... 8-62
キネマティック・ポスチャー・コントロール
概要..... 5-57
使いかた.....5-57
給油.....5-62
緊急
ウインドーが操作できないとき.....8-50
エンジンを強制的に停止する..... 8-17
オーバーヒート..... 8-19
冠水や浸水しているとき.....8-4
キーの一時停止機能を解除する.....8-13
警告灯が点灯したとき..... 8-51
けん引してもらう.....8-8
けん引フック.....8-10
事故に対処する..... 8-4
スタックしたとき..... 8-7
タイヤパンク応急修理キット..... 8-21
電池切れしたキーでエンジンを始動する 8-14
トランクリッドを車内から開ける.....8-43
発炎筒.....7-31
パンクやバースト (破裂) に対処する...8-20
非常点滅表示灯..... 5-50
踏切内で動けなくなったとき..... 8-6
フューエルリッドを荷室から開ける..... 8-7
補助キー.....8-13
マツダエマージェンシーコール.....8-4
ルーフを手動で閉める..... 8-28
路上で動けなくなったとき.....8-5
12 V バッテリーあがりを処置する.....8-15
ギア・シフト・インジケーター.....5-37

く

クラッチペダル
スペック..... 10-8
クルーズコントロール
概要..... 5-113
使いかた..... 5-114

け

警告灯が点灯したとき.....8-51

こ

後側方接近車両検知 (RCTA)
概要..... 5-93
使いかた..... 5-93
交通標識認識システム (TSR)
使いかた..... 5-87
概要..... 5-87
故障診断コネクター..... 7-30
コンソール.....7-22

さ

サンバイザー
使いかた..... 7-25

し

シート.....3-17
シートヒーター概要.....6-20
シートヒーター使いかた.....6-21
チャイルドシート.....3-19
チャイルドシート選択の目安表.....3-25
チャイルドシートの種類.....3-22
チャイルドシートの取り付けかた.....3-28
シートベルト..... 3-10
シートベルト警告灯 (フロントシート).....8-59
シートベルトのお手入れ.....9-37
使いかた.....3-14
車線逸脱警報システム
概要..... 5-80
使いかた..... 5-81
収納
コンソール..... 7-22
リアコンソールボックス.....7-23
リアストレージボックス.....7-24
衝突二次被害軽減システム
概要..... 5-112

使いかた..... 5-113
照明
イルミネーテッドエントリーシステム 7-25
トランクルームランプ..... 7-26
ルームランプ..... 7-26
事故
エンジンを強制的に停止する..... 8-17
冠水や浸水しているとき..... 8-4
警告灯が点灯したとき..... 8-51
けん引してもらう..... 8-8
けん引フック..... 8-10
事故に対処する..... 8-4
スタックしたとき..... 8-7
タイヤパンク応急修理キット..... 8-21
発炎筒..... 7-31
パンクやバースト (破裂) に対処する... 8-20
非常点滅表示灯..... 5-50
踏切内で動けなくなったとき..... 8-6
マツダエマージェンシーコール..... 8-4
路上で動けなくなったとき..... 8-5
ジャッキ..... 7-32
充電
USB 電源ソケット..... 7-28
電源ソケット..... 7-27

す

スイッチ
DSC OFF スイッチ..... 5-53
DSC-TRACK スイッチ..... 5-56
i-ACTIVSENSE ミュートスイッチ..... 5-65
SOS ボタン..... 7-18
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) スイッチ..... 5-78
オーディオリモートコントロールスイッチ 7-6
クルーズコントロールスイッチ..... 5-114
コマンダースイッチ..... 7-6
シートヒータースイッチ..... 6-21
ステアリングシフトスイッチ..... 5-34
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) スイッチ..... 5-75
パーキングセンサー OFF スイッチ.... 5-117
非常点滅表示灯..... 5-51
フロントウォッシャースイッチ..... 5-48
フロントワイパースイッチ..... 5-48
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) スイッチ..... 5-96
ランプスイッチ..... 5-41
リアウインドーデフォッガースイッチ 5-50
ステアリング
シフトスイッチ..... 5-34
調節..... 3-19
電動ハンドルロック警告チャイム..... 8-62
電動パワーステアリング警告灯..... 8-53
パワーステアリング..... 5-59
ストレージボックス..... 7-24
スパークプラグ
スペック..... 10-2
スピードリミッターの解除
概要..... 5-56
使いかた..... 5-57
スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
概要..... 5-103
使いかた..... 5-105

せ

セレクトレバー..... 5-30
センサー
超音波センサー..... 5-72
レーダーセンサー..... 5-69

そ

ソフトトップ
お手入れ..... 9-28
使いかた..... 4-22

た

タイヤ
スノータイヤ..... 5-121
タイヤ空気圧..... 10-7
タイヤチェーン..... 5-121
タイヤパンク応急修理キット..... 8-21
タイヤパンク応急修理キットの点検... 9-14
タイヤ/ホイールサイズ..... 10-6
点検..... 9-11
パンクやバースト (破裂) に対処する... 8-20
ホイールナットの締め付けトルク..... 10-8
ローテーション..... 9-13
タイヤ空気圧
スペック..... 10-7
タイヤ/ホイールサイズ
スペック..... 10-6
ダイナミック･スタビリティ･コントロール
概要..... 5-53
使いかた..... 5-53

ち

チェンジレバー..... 5-28
チャイルドシート.....3-28
　概要..... 3-19
　種類..... 3-22
　選択の目安表.....3-25
超音波センサー..... 5-72

て

ディスタンス&スピード・アラート (DSA)
　概要..... 5-90
　使いかた.....5-90
ディファレンシャルオイル
　スペック..... 10-5
電源
　電源オフ忘れ警告チャイム..... 8-61
　電源ソケット.....7-27
電源ソケット
　概要..... 7-27
　使いかた.....7-27

と

盗難防止システム
　イモビライザーシステム概要.....4-31
　イモビライザーシステム使いかた.....4-31
　セキュリティ表示灯.....8-57
　バーグラアラームシステム概要..... 4-32
　バーグラアラームシステム使いかた... 4-32
トラクションコントロールシステム
　概要..... 5-52
　使いかた.....5-52
トランク..... 4-12
　車内から開ける..... 8-43
　トランク開警告灯..... 8-60
　トランクルームランプ.....7-26
トランクルームランプ
　使いかた.....7-26
ドア.....4-9
　ドアロック不作動警告チャイム..... 8-62
　半ドア警告灯.....8-60
ドアミラー.....5-8
ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
　概要..... 5-91
　使いかた.....5-92
ドライブセレクション
　概要..... 5-58
　使いかた.....5-58

に

荷室
　トランクルームランプ.....7-26

ね

燃料
　給油..... 5-62
　スペック..... 10-2
　燃料残量警告灯..... 8-59
　フューエルリッドを荷室から開ける..... 8-7

は

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
　概要..... 5-75
　使いかた.....5-75
発炎筒.....7-31
バーグラアラームシステム
　概要..... 4-32
　セキュリティ表示灯..... 8-57
　使いかた..... 4-32
バッテリー
　充電警告灯..... 8-52
　12 V バッテリー..... 10-2
　12 V バッテリーあがりを処置する..... 8-15
　12 V バッテリー充電量低下チャイム... 8-62
　12 V バッテリー点検..... 9-5
バニティミラー.....7-25
バルブ
　スペック..... 10-6
パーキングセンサー
　概要..... 5-117
　使いかた.....5-117
パーキングブレーキ
　スペック..... 10-8
パネルライトコントロール
　概要..... 5-23
　使いかた.....5-23
パワーウインドー
　概要..... 4-16
　自動開閉機構を復帰する.....8-50
　使いかた..... 4-18
　はさみ込み防止機構を解除する..... 8-51

ひ

非常点滅表示灯
　概要..... 5-50
　使いかた.....5-51

ヒューズ
交換 9-20
ヒューズの受け持つ装置 9-23
ヒル・ローンチ・アシスト 5-39

ふ

フォワードセンシングカメラ (FSC) 5-66
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
概要 5-82
使いかた 5-82
ブレーキ
ABS 警告灯 8-54
DSC-TRACK 表示灯 8-56
TCS/DSC 作動表示/表示灯 8-56
アンチロックブレーキシステム 5-51
エマージェンシーシグナルシステム ... 5-40
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) .. 5-103
パーキングブレーキ 10-8
ヒル・ローンチ・アシスト 5-39
ブレーキ・オーバーライド・システム ... 5-39
ブレーキ液 10-5
ブレーキ警告灯 8-52
ブレーキコントロールシステム警告灯 8-54
ブレーキシステム警告チャイム 8-62
ブレーキディスクの摩耗限度情報 10-8
ブレーキペダル 10-8
ブレーキ・オーバーライド・システム 5-39
ブレーキ液
スペック 10-5
ブレーキディスクの摩耗限度情報
スペック 10-8
ブレーキペダル
スペック 10-8
プッシュボタンスタート
概要 5-11
使いかた 5-13

へ

ヘッドランプ
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 5-76
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告灯 (橙) 8-58
エクステリアランプ警告灯 8-59
電球 (バルブ) について 10-6
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 5-75
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告灯 (橙) 8-58
ランプ消し忘れ防止チャイム 8-61
ランプスイッチ 5-40

ほ

ホーン 5-51
ホイール 9-27
ホイールナットの締め付けトルク
スペック 10-8
方向指示器 5-45
補機ベルト
スペック 10-8
ボンネット 4-15
アクティブボンネット警告灯 8-57

ま

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
概要 5-94
使いかた 5-96
マツダエマージェンシーコール 8-4
概要 7-16
使いかた 7-18
マツダコネクト
概要 7-4
使いかた 7-6
マニュアルトランスミッション
ギア・シフト・インジケーター 5-37
チェンジレバー 5-28
マニュアルトランスミッションオイル 10-4
マニュアルトランスミッションオイル
スペック 10-4

み

ミラー
曇り取り 5-50
ドアミラー 5-8
バニティミラー 7-25
ルームミラー 5-9

め

メーター
i-ACTIVSENSE 表示 5-26
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 5-26

オドメーター.....5-21
外気温表示..... 5-24
概要..... 5-17
水温計.....5-22
スピードメーター..... 5-18
走行可能距離表示..... 5-24
タコメーター.....5-18
トリップメーター..... 5-21
燃料計.....5-22
パネルライトコントロール.....5-23
平均燃費表示.....5-25
マルチインフォメーションディスプレイ 5-19
メッセージ表示.....5-26
ルーフ開閉状態表示.....5-26
メンテナンス
インストルメントパネルのお手入れ... 9-35
ウォッシャー液補充.....9-5
エアコン.....9-20
エンジンオイル..... 9-4
エンジンルームの点検..... 9-4
革張り部分のお手入れ..... 9-36
外装のお手入れ..... 9-26
キーの電池交換..... 9-24
シートベルトのお手入れ.....9-37
車室内の点検.....9-19
車両外観の点検..... 9-6
ソフトトップのお手入れ.....9-28
タイヤの点検.....9-11
タイヤパンク応急修理キットの点検... 9-14
タイヤローテーション..... 9-13
電球 (バルブ) の交換..... 9-15
内装のお手入れ..... 9-35
日常点検.....9-2
布張り、合成皮革部分のお手入れ..... 9-35
ヒューズ..... 9-20
ホイールのお手入れ.....9-27
リトラクタブルハードトップのお手入れ 9-30
レンチ表示灯.....8-60
ワイパーブレードゴムを交換する.....9-6
12 V バッテリー..... 9-5

ら

ランプスイッチ
概要..... 5-40
使いかた..... 5-41

り

リアウインドーデフォッガー
概要..... 5-50
使いかた..... 5-50
リアコンソールボックス..... 7-23
リトラクタブルハードトップ
お手入れ..... 9-30
概要..... 4-26
手動で閉める.....8-28
使いかた..... 4-28
リトラクタブルハードトップ警告チャイム 8-61
リトラクタブルハードトップ警告灯... 8-58

る

ルームミラー..... 5-9
ルームランプ.....7-26

れ

レーダーセンサー.....5-69
冷却水
スペック..... 10-4

わ

ワイパー
高速作動するとき..... 8-51
フロントワイパースイッチ概要..... 5-46
フロントワイパースイッチ使いかた... 5-48
メンテナンス.....9-6

0〜9

12 V バッテリー
スペック..... 10-2